

専修学校職業実践専門課程（介護分野）

第三者評価試行

## 第三者評価報告書

Y M C A 健康福祉専門学校

平成 29 年 2 月

調査訪問日 平成28年11月18日（金）

## 目 次

<各規準の評価結果>

基準1 教育理念

基準2 学校運営

基準3 教育内容

基準4 教育方法

基準5 教員の資質向上

基準6 やりがい・キャリア形成等を醸成する教育

基準7 実 習

基準8 リカレント教育体制

基準9 学生の募集と受け入れ

基準10 内部質保証

＜各規準の評価結果＞

**基準1 教育理念**

基準1 教育理念	
<p>＜総 評＞</p> <p>1. 当該モデル校の教育理念、教育目標は、横浜YMCAカレッジ・グループを構成する学校として、次のように明確にされている。</p> <p>「横浜YMCA－私の使命」に基づいた「人間性が尊ばれ、公正で平和な世界の実現を目標として社会に貢献する人材の育成」</p> <p>2. 上記の教育目標を達成するために、介護福祉士資格取得に必要なカリキュラムのほかに、横浜YMCAのネットワークを活用し、地域でのボランティア活動の機会を大切にし、活動の企画から実施、実施後は教訓を教育の場に活かし定着させる等の取り組みが行われており、独自性が認められ、高く評価できるものである。</p> <p>3. 将来構想に関しては、「2025年にはおよそ38万人の介護職員の不足が予測されるなか、人材養成を引き続き継続していくことが必要である」として、次の事項を検討している。</p> <p>①在留外国人の介護福祉士資格取得の施策の推進を視野に入れた留学生の国家資格取得、</p> <p>②現在就労している介護職員の定着率の向上につながるような、福祉の多面的な視点を持ち合わせた介護福祉士の養成を継続していく。</p> <p>4. 5年、10年を展望した将来構想は明文化されていることが確認できなかったが「横浜YMCA－私の使命」を基本に据え、地域福祉および国際的な視点から学校の将来の使命を見据えている点は、高く評価できる。</p>	

基準1 教育理念	
【必須】1－(1) 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を持っていますか	
評 定	評価ポイント 3
<p>＜評価する点＞</p> <p>1. 将来構想は、「教育課程編成委員会」の場において検討されている。</p> <p>当該モデル校は、「全国YMCA専門学校運営ガイドライン」の具体化に向けて、立地する地域の福祉施設等が参加した「教育課程編成委員会」を開催し、地域の介護現場が現在から将来にわたって求められて専門職人材ニーズを把握し、将来構想を検討されており、地域社会のニーズに対応した教育内容を追求する姿勢は評価できる。</p> <p>2. 将来構想の具体的な内容は、「自己評価報告書」では、必ずしも明確にされていない。</p> <p>しかし、現在、介護福祉士の資格取得とあわせて社会福祉主事任用資格の取得を通じて、福祉の多面的な視点をもった介護福祉士の養成に力を注いでおり、この基本方針は継続していくこととしている点は、他に例のない独自性が認められる。</p> <p>3. 将来構想の検討のテーマの一つとして、介護福祉士の資格取得を目指す留学生受入れの取り組みの検討を行っている。</p> <p>具体的には、併設する日本語学科と連携し、日本への入国時から日本語学科に在籍し、介</p>	

護福祉の学習に必要とされる日本語の定着を図れるよう検討が進められており、学科間の連携に関しては実現性が高く、評価できる構想である。

<特に優れた点>

○介護福祉士資格取得とあわせて、社会福祉主事任用資格を2年間で学び取得ができるカリキュラムは県内唯一であり、福祉の多面的な視点を持った介護福祉士の養成に取り組んでいる点は評価できる。

○社会福祉主事任用資格と介護福祉士資格の2つの資格取得のカリキュラムの多さから、学生にとって、学習量、実習日数ともに基準を超える学習時間数を必要とする。そのうえで「もうひとつのカリキュラム」である地域におけるボランティア活動、学内行事、委員会活動なども加わり、学生の負担はきわめて大きいと思われるが、学校説明会等入学前から、当該モデル校のこうした特徴について、学生・保護者を含め説明し、合意を得ている点は、よい取り組みであると、高く評価できる。

<更なる向上を目指す点> (改善を要する点)

○「自己評価報告書」によると、「学生の多くは上記のような当校の特徴をよく理解し学んでいるが、学生の中には個別に支援が必要な学生もおり、高いハードルとなることもある」と指摘されている点は、常に検討を要する課題である。

○同様に、「自己評価報告書」によると、「留学生の介護福祉の学習に当たっては、社会福祉主事任用資格と併せて学習することは困難さが予測されるため、介護福祉士資格に絞ったカリキュラムを検討する必要がある」とも明確にされており、検討が期待される。

## 基準1 教育理念

【選択1】 1－(2) 教育理念・教育目標、育成人材像は定められていますか

評 定

評価ポイント 3

<評価する点>

1. 教育理念・教育目標は、横浜YMCAカレッジ・グループを構成する学校として、「横浜YMCA－私たちの使命」に基づき明確にされている。

①人間性の尊重

②公正で平和な社会の実現を目指して社会に貢献する人材育成

2. 育成人材像は、次のように明確にされており、独自性が認められ高く評価できる。

「専門分野における最高の教育を提供」することに加えて、キリスト教団体、青少年教育団体、国際協力団体、ボランティア団体、社会福祉団体、市民運動団体等として培う多様なYMCAの価値・理念を「スクール・アイデンティティ」として描いて、カリキュラムや学校行事、ボランティア活動等に具体化している。

3. 学校説明会において、教育理念、教育目標、育成人材像が提示され、とくに、「横浜YMCA－私たちの使命」を提示し、当校が資格取得にとどまらない、YMCAならではのボランティア活動等を重視していることを説明し、学生・保護者の理解を得るよう努めている点は、高く評価できる。

4. 非常勤講師に対しては、年1回の講師会、年2回の研修会で、上記のとりの教育理念、教育目標、育成人材像の提示を行っている点は、評価できる。

<特に優れた点>

○「横浜YMCA—私たちの使命」に基づいた理念によって教育していくこと、および社会福祉主事任用資格の学習を通じて、福祉の視点を持った介護福祉士の養成、資格取得だけではなく、地域におけるボランティア活動、学校諸行事等を重視しており、特に優れた独自性が認められ、高く評価できる。

<さらなる向上を目指す点> (改善を要する点)

○「自己評価報告書」でも述べられているように、非常勤講師にも、講師会議、研修会等で「横浜YMCA—私たちの使命」に基づいた育成人材像等を説明しているが、とくに指導時間数の限られた非常勤講師の場合には十分に定着しているとはいえず、丁寧な周知が課題である。

#### 基準1 教育理念

【選択2】 1—(4) 理念・目標の達成に向け、特色ある教育活動に取り組んでいますか

評 定

評価ポイント3

<評価する点>

1. 基本的な理念の具体化として、学校内外でのボランティア活動への参加の機会を「もう一つのカリキュラム」と明確にして、特色ある教育活動を展開しており、高く評価できる。
2. ボランティア活動への参加を重視している背景には、次のような理念が明確にされている。「自己評価報告書」によると、YMCAの実践理念は、イエスの教えである「共に生きる」「共に喜ぶ・悲しむ」というものであり、当校の教育目標は、資格取得だけではなく、「価値教育である」としている。
3. とくに、地域や社会にある課題を自分ごととしてとらえることができるための素材づくりとして、学校内外でのボランティア活動への参加を推奨している。  
こうした価値は、入学前から、学生・保護者に説明しており、他に例のない独自性が認められ、高く評価できる。
4. ボランティア活動等の実施方針、実施内容、活動に関する評価は、次のとおりである。  
学生が参加するボランティア活動は、自らの専門分野(介護福祉)の活動だけにとどまらず、街頭募金、留学生との交流活動、保育園の運動会ボランティア、海外での医療奉仕・交流活動、東日本大震災、熊本地震等の復興支援ボランティアなどへ広がっている。  
訪問調査の当日も、学生が主体となって、YMCAが運営する近隣住民や福祉施設の方を対象とした「災害時の避難所運営デモンストレーション」を企画し、その準備をすすめていたが、この一事からも、学生の主体的な活動参加を理解することができた。
5. 在学生へのインタビューの中で、学生が「入学の前からYMCAは勉強だけでなくたくさんボランティア活動をすると説明を受けていた。」  
「事前の説明をよく理解したうえで入学した」「高校時代は勉強ばかりだったけれど、YM

CAに入学した今は、勉強もボランティア活動も学校行事も目いっぱいやっている」と語っているのが印象的であった。

学生は、YMCAの専門学校としての独自性をよく理解しており、高く評価できる。

<特に優れた点>

○学生のボランティア活動は、「もうひとつのカリキュラム」と位置づけられ、教育上重視している。教職員も、YMCAの使命として、自ら地域の専門職員養成研修の講師として積極的に地域に出向いている。

学生はその姿を見て、自分たちも地域社会のボランティア活動に参加し、とともに学んでいくことの重要性を理解しており、優れた実践であると評価できる。

<さらなる向上を目指す点> (改善を要する点)

○ボランティア活動等での気づきや学びを定着させるにはどうしたらよいか、活動を一過性のものとしなないために、どう継続した活動へと発展させていくのかが課題である。

○「自己評価報告書」では、受け身で参加している消極的な学生もいるとの自己評価がなされていた。その場合、学校の指示で「やらされている」感に陥るおそれがある。ときには、地域社会・自治会や介護福祉施設等からの要請によって「地域活動に動員されている」感覚を持つこともある。

○学生へのインタビューでは、ボランティア活動の企画・計画の段階からは参加できていないとの趣旨の話も聞かれた。活動に参加し地域の人びとや介護福祉施設の利用者等に「支えられている」「学ばせてもらっている」と実感できるようにアドバイスするなど、教職員の配慮を期待したい

## 基準2 学校運営

### 基準2 学校運営

<総 評>

1. 当該モデル校の運営母体となる横浜YMCAの事業方針、事業計画に基づき、毎年度、専門学校における事業計画を策定し、学校運営に当たっている。
2. 事業方針、事業計画の内容の特徴は、「さまざまな困難を抱えた人の痛みや悲しみに寄り添える専門職となれるよう」学校行事やボランティア活動への参加の機会を計画化しているとともに、「地域における福祉人材の養成に取り組む」として、介護職員実務者研修、初任者研修の実施を計画化している。
3. 意思決定システムとして、学内の職務分掌を定めて、それぞれ管理職を配置している。週1回開催する職員会議において協議し決定する。
4. 学生指導はクラス担任の体制がとられ、学生の現状や支援内容に関しては各担任から学科長に相談がされるシステムがとられている。

基準2 学校運営	
【必須】2-(2) 理念等を達成するための事業計画を定めていますか	
評 定	評価ポイント 2
<p>&lt;評価する点&gt;</p> <p>1. 事業計画は、運営母体となる横浜YMCAの事業方針・計画に基づき定めている。</p> <p>2. 事業計画の柱としては、次の2点である。</p> <p>①教育の計画、学校行事、ボランティア活動等の計画化、②専門性の地域への還元であり、専門学校として専門性を地域社会に還元する視点から、「介護職員実務者研修」「介護職員初任者研修」を計画化している。</p> <p>・こうした事業計画策定の取り組みは、基準からみて標準的なものであると評価できる。</p> <p>&lt;特に優れた点&gt;</p> <p>○地域の牧師を招へいし、学生礼拝の機会を持っており、福祉の基本理念の学習の機会として位置づけて取り組んでいる。</p> <p>○毎月の学校行事は、学生が分担し、企画・実施している。</p> <p>&lt;さらなる向上を目指す点&gt; (改善を要する点)</p> <p>○学生が主体となって実施する学校行事のなかには、準備がぎりぎりになり学生にとって過重な負担となる場合があり、計画的、早期に着手することが課題である。</p>	

基準2 学校運営	
【選択1】2-(1) 教育理念、目的に沿った運営方針を定めている	
評 定	評価ポイント 2
<p>&lt;評価する点&gt;</p> <p>1. 「横浜YMCAー私の使命」の実現を目指して、運営方針を策定している。運営方針の内容は、次のとおりである。</p> <p>「横浜YMCAー私の使命」、および事業計画に基づき、介護福祉士を目指す学生が、資格を取得するだけでなく、①地域にある社会的な支援を求める人の課題に気づき、共に生きるための活動に参加する。②福祉社会の実現を目指して自ら行動できるようになる学習と活動の機会を学内・地域において設定する。</p> <p>・運営方針の策定、及び内容は、基準からみて標準的なものであると評価できる。</p> <p>&lt;特に優れた点&gt;</p> <p>○運営方針では、横浜YMCAのもつリソースを活用することを明確にしている。</p> <p>学校事業に偏らない事業計画の具体化のために、横浜YMCAの活動で連携している地域のリソース(関係団体、活動団体等)を活用できることは、優れた点である。</p> <p>○学生の時から、専門性をもった地域の諸団体との連携、繋がりによるボランティア体験等を経験する機会をもつことによって、介護福祉施設等の中だけでなく、地域で必要とされる専門的な支援活動を知ることができ、お互いにその価値を認めあえる。その体験を通じて、福祉社会の形成の担い手を養成していくことにつながるものと評価できる。</p>	

<更なる向上を目指す点> (改善を要する点)

○「横浜YMCAー私の使命」を果たしていくことは普遍的な価値であり、つねに行動の中核となるが、あわせて介護福祉士養成施設として取り組むべき課題、例えば、留学生の人材養成、今後の学生の国家試験受験対策等に十分な時間を割くことができるよう、学校行事、ボランティア活動、学事暦やカリキュラムへの配慮など、運営方針の見直し検討が期待される。

## 基準2 学校運営

【選択2】 2－(4) 意思決定システムを整備していますか

評 定	評価ポイント 2
-----	----------

<評価する点>

1. 職務分掌を明確にするとともに、学生の状況、業務遂行の上での課題等について職員間で協議できる仕組み、管理者による相談受理、支援等の仕組みを確立している。

学内の職務分掌は、次の3つにわかれ、それぞれに管理職が配置されている。

① 予算・出入金の管理、教職員の労務管理

② 教務全般、非常勤講師管理、広報担当

③ 学生支援・管理(担任)、学校行事、学生委員会、クラブ活動、就職指導

・こうした職務分掌は、各学校に共通するものであり、標準的であると評価できる。

2. 意思決定の実際は、次のとおりであり、基準からみて標準的なものであると評価できる。

① 学生支援に関する意思決定

各担当教職員(担任)は、学生の状況、教員自身が抱える課題等を管理者(学科長)に相談する。内容によっては、管理者(学科長)から校長へ相談・報告をあげるシステムとなっている。

② 週1回職員会議

協議が必要な事項は、週1回の職員会議において協議され決定事項となる。

③ 担当業務、プログラム(支出)の実施

教職員の担当業務、プログラムの実施(とくに支出)は、

担当⇒予算責任者⇒校長⇒法人本部長⇒財務部門を経て許可、決裁される。

<特に優れた点>

○介護福祉科、こども総合科の教職員が一体的に教育活動を行うことから、担任、学科長のほかに、学科統括を配置し、各教員の相談にのる体制(スーパービジョン体制)をつくり、多面的な視点で課題をとらえ、専門性を横断させながら協力できるなど、教員体制に独自の工夫がされており、優れた体制である。

<更なる向上を目指す点> (改善を要する点)

○「自己評価報告書」によると、学科長、学科統括教員も担任や担当科目を持っており、プレイングマネージャーとして従事しているため、業務過多になりがちで、自身のケアについての課題も多いとされており、教職員の間での共通理解を期待したい。



### 基準3 教育内容

#### 基準3 教育内容

<総 評>

1. 横浜 YMCA カレッジ・グループの教育理念として、「人間性を尊ぶ」「公正で平和な世界の実現」「社会に貢献する人材の育成」をキーワードに具体的に次の5つの教育目標を設定としている。
  - ①「自己学習能力を身につけた人材の養成」、
  - ②「人間関係を豊かにする人材の育成」、
  - ③「サービス提供者にふさわしい社会的な行動様式を身につける」、
  - ④「リーダーシップを発揮できる人材養成」、
  - ⑤「ボランティア精神を理解し、積極的に行動できる」
2. この5項目の教育目標は横浜 YMCA カレッジ・グループの共通目標であるが、介護福祉教育の学習内容に照らして、教育目標が達成できるような教授・学習計画案が作成されている。
3. これらの教育目標を実現するために、「正直・誠実」「尊敬心」「責任感」「配慮・思いやり」の4つの価値を基盤にしている。

この4つの価値は学内授業や課外活動を通して修得できる仕組みができています。

介護福祉専門職として、豊かな人間としての成長を願い、学校長及び学科長、専任教員のみならず、ゼミ教員、非常勤講師が、担当科目・単元学習目標、指導展開、教材の選択の中に具現化するための取り組みがなされています。
4. 介護福祉科では介護福祉士養成施設指定規則である1850時間を大幅に超える2460時間の教育内容を準備している。
5. 介護福祉士の受験資格に加えて社会福祉主事任用資格も取得できる科目が配置されており、介護福祉（ケアワーク）と社会福祉（ソーシャルワーク）の幅広い視点を持った学生を育てることを目指している。
6. これらの科目配置を修得することは入学前から、学びの意味やその価値、学ぶことの大変さを高校生・保護者に説明し、学内での講義に留まらず地域でのボランティア活動を積極的に取り組んでいる。
7. 介護福祉士専門科目の他に人間と社会のあり方を学ぶ科目が配置され、音楽療法、情報処理、サービス演習、障害者スポーツ、キリスト教倫理、基礎ゼミナール、死生学、野外キャンプ、ホームルーム、海外キャンプといった幅広い科目が受講できる。

卒業時には、レクリエーションインストラクターやキャンプインストラクターなどの資格を取得することも可能で、これらの資格付与は学生たちの学びの動機付けになっている。
8. 野外キャンプ、ボランティア活動や委員会活動は、学生全員が取り組み、学内で学んだ知識の実践の場となるよう学生個々の成長に応じた指導が行われている。

9. 学生 2 名（男性 1 名、女性 1 名共に 2 年生）との面談を通して、学生と教員との信頼関係が形成されており、学生の心身の状況に応じて丁寧かつ熱心に学内・演習・実習・地域活動で指導が行われている。

基準 3 教育内容

【必須】 3- (1) 人権や尊厳などの価値に関する授業を行っていますか

評 定	評価ポイント 3
-----	----------

<評価する点>

1. 横浜 YMCA カレッジ・グループの教育理念を支える価値として、「正直・誠実」「尊敬心」「責任感」「配慮・思いやり」が示され、人権や尊厳を学ぶことが強調されている。これら 4 点の価値は介護福祉職のみに求められる内容ではなく、他の専門職にも求められるが、当該モデル校では介護福祉士に求められる専門職独自の知識や技術の学びの中に人権や尊厳などの価値の実現に向けた取り組みが行われている。
2. 4 月には 30Km チャリティー・ウォーキングが企画され、学科、学年、国籍を問わず分けられたチームで 30Km の道のりを歩く体験が企画されている。学生達は 30Km 先のゴールを目指して歩き抜き、個々の体力や精神力が異なる中で、仲間を思いやること、仲間のウォーキングリズムに合わせることで、国籍が異なる学生との意思疎通等、自身の存在価値、他者の存在価値を認めることや他者を尊厳することを実感できる機会が作られている。
3. 野外キャンプ実習では自然の中で、非日常の不便な生活をチームで乗り越える体験からも学外リーダーシップ、メンバーシップを学び人権や尊厳の意味を考える機会を用意している。
4. 人間と社会のあり方を学ぶ科目に配置されている「基礎ゼミナール」では介護福祉科、こども総合科の学生とともに、ニュースや身近な課題をテーマにディベートやロールプレイの手法を活用し、学生自身が主体的に学び、気づきを促す取り組みから人権や尊厳を考えさせている。
5. 4 単位と定められているホームルームや社会や地域のニーズに応じたボランティア活動でも人権や尊厳に関することを考えられる機会となっていることも確認できた。
6. 人権や尊厳などの価値に関する授業は様々な科目の中に取り入れられている。介護の基本では神奈川県下の相模原障害者施設（津久井やまゆり園）で起きた殺傷事件を教材として、人権や尊厳について考える時間を持ち、対人援助職として求められる人権や尊厳の考え方や介護観・倫理観を学んでいる。

<特に優れた点>

○教育目標を達成するために「正直・誠実」「尊敬心」「責任感」「配慮・思いやり」を校内の講義だけではなく、災害支援や無医村地区への衛生活動支援などのボランティア活動や野外活動において、この 4 つの価値を学生に具体的に示し、学生の学力向上と人間形成教育が行われている。

＜更なる向上を目指す点＞（改善を要する点）

改善を要する点は見当たらない。

○学内・国内外での学びの成果を横浜 YMCA カレッジ・グループ以外の介護福祉教員や学会等で紹介していただきたい。

### 基準3 教育内容

【選択1】3－(6)ターミナルケアに必要な知識・技術を習得させるために、どのような授業を行っていますか。

評 定	評価ポイント 3
-----	----------

＜評価する点＞

1. 2年次の後期に開講されている「生活支援技術Ⅰ」の中でターミナルケアを教授している。

ターミナルケアに求められる身体的ケア、精神的ケア、社会的ケア、霊的ケアの4つのケアを包括的に実施できる技術を習得させるために、単元「ターミナルケア」を支える科目として死生学（人間と死）、キリスト教人間学、生活支援技術のなかで観察の技術や、利用者や家族とのコミュニケーション技術、清潔の技術の講義を通し、介護福祉専門職に求められる利用者への尊厳の年や人権を守るといった知識と関連させ教授している。

2. ターミナルケアを担当している教員は非常勤であるが、介護福祉教育の専任教員としての実績があり、ターミナルケアに対する造詣が深いことが確認できた。

授業参観の機会があったが、10人の学生一人一人の顔が見られるように椅子を配置し、一方的な講義ではなく、教員と学生が双方向のコミュニケーションを図りながら講義が進められていた。

3. 講義では、黒板に「今日の流れ：本時の目標」を記載し、学生に何を学ぶのか、学ばなければいけないのか、授業の進行に沿って説明をしていた。

参観した授業は、「ALSの利用者で余命2年」の利用者の事例からアルフONSデーケン氏が作成したビデオを視聴し、死とどのように向き合うのか、キューブラー・ロスによる「死の受容」の5段階から死を考えさせる内容であった。

また、看取り期や亡くなった後の家族へのケアの重要性を説明していた。先行文献や非常勤講師自身の親族との別れの経験とその後の精神的な変化、精神的変化との向き合いについて説明され信仰、信心、宗教の自由と、精神的な安寧の配慮や全人的ケアとグリーフケアの必要性を伝えていた。

資料も配布していたが、学びの成果が確認できるような工夫がなされていた。また、学生にターミナルケアに関する参考文献を紹介していたが書籍を黒板に並べ、いつでも学生が手にとって確認できるようにしていた。

エンゼルケアの知識と技術も学び尊厳を持った死後の処置の講義が行われている。

<特に優れた点>

- 終末時を設定し、デモ人形を利用者とし、ベッド周囲でロールプレイを実施している。
- 介護福祉職として利用者、家族、他職種などとの関わりを実感し、真摯な態度で向き合えるような体験の場を作っている。
- 大学病院見学を通し、急性期にある患者（利用者）の生活の場を見学する機会を設け、利用者の生活の理解を深めている。

<更なる向上を目指す点>（改善を要する点）

改善を要する点は見当たらない。

- ベッド周囲でのロールプレイに、介護福祉現場でターミナルケアを体験している卒業生の参加を求め、意見交換できると死生観・人間観が今以上に深められることを期待する。

### 基準3 教育内容

【選択2】3－(7) 医療的ケアに関する専門的な知識・技術を習得させるために、どのような授業を展開していますか

評 定	評価ポイント 3
-----	----------

<評価する点>

- 1 医療的ケアは介護福祉士養成施設指定規則では 50 時間が指定されているが当該モデル校では医療的ケアⅠ・Ⅱ・Ⅲを設定し 135 時間を配置している。  
更に、専任教員 1 名と非常勤講師 3 名の体制で教授されている。
2. 1 年生ではテキストに記載された内容が理解できるように、映像も取り入れ、法的根拠や倫理的配慮、介護福祉士が医療的ケアを担うことの意味、医療職との連携や介護福祉士の役割、喀痰吸引と経管栄養の知識を学習。
3. 2 年生では通年で医療的ケアの手技について十分に学習できるように演習を行っている。各項目別に演習を行い、実施者、看護師、観察者、タイムキーパーなどのグループを形成し、役割を通し自己の振り返りや観察能力を向上させる工夫を行っている。
4. 喀痰吸引と経管栄養の各項目の技術チェックでは 5 回目は実技テストを課し、技術の習得度をチェックしている。  
医療的ケアの手技を学ぶ過程では学生個々の理解度を確認し、学生に応じた指導方法を工夫している。
5. 医療的ケアの指導場面を観察する機会はなかったが、卒業生が従事している介護福祉現場から、「基礎を踏まえた学習がしっかりできている」「利用者に対する対応や手技がしっかりしている」といった評価が届いており、医療的ケア担当教員の指導が行われていると判断した。

<特に優れた点>

○喀痰吸引と経管栄養の手技は学生の習得能力に応じて指導内容・指導方法を工夫している点である。

<更なる向上を目指す点> (改善を要する点)

改善を要する点は見当たらない。

○医療的ケアは介護福祉教育が始まって新しい分野であり、各介護福祉養成校は教育方法を試行錯誤している現状がある。

当該モデル校では学生の能力に応じた指導ができていますので、手先の器用さが求められるカテーテル操作につまずく学生への指導方法を他校にも紹介していただきたい。

#### 基準4 教育方法

##### 基準4 教育方法

<総 評>

1. 横浜 YMCA カレッジ・グループは、職能教育機関として、互いに育ち合う環境を提供し、より豊かな人間性と専門性を身につけ、広く地域社会に貢献できる人材を養成し、平和な社会形成の担い手を育成するといった共通理念を基盤に質の高い介護福祉士養成を目指した教育システムが整っている。
2. 当該モデル校では介護福祉士国家資格の取得と社会福祉主事任用資格が取得できるようにカリキュラムが構成されている。  
食事、入浴、排泄、移乗、住環境整備などの生活支援技術が「単にできる」介護福祉士ではなく、地域で生活する人びとの暮らしを整え、そのために求められる介護福祉実践の価値・知識・技術の広さを教育している。
3. 社会福祉主事任用資格取得のために設置している児童福祉論、地域福祉論、経済学、法学、社会福祉施設経営論、福祉事務所運営論、社会福祉援助技術演習、社会福祉現場実習、社会福祉現場実習指導は必修となっている。  
利用者や家族との相談援助力、利用者の生活を整えるために求められる制度についての知識、また、介護福祉職チームリーダーや施設長といったリーダーとして活躍できるような教育内容となっている。
4. 介護福祉士養成学校への入学希望者が減少しており学生を選別できない現状があり、入学時の学力にも差があるものの、各科目に求められる知識やスキルの習得の確認は、毎回の小テストを実施し、理解力の確認を行っている。
5. 介護動作の訓練は反復訓練を行い、未習得科目があれば補講や追試を用意し、個々の学生が科目の到達目標に達成するまで指導している。
6. 学生が考え実行する力を養うためにグループワーク形式の授業を行っている。  
ロールプレイング、問題解決ゲーム、事例検討などのアクティブラーニング手法を採用し、教員からの一方向的な講義で知識を覚えるのではなく、学生たちが主体的に参加し課題を解決する力がつくような教育方法を取り入れている。

7. 基礎ゼミナールでは 5 名の教員が専門領域に応じた時事問題をテーマに、調べ学習、ディスカッション、発表というプロセスを繰り返し実施し、学生の探求や追及する姿勢を養い、主体的に授業に参加できるような工夫がされている。
8. 学生生活の運営のために、さまざまな委員会活動があり、学生は 2 年間で必ず委員長を経験するようにしている。  
また、学外での野外キャンプやさまざまなイベントを企画・運営する機会を設け、学内で学んだ知識を同級生や教員に自分の意見を伝えるといったトレーニングの場がある。
9. 学内での講義、地域での活動など、2 年間の学生生活での体験を通して、専任教員、ゼミ教員が学生の習得段階に合わせてさまざまな教育手法を用いた教育を行っていることが確認できた。

基準 4 教育方法	
【必須】 4- (1) 養成校の卒業時到達目標に沿った知識・技術の修得ができ、学修成果を確認できる体制をどのように作っていますか	
評 定	評価ポイント 3
<p>&lt;評価する点&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 卒業までに身に付けるべき能力（ディプロマポリシー）は学校長の指導のもと、専任教員のみではなくゼミ教員、非常勤講師ともに共有し学生の教育を行っている。 学生にはディプロマポリシーを入学時のオリエンテーションやガイダンスの時間を設けて説明している。また、シラバスや各講義時間で学習目標を明記し、理解が得られるような工夫ができています。</li> <li>2. 卒業時到達目標を「人との出会いを大切に、いのちの尊さを知り、心のふれあいを大切にする」のように伝え、学生にはどのような介護福祉士像をめざさなければならないのかを示している。</li> <li>3. 学生生活は年間スケジュールを示し 4 月の入学式、リーダートレーニング、30km チャリティー・ウォーキング、就職ガイダンス、野外キャンプ実習、福祉施設実習・卒論発表会、卒業式といった流れとその目的を示し、学生に学ぶことの大切さと学ぶことから得られる喜びを体験できるようなカリキュラムが構成されている。</li> <li>4. 授業や学校生活全体をグループワーク形式で運営し、他者を理解しケアする力、まとめる力、発信する力といったケアワークとソーシャルワーク力を育てるカリキュラムである。</li> <li>5. 学修成果は、毎回の授業で小テストを実施し、学期末には試験を実施し、修得度を測定している。介護スキル（実技）に関しても小テストの実施を行い介護動作の訓練を反復させ、学習習慣を身に付けさせるとともに、技術力の自信につなげている。 この小テストは入学時から卒業時まで続き、学生各自が用意したファイルに保存して</li> </ol>	

おくように指導し、学生自身が学びの成果を確認できるような工夫をしている。  
 介護福祉士養成施設で実施される共通試験では不可となる学生が居ないということからも、学生の学力向上のために各教員が学生にあった教育環境の整備を行っていることを確認した。

6. 養成校の卒業時到達目標に沿った知識・技術の成果は小テスト、終講試験、卒業時共通試験の結果から確認しているが、施設の行事運営、災害時の緊急避難訓練、ケース会議、介護福祉施設実習での学生による利用者への介護場面から観察される場面や、就職先からの評価等、学生の成長を確認している。

<特に優れた点>

- 行事、委員会活動でクラスのほぼ全員に委員長体験を経験させ、会議運営、討議と合意方法などリーダーシップ、メンバーシップを体験し、既存の学習知識を活用し学生の成長を促し、学生自身が成長を自覚できる機会を作っている。

<更なる向上を目指す点> (改善を要する点)

- 介護福祉士養成施設指定規則である 1850 時間を大幅に超える 2460 時間の教育内容を準備しているが、講義前後の予習時間・自習時間を確保し、その成果を把握する取り組みを期待する。

#### 基準4 教育方法

【選択1】 4 - (3) それぞれの教育科目において、また、教育課程全体として、学生のアクティブラーニングはどの様に展開されていますか。

評 定

評価ポイント 3

<評価する点>

1. 小人数グループ単位のグループワーク形式の授業展開を重視している。グループワークではロールプレイ、問題解決ゲーム、事例検討などのアクティブラーニングを取り入れている。  
 教員からの一方通行の講義ではなく、学生主体で学生が考え、意見を出し合って考え、思考を活性化させる時間を取り入れている。
2. 1年時には、併設されているこども総合科の学生と混合チームを組み、普段の自分の態度を見つめ直す機会を設けている。  
 次に問題解決ゲームを実施し、グループで協力して問題解決する体験をし、他職種の理解や連携の重要性を学ぶ機会を作っている。
3. 当該モデル校の専任教員は介護福祉士・社会福祉士・保育士・歯科衛生士・看護師等さまざまな資格を有しており、それぞれの教員には得意とする学問領域を持っており、その専門領域に応じた時事問題をテーマにチームティーティング方式での授業を重視している。

4. 授業の進行は、まず学生が主体的にフィールドワークにより情報収集を行っている。  
 情報収集を行うためには専任教員が提案した問題に関心を持つことから始めなくてはならないので、学生の能動的な学習姿勢が求められ、既習知識や技能を統合できるような働きかけを専任教員はグループの特性に応じた働きかけを行っている。  
 次に学生たちは持ち寄った情報をもとにニーズの選定や問題の抽出を行っている。
5. こども総合科の学生や教員との交流ができるため、事例を見る視点が広がり、考える力、行動する力、応用する力を習得し、広い視野で考える機会を作っている。最後に、グループとしての意見をまとめ発表するといった過程を踏んでいる。
6. 情報収集、課題の抽出、発表といった過程から多くの人と出会い、行動し、意見を出し合い、事例から得られる知識を深く理解し、グループメンバーや専任教員との交流を通し、協力姿勢や探求心を養っている。
- <特に優れた点>
- 併設されているこども総合科の学生と混合チームを組み、アクティブラーニングが行われていること。介護福祉、社会福祉、保育、心理を専門とする専任教員からフィードバックを得ることができ、学生が主体的に考え、視野を広げやすい。
- <更なる向上を目指す点>（改善を要する点）
- 改善を要する点は見当たらない。
- アクティブラーニングは教員にもアクティブな関わりが求められ、学生が主体的な学習習慣を身に付けるためには教員の働きかけが大切であると思われる。
  - 教員や介護福祉科、こども総合科の教員とのコンセンサスが求められる。当該モデル校ならではの工夫を研修会や研究会で発表し他専門学校の教員と情報共有できることを期待する。

基準4 教育方法	
【選択2】4-(4) 関係施設の職員や介護関係（企業を含む）者や市民など、学外関係者との交流などを教育のどう取り入れていますか。また、実習以外のインターンシップなど特別の工夫を行っていますか	
評 定	評価ポイント 3
<p>&lt;評価する点&gt;</p> <p>1. 神奈川県中央区の「福祉の広場」実行委員会に参加し、福祉施設や障害児者の親の会、各地区の自治会、厚木市などとともに年代、障害の有無に関係なく、誰もが参加し楽しめる文化教養イベントを企画運営している。</p> <p>学生は活動の普及や参加者の募集、イベント当日の受付や会場誘導などに携わり、神奈川県民との交流が行われている。</p>	



2. 実習報告会や卒業論文発表会には施設職員を招待しコメントをもらい学生との交流の場を持っている。また障害者施設の秋祭りでのパフォーマンス披露や児童養護施設と共同で実施しているキャンプの参加は、介護福祉職としての就業体験学生に進路選択を広げる機会となっている。

3. ボランティア活動を通し地域住民と密着した交流が行われている。

<特に優れた点>

○ボランティア活動内容の幅が広く、年齢や性別にかかわらず、さまざまな発達段階にある人や障害がある人達との交流の場が多く用意されている。

<更なる向上を目指す点> (改善を要する点)

特に記載事項なし

## 基準5 教員の資質向上

### 基準5 教員の資質向上

<総 評>

1. 教員は、横浜YMCAグループ学校で行われる教職員研修会と、職業教育実践課程の教員に求められる外部研修・学会参加、という二つの機会により、資質の向上を図っている。
2. 教員は、現場の実践と介護福祉教育をつなぎ合わせたカリキュラムの検討と展開を行うため、自己研鑽として外部研修・学会参加など、希望に沿って受講できるようになっている。生活にまつわるあらゆる支援に関する知識、情報が必要なため、介護領域にとどまらず、福祉、心理、看護等、教員の専門領域までその範囲を広げており、優れた取り組みであると評価できる。
3. 外部の福祉団体等からの講師派遣の要請に対しては積極的に受託することとしている。そのことによって、教授スキルを向上させ、地域社会や福祉現場のニーズ、最新情報等を理解することができるなど、優れた取り組みであると評価できる。
4. 学科長、学科統括教員が、スーパーバイザーとして教員の相談に応ずるシステムを作っている。
5. 複数教員で担当する科目については、それぞれ担当を振り分けるだけでなく、教員同士でそれぞれの授業の進捗状況を確認し授業内容を微調整する等、次回の授業内容を精査しており、優れたチームワークが確立していると評価できる。
6. 授業や学生指導の展開の経過、経験は、横浜YMCAグループ校で行われる教職員研修会で発表し、ディスカッションの機会を設けており、優れた取り組みであると評価できる。
7. 教員は、横浜YMCAの運営委員として、運営委員会で実践されている地域活動に参加し、自らが地域包括ケアシステムを意識した実践の担い手となり、その取り組みを講義内容に活かすなどに努めており、優れた取り組みであると評価できる。

基準5 教員の資質向上

【必須】5- (1) 教員の外部研修・学会参加の機会を確保・サポートしていますか

評 定

評価ポイント 3

<評価する点>

1. 基本的な観点として、管理者は、教員が介護福祉現場と教育をつなぎ合わせたカリキュラム、教育内容を具体化するために、自己研鑽としての外部研修・学会等に参加することを推奨している。さらに、研修会等の参加に当たっては、参加費、交通費などを含めた研究費を支給している点は、高く評価できる。
2. 自己研鑽のテーマとして、介護福祉教育の内容、介護人材育成に関連する研究動向、および介護福祉領域にとどまらず、教授スキルの向上、学生理解としての高校生の現状等の最新情報の入手等も設定されており、評価できる。
3. 具体的な実施方針、実施内容は次のとおりである。
  - ① 外部研修・学会の参加費・交通費等、研究費の支給
  - ② 専門書の購入費用の支給 : 上限 8,000 円
  - ③ YMC Aグループ校4校合同・教職員研修会の開催は、独自の優れた取り組みである。年2回開催している。内容は、
    - 1) 学生の生活指導等に必要な学生理解、
    - 2) 教育方法論、
    - 3) SNS・ネット、デートDVなど、現代の学生生活に関する講演の聴講
    - 4) リハビリ、スポーツ等の領域の学校の教職員と学生指導方法等に関するディスカッション、情報共有。
  - ④ 教員の専門性を活かした、外部関係団体等の委員会活動、研修会講師派遣の受託など、外部講師の派遣依頼に対しても、本務に支障が無い範囲で推奨しており、優れた取り組みであると評価できる。
4. 管理者は、教員の主体的に学びたい、研究したい意思、希望に応える姿勢が明確である。さらに、教員の外部の委員会委員、福祉職員研修会等の講師派遣への依頼等には「積極的」に応ずる（「自己評価書」）こととしており、その結果、教授スキルの向上や福祉現場等の最新状況を把握することにもつながり、学内の教育に良い影響をもたらしている。高く評価できる。

<特に優れた点>

- 教員の主体的に学習し、研究することが推奨される風土が醸成されている。
- 外部からの信頼も厚く、関係団体等の研究委員会、福祉職員研修会等への講師派遣の要望に対して、本務に支障が無い範囲ではあるが、積極的に応じており優れた基本姿勢である。

<更なる向上を目指す点> (改善を要する点)

- 「自己評価報告書」では、「外部研修・学会への参加に積極的な教員とそうでない教員とのあいだで参加の度合いに差が生じていること、参加費等の支給は、一律支給とはしていないことから、教員の主体性によって、研究費の支給額(実績)にも差が生じている」とされて

いる。積極的な教員の役割として、他の教員との共同研究、共同での研修会参加の呼びかけ等に努めることを期待したい。

基準5 教員の資質向上

【選択1】5-(4) 教員の資質向上のために相互にサポートする体制をどのようにつくっていますか

評 定

評価ポイント 2

<評価する点>

1. 基本的な観点として、週1回定期開催する職員会議を重視している。職員会議では、学生指導の状況、学校行事や学生委員会活動のモニタリング等を行い、教員のチームワークと資質向上を図っている。さらに、横浜YMCAカレッジ・グループ4校の教員ネットワークを活用して、グループ校内の教員の相互サポート体制を確立しており、教職員のチームワークは優れたものと認められる。
2. 具体的な実施方針、内容は次のとおりであり、標準的な取り組みであると評価できる。
  - ① 週1回の職員会議の開催  
内容は、学生指導の状況の共通理解、学校行事、学生委員会活動のモニタリング、外部研修会・学会参加等の調整や復命・報告等
  - ② 科目間の共通課題に関する授業後の振り返り会議  
「生活支援技術」「医療的ケア」「こころとからだのしくみ」等の複数教員が担当する科目内容について、次回の授業に活かすための話し合いを、随時行っている。
  - ③ 学科長、学科統括による相談体制・スーパーバイズとして、教員の教授法の質の向上、メンタルヘルスの維持向上など、教員の相談に応じる体制が確立している。
  - ④ 横浜YMCAカレッジ・グループ校同士で行う教職員研修会での課題提起  
これらの取り組みを年次ごとに振り返り、横浜YMCAカレッジ・グループの教職員研修会で課題提起しディスカッションする等、教員の資質向上に役立てている。
3. 実施後の効果測定、取り組み全体の評価として、定期的な職員会議、随時の教科目間の連携・調整等の教員間の相互のサポート、学科長等による教員に対するスーパービジョン体制は、効果的に運営されているものと評価できる。
4. 横浜YMCAカレッジ・グループ4校のネットワークによる教員間のサポートも、学内の経験だけではなく多角的な観点からお互いに学ぶものが多く効果的であり、優れた取り組みであると評価できる。

<特に優れた点>

○定期的な職員会議の開催、横浜YMCAカレッジ・グループの教職員研修会への参加等を長年積み上げてきた結果、学科内の学生指導、教育内容、教員の自己研さん等に関する専任教員間のサポートの取り組み、強固なチームワークが確立されており、優れたものであると評価できる。

<更なる向上を目指す点> (改善を要する点)

○専任教員間相互のサポート体制、チームワークをベースとして、実習担当等の非常勤講師へと波及させていくことを期待したい。

#### 基準5 教員の資質向上

【選択2】5-(6) 教員の資質向上のために、特色ある独自の取り組みとしてどのようなことを行っていますか

評 定

評価ポイント 3

<評価する点>

1. 基本的な視点として、教員が地域において独自に果たす役割が明確にされている。役割としては、横浜YMCAの運営委員としてのボランティア活動、コミュニティワークの取り組み、地域の社会福祉協議会の研修コーディネートの活動等であり、地域活動への参加を通じて資質向上を図ることを重視しており、優れた視点といえる。

2. 具体的には、次の取り組みが行われており、優れた実践であると評価できる。

##### ① 横浜YMCAの運営委員会としての地域活動

教員が運営委員として、県央地区におけるコミュニティ活動に参加している。福祉職としての持ち味を活かして、地域活動に参加する事業所等の担当者の連携を図り、新たな事業展開を図ることによって、地域包括ケアシステムの展開に参加している。

この実践は、コミュニティワーク方法論研究、地域包括ケアシステムの方法論の研究とも重ねて行われている。ケアシステム、開発した支援プログラムには学生もボランティアとして参加するなど、学生のフィールドワークとも結びつけている。

##### ② 新たに福祉職を目指す人の人材育成、研修のプログラム開発の研究に参加

横浜市社会福祉協議会、横浜市男女共同参画社会推進協議会等が実施する福祉人材育成の研修をコーディネートする取り組みに参加している。

3. 実施後の効果測定、取り組み全体の評価

地域における専門職としての役割の発揮は、教員としての資質の向上、あらたな教育内容、研究等につながっている。さらに、学内の教育、学生のフィールドワーク、ボランティア活動等にも還元されており、地域実践と研究、学内の教育に効果的に活かされており、優れた実践であると評価できる。

<特に優れた点>

○教員の専門性を活かして、横浜YMCAの活動として地域の他の専門職等との連携が図られ、地域の支援システムが構築されるとともに、教員の実践研究、学生のフィールドワークの学習にもつながっている、複合的な成果をあげており、優れた実践といえる。

<更なる向上を目指す点> (改善を要する点)

○「自己評価報告書」によると、「地域活動に参加し、イニシアティブをとる教員は一部に偏っている」とされている。今後は、これまで地域活動等に参加、運営委員等を担当してき

た教員が参加できていない他の教員の教育係となり、OJT して、共同での参加、役割の分担等により、他の教員も参加する機会をつくるなど、教員全体の質を高めていくことを期待したい。

## 基準6 やりがい・キャリア形成等を醸成する教育

### 基準6 やりがい・キャリア形成等を醸成する教育

#### <総 評>

1. 「人間性を尊ぶ」「社会に貢献する人材の育成」という理念を掲げ、教育目標として、「1. 自己学習能力を身につけた人材の養成」、「2. 人間関係を豊かにする人材の育成」、「3. サービス提供者にふさわしい社会的な行動様式を身につける」、「4. リーダーシップを発揮できる人材養成」、「5. ボランティア精神を理解し、積極的に行動できる」といった 5 つの教育目標が設定され、卒業時到達目標を達成できるような取り組みがなされ、キャリア形成できる仕組みができています。
2. 1 年次は介護福祉専門職としての知識を習得し、介護福祉実習では自らのロールモデルとなる介護福祉士像をイメージさせ、人間と社会のあり方を学ぶ科目に設定している科目「サービス演習」の授業では社会人としてのマナーを学び専門職業人としての基本的姿勢を教育し、キャリア教育を行っている。
3. 2 年次になると、1 回目の職業ガイダンス時にはリクルートパーティを実施し、卒業生や現任者を招き、リラックスした雰囲気での交流する機会が設けられており、介護に関する様々な意見や仕事内容ややりがいについて聞き、介護福祉に対する考えを深め視野を広げる、自らのキャリアと向き合う機会となっている。
4. ホームルームの時間には就職案内を行っている。さらに、かながわ高齢者福祉研究大会や横浜市老人保健施設研究大会に参加し、介護福祉士の実践活動や高齢者福祉の取り組みを学ぶ場を設けている。  
担任からは卒業後の人生を見据えた生活を考えさせ、卒業後従事したい職場や打ち込める職場をイメージし、選択できるようにキャリア形成できる力を付けている。2 回目の職業ガイダンスでは履歴書の書き方や模擬面接を行い具体的な職業先を決定できるように段階的にキャリア形成できる力を養っている。

基準6 やりがい・キャリア形成等を醸成する教育

【必須】6－(1) キャリア形成の仕組みを理解させるため、どのような取り組みをしていますか

評 定	評価ポイント 3
<p>&lt;評価する点&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 2年間のカリキュラムを通じて、学生各自が介護福祉士としてケアワーク・ソーシャルワークの視点で利用者・家族・地域住民のQOL向上に寄与できる人材を育成している。</li> <li>2. 介護福祉実習での指導やリクルートパーティを活用し、卒業生との連携場面を設定している。卒業生からキャリア・デザインの描き方を聞く機会を設け、在学中に取り組んでおくこと、介護福祉専門職として身に付けておきたいことなどのアドバイスを受け、学生各自がキャリア・デザインを描くことができている。</li> <li>3. 施設長、管理職、介護長、主任、実習指導者の役職にある人々から、介護福祉職場に就職し、介護福祉士としてどのようにキャリアを積み上げていくのか、介護福祉士としての自己実現をどのように目指すのかを具体的に聞く場がある。</li> <li>4. 社会福祉主事任用資格の資格取得のためのカリキュラムが用意されているので、介護福祉士のみならず、管理者、介護福祉施設経営や起業など職業の幅広いキャリアイメージを在学中に描くことができる。</li> </ol> <p>&lt;特に優れた点&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○介護福祉士資格だけではなく社会福祉主事任用資格を卒業時に取得させ、卒業後の活躍の場を広げられるカリキュラムが作成されている。</li> <li>○学生2名（男性1名、女性1名共に2年生）との面談時、「本校の良い点」を質問した時、「さまざまな資格を取得することができるので、就職先の幅が広がる」と述べていた。学生自身がそれぞれのキャリア・デザインを描き、学生の自己実現が可能になるようなキャリア形成できるような指導が行われていることが確認できた。</li> </ul> <p>&lt;更なる向上を目指す点&gt;（改善を要する点）</p> <p>特に記載事項なし</p>	

基準6 やりがい・キャリア形成等を醸成する教育

【選択1】6－(3) 就職への自覚や意欲を持たせる指導はどのように行っていますか

評 定	評価ポイント 3
<p>&lt;評価する点&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 職業ガイダンスを計画的に行っている。ホームルームの時間、リクルートパーティの開催、1階の掲示板には求人案内を掲示している。</li> <li>2. カリキュラムの中の野外キャンプやボランティア活動では、自己理解・他者理解を促し肯定的自己概念の形成の場ともなっており、就職への準備活動となっている。</li> <li>3. ホームルームの時間には福祉施設の採用担当者が施設の特徴や福利厚生などの説明</li> </ol>	

<p>の場を設けている。現場担当者として本校の卒業生が出向くこともあり、自身の卒業後の仕事の取組み姿勢のモデルともなっており、就職への自覚や意欲を持たせている。</p> <p>4. 就職ガイダンスでは履歴書の書き方やスーツの着こなし、挨拶の仕方、面接時の出入りや面接時の応答、電話の応対等を実践に即した演習を行い、社会人力を向上させている。</p> <p>&lt;特に優れた点&gt;</p> <p>○個々の学生の成長に応じた指導が丁寧になされている。</p> <p>○専任教員の他に介護福祉士教員講習会を修了しているベテラン教員によるゼミ担当教員と連携し、学生に寄り添い学生に応じた指導を行っている。</p> <p>介護福祉実習中での躓き、卒論をまとめる過程での指導から、学生にあった進路を学生自身が選択できるように指導している。</p> <p>○介護福祉施設の採用担当者から直接話を聞く機会や、かながわ高齢者福祉研究大会や横浜市老人保健施設研究大会に参加する機会を設けるなど、介護福祉士の実践活動をしている先輩からの声を学生に伝える場を設けている。</p> <p>&lt;更なる向上を目指す点&gt; (改善を要する点)</p> <p>特に記載事項なし</p>
--

<p>基準6 やりがい・キャリア形成等を醸成する教育</p> <p>【選択2】6-(5) 介護福祉士のやりがい・キャリア形成等を醸成する教育のために、特色ある独自の取り組みとして、どのようなことを行っていますか</p>	
<p>評定</p>	<p>評価ポイント 2</p>
<p>&lt;評価する点&gt;</p> <p>1. オープンキャンパスや高校訪問時に本校の教育方針、卒業時の到達目標を示し、入学前から学ぶことへの動機付けを行い、2年間の教育を通じてキャリア形成を行っている。</p> <p>2. 学内・学外の学習ではグループワーク形式を重視し、学生が自律的に課題を分担、グループメンバーと協働し相互に刺激し合える関係を作り、教員は学生個々の成長に寄り添いながら指導を行っている。</p> <p>3. グループワーク形式の授業ではロールプレイや問題解決ゲーム、事例検討を通じて、教員は学生が学んだ成果のフィードバックを行っている。介護福祉職、社会に出た時に必要となる心構えや能力を身に付けさせている。</p> <p>このような教育方針は学生が社会に出て活躍できる姿を描くことができ、キャリア形成を醸成することにつながっている。</p> <p>併設することも総合科の学生ともグループワークを行い、刺激し合える関係を作り、チームで働く力が醸成され、就職活動につながっている。</p> <p>4. 就職後も継続的に自己研鑽・研修することの重要性を卒業生との連携やかながわ福祉研究大会や横浜市介護老人保健施設研究大会に参加し、キャリアアップに必要な能力開発、自己啓発などの実例を示している。</p>	

5. 卒業後は職場での研修以外に職場外での研修の場や職能団体である介護福祉士会への加入を推奨し、介護福祉士として介護実践力の向上、人間力の向上を目指す必要性を伝えている。

<特に優れた点>

○研究大会での卒業生の活躍を紹介し、学生のキャリア形成を促進する取り組みをしている。

○YMCA の理念である社会に貢献できる人材を育成しており、地域密着型の教育が行われて、社会との接点が多い。

地域住民や実習施設から様々なフィードバックを得ることができ、就職先や地域社会で様々な人々を対象とした仕事につくために必要な力を育成している。

<更なる向上を目指す点> (改善を要する点)

○職能団体である介護福祉士会への加入は推奨しているが、介護福祉士会が主催している研修会の紹介や、認定介護福祉士の紹介、介護福祉士と連携したキャリア形成促進を学生の卒業後5年後、10年後を見据えた取り組みを期待する。

## 基準7 実習

### 基準7 実習

<総評>

1. 実習前後には、各自の取り組みを振り返りまとめる機会が、段階ごとにある。また、その取り組みは段階を経て、卒業時の目標に向かうように組み立てられている。そのことで、学生は自己の成長を知る機会を得ている。
2. 実習先指導者との連携を、定時の巡回以外にも、電話やメール等を活用し実施している。そのことで、学校の実習目標を施設側が良く理解し、学生の成長を促すよう組み立てられている。
3. 実習時以外にも、実習施設との関わりを重視した活動を行っている。そのことで、学生は実習での関わり以外にも、利用者及び施設職員と関わる事から、利用者の状態、介護福祉士としての職員の活動を多面的にとらえることができている。
4. 社会福祉主事資格取得も卒業時の目標にあることにより、相談援助実習も行われていることから、利用者の相談援助における視点も持ち合わせ、経験し、卒業後の介護福祉士としての活動に役立てている。



基準7 実習

【必須】7-(1) 実習に向けての事前準備と実習後のフィードバックを、どのように行っていますか

評 定

評価ポイント 3

<評価する点>

1. 実習前には個別面談を実施し、学生の個々の状況を確認し、必要な助言指導を行っている。そのことで、学生は実習に向かう不安の解消等が行えている。
2. 3段階で実施される実習は、その段階ごとの到達目標が明確になっており、事前準備、実習後発表会等フィードバックの機会も段階ごとに目標と行動が明確に示されている。
3. 実習中における学生の状況把握が適切に行えているので、必要な場合には実習を一旦中止し、その学生の成長を促して次の実習の機会を与えている。そのことで、中止になった学生でも、次回の実習には、どのような事を改め、学び、行動したら良いのか自己を中心として考える力を養っている。

<特に優れた点>

- 実習段階ごとの目標と介護福祉士養成卒業時の最終目標が、リンクされた構成になっているので、学生自身の目標も明確になっている。
- 実習における学びを、他学年の学生に発表する場が設けられていることで、学生個々の学びの状況を他学年の学生が、自分のこととして捉えることの場が設けられている。
- 2年生最終実習においては、他学科教職員や実習及び就職関係施設への案内も出されており、業界関係者の参加も促されている。

<更なる向上を目指す点> (改善を要する点)

- 実習前の施設見学が、施設の理解に留まっている状況であるということに問題意識を持っており、新たに体験型の施設見学等を検討している。
- 変化する学生に対応しようとする姿勢が伺われるので、実施に向けた行動を実践し、その状況を介護福祉士養成施設協会等で報告し他校のモデルとなることを望む。

基準7 実習

【選択1】7-(3) 本人の適性に基づいた実習が行えるようにするためにどのような体制をとっていますか

評 定

評価ポイント 3

<評価する点>

1. 実習段階ごとに明確に示された目標を持ちつつ、学生の個別の状況に合わせた課題、修得目標、評価内容を臨機応変に対応でき、更に学生自身の個別の成長を促すことに繋がっている。

2. 学生個々の意向をふまえつつ、実習評価、実習先との相性等を勘案し、教員がその都度判断し次の実習先を検討して学生の実習を支援する体制としている。
  3. 実習段階によって学生個別の支援が継続的に行えるように、担当者を固定している。また、学校における役割担当が明確に示されている。
  4. 施設指導者との連携を図る取り組みがなされているので、学生個々の必要な情報を施設指導者も理解した上で、教職員、施設指導者が同じ視点で実習支援を行う取り組みがなされている。
- <特に優れた点>
- 個々の学生の状況を教職員が把握し、状況判断を行っている。そのことから、学生支援の方向性に多様性があり、学生支援が充実しているといえる。
  - 施設指導者との連携を図る事ができており、学生が実習以外でも施設との関わりを持つことができ施設指導者も学生の個別情報を多方面から確認する場を持っている。
- <更なる向上を目指す点> (改善を要する点)
- 学生の状況判断において、多くの情報を得て行う体制にあることから、施設側の準備が遅れてしまう所があるとの事であるが、決定スケジュール見直しなどの対策を講じようとしているので、その対策を早急に講じることを期待したい。

基準7 実習

【選択2】7-(6) 実習先との連携のため特色ある独自の取り組みとしてどのようなことをおこなっていますか

評 定

評価ポイント 2

<評価する点>

1. 実習先を含めた地域の事業所との連携の機会として卒業論文発表会、「YMCA 祭」を利用して実践されている。
2. 2年時に開催されるリクルートパーティにおいては、実習先卒業生も参加して行うことで、学生のありのままの姿をみる機会を作っている。

<特に優れた点>

○地域の事業所との連携を図る際に、学生が主体となった行動ができるように支援されている。この為学生は主体的に考え行動するという介護過程でも必要な問題解決思考能力の実践が行われている。

特に今年度は、教職員が行っていた分野も学生に実践させるなど、学校側が同じことを同じようにするのではなく、変化させてゆこうという考えを行動に移しているといえる。

○高齢者施設のみではなく、障害者施設との関わりを「福祉の広場」イベントで実践されている。

実習中の学生が利用者を介助して参加するなど、学校で開催される催しを当事者としての関わりを持つことで、多様な関わり方の在り方を実践している。

<更なる向上を目指す点> (改善を要する点)

特に記載事項なし

## 基準8 リカレント教育体制

### 基準8 リカレント教育体制

<総 評>

1. 介護福祉士という職業での学びは、学校を卒業すれば終了ではないということを、実習先卒業生との関わりや、職能団体や施設団体が実施している研究大会に学生として参加することで教育の方向性を表している。
2. 約30年間の運営実績から、校友会が運営されている。そのことにより、在校生は卒業後も学校との関わりをもつことができている。その活動が学生の安心感にも繋がり、学校への信頼感を得られている。

### 基準8 リカレント教育体制

【必須】8- (1) 介護福祉士としての資質向上の責務や継続的な学習の必要性を、在学中にどのように教育していますか。

評 定

評価ポイント 2

<評価する点>

1. 各種職能団体が行っている研究大会に毎年の参加実績がある。そのことで、学生は資質向上の責務や継続的な学習の必要性を体験できている。
2. 学生が参加した後は、参加報告会を行い、学生個々の感じた事を全体に広げる機会を作っている。

<特に優れた点>

- 職能団体が実施する研究大会等に参加するだけでなく、その報告会を実施している点が挙げられる。学生がどのような学びをしたのかを、教職員も理解することができ、それを職能団体に返すこともできる状況を作っている。
- 参加費用が必要な大会においては、校友会がその支援を行い、全学生が参加する機会を作っているので学生は、自分たちの活動を卒業生が支援してくれていることを理解し、その経験を今後の人材育成にいかすことができる取り組みである。

<更なる向上を目指す点> (改善を要する点)

- 卒業時には、職能団体である日本介護福祉士会への加入促しがスムーズに行える状況を作っていると感じた。教職員のみならず加入する卒業生も参画した行動を期待する。

基準8 リカレント教育体制	
【選択1】8-(5) 卒業生と在学生との協力体制はどのように築いていますか	
評 定	評価ポイント 2
<p>&lt;評価する点&gt;</p> <p>1. 卒業生の集まりである校友会総会が定期的に運営されている。在校生の出席を必須としている。</p> <p>2. 卒業生来校時には、施設紹介だけではなく、介護観、職業観に関しても学生に伝えるように工夫されている。</p> <p>&lt;特に優れた点&gt;</p> <p>○校友会活動に在校生も参加していることが評価できる。そのことで在学中から卒業後の関わりを理解できる取り組みがされている。人材育成の視点を体験的に学べる機会がなされているといえる。</p> <p>○介護観や職業観を、その確立過程にある卒業生が話す場を設けることで、学生の理解を促す取り組みと言える。</p> <p>この活動により、学生は自分たちも語れる卒業生になることが必要であるという、将来像をみせることにも繋がっているといえる。</p> <p>&lt;更なる向上を目指す点&gt; (改善を要する点)</p> <p>○卒業生と在校生の関係を持つ機会は多いが、卒業生と在校生が共に活動が少ないと自己評価されているが、多くの活動の場は共有できているので、その場を変化させる行動を教職員にとってもらうことで、更なる向上が望めると考える。</p>	

基準8 リカレント教育体制	
【選択2】8-(6) 介護福祉士の専門的・力量向上のために、特色ある独自の取り組みとして、どのようなことを行っていますか	
評 定	評価ポイント 3
<p>&lt;評価する点&gt;</p> <p>1. ほぼ毎月実施される学校行事の主導は、学生が担う工夫がされている。また、そのことを入学前から学生に広報がなされており、学生はその目的を事前に十分理解して入学している。</p> <p>2. 地域と密着した行動を行うことができている。</p> <p>日頃関わる事のない保育園、地域住民との関わりの場がある。</p> <p>&lt;特に優れた点&gt;</p> <p>○学校行事の主体が学生であるという点が優れている。また、そのことを学生は十分理解して入学していることは、各教職員がその内容をよく理解しているから、事前の説明が十分に出来るということに繋がっている。</p> <p>調査訪問時に行事に取り組んでいる学生から「大変だけれど学びが大きい」という発言</p>	

<p>を聞く機会があり、主体的に考え、行動し、向上していく自分を意識していることを良く確認できた。</p> <p>○学校玄関に地域住民の姿が多くみられた。キリスト教の精神を持つことや、学校内にプールなどの施設が整うという環境もあるが、そのことで学生は日頃の行動を律する機会も得られていると確認出来た。</p> <p>&lt;更なる向上を目指す点&gt; (改善を要する点)</p> <p>○学校で行っている活動を、卒業生以外の施設職員にも広く知らせる機会を多くつくる必要があるのではないかと考える。各行事に参加している方々への広報活動も学生が担うことができる力量があると思われる。</p>
--

**基準9 学生の募集と受け入れ**

基準9 学生の募集と受け入れ	
<総 評>	
<p>1. 学校基本情報等の公開がHP上でなされており、情報は最新になることを意識されている。</p> <p>2. 学生募集の対象者は主に高校生としているが、あらゆる年代層に対応できる内容となっている。</p> <p>3. オープンキャンパス参加時には、必ず体験授業を入れており、その体験授業で何をするかも広報されているので、選びやすい情報提供となっている。</p>	

基準9 学生の募集と受け入れ	
【必須】9-(2) 学生募集を適切かつ効果的に行っていますか	
評 定	評価ポイント 3
<評価する点>	
<p>1. 福祉について多面的な学びを知ってもらうようにというコンセプトをHP等でも明確にして学生募集を行っている。</p> <p>2. オープンキャンパスでは、個別での面談を重視しており、教職員と学生個々との関わりを重視している。それにより学校の目標が明確に受験生に伝わる工夫や、受験生の思いを教職員が受け取る工夫がなされている。</p> <p>更に、在校生との懇談などの場を準備することで、在校生の言葉で、受験生の不安解消ができるような工夫がなされている。</p>	

<特に優れた点>

- 費用対効果を考えた広報活動を行っている。その上で、受験する学生の気持ちに寄り添うような工夫がなされている。
- 学校の基本姿勢等がわかりやすいように、「何故」という部分をIPでは「校長日記」という形で表現されているので、受験生のみならず高校教員や保護者が感じる「何故」にも対応できている。

<更なる向上を目指す点> (改善を要する点)

- 留学生受け入れ等に関しての対応を、どのようにするかを考えている。  
日本語学科との連携を明確にすることで、留学生の抱える問題点にも対応できることを、明確にする工夫を望みたい。

基準9 学生の募集と受け入れ

【選択1】9-(1) 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいますか

評 定

評価ポイント 3

<評価する点>

1. 学生募集の中心となる神奈川県内の募集重点校を選定し、定期的な高校訪問が実施され、高校との信頼関係構築に繋がっている。
2. 定期的な高校訪問や高校教員向けの専門学校理解研修の参加等で高校教員との交流機会を増やし、社会問題化されることが多い、介護福祉業界に対する誤解を当該モデル校から、誤解を払拭し、介護福祉士の関する正しい情報を提供する機会を設けている。

<特に優れた点>

- 高校評議員や、新入生を対象とする人間関係トレーニング等積極的に講師派遣を実施している。  
このことは高校に対して、福祉専門職の強みをアピールできる機会となり、信頼関係構築に繋がっている。学生にとっては専門学校教職員の強みを体験することの機会に繋がり、高校卒業後の選択肢の幅を広げる機会となっている。
- 当該モデル校の広報活動以外にも、介護福祉業界に対する誤解の払拭に向け、幅広い視野での活動がなされている。

<更なる向上を目指す点> (改善を要する点)

- 高校内開催講座等に参観者がいない場合には、アピールの場を失っている事への危機感を持っている。その対策に関しても考えられているが、具体的に何ができるか等の方策を早急に講じることを期待したい。

基準9 学生の募集と受け入れ

【選択2】9-(6) 学生募集と受け入れのために、特色ある独自の取組みとして、どのようなことを行っていますか

評 定

評価ポイント 2

<評価する点>

1. オープンキャンパスの開催時には、必ず介護体験授業を実施しており、また介護体験授業では在校生も一緒に参加することを基本としている。  
一緒に介護体験することにより受験生は自分が入学した際の将来像が明確になるように工夫がなされている。
2. 保護者を対象とした説明会においては、学校紹介という全体の説明のほかに、専門職が関わる工夫がなされている。  
そのことで、入学後にどのような教育を受けるのか保護者も体験できることから、保護者の信頼を得る工夫がなされている。
3. 保護者に対して入学後の学生支援に関する、連携の必要性が説明がなされている。  
そのことで、入学後に保護者がとるべき姿勢が明確になり、保護者の安心感につながる工夫がなされている。

<特に優れた点>

- 保護者との連携の必要性を良く理解し、そのための方法を明確に保護者に示している。そのことは入学後に不安がある学生に対しての個別サポートにも繋がっている。  
受験生の変化を教職員、保護者で支援することで、受験生の成長を、入学前、在校中、卒業時と継続的にみていこうという意図が、保護者にわかりやすくなっている。
- 金銭面に不安がある場合は、どのようにするべきかを個別に対応できている。そのことで、金銭面の不安による入学辞退の防止に努めている。

<更なる向上を目指す点> (改善を要する点)

- 良い取り組みが随所に行われているのに対して、情報拡散が十分に出来ていないという実践内容の評価がなされている。  
受験生目線の情報拡散に対して、何が効果的かを広く情報収集を行い早急に対策が講じることが期待したい。
- 保護者に対する取り組みの成果を発信する力があると感じるので、他校にも広げる活動を期待したい。

## 基準10内部質保証

### 基準10内部質保証

#### <総 評>

1. 実践的な職業専門教育を目的とした学校の教育活動、および学校運営の現状について、成果を検証し、課題を明確にして必要な改善の取り組みを行うために、自己評価を実施するとともに、教職員と卒業生、福祉施設関係者による「学校関係者評価委員会」を設置し、自己評価結果を報告、課題の改善計画等に対して意見を聴取している。
2. こうした取り組みにより、学校運営に関するPDCAサイクルが確立しており、基準からみて標準的な取り組みであると評価できる。
3. 自己評価の取り組みに当たっては、評価項目として文部科学省が示している基準を基本に、当該モデル校の学校教育目標、全国YMCA運営ガイドラインの項目を追加して「評価基準」を策定している。  
 こうした自己評価の実施、「学校関係者評価委員会」意見聴取、改善活動の実施、公表の取り組みは、独自性ある優れた取り組みであると高く評価できる。

### 基準10内部質保証

【必須】10—(4) 教育情報をどのように公開していますか

評 定

評価ポイント 2

#### <評価する点>

- 1 学校ホームページによる情報公開が行われている。「学校ホームページ」を作成し、教育情報を公開している。保護者や高校の教員、高校生、近隣の福祉施設職員等を対象として、読者が閲覧しやすいよう、教育理念、教育目標、学校生活、各種行事の紹介、卒業生の近況等を盛り込んでおり、標準的な取り組みができていると評価できる。
2. ホームページの内容、工夫として、以下の取り組みがされている。
  - ① ツールの使い分け  
 学校ホームページを中心に、Twitter、LINEなどのツールを使い分けて、それぞれのツールによって、閲覧者が求める情報を棲み分けして発信している。  
 たとえば、Twitter、LINEは、主な閲覧者が福祉の仕事を目指す高校生や在学生、卒業生であるため、できるだけ学生目線で情報発信に努めている。学生も、フォロワーやリツイートという形で情報発信に参加している。
  - ② ホームページ等において工夫していること  
 「校長日記」として、校長が日ごろ感じたことを発信し、「先生日記」としてクラス、学科、授業、行事での出来事等を発信し、できるだけ現場の生の声を伝える努力をしており、優れた取り組みであると評価できる。
  - ③他の情報とのリンク  
 同窓会組織である「校友会」のホームページともリンクし、現場の動向、カリキュラム



の閲覧ができる。実習指導者が、新カリキュラム・習得目標等についての情報を閲覧して実習指導に当たってもらえるよう配慮しており、良い取り組みであると評価できる。

<特に優れた点>

○特定の広報担当者だけがホームページを編集するのが通常の「学校ホームページ」だが、当該モデル校の場合、校長をはじめ専任教員が学校生活等の生の情報を発信している。

さらに、学生も Twitter のフォロワーやリツイート、ブログで学生生活・ボランティア活動情報等を発信している。

<更なる向上を目指す点> (改善を要する点)

○「自己評価報告書」によると、「学生の情報発信に関して、内規・ルールづくりが必要である」とされている。

○今後、学校運営に関する情報の発信も必要であり、学校自己評価、およびその後の改善経過・結果、教育課程編成委員会議事録等を公表するなどの検討を期待したい。

#### 基準10 内部質保証

【選択1】 10 - (1) 自己点検・評価をどのように行っていますか

評 定

評価ポイント 2

<評価する点>

1. 自己点検・評価の取り組みに当たっての基本的な観点として、全国YMCA専門学校運営ガイドラインに沿った自己点検評価を行っている。地域の福祉施設関係者や卒業生等で構成する「学校関係者評価委員会」を開催し意見聴取を行い、次年度に向けた改善すべき事項を明確にし、PDCA サイクルによる改善内容を公開している。

2. 自己点検・評価等の実施方針、実施内容は、次のとおりであり、標準的な取り組みであると評価できる。

##### ① 自己点検・評価の実施

校長、学科総括、主任によって、年1回、5月、前年度の取り組みに関する自己評価を実施している。評価項目は、文部科学省の評価項目を基本に、当校の教育目標、全国YMCA専門学校運営ガイドラインの項目を追加し策定している。

##### ② 学生による授業アンケートの実施

アンケート結果は、それぞれの科目担当教員に配布し、授業担当教員が授業内容や科目上の課題の検討のために活用している。直接自己点検評価報告書に盛り込まれるものではないが、管理者による自己評価の取り組みの参考としている。

##### ③ 学校関係者評価会議は、年2回開催している。

5月には自己点検評価報告書を作成、学校関係者評価委員会を開催(5-6月)し、報告している。委員会が出された意見をもとに、第2回会議において、次年度に向けて改善すべき事項を「学校関係者評価報告書」にまとめ、11-12月に、学校ホームページで公表している。

<特に優れた点>

○評価項目は、文部科学省の基準をベースに、当校の母体となる横浜YMCAの理念(「横浜YMCA—私の使命」)、教育目標、全国YMCA専門学校運営ガイドラインを具体化した当該モデル校のめざす姿を検討し、項目設定しており、優れた自己評価項目の設定であると評価できる。

○学生の授業アンケートの取り組みも、良い取り組みとして評価できる。

<更なる向上を目指す点> (改善を要する点)

特に記載事項なし

基準10 内部質保証

【選択2】 10—(2) 学校関係者評価をどのように行っていますか

評 定

評価ポイント 2

<評価する点>

1. 地域の福祉施設関係者や卒業生等で構成する「学校関係者評価委員会」を設置し、自己点検・評価の結果を審議している。「学校関係者評価委員会」は、年度の自己点検評価報告書の協議を行う場であり、自己評価結果への意見聴取を通して、地域や福祉現場の課題、人材育成のニーズ等を学校教育に具体化していく役割も果たしている。

2. 「学校関係者評価委員会」の開催

年2回開催 構成メンバー：教職員、卒業生、福祉施設関係者

年度最終回の委員会では、次年度の課題を抽出し、当校が把握している課題、改善計画に対して、外部の委員から意見を得て、次年度の教育に反映させており、優れた委員会活動であると評価できる。

3. 「学校関係者評価委員会」開催による効果、取り組み全体の評価

地域でのボランティア活動、福祉現場での実習等を通じて学生が在学中に学ぶべきことなど、学校関係者(地域の福祉施設、卒業生等)の視点からの意見は、教育内容の改善にとって不可欠なものとなっている。

<特に優れた点>

○地域の福祉施設関係者や卒業生と連携して当該モデル校の教育、実習、ボランティア活動等が実施されていることから、学校関係者による評価、とくに学生、教職員が福祉現場や地域の福祉課題に目を向けるための協議を重視しており、すぐれた委員会活動であると評価できる。

<更なる向上を目指す点> (改善を要する点)

特に記載事項なし

専修学校職業実践専門課程（介護分野）

第三者評価試行

自己点検・自己評価報告書

松本医療福祉専門学校

平成28年10月24日

## 目次

### 1.学校現況票

### 2.評価項目別取り組み状況

基準 1 教育理念

基準 2 学校運営

基準 3 教育内容

基準 4 教育方法

基準 5 教員の資質向上

基準 6 やりがい・キャリア形成等を醸成する教育

基準 7 実 習

基準 8 リカレント教育体制

基準 9 学生の募集と受け入れ

基準 10 内部質保証

## 1. 学校現況票

(1) 養成施設名・設置者・本部の所在地・開講年度

養成施設名	松本医療福祉専門学校
設置者	学校法人未来学舎
本部の所在地	松本市渚2丁目8番5号
開講年度	平成10年度

(2) 課程・学科の構成

課程名	学科名	開講年度	修業年限	入学定員	収容定員
教育・社会 福祉専門 課程	介護福祉学科	平成10年度	2年	60名	120名
	合 計			60名	120名

(3) 教育課程 ※指定様式に記載の上、参照資料に綴ってください。

課程名	学科名	修了要件単位数	終了科目 (課目) の登録期間 および単位数	教職員組織	教員基準数	専任教員数	兼任教員数	学習環境等
教育・社会福祉専門課程 (昼間部)	介護福祉学科	2252 時間		・ 学校長 ・ 副校長 ・ 教務部長 ・ 学科長 ・ 各学科専任教員 ・ 非常勤講師 ・ 事務職員	4人	4人	8人 (うち 非常勤 7人)	

(4) 施設の概要

①校地面積

基準面積	総面積	専用面積	共有面積
1144.43 m <sup>2</sup>	1143.43 m <sup>2</sup> (うち借用 0 m <sup>2</sup> )	1144.43 m <sup>2</sup> (うち借用 0 m <sup>2</sup> )	

内訳

	総面積	専用	共用	備考
校舎敷地面積	1144.43 m <sup>2</sup>	1144.43 m <sup>2</sup>		
運動場	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>		
その他	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>		

②校舎面積

総面積	専用	共用	備考
1998.48 m <sup>2</sup>	1998.48 m <sup>2</sup>		

内訳

階	教室名称	数	面積	専用	共有	備考
1F	消火栓ポンプ室	1	9.5 m <sup>2</sup>	9.5 m <sup>2</sup>		
2F	視聴覚室 (200 教室)	1	134.4 m <sup>2</sup>	134.4 m <sup>2</sup>		
	保健室	1	8.0 m <sup>2</sup>	8.0 m <sup>2</sup>		
	相談室	1	8.0 m <sup>2</sup>	8.0 m <sup>2</sup>		
	事務室	1	147.6 m <sup>2</sup>	147.6 m <sup>2</sup>		
	応接室	1	17.0 m <sup>2</sup>	17.0 m <sup>2</sup>		
	女子更衣室 (職員用)	1	7.0 m <sup>2</sup>	7.0 m <sup>2</sup>		
	男子更衣室 (職員用)	1	3.7 m <sup>2</sup>	3.7 m <sup>2</sup>		
	女子職員便所	1	6.8 m <sup>2</sup>	6.8 m <sup>2</sup>		
	男子職員便所	1	7.4 m <sup>2</sup>	7.4 m <sup>2</sup>		
	湯沸室	1	4.1 m <sup>2</sup>	4.1 m <sup>2</sup>		
3F	基礎介護実習室	1	112.8 m <sup>2</sup>	112.8 m <sup>2</sup>		
	基礎介護実習室 (和室)	1	11.7 m <sup>2</sup>	11.7 m <sup>2</sup>		
	入浴実習室	1	90.5 m <sup>2</sup>	90.5 m <sup>2</sup>		
	家政実習室	1	104.3 m <sup>2</sup>	104.3 m <sup>2</sup>		
	入浴準備室	1	6.8 m <sup>2</sup>	6.8 m <sup>2</sup>		
	家政準備室	1	10.1 m <sup>2</sup>	10.1 m <sup>2</sup>		

	基礎介護準備室	1	7.9 m <sup>2</sup>	7.9 m <sup>2</sup>		
	女子更衣室	1	16.3 m <sup>2</sup>	16.3 m <sup>2</sup>		
	男子更衣室	1	6.2 m <sup>2</sup>	6.2 m <sup>2</sup>		
	男子便所	1	12.3 m <sup>2</sup>	12.3 m <sup>2</sup>		
	身障者便所	1	5.2 m <sup>2</sup>	5.2 m <sup>2</sup>		
4F	普通教室 (401 教室)	1	67.7 m <sup>2</sup>	67.7 m <sup>2</sup>		
	普通教室 (402 教室)	1	67.7 m <sup>2</sup>	67.7 m <sup>2</sup>		
	図書室	1	42.5 m <sup>2</sup>	42.5 m <sup>2</sup>		
	学生ホール	1	48.7 m <sup>2</sup>	48.7 m <sup>2</sup>		
	女子便所	1	19.4 m <sup>2</sup>	19.4 m <sup>2</sup>		
	自販機コーナー	1	5.7 m <sup>2</sup>	5.7 m <sup>2</sup>		
5F	普通教室 (501 教室)	1	67.7 m <sup>2</sup>	67.7 m <sup>2</sup>		
	普通教室 (502 教室)	1	67.7 m <sup>2</sup>	67.7 m <sup>2</sup>		
	女子便所	1	11.5 m <sup>2</sup>	11.5 m <sup>2</sup>		
	男子便所	1	8.5 m <sup>2</sup>	8.5 m <sup>2</sup>		
	倉庫	1	7.2 m <sup>2</sup>	7.2 m <sup>2</sup>		
	エレベーター機械室	1	11.6 m <sup>2</sup>	11.6 m <sup>2</sup>		
		1	827.0 m <sup>2</sup>	827.0 m <sup>2</sup>		

③ 図書館・図書資料など

閲覧座席数	10 席
図書館開館時間	8 時 00 分 ~ 18 時 00 分
図書冊数	1186 冊
学術雑誌冊数	11 冊
電子ジャーナル種数	0 種
視聴覚・資料等点数	0 点

④ その他 (附属施設など) なし

## 2. 評価項目別取り組み状況

### 基準1 教育理念

#### 基準1 教育理念

《概略の記述》 (500字以内)

1-1【必須】社会のニーズなどを踏まえた将来構想を持っていますか

○高等学校までの教育の基礎の上に、人の尊厳と思いやりの気持ちを重視し、広く地域社会に貢献し、社会の発展に寄与できる学生を育成することを目的としている。高等学校までに身に着けた基礎力にバラツキがあることへの対応が課題となっている。

1-2 理念・目的育成人材像は定められていますか

○対人支援全般に求められる想像力、創造力、関心力、表現力、行動力を育むことができるような授業展開を心掛けている。

○職場を変えることはあっても介護職から離職せず、これからの高齢化社会に貢献できるよう目指している。

1-3 育成人材像は専門分野に関連する業界などの人材ニーズに適合していますか

○行事等を通じて、人と接することが好き、排泄物処理等も我慢できる、チームワークが取れる、人の気持ちが考えられるなど、業界で働いていくのに必要な資質を育てることを重視している。

1-4 理念などの達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいますか

○学生の志向、学力等を考慮し年度ごとの方針決定し、日々の学生反応や授業成果を測りながら柔軟に対応している。

#### <参考資料>

- ・学則 (資料 NO. 1)、学則別表、科目対照表 (資料 NO. 2)、学生の手引き (資料 NO. 4)、ターム表 H27 と H28 (資料 NO. 5)、時間割 (資料 NO. 7)、教員データ (資料 NO. 8) オリエンテーションキャンプ (資料 NO. 28)、ウォークラリー (資料 NO. 30)、川掃除など (資料 NO. 31)

#### 基準1 教育理念

【必須】1-1 社会のニーズなどを踏まえた将来構想を持っていますか

《基本的な観点ごとの分析》 (500字以内)

1. 高等学校における教育の基礎の上に、専門的知識及び技術の教育を行っている。人との関わりが重要となる学科であるので、人の尊厳と思いやりの気持ちを重視し、広く地域社会に貢献し、社会の発展に寄与できる学生を育成することを目的としている。

2. 特に、心身の障害により生活の営みに支障がある方々の支援に必要な、理念・知識・技術を身につけ活用できる専門職としての介護福祉士育成を目指している。



3. 社会のニーズを踏まえるとともに、入学生の志向、学力等を十分考慮して2年間のカリキュラムを設定している。
4. 定期的に学生の反応や授業成果を見ながら、カリキュラム内容や授業方法を見直し、必要があれば変更を加え、所定の成果が上がるようにしている。
5. 行事等を通じて、仕事にやりがいを感じ、介護が好きだと言える人材の育成を第一にしている。人と接することが好き、排泄物処理も我慢できる、チームワークが取れる、人の気持ちが考えられるなど、業界で働いていくのに必要な資質を育てることを重視している。
5. 学ぶことの必要性を感じ、学ぶ能力の備わった人材を育てることが重要と考える。
- ＜特に優れた点＞
- 行事等を通じて、仕事にやりがいを感じ、介護が好きだと言える人材の育成を第一にしている。人と接することが好き、排泄物処理も我慢できる、チームワークが取れる、人の気持ちが考えられるなど、業界で働いていくのに必要な資質を育てることを重視している。
- ＜更なる向上を目指す点＞（改善を要する点）
- 最近の学生は打たれ弱いと感じており、介護が嫌いにならないようにという点に時間や注意をとられている。そのため学ぶ姿勢を育てる点には不足があると考え。 (特に知識を学ぶ点について)
- 《根拠となる資料・データ》
- ・学則（資料 NO. 1）、学則別表、科目対照表（資料 NO. 2）、学生の手引き（資料 NO. 4）、ターム表 H27 と H28（資料 NO. 5）、オリエンテーションキャンプ（資料 NO. 28）、ウォークラリー（資料 NO. 30）

## 基準1 教育理念

### 【選択1】1-2 理念・目的育人材像は定められていますか

#### 《基本的な観点ごとの分析》（500字以内）

1. 対人支援全般に求められる下記①～⑤の力を、学生がより豊かに育むことができるように授業展開を心掛け、職場を変えることはあっても介護職から離職せず、これからの高齢化社会に貢献できるよう目指している。
- ①想像力：体験や価値観の異なる他者の、人生や気持ちをイメージできる力
  - ②創造力：現状を受け入れるだけでなく、新たな方法や仕組みを考え生み出す力
  - ③関心力：人間及び社会の事象に対して、興味を抱き、関心を持つ力
  - ④表現力：言語的、非言語的に、自分の考えや気持ちを他者に伝えられる力
  - ⑤行動力：身につけた理念、知識、技術を活用して、実際の行動を起こす力
2. 知識技術だけでなく、役割意識を持って事にあたり、それにやりがいを感じてくれるような人間性豊かな人材の育成を目標としている。

3. オリエンテーションキャンプでは、歓迎を受けた1年生が次年度では2年生として自分たちが新1年を迎え入れるという自覚が芽生え伝統として代々引き継がれている。

<特に優れた点>

○就職先をやめたときに二度と介護職につかないケースがある。職場を変えることはあっても介護職から離職せず、これからの高齢化社会に貢献できるよう目指している。

<更なる向上を目指す点> (改善を要する点)

○介護職から離職しないことだけでなく、キャリアアップし、介護現場を引っ張っていきけるような人材育成にも力をいれていきたい。

《根拠となる資料・データ》

・学生の手引き (資料 NO. 4)、ターム表 (資料 NO. 5)

オリエンテーションキャンプ (資料 NO. 28)、ウォークラリー (資料 NO. 30)

川掃除など (資料 NO. 31)

#### 基準1 教育理念

【選択2】1-4 理念などの達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいますか

《基本的な観点ごとの分析》 (500字以内)

1. 日々の授業における学生の反応や動向を休み時間、昼休み時間などを利用して情報共有し、良い点はさらなる継続発展を図るように、そして課題点は速やかに話し合い、対処するようにしている。小回りの利く対応を心がけている。

2. 2学科 (介護福祉学科、医療秘書学科) の具体的な育成方針に違いはあるが、毎週火曜日に実施している教務会議において情報を共有し、良い点については学科を超えて参考にするようにしている。(学科固有の違った視点での物の見方が特に参考になると考える)

3. 教育は人であり、実践であるということをモットーに、多様な講師陣により、色々な意味で学生と教職員の距離が近くなるようにしている。

(個人情報等の気密性に十分注意を図りつつ、職員室への学生の出入りは原則自由で、またそれを奨励している。職員室への出入りマナー、職員とのコミュニケーションの取り方、職員と話している際の周囲への気配りなど、様々な実践機会がある。そして、その際に課題があれば個別または全体的に指導している。)

<特に優れた点>

○学生の授業反応や日々の動向などの情報を共有し、職員全体で臨機応変に課題改善に取り組んでいる。

<更なる向上を目指す点> (改善を要する点)

○教職員の個性を尊重した対応は認めているが、基本となる点については、職員全体で一つ一つコンセプトを確認し、共通の認識で学生を育てることを常に心がけたい。

《根拠となる資料・データ》

・時間割（資料 NO. 7）に掲示される毎週の教務会議、教員データ（資料 NO. 8）

## 基準2 学校運営

### 基準2 学校運営

《概略の記述》（500字以内）

2-1 理念に沿った運営方針を定めていますか

○法人の理事会や職員の全体会議を定期的に開催し、運営方針とその成果について検証している。

2-2 【必須】理念などを達成するための事業計画を定めていますか

○講義、演習、実習の学習だけでなく、色々な学校行事や経験により、知識、技術だけでなく人間的にも成長できるよう図っている。

2-3 人事・給与に関する制度を整備していますか

○就業規則に基づき経営者と職員間での労働条件の確認がきちんとなされている。

2-4 意思決定システムを整備していますか

○校内LANを使用した、サイボーズシステム（申請、決裁などのシステム）を使用し、意思決定を行っている。責任者が校外にいてもアクセスし速やかに決裁できるようになっている。

2-5 情報システム化に取組み、業務の効率化を図っていますか

○法人の立ち上がり情報処理系の学校であるため、法人全体として情報リテラシーについては特に力をいれており、業務の効率化は不足なく進んでいる。

2-6 国家試験に対する方針は明確になっていますか

○学生の知識力を担保するため、また、学生全体のモチベーションを保つためにも、平成28年度入学生から全員必須で国家試験を受験させる予定である。

<参考資料>

・学則別表（資料 NO. 2）、時間割（資料 NO. 7）、入学時\_基礎学力試験（資料 NO. 14）  
基礎学力試験結果（資料 NO. 15）、卒業試験分析（資料 NO. 16）、広報用データ（NO. 17）  
就職行事&活動（資料 NO. 33）、文化祭（資料 NO. 34）、就業規則の一部（資料 NO. 38）  
アクセスによる事務処理（NO. 49）

基準2 学校運営

【必須】2-2 理念などを達成するための事業計画を定めていますか

《基本的な観点ごとの分析》（500字以内）

1. 介護福祉士養成施設としてカリキュラム等の制約はあるが、教育課程編成委員会の外部委員の意見や実習巡回や実習担当者会議の場で収集した現場からの意見を積極的に取り入れている。
2. 介護福祉士養成施設としての指定科目以外に当校独自の科目を設定している。
3. 入学生の基礎学力、介護福祉士を取り巻く状況を考慮し、各授業科目の内容、実施時期について、前年の実施状況にとらわれることなく、教育課程編成委員会や学科で協議の上、可能な点は実情に合わせ変更するようにしている。
4. 就職先が多様化している今日においては、就職後のキャリアアップに対応できるよう、可能な限り色々な現場での実習が行えるようしている。（現在の学生は、経験がないと、イメージができず、対象を敬遠する場合が少なくないからである）
5. 講義、演習、実習の学習だけでなく、色々な学校行事や経験により、知識、技術だけでなく人間的にも成長できるよう考慮している。

＜特に優れた点＞

- 最近の学生は家庭での生活経験の範囲が狭いように感じる。学習、行事、その他学校生活全般を通じて、できる限り色々な経験をつませるようにしている。

＜更なる向上を目指す点＞（改善を要する点）

- ホームページでは公開しているが、それ以外の手段で学校の方針を学生、保護者、その他に対して情報公開することは不足している。

《根拠となる資料・データ》

- ・学則別表（資料 NO. 2）、就職行事&活動（資料 NO. 33）、文化祭（資料 NO. 34）

基準2 学校運営

【選択1】2-5 情報システム化に取り組み、業務の効率化を図っていますか

《基本的な観点ごとの分析》（500字以内）

1. 成績データはアクセスで作成されたシステムを使用し処理している。そのためデータを利用することや加工したりすることが比較的容易である。加工したデータを利用して、学生の分析や募集に役立てている。
2. 時間割や実習関係の書類等は、アクセスを利用し処理をしている。エクセル、ワードでは時間のかかる処理を比較的短時間でできる。また、専用ソフトと違い状況に合わせた変更が可能である。事務処理の効率化に特に役立っている。
3. 印刷環境やデータ処理環境が整っているため、授業準備等が効率的にできる。

＜特に優れた点＞

○法人の立ち上がり、情報処理系の学校であるので、校内のOA化及び職員全体の情報リテラシーが進んでいる。

＜更なる向上を目指す点＞（改善を要する点）

○学生指導に年々、時間と労力を費やすようになってきている。さらなる業務の効率化を図り、学生対応の時間を確保していきたい。

《根拠となる資料・データ》

・時間割（資料 NO. 7）、広報用データ（NO. 17）、アクセスによる事務処理（NO. 49）

## 基準2 学校運営

【選択2】2-6 国家試験に対する方針は明確になっていますか

《基本的な観点ごとの分析》（500字以内）

1. 県内の養成施設と意見交換をし、その結果をもとに平成28年度入学生から全員必須で国家試験を受験する予定である。

クラス全体のモチベーションを保つため色々な経験をさせること、また学生管理の必要性からバスをチャーターし、前泊して受験する予定である。

2. 平成27年度入学生まで実施している卒業試験対策授業や卒業試験結果の分析をベースに国家試験対策授業を計画している。1年次後期の時期から少しずつ導入していき、2年次最後の実習終了後の11月中旬からは集中して国家試験対策授業を導入する予定である。

特に卒業試験のデータをもとに学生の得意分野での得点確実性を上げることを重点とし、苦手分野の点数を全体に底上げすることを方針としている。

3. 年末年始休みによる空白に不安があるので、年末年始休みを短縮する予定である。

4. 入学時に実施している基礎学力試験と卒業試験との相関関係のデータ分析もしている。必要に応じて早期に個別対応して行く予定である。

＜特に優れた点＞

○長年継続して卒業試験対策の授業を導入してきているので、国家試験への方針等のベースが十分ある。

また、併設する医療秘書学科では検定取得がメインとなっているのでその教員のノウハウやモチベーションは介護福祉学科の良い手本になると考える。

＜更なる向上を目指す点＞（改善を要する点）

○過去には卒業試験の不合格学生に対する例外的対応もあった。そのため、一部学生や教員に卒業試験に対する意識の甘さもあったと考える。国家試験においては、そのようなことがないよう徹底させたい。

《根拠となる資料・データ》

- ・入学時\_基礎学力試験(資料 NO. 14)、基礎学力試験結果(資料 NO. 15)
- 卒業試験分析(資料 NO. 16)

### 基準3 教育内容

#### 基準3 教育内容

《概略の記述》 (500字以内)

3-1 【必須】 人権や尊厳などの価値に関する授業を行っていますか

- 必修科目に「人間の尊厳と自立」(30時間)がある。
- その他の科目(人間と社会、こころとからだのしくみ、介護)も、介護福祉の対象となる方の人権尊重、尊厳の保持をベースに授業展開している。

3-2 個別の心身状況に沿った介護を行うために、「介護過程」「生活支援技術」などの専門科目においてどのような授業を行っていますか

- 介護過程の授業では、学生各自がアセスメントから個別介護計画の立案までを行う。
- その後グループワークで利用者の心身機能等の状況などの意見交換をし、ケアの根拠を明らかにしている。
- 生活支援技術の授業においては、事例の目標に沿った介護演習の展開をしている。

3-3 専門職に必要な基礎的教養としての「人間と社会」、介護行為の根拠となる「こころとからだのしくみ」などの授業をどのように行っていますか

- 介護保険法等、関連する法制度が誕生した背景、実際に人々の人権や尊厳をどのように守っているのか、その限界も含めて学生に伝えている。
- 人間の心と身体のしくみを理解した上で、利用者の障害や老化が及ぼす影響を、ケアの根拠とつなげて考えられるようにしている。
- 様々な生活支援技術が心身機能に及ぼす効果を、資料や実験等から学べるようにしている。

3-4 さまざまな対象者に応じた個別的なコミュニケーションの方法を習得させるために、どのような授業を行っていますか

- コミュニケーションの基本は、他者との関わりであり、座学だけの学習では不十分であると考える。
- グループワークやロールプレイングを積極的に取り入れ、学生自身が体得することを心掛けている。

3-5 認知症のある人に対する介護のための基本的知識・技術を習得させるために、どのような授業を行っていますか

- 教科書の他、実際に認知症の方が登場し、ケアに携わる人たちの姿もとらえている視覚教材(NHKの番組や介護福祉士会制作のDVD)を使用している。

3-6 ターミナルケアに必要な知識・技術を習得させるために、どのような授業を行っていますか

- 本などを使い、死にゆく人や家族の思いを考えられるようにしている。
- 死を迎える場所の時代による変化を通じて現代社会の死を迎える場所に対する課題を学ぶ。そのうえで終末期のケアの方法を学べるようにしている。

3-7 医療的ケアに関する専門的な知識・技術を習得させるために、どのような授業を行っていますか

- 医行為であり、危険が伴う行為であることを理解したうえで、専門職との連携の必要性を伝えている。
- 各行為の根拠についてわかるように、長野県介護福祉士養成校で作ったDVDを使い座学や演習を行っている。
- 感染症や清潔不潔の概念等の理解に時間をかけている。

<参考資料>

- ・認知症の歴史を学びませんか/宮崎和加子-著 田邊順一-写真・文/中央法規（資料 NO. 41）、障害当事者を招いた授業の画像、学生の感想文（資料 NO. 42）  
介護過程のシラバス（資料 NO. 43）、事例による個別介護計画の立案の実際（学生の提出物）（資料 NO. 44）、コミュニケーションの授業（資料 NO. 25）  
コミュニケーションの授業（資料 NO. 46）
- ・平田オリザ（2012）『わかりあえないことから』、
- ・池上彰（2016）『情報を活かす力』（資料 NO. 49）

基準3 教育内容

【必須】3-1 人権や尊厳などの価値に関する授業を行っていますか

《基本的な観点ごとの分析》（500字以内）

1. 必修科目に「人間の尊厳と自立」（30時間）がある。
2. 必修科目「こころとからだのしくみ」では、認知症の人をはじめ、疾患や障害のある人の尊厳保持を基本に据えている。
3. 必修科目「生活支援技術」「コミュニケーション技術」では、尊厳を保持する介護方法、関わり方を追及している。
4. 必修科目「社会の理解」では、日本国憲法や障害者権利条約等を通して、人権について学習している。

<特に優れた点>

- 一昔前の老人病院や特別養護老人ホームの画像（一般に販売されている書籍に掲載）を教材に、人権擁護や尊厳保持の上でどこに問題があるか、学生に考えてもらっている。

○障害当事者（身体、知的、精神）を講師として招き、その授業を通して、人権や尊厳について学生に考えてもらっている。

<更なる向上を目指す点>（改善を要する点）

○普段の生活における人権や尊厳を考える機会をつくること。

○福祉分野以外における、人権侵害等の事例を扱うこと。

○人権が擁護されたり、尊厳が守られたりした事例の扱いを増やすこと。

○以上について、視聴覚教材、外部講師の活用を促進すること。

《根拠となる資料・データ》

- ・認知症の歴史を学びませんか/宮崎和加子-著 田邊順一-写真・文/中央法規（資料 NO. 41）、障害当事者を招いた授業の画像、学生の感想文（資料 NO. 42）

### 基準3 教育内容

【選択1】3-2 個別の心身状況に沿った介護を行うために、「介護過程」「生活支援技術」などの専門科目においてどのような授業を行っていますか

《基本的な観点ごとの分析》（500字以内）

1. 介護過程において、ICFの考え方を中心にその構造から個別介護計画立案までを学ぶ。また、認知症センター方式の書式等を紹介し、障害等に合わせたアセスメントの書式があることを伝えている。

2. 障害者総合支援法における事業所の実習前には、ICFを使った特別支援学級の事例を使い、発達課題に応じたケアプランの立案を伝えている。

3. 介護過程で使った事例の個別介護計画を使い、実習前の総合演習や生活支援技術において介護演習を展開している。

（介護過程の授業で、学生各自がアセスメントから個別介護計画の立案までを行い、その後グループワークで利用者の心身機能等の状況などの意見交換をし、ケアの根拠を明らかにしている。生活支援技術の授業において、事例の目標に沿った介護演習の展開をしている。）

<特に優れた点>

○事例を使い、アセスメントから個別介護計画の立案までを各自で行った後、グループワークで課題抽出の根拠から、個別介護計画立案の根拠等の意見交換している。

○グループワークを繰り返すことで、学生の理解を深めることができる。

<更なる向上を目指す点>（改善を要する点）

○利用者の障害や老化から、根拠をもって個別介護計画の立案をできる学生は多いが、発達課題や、環境因子、個人因子を根拠に個別介護計画の立案をできる学生が少ない。

○学生自身の社会経験不足が影響するのか、授業の工夫も必要なのか、模索しながら授業を進めている。



《根拠となる資料・データ》

・介護過程のシラバス（資料 NO. 43）

事例による個別介護計画の立案の実際（学生の提出物）（資料 NO. 44）

### 基準3 教育内容

【選択 2】3-4 さまざまな対象者に応じた個別的なコミュニケーションの方法を習得させるために、どのような授業を行っていますか

《基本的な観点ごとの分析》（500字以内）

1. 授業は「人間関係とコミュニケーション」と「コミュニケーション技術」の2科目連続で構成し、前者で座学、後者で座学に基づいた演習を行うことで関連性を持たせる。
2. ロールプレイングは、学生が広い視野で考える力を養うため、「介護」にしばられることなくあらゆる日常（時に非日常も）の場面を設定する。学生自身に教員になってもらい実際に授業をする、シナリオから自分たちで考え演劇をする、新聞記者になったつもりで記事を書く等。
3. 年に何回か他学年との合同授業を設定し、緊張感を持つことでロールプレイのマンネリ化を防ぐ。

＜特に優れた点＞

○学生の特徴に臨機応変に対応し内容を変更できる点。

○人前で話すことも憚られた学生が、2年間の授業を通して「演じたい」と思うように変化していく点。

＜更なる向上を目指す点＞（改善を要する点）

○学生にアンケート調査をし、成果の実際を探る。

○実践内容と成果を学会等で発表し、他の教育現場でも通用するのかを検証する。

《根拠となる資料・データ》

・平田オリザ（2012）『わかりあえないことから』

池上彰（2016）『情報を活かす力』（資料 NO. 49）、コミュニケーションの授業（資料 NO. 25）、コミュニケーションの授業（資料 NO. 46）

### 基準4 教育方法

#### 基準4 教育方法

《概略の記述》（500字以内）

4-1【必須】養成校の卒業時到達目標に沿った知識・技術の修得ができ、学修成果を確認できる体制をどのように作っていますか

○最終実習終了後に、介護過程の展開を事例研究ので、まとめその発表会を行うことと、養成施設協会の卒業試験の2つを柱として学修成果を確認している。

4-2 養成校の卒業時到達目標を達成するためにどのようなカリキュラムを作り、それをどのように授業で行っていますか

- 基本となる「介護の基本」を1年次前期に集中させている。
- 実習は特に重視し、規定時間の1.4倍の時間を設定するとともに、特養、老健以外のデイや訪問、障害者施設など多様な施設での実習を経験し、視野を広げられるようにしている。

4-3 それぞれの教育科目において、また、教育課程全体として、学生のアクティブラーニングはどのように行われていますか

- 毎回の実習前後でグループ学習を導入し、説得力のある発言の仕方や、他者の意見をどのように自分の中に生かしていくかなど一緒に考え、検討結果をまとめて行く過程を実践する機会を作っている。

4-4 関係施設の職員や介護関係（企業を含む）者や市民など、学外関係者との交流などを授業にどのように取り入れていますか。また、実習以外のインターンシップなど、特別の工夫を行っていますか

- 施設の職員等（卒業生など）にスポット的に講義を依頼し、現場の風を感じ、介護について考える機会を作るようにしている。

4-5 養成校の教育方法の向上を目指すために、特色ある独自の取り組みとして、どのような事を行なっていますか

- 職員からの発案もあるが、施設から依頼を受け介護職員初任者研修修了者等に向けての介護技術講習の講師を引き受ける、ユークキャン主催の実務者研修のスクーリングを引き受ける、信濃毎日新聞主催の「さわやか介護セミナー」の講師を引き受けるなど、色々な場面での講師を体験して教育方法の向上に役立っている。

#### <参考資料>

- ・学則別表、科目対照表(資料 NO. 2)、時間割\_H28(資料 NO. 7)  
基礎学力試験結果(資料 NO. 15)卒業試験分析(資料 NO. 16)、  
教育課程編成委員会等の規定(資料 NO. 18)、教育課程編成委員会名簿(資料 NO. 20)、  
介護実習(資料 NO. 26)、卒業生等による授業(資料 NO. 32)、  
コミュニケーション技術の授業(資料 NO. 46)、学生による15分間授業(資料 NO. 52)

#### 基準4 教育方法

【必須】4-1 養成校の卒業時到達目標に沿った知識・技術の修得ができ、学修成果を確認できる体制をどのように作っていますか

《基本的な観点ごとの分析》(500字以内)

1. 毎回の実習終了後に報告会を実施している。また最終実習終了後に、最終実習を対象とし

た事例研究を行いその発表会、意見交換会により介護実践の総まとめの評価を実施している。

2. 知識面については、養成施設協会の卒業試験を使用し、それらの対策授業、模試などを通して、2年間学んだ介護知識の総まとめの機会としている。学習意欲の不足などがある場合には、補講等を実施するようにしている。

<特に優れた点>

- 介護実習とそのまとめを介護実践評価の中心とし、知識面について養成施設協会でも共通実施している卒業試験を利用して総合評価している。

<更なる向上を目指す点> (改善を要する点)

- 一年終了時に国家試験の模擬試験を行うなどして、二年次での最終評価へとつながるモチベーションの向上と国家試験合格につながる基礎力をつける。不足があれば一年次春休みを利用して補うなどする。

《根拠となる資料・データ》

- ・卒業試験分析(資料 NO. 16)、介護実習(資料 NO. 26)

#### 基準 4 教育方法

【選択 1】 4-2 養成校の卒業時到達目標を達成するためにどのようなカリキュラムを作り、それをどのように授業で行っていますか

《基本的な観点ごとの分析》 (500 字以内)

1. 毎年の教育課程編成委員会での話し合いをもとに、学生の基礎学力等を考慮の上、カリキュラムを編成している。
2. 1 年次前期に「介護の基本」、全 180 時間のうち 165 時間を設定している。
3. 1 年前期の最初の実習前に、1 日かけて介護施設でのボランティア(清掃など)を行うなどして、早いうちに十分な基礎力錬成とモチベーションを上げることに留意している。
4. 人間と社会に関する選択科目において、情報化時代に対応するパソコン授業、コミュニケーション演習、記録等の際に重要な表現力、在宅支援の際に必要な家政学(衣食住)など、基礎となるべき考え方や力が育つようにしている。
5. 実習については特に「じっくり時間をかけて育てること」を重視し、規定時間の 1.4 倍の時間を設定している。

<特に優れた点>

- 実習については特に「じっくり時間をかけて育てること」を重視し、規定時間の 1.4 倍の時間を設定するとともに、特養、老健以外のデイや訪問、障害者施設など多様な施設での実習を経験し、視野を広げられるようにしている。

＜更なる向上を目指す点＞（改善を要する点）

○医学的知識や介護制度に対する知識の錬成が不足している。（毎年、学生が苦手とする分野である。）

《根拠となる資料・データ》

- ・教育課程編成委員会等の規定(資料 NO. 18)、教育課程編成委員会名簿(資料 NO. 20)、学則別表、科目対照表(資料 NO. 2)、時間割\_H28(資料 NO. 7)、基礎学力試験結果(資料 NO. 15)

#### 基準 4 教育方法

【選択 2】 4-3 それぞれの教育科目において、また、教育課程全体として、学生のアクティブラーニングはどのように行われていますか

1. 実習前後でグループ学習を導入し、根拠を持った発言の仕方や、他者の意見をどのように自分の中に生かしていくかなどを考えていく方法について、演習中心に実力をつけてもらうようしている。
2. 近年、若干のコミュニケーション能力不足を感じる。「人間関係とコミュニケーション」を「コミュニケーション技術」の時間をセットにして3時間続きとし、教員も二人投入して、要点を講義し、直ちに演習で確認できるような体制をとっている。
3. 卒業生をスポット講師に招いて、現場での介護技術の紹介とその演習を取り入れている。学校での教科書や学校での介護技術の授業は、現場での基礎となるものであり、現場で行われるものは、環境や制約等に合わせてアレンジが行われることを理解し、その応用過程についても考えられるようしている。
4. 情報収集、説明力、説得力などの動的錬成をねらいとし、学生各自でテーマを設定し学生が模擬授業（説明中心）を行うなどしている。

＜特に優れた点＞

○講義だけでなく、演習によって経験を重ねることにより実力が錬成されると考えるので、その点を特に重視して授業に取り入れるようしている。

＜更なる向上を目指す点＞（改善を要する点）

○事前に学習のねらいを十分説明することについては、若干不足しているように考えるので、その点を今後の課題としていきたい。

《根拠となる資料・データ》

- ・介護実習(資料 NO. 26)、卒業生等による授業(資料 NO. 32)、コミュニケーション技術の授業(資料 NO. 46)、学生による15分間授業(資料 NO. 52)

## 基準5 教員の資質向上

### 基準5 教員の資質向上

《概略の記述》 (500字以内)

5-1 【必須】 教員の外部研修・学会参加の機会をどのように確保・サポートしていますか

○外部研修、学会参加等は、その必要度を検討し、必要であればスケジュール面と金銭面を中心に学校だけでなく、法人としても可能な限りのサポートを行っている。

5-2 各教員の担当・適性に応じた授業技術向上をどのようにサポートしていますか

○科目によって、ベテラン教員が補助に回り、キャリアの浅い教員に主導権を持たせ授業技術の向上を図っている。

5-3 各教員の担当・適性に応じたクラス運営・学生指導のスキル・質向上をどのようにサポートしていますか

○担任、副担任制度だけでなく、学科長、副校長、校長、事務職員、理事長など学校関係者全体で学生のフォロー体制をとっている。

○担任以外がフォローした場合は、その状況を必ず担任にフィードバックし、教務会で報告して、情報の共有化を図り、他者の方法が参考になり、お互いのスキル、質の向上に役立つようしている。

5-4 教員の資質向上の為に相互にサポートするチーム体制をどのように作っていますか

○H28年度入学生からは国家試験受験を全員必須とするが、卒業試験対策授業をベースとし、それを見越して、卒業試験対策授業は担当時期を分担するなどして、複数教員が担当し相互サポートを図っている。

○試験対策授業に実績のある医療秘書学科の職員からの情報も週1回行う教務会の席で提供してもらうようにしている。逆に介護福祉学科の実習巡回、指導の様子も情報共有し、医療秘書学科の実習時の参考になっている。

5-5 各教員の資質やその向上をどのように把握していますか

○就職内定状況、出欠席・遅刻状況、教室・実習室の整理整頓状況など、目に見える状況を把握の指針としている。

5-6 教員の資質向上のために、特色ある独自の取組みとして、どのようなことを行っていますか

○毎年、同じ内容の授業にならないよう授業準備を十分することを奨励し、他者の準備状況も目に見えるようにしている。

○学校行事の企画担当を学年ごとで行う体制をとっている。2年間ですべての行事を担当することにより経験を積むことができる。介護福祉学科と医療秘書学科の教員が協力して担当するため、お互いの異なる観点での物の見方を参考にすることができる。

<参考資料>

- ・時間割\_H28(資料 NO. 7)、教員データ(資料 NO. 8)、教員研修実績表(資料 NO. 9)、介護福祉学会発表予定(資料 NO. 51)、出張報告書(資料 NO. 52)、

基準5 教員の資質向上

【必須】5-1 教員の外部研修・学会参加の機会をどのように確保・サポートしていますか

《基本的な観点ごとの分析》(500字以内)

1. 年度当初には予定が確定していない研修会があるが、その必要度を検討し、平日であっても参加による効果が高いと判断される場合においては、その日に予定されていた授業を他の日の空き時間に振り替えるなど小回りの利く対応をしている。
2. 土日の休日に研修会がある場合には、振替休日を利用したり、休日出勤の取り扱いにして手当を支給するなど、学校や法人として可能な限りのサポートをしている。

<特に優れた点>

○学科が少ない分、直前でのやりくりも可能である。学生や関係各所の上で、臨機応変に対応している。

<更なる向上を目指す点>(改善を要する点)

○教員間の授業見学や、内部研修による教員の技術力やモチベーションの向上を図る時間を業務の効率化などにより確保していきたい。

《根拠となる資料・データ》

- ・教員データ(資料 NO. 8)、・教員研修実績表(資料 NO. 9)、  
介護福祉学会発表予定(資料 NO. 51)、出張報告書(資料 NO. 52)

基準5 教員の資質向上

【選択1】5-3 各教員の担当・適性に応じたクラス運営・学生指導のスキル・質向上をどのようにサポートしていますか

《基本的な観点ごとの分析》(500字以内)

1. 担任、副担任制度だけでなく、学科長、副校長、校長、事務職員、理事長など学校関係者全体で学生のフォロー体制をとっている。年々手のかかる学生が増えているので、担任だけに負荷がかからないようにしている。他校の例では担任のなり手が少ないなどの事例もあるように聞くこともあるが、当校ではそのような心配は少ない。
2. カウンセラーによるカウンセリングも試したこともあるが、力量が足りない場合には、逆に退学に結びついてしまうケースもあった。基本としては担任が中心となり必要に応じては学校長(医師)のアドバイスを受け、医療機関の協力を得るなどしている。
3. 担任以外がフォローした場合は、その状況を必ず担任にフィードバックし、教務会で報告して、学生情報の共有化を図るとともに、互いの方法を参照してスキルや質の向上に役立つよう考えている。

<特に優れた点>

○学生情報の共有化については、文書や情報システム中心ではなく、タイムリーにそして口頭で行うようしている。不明点については直ちに質問することができる。微妙な点についても伝えることが可能であると考え。

<更なる向上を目指す点> (改善を要する点)

○結果を残すことも重要であると考え。学生情報の共有化を文書に残すことにも注意を払っていきたい。

《根拠となる資料・データ》

・時間割\_H28(資料 NO. 7)、教員データ(資料 NO. 8)

#### 基準5 教員の資質向上

【選択2】5-5 各教員の資質やその向上をどのように把握していますか

《基本的な観点ごとの分析》 (500字以内)

1. 出席状況、期末試験の成績、就職動向、卒業試験の成績など可能な限り数値化できるデータにより概要を把握するようにしている。
2. 特に担任の資質やその技量向上結果は2年次の就職月別内定率(全体的な指導や個別指導が十分でない場合は、2年次12月末の就職内定率に現れる)、学生の欠席、遅刻の状況(個別指導や全体への働きかけが不十分な場合は、欠席数、遅刻数の減少が見られずに増加する場合もある)、また、教室内やロッカー等の整理整頓状況にも表れてくる。

<特に優れた点>

○目に見える点を重視して把握し、その情報の共有化を図るなどして、必要に応じ面談を行うなどしている。

<更なる向上を目指す点> (改善を要する点)

○誤解や勘違いが生まれることや、気づかずに対応が遅れる場合もある。結果を複数人で評価し、分析することも必要であると考え。

《根拠となる資料・データ》

・学習成果報告書(資料 NO. 53)

#### 基準6 やりがい・キャリア形成等を醸成する教育

基準6 やりがい・キャリア形成等を醸成する教育

《概略の記述》 (500字以内)

- 6-1【必須】キャリア形成の仕組みを理解させるため、どのような取り組みをしていますか
- 人間には他者から認められたい、自分の能力を引出したいという欲求があると言われ

ている。役割意識（職業人として、家庭人として、社会構成人として・・・）と生きがいに通じるよう、学校生活の様々な場面の中でそれらの欲求を考慮した取り組みを実践している。

6-2 介護福祉士として働く意欲や、職業倫理・社会的使命についての個別面談をどのように行っていますか

○実習前指導の個別面談の際や、就職試験の日程が決まった際に、個別に面接練習のための面談をしている。職業倫理、社会的使命、仕事でのやりがいなどに関するものを就職試験の面接質問例として取り上げ、認識が不足している点については、一緒に考え、その場で指導するようにしている。

6-3 就職への自覚や意欲を持たせる指導をどのように行っていますか

○今の学生は自信不足や不安のため就活のスタートを中々切れないでいることが多い。しかし、就活をスタートできれば、自覚や意欲が育っていくことが多い。面倒見過ぎの感もあるが、就職活動のスタートが切れるまでは、電話の掛け方など細部にわたって、職員全員で支援している。そしてスタート後の報連相を密にとるよう指導し、必要であれば軌道修正のアドバイスをしている。

6-4 介護福祉を担う専門職の土台となる、社会人としての教養・一般常識・マナーなどをどのように伝えていますか

○就職実務の授業の中で全体に対し、マナー、教養、一般常識についての基本的な指導をするだけでなく、学校生活の様々な場面でその都度職員全体（教員、事務職員）で個別指導するようにもしている。

6-5 介護福祉士のやりがい・キャリア形成等を醸成する教育のために、特色ある独自の取り組みとして、どのようなことを行なっていますか

○個々の学生の能力、モチベーションを考慮することが、介護福祉士のやりがい、キャリア形成を醸成する際に重要である。就職受験先が決まったときが、それらについて考えてもらうのに良い機会と考える。学生がそれらに考えが及ぶまで、繰り返し個別面接練習の機会を設け、それらに関することを面接の質問例の中心に据えることにより醸成を促すようしている。

#### <参考資料>

- ・ターム表\_H27、ターム表\_H28(資料 NO. 5)、オリエンテーションキャンプ(資料 NO. 28)、研修旅行(資料 NO. 29)、川掃除など(資料 NO. 31)、卒業生等による授業(資料 NO. 32)、就職行事&活動(資料 NO. 33)、・文化祭(資料 NO. 34)
- 一卒業生来校、在校生が教務室へ入室(資料 NO. 36)、卒業生 2 名以上就職先施設(資料 NO. 39)、一般教養&マナー授業(資料 NO. 47)



基準6 やりがい・キャリア形成等を醸成する教育

【必須】6-1 キャリア形成の仕組みを理解させるため、どのような取り組みをしていますか

《基本的な観点ごとの分析》（500字以内）

1. 人間には他者から認められたい、自分の能力を引出したいという欲求があると言われている。そして、それが仕事でのやりがいにつながっていくと考える。当校入学生の志望動機でも、小中学校の課外授業で高齢者施設に行き、その際に感謝されたからというものが多い。学生が色々な場面で受容されること、褒められること、感謝されることはキャリア形成の一步であると考え。授業の中でそれらを取り入れるとともに、各種行事を設定し、それらの中でも取り入れるようにしている。
2. キャリア形成の過程において、職業人・家庭人・社会構成人としての役割認識が必要であると考え。各種行事の中でそれを体験するだけでなく、地域交流の中でも、それを体験できるよう、学生全員で地域の川掃除や福祉広場の行事へ参加している。

＜特に優れた点＞

- いろいろな場面で受容され、褒められることはキャリア形成の一步であると考え。そのコンセプトで授業や各種行事の中で、職員全員が学生全体や学生個々に対応できるようにしている。

＜更なる向上を目指す点＞（改善を要する点）

- 生きがいや、やりがいを感じるためには役割認識が必要であるという学校のねらいを職員全体が、その都度学生に、もっと伝えていくことも重要であると考え。

《根拠となる資料・データ》

- ・オリエンテーションキャンプ(資料 NO. 28)、川掃除など(資料 NO. 31)、文化祭(資料 NO. 34)

基準6 やりがい・キャリア形成等を醸成する教育

【選択1】6-3 就職への自覚や意欲を持たせる指導をどのように行っていますか

《基本的な観点ごとの分析》（500字以内）

1. 2年次通年の就職実務の授業や就職関連行事
2. 就職意向調査をもとにした個人面談
3. 各種介護現場で働く卒業生（当該年度の4月に就職した学生）や、有料老人ホームの求人担当者などに来校を依頼し、就職実務の授業の中で、仕事の内容などを話してもらっている。
4. 就職希望先の見学を推奨している。必要があれば学校で橋渡し等の支援、職員による個別相談を実施している。職員側から学生に声掛けして指導することもあるが、学生側から個別に名指しで相談依頼があり指導するケースもある。（この場合は恐らく学生が相性等の理由により相談しやすい職員であろうと思われるケースが多い）

5. 就職試験時における筆記試験、作文、面接の対応は、就職実務の授業内で基本的事項を指導しているが、最終的には自分のケースになってから、やっと・・・という感じである。その機会を利用して個別指導している。

6. 就職活動時の報連相を学生、職員とも徹底し、職員間の情報共有を図り学生の就職活動に支障がないよう考慮している。

<特に優れた点>

○学生は、色々な不安や迷いがあるようで就活のスタートを切るのが遅い。面倒見すぎの感はあるが、学生個々に対して可能な限りの支援をして、スタートが切れるよう背中を押している。自動であれ他動であれスタートが切れれば就職に対する自覚や意欲が育っていくと考える。

<更なる向上を目指す点> (改善を要する点)

○本来であれば自分で就活のスタートが切れることが大切である。そうなれるような工夫をもっとしていきたい。

《根拠となる資料・データ》

- ・就職行事&活動(資料 NO. 33)、卒業生等による授業(資料 NO. 32)
- 卒業生 2 名以上就職先施設(資料 NO. 39)

基準 6 やりがい・キャリア形成等を醸成する教育

【選択 2】 6-4 介護福祉を担う専門職の土台となる、社会人としての教養・一般常識・マナーなどをどのように伝えていますか

《基本的な観点ごとの分析》 (500 字以内)

1. 就職実務の授業の中で全体に対し、マナー、教養、一般常識についての全体的、基本的な指導はするが、主は学校生活の様々な場面でその都度個別指導している。

2. それらのケースを事例紹介することで学生や職員に対して情報のフィードバックをしている。

3. 個別指導は、他の授業、行事、教務室への出入りなど様々な場面で実践可能と考える。そこで、学生個々と教職員全員(学科、職種を超えて)が個別に関わる機会を増やすようにしている。

4. 情報処理や表現技法や人間と社会の他科目などの授業でも社会人としての教養、一般常識、マナーなどを授業の題材として取り入れるようにしている。

<特に優れた点>

○学校生活の具体的な場面を通じて、できる限りタイムリー、そして個々に職員全体で指導している。

<更なる向上を目指す点> (改善を要する点)

○介護系の科目や実習指導の中でも、社会人としての教養、一般常識、マナーなどを、授業の題材として積極的に取り上げていきたい。

《根拠となる資料・データ》

- ・ターム表\_H27、ターム表\_H28(資料 NO. 5)、研修旅行(資料 NO. 29)、  
一卒業生来校、在校生が教務室へ入室(資料 NO. 36)、般教養&マナー授業(資料 NO. 47)

## 基準7 実習

### 基準7 実習

《概略の記述》 (500字以内)

7-1 【必須】 実習に向けての事前準備と実習後のフィードバックをどのように行っていますか

- 実習前指導時に時間をかけて個人面談を実施している。また、実習終了時には、毎回、個人発表の場を設けて、他学年にも聞いてもらっている。

7-2 実習巡回時に実習指導者と十分なカンファレンスの時間を取るために、どのような働きかけをしていますか

- 実習先指導者と相談し、実習指導者と学生だけでなく当校の巡回担当者（必要があれば巡回のスケジュールを調整している）も参加できるカンファレンスの時間を設けてもらえるようにしている。

7-3 本人の適性に基づいた実習が行えるようにするためにどのような体制をとっていますか

- 提携先実習施設一覧から学生の実習希望先を調査後、介護福祉学科教員全員により実習先調整会議を行い、様々な観点から総合的に実習先を決定している。

7-4 施設や居宅など多様な暮らしの特性を学ばせるためにどのような実習体制をとっていますか

- 実習 I では、1年次7月に特養または老健、1年次2月にデイサービスと訪問、2年次6月には障害者施設などで実習し、多様な経験を積めるようにしている。

7-5 実習先の実習指導者との連絡調整会や研究会などをどのような方法、頻度で実施していますか

- 毎年5月の平日に半日ずつかけて実習担当者会議を開いている。午前中は特養、老健、午後はデイサービス、社協、障害者施設などに分けて実施している。会議に集中できるよう、医療秘書学科や社会人講座の授業も休みにし、全職員参加で実習担当者会議を運営している。

7-6 実習先との連携のために、特色ある独自の取組みとしてどのようなことを行なっていますか

- 施設見学等の経験のない学生もいるため、1年次7月の初めての实習の前に1日、老健または特養での掃除等のボランティア日を設けている。
- 夏祭りなどの施設行事への学生ボランティア派遣には可能な限り協力するようにしている。

<参考資料>

- ・ 時間割\_H28(資料 NO. 7)、介護実習(資料 NO. 26)、実習前指導(資料 NO. 45)、  
実習巡回記録(資料 NO. 56)、実習担当者会議(資料 NO. 27)  
実習担当者会議議事録(資料 NO. 55)、実習担当者会議次第(午前、午後)(資料 NO. 57)

基準7 実習

【必須】7-1 実習に向けての事前準備と実習後のフィードバックをどのように行っていますか

《基本的な観点ごとの分析》(500字以内)

1. 実習先、巡回担当者決定後に実習先宛てに学生が書いた個人票を、巡回担当者がチェックし、注意点等を指導し実習先に送付している。
2. 実習前の2～3週間前には放課後等を利用し、実習先へ挨拶と打ち合わせに行き、その内容に応じた準備ができるよう指導している。
3. 実習直前に実習巡回担当者による個別面談を実施し、準備不足等があれば介護総合演習の時間内に補うよう指導している。
4. 実習期間中盤の土曜日(実習が休みの日)を帰校日として設定している。学生は学校へ登校し、途中経過の報告や、グループワークを実施している。他学生との進捗状況の比較により不安の軽減やモチベーションの向上を主目的としている。
5. 実習終了後は、実習のまとめをするとともに、その内容について個々に発表させている。その際には時間を調整して、他学年の学生が発表を見られるようにしている。

<特に優れた点>

- 帰校日の機会に、他学生の状況に触発されることも多い。
- 実習のまとめを他学年に聞いてもらっていること。  
(1年生が2年生の発表を聞くことにより、日頃校内では見たり聞いたりすることのない先輩の姿に触発され、良い手本となっている)

<更なる向上を目指す点>(改善を要する点)

- 年々、指導が難しい学生や手間のかかる学生が増えている。どのような準備をさせれば、実習を通じて、それらの学生が成長し将来現場で十分役立つ人材になることができるか、さらなる情報収集と研究を重ねたい。

《根拠となる資料・データ》

- ・ 時間割\_H28(資料 NO. 7)、介護実習(資料 NO. 26)、実習前指導(資料 NO. 45)

## 基準7 実習

【選択1】7-3 本人の適性に基づいた実習が行えるようにするために、どのような体制をとっていますか

《基本的な観点ごとの分析》（500字以内）

1. 希望調査後、介護福祉学科教員全員の調整会議を経て実習先を決定している。  
（4人の巡回担当者がいずれかの実習にあたるようにしている。また、本人の能力、性格、実習生と指導者との相性なども考慮して決定している）
2. 実習の際に手がかかったり、ある程度の考慮が必要（特にコミュニケーション能力や若干の学習障害がある）となることが予想される学生については、教員間で十分な話し合いの時間を設けたり、特定の施設に相談、依頼するなどして学生が実習を乗り切れるよう考慮している。実習を全うすることにより成長するケースが多い。
3. 指導者や施設と学生との間に意思の疎通が不足して誤解が生まれたり、アンマッチが起こる場合があるが、その際には学生が挫折しないよう、インターバル期間を設けたり（途中で休ませて、その分は期間を延長するなど）、必要に応じては実習先を変更するなどしている。
4. 実習直前には可能な限りの時間をかけ、必ず、巡回担当の教員と個別面談を行っている。

＜特に優れた点＞

○複数回の実習を通じて、段階的に成長できるよう、そして、個々の学習能力、性格等にあった指導が受けられるよう、実習先を検討している。

＜更なる向上を目指す点＞（改善を要する点）

○実習先との連携をさらに進め、就職に適した施設を実習先として選択するなどして、就職後の学生が離職せずすむような体制づくりへとつながっていくことを検討していきたい。

《根拠となる資料・データ》

・実習前指導（資料NO.45）、実習巡回記録（資料NO.56）

## 基準7 実習

【選択2】7-5 実習先の実習指導者との連絡調整会や研究会などをどのような方法、頻度で実施していますか

《基本的な観点ごとの分析》（500字以内）

1. 毎年5月に午前中は特養、老健、そして午後はデイサービス、社協、障害者施設などに分け半日ずつかけて実習担当者会議を開いている。内容は、学校の指導方針、方法などの概要説明、実習記録の説明、2、3月に1年生が実習した内容について、学生から3名選出して、実習で学んだこと、感じたこと、悩んだことなどを発表し、学生の生の声

を聞いてもらっている。また、その後、当校教員の司会と記録のもと、会場を4か所に分け、テーマを決め、話し合いの場を設けている。

2. 実習担当者等からの依頼があれば、施設に出かけて行って研修会や研究会を行うこともある。

<特に優れた点>

○実習担当者会議の場を利用して、学生の発表を聞いてもらい、職員と実習担当者で発表のテーマに対する話し合いの場を設けるなどして、現在の学生への理解度を深めてもらうようにしている。それが実習指導や、就職後の指導に役立ててもらえ、学生に還元されると考える。

<更なる向上を目指す点> (改善を要する点)

○必ずしも一同に会する必要はないと考えるが、実習担当者との話し合いや意見交流等の機会をさらに増やしていきたい。

《根拠となる資料・データ》

- ・実習担当者会議(資料 NO. 27)、実習担当者会議議事録(資料 NO. 55)
- 実習担当者会議次第(午前、午後)(資料 NO. 57)

## 基準8 リカレント教育体制

基準8 リカレント教育体制

《概略の記述》 (500字以内)

8-1【必須】介護福祉士としての資質向上の責務や継続的な学習の必要性を、在学中にどのように指導していますか

○卒業生から実体験、実感をもとに就職後学習の必要性を、直接在校生に話してもらう機会を設けている。

8-2 卒業後の就労意欲の維持向上(離職防止)のために、どのような取り組みを行っていますか

○十分な経験を重ね、見る目が肥えていけば自分の意志で転職するなどして、よりよい職場選択が可能である。初めての就職先を決定する際には、選択眼はまだ備わっていないと考える。卒業生が継続して多く就職している現場の見学などを推薦し短期での離職がないようにしている。

8-3 卒業生の知識・技術の向上のためにどのような取り組みを行っていますか

○勤務が休みの時に来校した際や、文化祭に来校したときを利用し情報提供しているが、今後は学校で研修会や講演会を実施し参加できるような体制を構築していきたい。

8-4 卒業後の制度・施策、業界の動向に関する最新情報を提供するために、どのような取り組みを行っていますか

○ホームページを利用した情報提供は行っているが、同窓会、文化祭、研修会などの機会を増やし、その機会を利用した定期的な情報発信を行っていききたい。

8-5 卒業生と在学生の協力体制をどのように築いていますか。

○当校卒業生1名を常勤職員に採用している。また、実務経験豊富な卒業生に非常勤講師を依頼している。学生目線に近いところからの学生評価、学校評価を情報収集し、それらの情報を学生指導やカリキュラムの検討に役立て学生への還元を図っている。

8-6 介護福祉士の専門的力量的向上のために、特色ある独自の取組みとして、どのようなことを行なっていますか

○現場職員（卒業生中心）の力を借り、生活支援技術の時間などに講師を依頼し現場で行われている介護技術の研修や、情報の提供をしてもらっている。

8-7 資格取得後のキャリア形成について、どのように授業に取入れていますか

○学習習慣と学習能力を身につけることによるキャリアアップを考えているが、まだまだ成果が十分ではない。

#### <参考資料>

・卒業生来校、在校生が教務室へ入室(資料 NO. 36)

卒業生2名以上就職先施設(資料 NO. 39) 卒業生等による授業(資料 NO. 32)

文化祭(資料 NO. 34)

#### 基準8 リカレント教育体制

【必須】8-1 介護福祉士としての資質向上の責務や継続的な学習の必要性を、在学中にどのように指導していますか

《基本的な観点ごとの分析》(500字以内)

1. 2年次2月の卒業試験終了後に、介護福祉士の登録手続きの説明と長野県介護福祉士会に勤務する当校卒業生の来校を依頼し、介護福祉士会の活動内容、入会のメリット、介護福祉士会主催の各種研修などを説明してもらっている。

2. 入所施設就職者は平日が休みであることが多い。そのため卒業生が平日に来校し、半日から1日教務室で過ごしていくことがある。

その際に就職実務などの授業がある場合には卒業生に授業参加をお願いし職場での様子(具体的業務の様子、職場でのやりがい、苦勞している点、職場内研修の話など)を聞き、質疑応答する中で在校生のモチベーションや資質の向上を図っている。

3. 就職先決定の過程において、面倒なことを避けたがる学生がいる。そのような学生はよく考えずに就職先を決め、それが離職につながることもある。教職員全員がその都度こまめに相談に乗り、就職活動に入れるよう背中を押している。

<特に優れた点>

○その年に卒業した学生は比較的、卒業年度に学校を訪ねてくれることが多い。

その際には2年の就職実務、1年のホームルームなどの授業参加を依頼し、職場での継続的な学習の必要性を話してもらっている。

<更なる向上を目指す点> (改善を要する点)

○卒業生の介護福祉士会への入会を勧めてはいるが、まだまだ加入する学生の割合は低い。介護福祉士会の研修に自発的に参加することは、継続的な学習や資質向上の入り口になると考える。一部経費補助なども考慮し、入会を勧めていきたい。

《根拠となる資料・データ》

・卒業生来校、在校生が教務室へ入室(資料 NO. 36)

#### 基準8 リカレント教育体制

【選択1】8-2 卒業後の就労意欲の維持向上(離職防止)のために、どのような取り組みを行っていますか

《基本的な観点ごとの分析》(500字以内)

1. 卒業後の初めての就職先がどこになるかが、その後のキャリアアップに影響する。労働環境や人間関係、研修制度等に問題があるような施設に就職した場合には、離職後の再就職の場に、介護職を選ばない場合を多々見受けられる。

そこで、就職指導の際には、できる限り、卒業生が多く就職し、特にキャリアアップ方針、教育方針がしっかりしていて、その結果として離職の少ない職場をピックアップして就職活動生に勧めるようにしている。ただし必ず見学やボランティアにより自分の目や耳で情報を得るよう指導している。

毎年の就職者がいなくても5年前くらいに就職した学生が頑張っている施設は、その学生がちょうど指導者の立場になっていて、就職後、目をかけて育ててもらえる場合が多い。

2. 卒業生が平日休みの日には学校に顔を出すことがあるため、2年生の就職実務の授業内で、就職後の話を聞き参考にしている。卒業後数か月、数年、5年以上など色々なキャリアの卒業生の話が聞けるように工夫している。

<特に優れた点>

○継続して卒業生が就職し、やめていない施設は安心して就職を勧めることができる。

そして、5年、10年と同じ場所でキャリアを重ねて実力もつき、見る目ができれば、さらに良い環境やキャリアアップできる職場への転職も可能だと考える。

<更なる向上を目指す点> (改善を要する点)

○卒業生の力を借りるばかりでなく、職場環境を良くすることに貢献できることなどがあれば積極的に協力していきたい。



《根拠となる資料・データ》

- ・卒業生2名以上就職先施設（資料 NO. 39）

#### 基準8 リカレント教育体制

【選択2】8-5 卒業生と在学生の協力体制をどのように築いていますか

《基本的な観点ごとの分析》（500字以内）

1. 当校卒業生1名を常勤職員に採用している。また、介護過程の導入・中盤（まとめは学科長が担当）、生活支援技術アクティビティ、発達と老化の理解の一部を卒業生（男女1名ずつ、相当の実務経験のある者）の非常勤講師に任せている。
2. 卒業生の離職の有無に影響するのが特に就職1年目である。就職後6ヶ月の時点で公開型の文化祭があるので、それを利用して卒業アルバムの配布をするようにしている。勤務のシフトで当該日に休めるよう、早めに個々にハガキで通知している。アルバム配布も目的ではあるが、その際にアンケートを準備し、勤務先、職種、近況などを記入してもらい、担任等がその詳細を聞くようにしている。また、同級生が集うので横での情報交換が行われ共通の悩みで共感したり、アドバイスしあっている。教員の共感やアドバイスも重要ではあるが、同級生同士だと同じキャリア目線での話になり、悩みのレベルが同じであったり、解決策等もより実施しやすいものであったりするようである。その情報を在学生に対して還元できるようにも心掛けている。

＜特に優れた点＞

- 卒業生は、より学生に近い目線で在校生に刺激を与えてくれ、違った観点での学生動向の情報収集の手助けとなっている。

＜更なる向上を目指す点＞（改善を要する点）

- 来校してくれた学生に対するフォローは十分できていると考えるが、卒業生全体に対するフォロー体制等を考えていきたい。

《根拠となる資料・データ》

- ・卒業生等による授業（資料 NO. 32）、文化祭（資料 NO. 34）

#### 基準9 学生の募集と受け入れ

基準9 学生の募集と受け入れ

《概略の記述》（500字以内）

9-1 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいますか

- 年に1回か2回、広報担当者または広報担当者が教員（その学生の授業に入っている者）を伴って高校を訪問し、学生状況を報告している。

9-2 【必須】学生募集を適切かつ効果的に行っていますか

- オープンキャンパスによる高校生、保護者への情報提供等をこまめに実施している
- その際には、在校生のボランティアを募りオープンキャンパス参加の高校生と在校生のコミュニケーションの時間を作り、在校生の声を聴いてもらえる機会を設けるようにしている。
- 9-3 入学選考基準を明確化し適切に運用していますか
  - 募集開始間近のオープンキャンパスの際には、過去の入試問題や適性試験例題を参考に配布したり、面接質問のねらいを説明している。
- 9-4 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用していますか
  - 入学試験の点数、適性試験の点数、面接評価、高校時の欠席数、理由等の情報が入学後の出欠状況、成績状況、休退学状況とどのような関連があるか分析し学生指導に役立てている。
- 9-5 留学生など、多様な人材の募集及び受け入れについてどのようなことを行っていますか
  - 社会人経験者や外国籍の学生などに対しては個別説明会の機会を設けるなどしてコミュニケーションをとり情報収集している。その際に志望動機や適性を見極めるようにはしているが、積極的な受け入れは図っている。
- 9-6 学生募集と受け入れのために、特色ある独自の取組みとして、どのようなことを行なっていますか
  - 毎回在校生のボランティアを募集し、体験授業の際には補助に入るようにしてもらっている。
  - キャンパスライフの紹介の際には、在校生とのインタビュー形式をとるなどして、臨場感のある学校生活の紹介を心がけている。
  - オープンキャンパスの進路紹介において、可能であれば、各分野（特養、老健、有料、デイ、障害者・・・）に就職した卒業生を招き、卒業後の職業イメージが具体的にできるよう心掛けている。

<参考資料>

- ・入試\_適性試験(資料 NO. 10)、入試\_国語試験(資料 NO. 11)、募集(資料 NO. 24)、募集要項(資料 NO. 12)、保護者説明用(資料 NO. 13)、広報用データ(資料 NO. 17)、募集(資料 NO. 24)、保護者説明用(資料 NO. 13)、保護者向けプレゼン資料(資料 NO. 54)

基準9 学生の募集と受け入れ

【必須】9-2 学生募集を適切かつ効果的に行っていますか

《基本的な観点ごとの分析》（500字以内）

1. 広報担当者より当校への進学生の情報を定期的に出身高校へ報告している。
2. 年間17回のオープンキャンパスを実施し、こまめに高校生等への説明会、体験授業などを実施している。その際同伴した保護者へ学生とは別室で校運営の方針、学生のフォロー状況、特に就職状況とそのフォロー体制については時間をかけて説明している。  
（待遇のバラツキが一般企業よりは大きいこと、キャリアアップや待遇面から職場を変えるのもありということ、介護職からの離職を防ぐためには、など）
3. オープンキャンパスには在校生のボランティアに手伝ってもらい、在校生とオープンキャンパス参加の高校生とのコミュニケーションがとれるようにし、在校生の声を聞く機会も作っている。
4. 入試結果により、その道でやっていくことが難しいと思われる場合（特に実習時のコミュニケーションなどにおいて）には、高校の担任、進路指導等と連絡をとり、高校での日常の状況を確認して（入試で極端にあがってしまう学生もいるので）合否を決定している。

＜特に優れた点＞

- 高校生の一生を左右することとなるため、通常の受験提出書類や入試結果だけで判定が難しい場合は、個人情報等に抵触しない範囲で、高校の担任と面談して情報収集するなど、こまめな対応を心掛けている。

＜更なる向上を目指す点＞（改善を要する点）

- 国家試験の受験も開始となるため、入学後の学習ペースや習慣に戸惑わないように、入学の確定した学生に対する入学前指導等の時間が設けられたらと考える。

《根拠となる資料・データ》

- ・入試\_適性試験(資料 NO. 10)、入試\_国語試験(資料 NO. 11)、募集(資料 NO. 24)  
募集要項(資料 NO. 12)、保護者説明用(資料 NO. 13)、  
保護者向けプレゼン資料(資料 NO. 54)

基準9 学生の募集と受け入れ

【選択1】9-1 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいますか

《基本的な観点ごとの分析》（500字以内）

1. 年に1回か2回、広報担当者または広報担当者が教員（その学生の授業に入っている者）を伴い高校訪問し、学生状況を報告している。  
報告内容は学年別・期別の①出欠状況（例えば、1年前期：欠席0、遅刻2、公欠1、・・・  
2年前期：欠席1、遅刻0、公欠1・・・）、②成績評価の割合（例えば、Aの割合2

8%、Bの割合41%、Cの割合31%）、③担任コメント（例えば、「ひとり暮らしも2年目となり、生活も落ち着いてきました。夏の文化祭では実行委員長を務め、・・・」）、④就職内定先（これは2年生のみ、例えば、「介護老人保健施設〇〇の里」）。なお、広報担当者だけで訪問する場合には、事前に担任と情報交換の場を持ち、学生の近況について話をしている。

2. 近年学生の中に軽度学習障害の疑いのある学生が在席することがある。

日ごろ校内における学習指導や実習時の指導の際にはその点を十分考慮することにより学習成果を上げることができると考える。そこで出身高校を訪問し、当時の担任や進路指導等の教員と十分に情報交換をして指導に臨むようにしている。しかし、偏った先入観などは持たないよう客観性は重視している。

<特に優れた点>

○広報担当者または広報担当者が教員を伴い高校訪問し、学生の学習状況や生活状況、就職状況などを報告している。

<更なる向上を目指す点>（改善を要する点）

○介護分野での労働者不足が著しい現状において、今後の高齢化社会のためにも、高校、養成校、介護施設等が連携を密にした情報共有が図れればと考える。

《根拠となる資料・データ》

・広報用データ（資料NO.17）、募集（資料NO.24）

基準9 学生の募集と受け入れ

【選択2】9-6 学生募集と受け入れのために、特色ある独自の取り組みとして、どのようなことを行っていますか

《基本的な観点ごとの分析》（500字以内）

1. 高校生等の都合（部活ほか）を考慮し、こまめにオープンキャンパスを実施している。
2. 毎回在校生のボランティアを募集し、体験授業の際には補助に入るようにしている。  
また、キャンパスライフの紹介の際には、在校生とのインタビュー形式をとるなどして、臨場感のある学校生活の紹介を心がけている。
3. 進路紹介において、可能であれば、各分野（特養、老健、有料、デイ、障害者・・・）に就職した卒業生を招き、卒業後の職業イメージが出来る限り具体的になるよう心掛けている。
4. 高校生が体験授業に参加している最中には、別室に保護者を集め、保護者向け説明会の時間をとっている。
5. 「保護者向けパンフレット」を別途作成して配布している。

説明内容としては、当法人及び当校の概要、教育方針、実習について、卒業後の進路について（特に、最初の就職先によっては、その後、介護業界から離職してしまうケース

<p>があるので、その点については細心の注意を払ったフォロー体制をとっている旨をできる限り具体的に説明している)、就職先の待遇、労働条件について、などである。</p> <p>&lt;特に優れた点&gt;</p> <p>○現場で働く卒業生に介護現場で働く「やりがい」を直接高校生に情報提供している点。</p> <p>&lt;更なる向上を目指す点&gt; (改善を要する点)</p> <p>○現場や高校との連携を密にし、労働環境の改善を行政等に働きかけていくこと。</p> <p>《根拠となる資料・データ》</p> <p>・募集(資料 NO. 24)、保護者説明用(資料 NO. 13)、保護者向けプレゼン資料(資料 NO. 54)</p>
--

## 基準 10 内部質保証

<p>基準 10 内部質保証</p> <p>《概略の記述》 (500 字以内)</p> <p>10-1 自己点検・評価をどのように行っていますか</p> <p>○法人(専門学校未来ビジネスカレッジ(本部)、松本情報工科専門学校、松本医療福祉専門学校(当校)の3校)で使用している自己評価表(評価項目は、教育理念目標、学校運営、教育活動、学修成果、学生支援、教育環境、学生の受入れ募集、財務、法令等の遵守、社会貢献・地域貢献)を用いて、4段階評価を行っている。</p> <p>10-2 学校関係者評価をどのように行っていますか</p> <p>○事前に学校関係者評価委員に資料を送付し、送付した資料をもとに年度末に学校関係者評価委員会を実施している。</p> <p>10-3 評価の充実に向けてどのような工夫を行っていますか</p> <p>○観点や過程については本部校で行っている自己評価方法を参照している。それをもとに、法人内部での学校状況報告会の際に行う当校の学習成果の発表内容を融合させ、より効果的な自己評価を考察している。</p> <p>10-4 【必須】教育情報をどのように公開していますか</p> <p>○当校のホームページ(<a href="http://www.mirai.ac.jp/mic/">http://www.mirai.ac.jp/mic/</a>)における「情報公開」のバナーにより、情報公開している。</p> <p>10-5 内部質保証についての特色ある独自の取組みとしてどのようなことを行っていますか</p> <p>○施設で指導者的立場にある卒業生と話をする機会を利用して、実習生や当校卒業の新規職員の情報を収集して学生指導の参考にしてしている。 (最もストレートに厳しいアドバイスをもらえることが多い)</p>
---

<参考資料>

- ・ 情報公開のホームページ(資料 NO. 37)、学校評価委員名簿(資料 NO. 21)  
自己点検公開(資料 NO. 22)、自己点検対応(資料 NO. 23)、学習成果報告書(資料 NO. 53)

基準 10 内部質保証

【必須】 10-4 教育情報をどのように公開していますか

《基本的な観点ごとの分析》 (500 字以内)

1. 当校のホームページ (<http://www.mirai.ac.jp/mic/>) における「情報公開」のバナーにより、情報公開している。

2. 公開内容

① 「自己点検・評価」

教育理念目標、学校運営、教育活動、学修成果、学生支援、教育環境、学生の受入れ募集、財務、法令等の遵守、社会貢献・地域貢献の各詳細項目について 4 段階で評価し、前年度と本年度を比べたもの

② 「学校関係者評価結果報告書」 (3 月に実施する学校関係者評価委員会の内容をまとめたもの)

③ 学校基本情報 (職業実践専門課程の規定による様式)

学校名、設置者名、設置認可年月日、校長名、代表者名、所在地、目的、分野、課程名、学科名、専門士、修業年限、授業時間数、学生数、職員数、生徒指導、就職状況、退学状況、教育課程の編成、主な実習・演習、教員の研修、学校関係者評価、情報公開、授業科目等の概要

④ 「財務情報 (法人全体の貸借対照表、資金収支計算書、消費収支計算書)」

⑤ 「専修学校情報提供ガイドラインに基づく情報公開」

学校の概要、目標及び計画、各学科の教育、教職員、キャリア教育・実践的職業教育、様々な教育活動・教育環境、学生の生活支援、学生納付金・修学支援、学校の財務、学校評価

<特に優れた点>

○同法人のものをすべて公開することで、全体の様子も明確で、比較が可能である。

<更なる向上を目指す点> (改善を要する点)

○就職先への情報公開やその内容・ボリュームをアップさせたい。

《根拠となる資料・データ》

- ・ 情報公開のホームページ(資料 NO. 37)

基準 10 内部質保証

【選択 1】 10-1 自己点検、評価をどのように行っていますか

《基本的な観点ごとの分析》（500 字以内）

1. 法人（専門学校未来ビジネスカレッジ（本部）、松本情報工科専門学校、当松本医療福祉専門学校の 3 校）で使用している「自己評価表」
  - ①評価項目：教育理念目標、学校運営、教育活動、学修成果、学生支援、教育環境、学生の受入れ募集、財務、法令等の遵守、社会貢献・地域貢献
  - ②評価：4 段階評価（4:適切、3:ほぼ適切、2:やや不適切、1:不適切）
2. 副校長、教務部長、介護福祉学科学科長、医療秘書学科学科長の 4 名で評価した結果を平均する。（小数 1 位まで算出する）
3. 上記資料をもとに検討会議を行い、評価点について検討する。（単純平均であるため、実情に合わせて必要な修正を加える）
4. 上記資料については、毎週行われる教務会議の議題として取り上げ、職員全体の同意を得るようにしている。
5. 学校関係者評価委員会に提出する別途資料（現状の課題・原因・対策、教務実績、就職実績など）について検討する。（ベースとなる資料は、当法人の全体会での各校活動状況報告で用いた物である。他の職員も概要については把握済み）

＜特に優れた点＞

○可能な限り数値をもとに客観的な評価ができるように考えている。

＜更なる向上を目指す点＞（改善を要する点）

○職員全体のコンセンサスを得るようにしているが、まだまだ不足している点がある。

《根拠となる資料・データ》

- ・学校評価委員名簿（資料 NO. 21）、自己点検公開（資料 NO. 22）、自己点検対応（資料 NO. 23）

基準 10 内部質保証 1

【選択 2】 10-2 学校関係者評価をどのように行っていますか

《基本的な観点ごとの分析》（500 字以内）

1. 事前に学校関係者評価委員会に対し、下記 3 点を送付する。
  - ・当該年度学習等成果の資料（教務実績、就職実績、現状の課題・原因・対策など）
  - ・当該年度自己評価表
  - ・前年度に行った学校関係者評価委員会会議結果の意見・指導等に対する対応状況
2. 上記をもとに年度末に学校関係者評価委員会を実施する。
  - ①評価委員は次の通り。
    - 老健事務長（委員会の委員長）、特養施設長、大学病院総務課主査、病院のソーシャルワーカー（当校卒業生）、当校理事長、当校校長、当校副校長、当校教務部長

②学校側より事前配布資料の要点を説明する。

③ ②について質疑応答・意見交換を行う

3. 自己点検結果、学校関係者評価委員会の結果をホームページに掲載する。

<特に優れた点>

○学校関係者評価委員会については、当校理事長も出席し、外部評価委員の意見を直接、聞いてもらうことができている。そのため、それらの意見を反映させていくことが比較的スムーズである。

<更なる向上を目指す点> (改善を要する点)

○学校評価委員のメンバーをもう少し増やすことができればと考える。

《根拠となる資料・データ》

- ・学校評価委員名簿(資料 NO. 21)、自己点検公開(資料 NO. 22)、自己点検対応(資料 NO. 23)、学習成果報告書(資料 NO. 53)



専修学校職業実践専門課程（介護分野）

第三者評価試行

## 第三者評価報告書

松本医療福祉専門学校

平成29年2月

調査訪問日 平成28年11月15日

## 目次

<各規準の評価結果>

基準1 教育理念

基準2 学校運営

基準3 教育内容

基準4 教育方法

基準5 教員の資質向上

基準6 やりがい・キャリア形成等を醸成する教育

基準7 実習

基準8 リカレント教育体制

基準9 学生の募集と受け入れ

基準10 内部質保証

## ＜各規準の評価結果＞

### 基準1 教育理念

基準1 教育理念
<p>＜総 評＞</p> <p>1. 「高等学校までの教育の基礎の上に、人の尊厳と思いやりの気持ちを重視し、広く地域社会に貢献し、社会の発展に寄与できる学生を育成することを目的としている」、「職場を変えることはあっても介護職から離職せず、これからの高齢化社会に貢献できるよう目指している」、「業界で働いていくのに必要な資質を育てることを重視している」等、社会と介護業界に貢献できる人材を育成することについて、教育理念として一貫している。</p> <p>2. このような教育理念に基づき、教員がそれに沿った教育を心掛けている。卒業生が就職している施設の状況把握に務め、地域社会に対して有為の人材を送り出そうとする姿勢と、学生が業界で長く働くことができるような工夫が、実際の教育から見て取れる。</p>

基準1 教育理念	
【必須】 1－1 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を持っていますか	
評 定	評価ポイント 2
<p>＜評価する点＞</p> <p>1. さまざまな課題を有している学生もいることから、将来的に社会人として、介護現場で長く働くことができるように、まずは学生が学校の授業に馴染むよう気をつけている。</p> <p>2. 「仕事にやりがいを感じ、介護が好きだと言える人材の育成を第一にしている」点や、「業界で働いていくのに必要な資質を育てることを重視している」点など、社会の要請に応え人材を育成しようとする姿勢は、将来構想につながるものとして評価できる。</p> <p>＜特に優れた点＞</p> <p>○卒業生が働いている施設・事業所との連携、卒業生を含めたネットワーク作りを目指している点は、地域の介護関連業界との協力関係を築き、教育と実践との隔たりを少なくするという意味において評価できる。</p> <p>＜更なる向上を目指す点＞（改善を要する点）</p> <p>特に記載事項なし。</p>	

基準1 教育理念	
【選択1】1-2 理念・目的育成人材像は定められていますか	
評 定	評価ポイント 3
<p>&lt;評価する点&gt;</p> <p>1. 「学則」及び「学科指導方針」に、どのような介護福祉士を育成するのかが明確に示されている。</p> <p>&lt;特に優れた点&gt;</p> <p>○これからの高齢社会に貢献するために、在学生在が卒業後に介護職からの離職をしないような働きかけを行っている。具体的には、卒業後に初めて就職する勤務先が今後の人生において重要であるとの考えから、既に卒業生が就職し勤務している施設の状況把握に努め、就職指導に活かしている。</p> <p>○卒業生の多くが地元で就職しており、当該モデル校は地域への介護人材の供給という重要な役割を担っているといえる。</p> <p>○地域の中で安定的に継続して勤務する介護職を育成するという姿勢が、校長・副校長・専任教員が共有している。どのような人材を育成しようとしているかが明白である。</p> <p>&lt;更なる向上を目指す点&gt; (改善を要する点)</p> <p>特に記載事項なし。</p>	

基準1 教育理念	
【選択2】1-4 理念などの達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいますか	
評 定	評価ポイント 2
<p>&lt;評価する点&gt;</p> <p>1. 毎週1回実施される教務会議は、介護福祉学科と医療秘書学科の合同実施されている。この会議において他学科教員と情報を共有し、他学科教員からの意見を受け入れることにより、現在の介護福祉学科における教育活動を客観的に捉えることが可能となっている。</p> <p>&lt;特に優れた点&gt;</p> <p>○教育活動は、介護福祉学科の3名の専任教員が非常勤講師の意見も参考に密に連携して行っている。教育上の情報交換・情報共有は、授業や実習巡回の合間等を利用した話し合いにより行われている。</p> <p>&lt;更なる向上を目指す点&gt; (改善を要する点)</p> <p>特に記載事項なし。</p>	

## 基準2 学校運営

### 基準2 学校運営

<総 評>

1. 法人の理事会や職員の全体会議を定期的に開催し、運営方針とその成果について検証している。
2. 講義、演習、実習の学習だけでなく、色々な学校行事や地域と連携した活動に参加することにより、知識、技術だけでなく人間的にも成長できるよう図っている。
3. 就業規則に基づき経営者と職員間での労働条件の綿密な確認がされている。
4. 校内LANを使用したサイボウズシステム（申請、決裁、情報伝達などのシステム）を使用しており、責任者が校外にいてもアクセスし速やかに決裁できる仕組みになっている。
5. 法人の立ち上がり情報処理系の学科であるため、法人全体として情報リテラシーについては特に力を入れており、業務の効率化は不足なく進んでいる。
6. 学生の知識力やモチベーションを保つために、平成28年度入学生から全員必須で国家試験を受験する体制を整えている。

### 基準2 学校運営

【必須】2-2 理念等を達成するための事業計画を定めていますか

評 定

評価ポイント 3

<評価する点>

1. 教育課程編成委員会の外部委員の意見や実習巡回や実習担当者会議の場で収集した実習現場の実情を踏まえて、独自に救急法や就職実務関連科目を設定している。
2. 学生状況や介護福祉士を取り巻く状況を考慮し、その年次に応じた各授業科目の内容、実施時期等を検討して、速やかに対応している。
3. 就職先が入所施設だけでなく在宅サービスに広がり多様化している為、就職後のキャリアアップに対応できるよう、様々な介護現場で実習が行えるよう計画している。
4. 学生達が、講義・演習・実習をはじめ、学内行事に積極的に参画することを通して、様々な経験を積んで人間的な成長ができるように促している。
5. 地域に密着した様々な活動が計画され地域貢献している。
6. 卒業生による授業が計画されて卒後教育につながっている。

<特に優れた点>

- 地域の清掃活動や新聞社主催の介護セミナー、リレーフォーライフなどに参加するなどの地域活動が計画されている。
- 入学時宿泊オリエンテーションでは、新2年生が主体的に企画・運営し、新入生の大学生活をサポートするなど、学習、学校行事、その他学校生活全般を通して人間的に成長できるように考慮した計画がされている。

○卒業生による介護現場のトランスファーの実際や演習、社会福祉協議会の講義がなされている。

<更なる向上を目指す点> (改善を要する点)

特に記載事項なし。

基準2 学校運営

【選択1】2-5 情報システム化に取り組み、業務の効率化を図っていますか

評 定

評価ポイント 2

<評価する点>

1. 成績データ処理は外部に仕様を発注したシステムを使用している。
2. 時間割や実習関係の書類等必要なデータは、Microsoft Office Access を利用して処理しており、事務処理の効率化に特に役立っている。
3. 法人の立ち上がり情報処理系の学科であるため、印刷環境やデータ処理環境が整っており、授業準備等が効率的にできている。

<特に優れた点>

- 校内のOA化及び職員全体の情報リテラシーが進んでいる。
- サイボウズシステムを導入しているため、外出先からのスケジュール管理もでき情報共有化が図られている。

<更なる向上を目指す点> (改善を要する点)

- 自己評価報告書に記載の通り学校、教職員とも「文書化」の必要性を認識し、改善を進めている、優先順位を決めて段階的に書類の様式やファイリング方法を決めて情報の共有化し更なる業務の効率化を図るために、効率の良いシステムの運用が望まれる

基準2 学校運営

【選択2】2-6 国家試験に対する方針は明確になっていますか

評 定

評価ポイント 3

<評価する点>

1. 平成 27 年度入学生までに実施していた卒業時共通試験対策やその結果の分析をベースに国家試験対策を計画している。  
1 年次後期から週 1 日、2 年次は週 2 日、最後の実習終了後の 11 月中旬からは集中して国家試験対策の授業を導入する計画をしている
2. 特に卒業試験でのデータをもとに学生の得意分野での得点の確実性を上げることを重点とし、苦手分野の点数を全体に底上げすることを方針としている。
3. 年末年始休みを短縮して国家試験対策を実施し本番に臨む計画が立てられている

<p>4. 入学時に実施している基礎学力試験と卒業試験結果等の蓄積したデータと経験を踏まえて相関関係をデータ分析し、学生の指導に活用する予定。</p> <p>&lt;特に優れた点&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○全平成 28 年度入学生から全員必須で国家試験を受験し、バスをチャーターして前泊して受験する計画が立てられている。</li> <li>○長年の卒業試験対策の授業を基に国家試験対策の方針等が具体的に立てられている。</li> <li>○併設する医療秘書学科の検定取得のノウハウを介護福祉士国家試験対策に生かしている。</li> </ul> <p>&lt;更なる向上を目指す点&gt; (改善を要する点)</p> <p>特に記載事項なし。</p>
---

**基準 3 教育内容**

基準 3 教育内容	
<総 評>	
<p>1. 教員が学生に一方向的に教えるのではなく、学生の体験を重視し、自ら考える授業が行われている。講義だけでなく演習においても同様である。</p> <p>日常生活の中から題材を取り、これを介護福祉士の専門的知識に引き付けて考えさせたり、介護実習にて学生自身が行った介護行為を振り返り、学生同士で技術を工夫してから教員が助言・指導を行う等、学生の自主性を重んじた授業を進めている。</p>	
<p>2. これは、最終的には介護福祉専門職としての自立を促し、自主的な業務遂行能力を高めることにつながると考えられる。このような取り組みは、教育理念に十分に則したものであるといえる。</p>	
<p>3. 標準的な内容が十分に教授されている。単に教科書・テキストの内容をなぞるのではなく、写真など画像教材の活用や障害当事者を招いてその実際の言葉を聴く等、学生がより現実感を持つことができるよう、教育内容に工夫が見られる。</p>	

基準 3 教育内容	
【必須】 3-1 人権や尊厳などの価値に関する授業を行っていますか	
評 定	評価ポイント 2
<評価する点>	
<p>1. 「生活支援技術」「障害の理解」等、実技演習・講義のどちらにおいても、“教える”のではなく“考えさせる”授業を展開している。</p> <p>2. 画像資料の提示や、障害当事者の招聘を授業に取り入れ、学生が自ら人権・尊厳を考えることができるよう工夫している。また、その機会を提供している。</p>	

3. 「介護の基本」を1年次前期に集中して教授し、それに積み上げる形で「生活支援技術」「介護過程」の授業が行われている。このような授業構成は、介護福祉士養成教育が単なる知識や技術の伝達ではなく、利用者の人権や人間の尊厳を根底に置いていることを学生に理解させるために有効であると考えられる。

<特に優れた点>  
特に記載事項なし

<更なる向上を目指す点> (改善を要する点)

○当該モデル校は、更なる向上を目指す点として「視聴覚教材、外部講師の活用促進」を挙げている。

人権や尊厳に関する授業は、介護福祉士としての態度・姿勢・立ち位置・思考・行動を身に付けるために重要であることから、これまでの取り組みを継続しつつ、さらに加えて取り入れることが期待される

基準3 教育内容	
【選択1】3-2 個別の心身状況に沿った介護を行うために、「介護過程」「生活支援技術」などの専門科目においてどのような授業を行っていますか	
評定	評価ポイント 2
<p>&lt;評価する点&gt;</p> <p>1. 「生活支援技術」では、はじめから教員が教えるのではなく、まずは学生がどのようにやったらよいかを考えさせるような授業が行われている。学生同士の試行錯誤や、相互の学習から得た気づきを大切にしている点は、非常に評価できる。</p> <p>2. 「生活支援技術」において、教員は上から一方的に教えるのではなく、学生の自主性を尊重し、学生の目線に合わせて指導している。</p> <p>3. 学生自身の工夫を促す支持的な対応は、学生への指導・教授を通して「個別化」を体現しているといえる。</p> <p>&lt;特に優れた点&gt; 特に記載事項なし</p> <p>&lt;更なる向上を目指す点&gt; (改善を要する点) 特に記載事項なし</p>	



基準3 教育内容

【選択2】3-4 さまざまな対象者に応じた個別的なコミュニケーションの方法を習得させるために、どのような授業を行っていますか

評 定	評価ポイント 2
-----	----------

<評価する点>

1. 年に数回、他学年との合同授業を行うことにより、通常の学年クラス以外の学生とのコミュニケーションを実体験するような工夫がある。
2. 「人間とコミュニケーション」「コミュニケーション技術」の授業にて、学生に“新聞記者になったつもりで”ロールプレイのシナリオを書かせることにより、事例を記述するような通常の記述よりもよく書けるようになる等、独自の工夫が見られる。

<特に優れた点>

特に記載事項なし

<更なる向上を目指す点> (改善を要する点)

○利用者の多様性に対応するためには、実体験を伴うような教育が望まれるところである。実際にさまざまな対象者とコミュニケーションを図る機会を増やす等、学生同士のロールプレイに加えた、更なる取り組みの検討も必要であろう。

基準4 教育方法

基準4 教育方法
----------

<総 評>

1. 介護の最も基本となる「介護の基本」を1年次前期に集中させている。
2. 実習は規定時間の1.4倍の時間を設定し、障害者施設、デイサービスや訪問実習、特別養護老人ホーム・介護老人保健施設など多様な施設での実習が経験できるように計画されている。
3. 講義・演習・技術の授業をはじめ、毎回の実習前後でグループ学習を導入し、積極的な意見交換を通して考える力を習得し、学びの過程を実践する機会を作っている。
4. 最終実習終了後に、介護過程展開を事例研究としてまとめ、その発表会の実施と、日本介護福祉士養成施設協会の卒業時共通試験の2つを柱として学修成果を確認している。
5. 施設の職員等（卒業生など）に実習や就職をテーマに、スポット的に特別講話を行い、介護について更に考えを深める機会を作っている。
6. 介護職員初任者研修了者等に向けた介護技術講習の講師、実務者研修のスクーリング講師、新聞社主催の「さわやか介護セミナー」の講師等を引き受け、様々な場面での講師を体験して教育方法の向上に役立っている。

基準4 教育方法

【必須】4-1 養成校の卒業時到達目標に沿った知識・技術の修得ができ、学修成果を確認できる体制をどのように作っていますか

評定

評価ポイント 2

<評価する点>

1. 学内で学んだ知識・技術を実習で実践し、毎回実習後に発表する機会を設けることによって学びを深めている。  
最終実習では介護過程を展開し、その後事例研究を行い、発表・意見交換することによって、介護実践の総まとめの評価をしている。
2. 知識面では、介護福祉士養成校協会の卒業時共通試験を使用し、それらの対策授業、模試などを通して、2年間学んだ介護知識の総まとめの機会としている。
3. 学習意欲の不足などがある学生に対しては、補講等を実施して補っている。

<特に優れた点>

○介護実習におけるまとめを介護実践の評価とし、日本介護福祉士養成施設協会の卒業時共通試験を利用して知識面の総合評価している。

<更なる向上を目指す点> (改善を要する点)

○2年次終了時に確実な知識を修得する為に、今後の介護福祉士国家試験の結果を踏まえて個々の修得状況に応じた対応を期待したい。

基準4 教育方法

【選択1】4-2 養成校の卒業時到達目標を達成するためにどのようなカリキュラムを作り、それをどのように授業で行っていますか

評定

評価ポイント 3

<評価する点>

1. 1年次前期に介護の基本的な知識を集中的に修得させ(全180時間の内165時間)、介護の実際を1日体験することによって十分な基礎力錬成とモチベーションを挙げることに留意している。
2. 実習については規定時間の1.4倍の時間(630時間)を設定し、特別養護老人ホームや介護老人保健施設の他、デイサービスや訪問介護、障害者施設など多様な施設での実習を行い、視野を広げられるようにしている。
3. 人間と社会に関する選択科目において、情報化時代に対応するパソコン授業、コミュニケーション演習、記録等の重要な表現力授業、在宅支援の際に重要な家政学(衣食住)など、基礎となるべき考え方や力が育つようにしている。
4. 学生が主体的に考えることを重視し、アクティブラーニングを取り入れた授業展開している。

<p>5. 卒業生をスポット的に講師に招いて、現場での介護技術の紹介とその演習を取り入れている。</p> <p>&lt;特に優れた点&gt;</p> <p>○介護の最も基本となる「介護の基本」を1年次前期に集中させ、カリキュラムを組み立てている。</p> <p>○実習は規定時間の1.4倍の時間を設定するとともに、障害者施設、デイサービスや訪問実習、特別養護老人ホーム・介護老人保健施設など多様な実習先を学習段階に応じて組み立てており、優れた取り組みをしている。</p> <p>○介護セミナー、リレーフォーライフに参加するなど、地域に密着した様々な活動が計画され、カリキュラムに組み込まれている。</p> <p>○卒業生による介護現場のトランスファーの実際や演習、社会福祉協議会の講義等がなされている。</p> <p>&lt;更なる向上を目指す点&gt; (改善を要する点)</p> <p>○自己評価報告書によれば、「医学的知識や制度に対する知識の錬成に不足を感じており、学生の苦手分野の克服に向けてカリキュラムの強化に努める」ことが期待されている。</p>
---

<p>基準4 教育方法</p> <p>【選択2】4-3 それぞれの教育科目において、また、教育課程全体として、学生のアクティブラーニングはどのように行われていますか</p>	
<p>評定</p>	<p>評価ポイント 2</p>
<p>&lt;評価する点&gt;</p> <p>1. 実習前後でグループ学習を導入し、根拠を持った発言の仕方や、他者の意見を生かして考えていく方法について、演習を通して行っている。</p> <p>2. 「人間関係とコミュニケーション」と「コミュニケーション技術」の時間を3時間続きとし、二人の教員により要点を講義、演習によりグループワークを行いながら「生活支援」とは何か等を考えるような体制を整えている。</p> <p>3. 学校での教科書や学校での介護技術の授業は、介護現場での基礎となるものであり、現場では環境や制約等に応じて実践されていることを理解し、その応用過程を主体的に考えられるようにしている。</p> <p>4. 情報収集、説明力、説得力などの動的錬成をねらいとし、各自でテーマを設定し模擬授業（説明中心）を行うなどしている。</p> <p>&lt;特に優れた点&gt;</p> <p>○講義と演習の組み合わせにより学生が主体的に考え学べるように授業展開を行っている。経験を重ね、より実力が錬成される点を特に重視して取り入れている。</p>	

＜更なる向上を目指す点＞（改善を要する点）  
 ○学習のねらいを学生が十分理解して取り組めるような更なる授業展開をすることが期待される。

**基準5 教員の資質向上**

基準5 教員の資質向上
<p>＜総 評＞</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研修等への参加に対する理解があり、教員の意向を最大限配慮しようとする姿勢がうかがえる。</li> <li>2. しかしながら、一方では年間の研修計画が作られていない等、制度としての不安要素がある。</li> <li>3. 書面の作成とその扱いの未整備は、管理職・教員ともに認識している様子であるので、これを実行に移すことが課題である。</li> </ol>

基準5 教員の資質向上	
【必須】5-1 教員の外部研修・学会参加の機会をどのように確保・サポートしていますか	
評 定	評価ポイント 2
<p>＜評価する点＞</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 毎年、複数の教員が、学会・研修会等に参加している。</li> <li>2. 教員の資質向上のための学会・研修会等への参加については、フレキシブルに対応できるような体制である。必要度によって授業時間を調整する等が認められている。</li> <li>3. 教員からのその都度の申し出によって、研修等への参加が可能である。</li> </ol> <p>＜特に優れた点＞</p> <p>特に記載事項なし</p> <p>＜更なる向上を目指す点＞（改善を要する点）</p> <p>○年度当初に日程が決まっていない研修については年度当初の計画に計上されていなかった。日時が確定してから変更すれば良いので、前年度の日程を参考に見込みで計上することが必要である</p>	

基準5 教員の資質向上	
【選択1】5-3 各教員の担当・適性に応じたクラス運営・学生指導のスキル・質向上をどのようにサポートしていますか	
評 定	評価ポイント 2
<p>&lt;評価する点&gt;</p> <p>1. 3名の専任教員が相互に連携し、学生の状況把握と情報の共有に努めている。クラス運営・学生指導のスキル・質向上の取り組みとして考えるならば、教員同士のピアスーパービジョンとして機能しているといえる。</p> <p>2. 「担任、副担任制度だけでなく、学科長、副校長、校長、事務職員、理事長など学校関係者全体での学生フォロー体制をとっている」点は、担任となる教員に対する職制上の支援体制であると考えられる。</p> <p>学校全体で学生を支える体制は、結果として教員のクラス運営をサポートするものであり、それらは個々の教員の経験値として蓄積される。したがって、教員の資質向上に資すると考えられる。</p> <p>&lt;特に優れた点&gt;</p> <p>○小規模な人数での運営が、専任教員同士が適宜情報共有のために話し合いをするという状況を生み出しており、専任教員同士の密接な連携につながっていると考えられる。</p> <p>&lt;更なる向上を目指す点&gt; (改善を要する点)</p> <p>特に記載事項なし。</p>	

基準5 教員の資質向上	
【選択2】5-5 各教員の資質やその向上をどのように把握していますか	
評 定	評価ポイント 2
<p>&lt;評価する点&gt;</p> <p>1. 各教員の資質やその向上は、管理職である副校長が、客観的情報（学生の欠席・遅刻の状況、就職内定率等）や環境面（教室・ロッカー等の整理整頓の状況等）の観察によって把握している。</p> <p>2. 管理職（副校長）は、「可能な限り数量化できるデータにより概要を把握」するよう努めている。</p> <p>&lt;特に優れた点&gt;</p> <p>特に記載事項なし</p> <p>&lt;更なる向上を目指す点&gt; (改善を要する点)</p> <p>○教員の資質やその向上を図る為には内部研修だけではなく、施設関係者を巻き込んだ指導研修や授業参観の実施、授業方法についての研究会のなど第三者による意見を入れる等、一層の客観的な判断に務めことが望まれる。</p>	

## 基準6 やりがい・キャリア形成等を醸成する教育

### 基準6 やりがい・キャリア形成等を醸成する教育

#### <総 評>

1. 入学時より校長をはじめ教務主任、担任などが学生と面談を行い、モチベーションを高めている。
2. 職業人、家庭人、社会構成人としての役割意識と生きがいに通じるよう、授業をはじめ学内行事、地域活動への参加など様々な場面の中で取り組みを実践している。
3. 実習前の個別面談の際の指導や、就職試験の日程が決まった際に、個別に面接練習のための面談をしている。
4. 就職活動のスタートがスムーズに切れるよう、電話の掛け方など細部にわたって職員全員で支援している。
5. 就職実務の授業の中で、マナー、教養、一般常識についての基本的な指導をするほか、学校生活の様々な場面でその都度職員全体（教員、事務職員）で個別指導している。
6. 個々の学生の能力、モチベーションを考慮し、学生が介護福祉士のやりがい・キャリア形成等を醸成するよう、繰り返し個別面接練習の機会を設けて、教職員全員でサポートしている。

### 基準6 やりがい・キャリア形成等を醸成する教育

【必須】6-1 キャリア形成の仕組みを理解させるため、どのような取り組みをしていますか

評 定

評価ポイント 3

#### <評価する点>

1. 卒業後は地元就職する学生が多く、施設見学、ボランティア体験活動を通して、先輩から学ぶことが多い。
2. 施設の職員等（卒業生など）に実習や就職に関連した特別講話をスポット的に行い、やりがい・キャリア形成について更に考えを深める機会を作っている。
3. 文化祭などの学校行事などで、卒業生が来校し在校生と交流を深めており、介護のやりがい感・キャリア形成を実感する機会となっている。
4. 地域交流の中で体験をとおしてキャリア形成できるように、学生全員で地域活動に参加する機会を設けている。
5. 特別養護老人ホームや介護老人保健施設の他、デイサービスや訪問介護、障害者施設など多様な施設での実習を行っており、卒業生から指導を受けることによってやりがい・キャリア形成を実感する ことにつながっている。

<p>&lt;特に優れた点&gt;</p> <p>○職員全員が学生全体や学生個々に丁寧に対応し、授業や各種行事をはじめとする卒業生との交流を通し、地域活動に参加することによってキャリア形成等に醸成しており独自の取り組みとして評価できる。</p> <p>&lt;更なる向上を目指す点&gt; (改善を要する点)</p> <p>特に記載事項なし。</p>
---

<p>基準6 やりがい・キャリア形成等を醸成する教育</p> <p>【選択1】 6-3 就職への自覚や意欲を持たせる指導をどのように行っていますか</p>	
<p>評 定</p>	<p>評価ポイント 3</p>
<p>《評価する点》</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 2年次に通年の「就職実務」の授業や就職関連行事を行っている。</li> <li>2. 就職意向調査を基にした個人面談を丁寧に行っている。</li> <li>3. 各種介護現場で働く卒業生や有料老人ホームの求人担当者などが就職実務の授業の中で具体的に講義してもらっている。</li> <li>4. 就職希望先施設の見学を推奨し、必要があれば学校で橋渡し等の支援、職員による個別相談を実施している。</li> <li>5. 就職試験時における個別指導、作文、面接などは就職実務の授業内で基本的事項を個別に指導している。</li> <li>6. 就職活動時の報告・連絡・相談を学生、職員とも徹底し、職員間の情報共有を図り学生の就職活動に支障がないよう考慮している。</li> <li>7. 実習先で卒業生より指導を受けることによって、介護現場で働く自覚や意欲につながっている。</li> <li>8. 施設の職員等（卒業生など）に実習や就職に関連した特別講話をスポット的に行うことによって、就職への自覚や意欲につながっている。</li> </ol> <p>&lt;特に優れた点&gt;</p> <p>○「就職実務」を授業に組み入れており、学校と就職先との協力関係が密接であり、学生の個々のニーズに応えられるように丁寧に面談を行い、就職活動がスムーズにできるように指導している点が独自の取り組みとして評価できる。</p> <p>&lt;更なる向上を目指す点&gt; (改善を要する点)</p> <p>○就職活動がスムーズにできるように個別活動を丁寧に行っているが、相談内容に関する記録を整理することが期待される。</p>	

基準6 やりがい・キャリア形成等を醸成する教育	
【選択2】6-4 介護福祉を担う専門職の土台となる、社会人としての教養・一般常識・マナーなどをどのように伝えていますか	
評 定	評価ポイント 3
<p>&lt;評価する点&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「就職実務」授業の中で学生に対し、マナー、教養、一般常識についての全体的、基本的な指導をする他、主は学校生活の様々な場面でその都度個別指導している。</li> <li>2. 「情報処理」や「表現技法」や「人間と社会」などの学生個々と教職員全員が学科、職種を超えて個別に関わる機会を増やすようにしている。</li> <li>3. 情報処理や表現技法や人間と社会の他科目などの授業でも社会人としての教養、一般常識、マナーなどを授業の題材として取り入れるようにしている。</li> </ol> <p>&lt;特に優れた点&gt;</p> <p>○「就職実務」授業の中で基本的なマナーについて学習しているほか、学校生活の具体的な場面を通じてできる限りその場で個々の学生に対して職員全体で指導しており優れた取り組みをしている。</p> <p>&lt;更なる向上を目指す点&gt;（改善を要する点）</p> <p>○介護系の科目や実習指導の中において、更に社会人としての教養、一般常識、マナーなどを授業の題材として積極的に取り上げることが期待される。</p>	

**基準7 実 習**

基準7 実 習
<p>&lt;総 評&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 介護福祉士養成における到達目標を十分把握し、その上で各実習段階の実習目標を明確に設定しており、各教職員がその実践に向けて、目標達成に向けて一貫性のある行動ができています。</li> </ol> <p>学生は自分の特性等を良く理解しながら、自ら学ぶ姿勢で実習に取り組み、自分の将来像に近づく行動をしている。そのために、実習を4段階に設定し、高齢者関係のみならず、障害者関係施設における実習が組まれている。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>2. 実習を行う際には、施設実習指導者との連携も十分行われており、学生の個々の特性をいかしながら、実習目標をともに実現できるような行動ができています。</li> </ol> <p>学生との個人面談を複数回実施しており、その際にはその実習目標を達成するための面談内容となっている。</p>



基準7 実習	
【必須】7-1 実習に向けての事前準備と実習後のフィードバックを、どのように行っていますか	
評定	評価ポイント 3
<p>&lt;評価する点&gt;</p> <p>1. 実習に向けて、介護福祉士養成校の養成到達目標を良く理解し、実習目標を明確に示している。教員はその目的・目標を十分理解していることで、事前に行われる学生面談を複数回実施し、目標達成するために、実習先オリエンテーションの実施を事前にできている。そのことが、学生は実習目標を明確にし、自ら学ぶためにはどのようにすれば良いかの行動目標に繋がっている。</p> <p>2. 実習後には、各々学生が修得した内容を言語化し、それを同学年、教職員、及び他学年の学生にも発表する場を設けている。</p> <p>発表することで学生は他の実習生の行動、振り返りを共有し、自己の学びに必要な点を明確にし、次の実習に向けて何が必要なのかを、自ら問いかける場が確立している。</p> <p>&lt;特に優れた点&gt;</p> <p>○学生と教員間の信頼関係構築が図られ、学生個々の実習に対する不安を事前に把握することができる。事前に把握した内容や実習中個々に発生した不安に対して、担当教員のみならず他の教職員も得意分野を生かして関わることで、個別の問題解決が実施されている。実習中の帰校日には、学生間の交流がなされ、個々の不安解消など、グループの力を活用する場を設けている。</p> <p>○実習における学びを、他学年の学生に発表する場が設けられている。</p> <p>学生個々の学びの状況を他学年の学生が、自分のこととして捉えることの場が設けられ、未修得の実習に取り組む際のオリエンテーション機会にもなっているとして評価できる。</p> <p>&lt;更なる向上を目指す点&gt; (改善を要する点)</p> <p>特に記載事項なし。</p>	

基準7 実習	
【選択1】7-(3) 本人の適正に基づいた実習が行えるようにするために、どのような体制をとっていますか	
評定	評価ポイント 3
<p>&lt;評価する点&gt;</p> <p>1. 学生個々の適性を知るために、教員全員での情報共有が行われている。その機会は専任教員が日々の授業の中で、学生の特性をよく把握しており、その情報を個別のものとしないうで、共有する場が日々行われている。</p>	

<p>2. 学生個々の特性に合わせた実習が行えるように、事前に知り得た情報と、実習先の特性を踏まえた実習振り分けがなされ、学生が実習の中で自己の成長を自覚できるような取り組みがなされている。</p> <p>3. 実習中に生じた問題点に関しては、その問題の根本は何かを、教職員が学生個人面談等を実施し情報を収集し、今後の具体策を考え、学生個々の状況に合わせた方法を考え実践している。</p> <p>&lt;特に優れた点&gt;</p> <p>○実習に向けた、学生個々の情報、施設の状況把握が十分できている。その上で教職員が実習目標に照らし合わせた具体的な行動ができ、教職員が日々、2年間の学びの中で、実習をどのように学生の成長にいかしてゆくかを考慮している点として評価できる。</p> <p>&lt;更なる向上を目指す点&gt; (改善を要する点)</p> <p>特に記載事項なし。</p>
--

<p>基準7 実習</p> <p>【選択2】7-(5) 実習先の指導者との連絡調整会や研究会などどのような方法、頻度で実施していますか</p>	
<p>評定</p>	<p>評価ポイント 2</p>
<p>&lt;評価する点&gt;</p> <p>1. 実習先指導者との連絡調整を毎年5月に施設種類を2つに分け、それぞれ午前と午後で半日の時間をかけて実施している。</p> <p>2. 実習指導者に対して、学生が実習後に学んだ内容、感じた事、悩んだことを発表する機会を設けている。このことにより、実習時に学生が何を学び、何に悩んでいるか等について、実習指導者自身の振り返りの場ができ、実習指導の向上を図る機会となっている。</p> <p>&lt;特に優れた点&gt;</p> <p>○実習は実習指導者の指導が重要であると意識している点。実習指導者育成は、養成校の行う重要な責務でもあることから、実習指導者を一同に集め、各々意識を共有する会が催されている。学生の状況は変化している事、学校には実習目標がありその達成のため指導内容は変化することを実践報告から指導者が自覚できるように取り組んでいる。</p> <p>&lt;更なる向上を目指す点&gt; (改善を要する点)</p> <p>○学生の変化や成長を見える工夫を、各施設の実習指導者以外にも広く行うことも重要と考える。学校では意見交換会等の機会を増やしたいという意向を持っているので、広く行う工夫として、今後の実習指導者以外の者が聞ける場を設けることを期待する。</p>	

## 基準8 リカレント教育体制

### 基準8 リカレント教育体制

#### <総 評>

1. 学生が卒業生と関わる場を設けて、介護福祉士として働く将来像が具体的に見えるような工夫が行えている。
2. 卒業生の勤務実績による職場情報を学生にも共有してもらい、地域で長く働く工夫、離職予防につなげている。

### 基準8 リカレント教育体制

【必須】8-1 介護福祉士としての資質向上の責務や継続的な学習の必要性を、在学中にどのように教育していますか。

評 定

評価ポイント 3

#### <評価する点>

1. 卒業試験終了後に、長野県介護福祉士会所属の卒業生に、介護福祉士会の活動内容、介護福祉士の主催する各種研修会等に関して説明の場を設けている。実際に活動を行う介護福祉士に説明してもらっていることで、学生は就職後学び場がどのような状況なのかを確認できている。
2. 卒業生が学校に戻り、学生に直接かかわる場、非常勤講師として学生に教育する場を設けている。

#### <特に優れた点>

- 卒業時に長野県介護福祉士会と連携する場を設けている。学生に対するモチベーション教育の場になっている事として評価できる上に、日本介護福祉士会会員にも「人材育成」は会員一人ひとりが行うことが必要であるという意識付けにもなっている点。
- 卒業生が学校に戻ってきた際に、在校生と関わる時間を確保している点。学生は卒業生から介護現場の話聞き、考える場にもなっている。

#### <更なる向上を目指す点> (改善を要する点)

- 介護福祉士会と連携して、今後の方策を確立していくためにも、卒業時の介護福祉士会入会率の向上を目指す工夫が必要。

基準8 リカレント教育体制	
【選択1】8－(2)卒業後の就労意欲の維持向上(離職防止)のために、どのような取り組みを行っていますか	
評定	評価ポイント 2
<p>&lt;評価する点&gt;</p> <p>1. 就職指導において、卒業生の就労実績もふまえ、施設のキャリアアップの仕組み、教育内容が確立している施設を推薦しつつ、学生自身が施設を確認して就職を決定できるようにしている。最初の就職先に関して、学生は情報を読み取る力が弱くそれが早期離職に繋がることの経験を教育にいかしている。</p> <p>&lt;特に優れた点&gt;</p> <p>○教職員と卒業生の信頼関係の構築ができていることで、施設内情報もリアルタイムで確認できている。それら施設情報をふまえた上での就職指導ができていることで、早期離職防止に貢献できている。</p> <p>&lt;更なる向上を目指す点&gt;(改善を要する点)</p> <p>○教職員が得た職場環境等の情報を、施設管理者にも反映できる場があれば、施設全体の評価が向上し、学生の就職場所選択の幅が広がるのではないかと。施設の環境改善に協力しようという意識を持っているので、具体的な協力体制を構築する努力を期待する。</p>	

基準8 リカレント教育体制	
【選択2】8－(5)卒業生と在学生の協力体制をどのように築いていますか	
評定	評価ポイント 2
<p>&lt;評価する点&gt;</p> <p>1. 非常勤講師として、卒業生の雇用実績がある。卒業生を雇用することで、学生に対しては、介護現場以外で介護福祉士資格をいかすことができることを、体験的に学ぶことができ、将来のキャリアアップへの思考に貢献している。</p> <p>2. 卒業生に対して、就職後6か月経過時点での就労実績等の調査用紙を配布し、教職員がその状況に対して相談助言を行っている。また、教職員は同じような悩みを同級生で共有できるような動きをし、自分たちの問題解決能力の向上に努めている。</p> <p>&lt;特に優れた点&gt;</p> <p>○卒業生の就労実績調査を行う際には、年1回実施される文化祭の場を、卒業アルバム配布の場としても活用している。卒業生は在校生の姿から自分の学生時代を振り返ることができる場、自分の成長を実感する場となっている。</p> <p>&lt;更なる向上を目指す点&gt;(改善を要する点)</p> <p>○卒業後も新しい情報の提供や就職面などで長期間のサポートを充実・継続できるための工夫を期待したい。</p>	

## 基準9 学生の募集と受け入れ

基準9 学生の募集と受け入れ
<p>&lt;総 評&gt;</p> <p>1. 高等学校や入学を希望する学生及び保護者に対して、必要な情報を、適宜発信することができている。特に高校等に関しては、広報担当者のみではなく、入学実績のある学生を知る教員も高校訪問を行い、入学後の学生の状況を高校担任等に伝えている。そのことは、入学を推薦した高校教員に安心を与えることに繋がっている。</p> <p>2. 入学選考に関する実績を、授業改善等に活用している。特に高校在学時の欠席数、入学選考時の点数、面接評価と現在の出席状況等を数値化し継続的に学生を見ている。そのことは、問題点の把握、推測、改善内容の把握に活用できている。</p>

基準9 学生の募集と受け入れ	
【必須】9-2 学生募集を適切かつ効果的に行っていますか	
評 定	評価ポイント 2
<p>&lt;評価する点&gt;</p> <p>1. オープンキャンパスの実施が年間を通して幅広く実施されている。さらに平日学校説明会が実施されているので、幅広い層に対して、広報活動が行われている。また地域性をふまえ、無料送迎バスの運行も組み入れ、学校に来やすい環境を整備している。</p> <p>2. 「来て、見て、感じて！」をキャッチコピーとして、ホームページを活用して学生募集が行われている。</p> <p>&lt;特に優れた点&gt;</p> <p>○平日学校説明会が実施されていることで、幅広い層に対しての広報活動が実施されている。現状としては高卒学生の入学がほとんどであるが、幅広い対象者の入学が想定できているといえる。</p> <p>○ホームページが充実しており、当日参加予定の学生が知りたいであろう内容を網羅している。</p> <p>参加者は自分が参加した場合のシミュレーションが可能になっている。</p> <p>○保護者への情報提供が行われている。参加者の視点と異なり、保護者は入学後の学費、生活等への不安を感じていることが多いので、保護者の質問に対して細やかに対応できている。</p> <p>○オープンキャンパス時には、在校生ボランティアを活用して、学校生活に対する参加者及び保護者への質問に答える場を作っている。</p> <p>&lt;更なる向上を目指す点&gt; (改善を要する点)</p> <p>○学生募集のためのオープンキャンパス実施時の、振り返りは何で行うのか、評価の視点が必要ではないか。時期、内容、参加者状況等数値化できる点は、数値化することで、</p>	

今後のオープンキャンパス実施に反映することが期待できる。

基準9 学生の募集と受け入れ

【選択1】9-(1) 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいますか

評 定

評価ポイント 2

<評価する点>

1. 高等学校等に対して、必要な情報を、適宜発信することができている。特に高校等に関しては、広報担当者のみではなく、入学実績のある学生を知る教員も高校訪問を行い、入学後の学生の状況を高校担任等に伝えている。そのことは、入学を推薦した高校教員に安心を与えることに繋がり、次の入学希望者のための広報活動に繋がっている。
2. ホームページが充実しており、入学後の自分、卒業後の自分をシミュレーションしやすくなっている。
3. 情報公開の場において、第三者の評価も公開されて、保護者、介護業界関係者等幅広い層が学校教育内容を確認できるようになっている。

<特に優れた点>

- 高校との連携において、実際に授業を実施している教職員が高校訪問をしている点が評価される。高校教員が同じ教育者として、卒業生の変化を知る事は、介護教育の充実度を伝える良い機会になっているといえる。
- ホームページの充実が挙げられる。知りたい者が、知りたい事を、いつでも知れるように工夫されている。学園全体としてホームページは充実しており、形式はほぼ同じであるが、その内容は学校の特徴が出ているといえる。

<更なる向上を目指す点> (改善を要する点)

- 高校教員との連携は充実している優れた内容ではあるが、そこをさらに掘り下げ、介護福祉士教育の質と就職先での介護福祉士の働きがい、広く伝える工夫を期待する。高校教員が持っているといわれる介護福祉士養成校入学に対する偏見を払拭できると期待する。

基準9 学生の募集と受け入れ

【選択2】9-(4) 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用していますか

評 定

評価ポイント 2

<評価する点>

1. 入学選考に関するデータ・実績を、授業改善等に活用している。  
特に高校在学時の欠席数、入学選考時の点数、面接評価と現在の出席状況等を数値化し

継続的に学生を把握している。個々の学生の問題点の把握、推測や改善内容の把握に活用できている。

<特に優れた点>

○入学選考に関するデータ・実績を、数値化し継続的に学生を把握し指導しているので学生の理解度の把握、推測、授業の進め方や指導方法の改善等に活用されている。

<更なる向上を目指す点> (改善を要する点)

○数値化されたデータを教員間でどのように活用しているのかを、言語化することで、教員の人材育成に活用できると期待する。

### 基準10 内部質保証

#### 基準10 内部質保証

<総 評>

1. 内部質保証のために、情報を積極的に一般に公開している。これらは当該校に入学を希望する高校生やその保護者にとって、どのような学校であるのかを知るためには非常に重要である。

2. 当該モデル校が介護実習を依頼している機関・施設・事業者等や、職員を求めている地域の介護関連事業者等に対しての自校の情報提供であるともいえる。

3. 法人および学校運営の透明性を確保し、一般に公開することで外部からの客観的な評価を得ることができる取り組みであることから、これが内部質保証につながることは疑いのないところである。

ただし、学校のいろいろな側面の評価を考える場合には、これまでの取り組みにさらに重層的な評価を加えることも必要であると思われる。

#### 基準10 内部質保証

【必須】10-4 教育情報をどのように公開していますか

評 定	評価ポイント 3
-----	----------

<評価する点>

1. 学校のホームページにて、各種情報が詳細に公開されている。

2. 現在の学生数、卒業率、就職率等の詳細を公開することについては、法人・学校の広報戦略として議論の分かれるところである。

しかしながら、入学希望者や関連事業者（介護関連施設・事業所等）への情報提供という意味では、積極的な開示が望まれる。

当該モデル校においては、生徒実員・就職率・中退率を明確に公開している。

<特に優れた点>

<p>○単なる学校の基本情報に留まらず、「業界で活躍する卒業生の声」「業界別就職実績」「就職内定 学生たちの声」が紹介されている。</p> <p>これらによって、卒業生の多くが地元あるいは周辺の地域に就職している様子が見取れる。当該モデル校がいかに地域の介護業界に人材を輩出しているかを示す重要な資料である。</p> <p>○上述資料のうち、特に「就職内定 学生たちの声」は、多くの学生の自筆による文書と顔写真から構成されている。これから介護福祉士を目指す高校生等に対するメッセージとして、親和的で好感が持てる。教育に関するすべての内容を表すものでないとしても、当該モデル校の教育の一端をうかがわせるものである。</p> <p>&lt;更なる向上を目指す点&gt;（改善を要する点）</p> <p>特に記載事項なし</p>
---

基準10 内部質保証	
【選択1】10-1 自己点検、評価をどのように行っていますか	
評 定	評価ポイント 2
<p>&lt;評価する点&gt;</p> <p>1. 法人で使用している自己評価表を用いて、4段階評価を行っている。</p> <p>2. 自己点検・評価が、客観的な指標により実施されている。</p> <p>3. 4名の評価者で評価を実施し、その結果の平均値を算出したうえで検討会議を行い、最終的に決定した評価結果をホームページで一般に公開している。</p> <p>&lt;特に優れた点&gt;</p> <p>特に記載事項なし</p> <p>&lt;更なる向上を目指す点&gt;（改善を要する点）</p> <p>○客観性を担保するため、より信頼性のある評価とするために、時々はおブザーバーで施設管理者・卒業した施設職員や非常勤講師の参加など広く意見を聞くことが望ましい。</p>	



基準10 内部質保証	
【選択2】10-2 学校関係者評価をどのように行っていますか	
評 定	評価ポイント 2
<p>&lt;評価する点&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学校関係者評価を行うために、外部の福祉・医療関係者等を委員として、学校関係者評価委員会を実施している。</li> <li>2. 学校関係者評価委員会の結果をホームページに公開している。</li> <li>3. 学校関係者評価委員会には法人の理事長が出席し、外部評価委員の意見を直接聞いている。そのことによって、外部委員の意見が反映しやすくなっている。また、理事長にとっても現場を把握する機会となっている。</li> </ol> <p>&lt;特に優れた点&gt;</p> <p>特に記載事項なし</p> <p>&lt;更なる向上を目指す点&gt;（改善を要する点）</p> <p>○学校評価委員のメンバーに、他の介護福祉士養成校の関係者や現場職員などを加える等検討がされている。そのような改善が、さらに客観的で信頼性のある評価につながると考える。</p>	

専修学校職業実践専門課程（介護分野）

第三者評価試行

自己点検・自己評価報告書

学校法人 電波学園

あいち福祉医療専門学校

平成28年10月17日

# 目次

## 1.学校現況票

## 2.評価項目別取り組み状況

基準 1 教育理念

基準 2 学校運営

基準 3 教育内容

基準 4 教育方法

基準 5 教員の資質向上

基準 6 やりがい・キャリア形成等を醸成する教育

基準 7 実 習

基準 8 リカレント教育体制

基準 9 学生の募集と受け入れ

基準 10 内部質保証

## 1. 学校現況票

### (1) 養成施設名・設置者・本部の所在地・開講年度

養成施設名	学校法人電波学園 あいち福祉医療専門学校
設置者	理事長 小川 明治
本部の所在地	456-0031 愛知県名古屋市中熱田区神宮 4-7-21
開講年度	平成 14 年度

### (2) 課程・学科の構成

課程名	学科名	開講年度	修業年限	入学定員	収容定員
教育・社会 福祉専門課 程  (職業実践 専門課程)	介護福祉学科	平成 14 年度	2 年	80 名	160 名
	合 計				

### (3) 教育課程

課程名	学科名	修了要件単位数	終了科目 (課目) の登録期間 および単位数	教職員組織	教員基準数	専任教員数	兼任教員数	学習環境等	
教育・社会 福祉専門課 程 (昼間部)  (職業実践 専門課程)	介護福祉学科	1,980 時間		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校長</li> <li>・ 教務部長</li> <li>・ 教務科長</li> <li>・ 教務主任</li> <li>・ 事務長</li> <li>・ 学科主任</li> <li>・ 学科専任教員</li> <li>・ 事務職員</li> <li>・ 非常勤講師</li> </ul>	6	6	16		

(4) 施設の概要

①校地面積

基準面積	総面積	専用面積	共有面積
1997.30 m <sup>2</sup>	1997.30 m <sup>2</sup> (うち借用 0 m <sup>2</sup> )	1997.30 m <sup>2</sup> (うち借用 0 m <sup>2</sup> )	0 m <sup>2</sup> (うち借用 0 m <sup>2</sup> )

内訳

	総面積	専用	共用	備考
校舎敷地面積	5537.00 m <sup>2</sup>	776.51 m <sup>2</sup>	948.35 m <sup>2</sup>	
運動場	m <sup>2</sup>	m <sup>2</sup>	m <sup>2</sup>	
その他	m <sup>2</sup>	m <sup>2</sup>	m <sup>2</sup>	

②校舎面積

総面積	専用	共用	備考
5537.00 m <sup>2</sup>	776.51 m <sup>2</sup>	948.35 m <sup>2</sup>	

内訳

教室名称	室数	面積	専用	共用	備考
普通教室	4	385.5 m <sup>2</sup>	385.5 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	
介護実習室	1	134.17 m <sup>2</sup>	134.17 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	
介護実習室<和室>	1	16.57 m <sup>2</sup>	16.57 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	
入浴実習室	1	112.7 m <sup>2</sup>	112.7 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	
家政実習室	1	127.57 m <sup>2</sup>	127.57 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	
更衣室(3) <女子>	1	32.94 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	32.94 m <sup>2</sup>	
ロッカー室 <男子>	1	13.68 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	13.68 m <sup>2</sup>	
ロッカー室 <男子>	1	13.68 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	13.68 m <sup>2</sup>	
実習指導室	1	139.62 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	139.62 m <sup>2</sup>	
演習室 1	1	32.94 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	32.94 m <sup>2</sup>	

演習室 2	1	45.57 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	45.57 m <sup>2</sup>	
図書室	1	91.75 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	91.75 m <sup>2</sup>	
パソコン実習室	1	121.22 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	121.22 m <sup>2</sup>	
普通教室 1～2	2	183.5 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	183.5 m <sup>2</sup>	
学生ラウンジ	1	46.89 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	46.89 m <sup>2</sup>	
職員室・事務室	1	139.62 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	139.62 m <sup>2</sup>	
校長室・応接室	1	35.19 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	35.19 m <sup>2</sup>	
学生相談室&就職指導室	1	18.81 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	18.81 m <sup>2</sup>	
保健室	1	32.94 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	32.94 m <sup>2</sup>	

③図書館・図書資料など

閲覧座席数	36席
図書館開館時間	12時40分～13時30分 15時10分～17時20分 ただし土曜日は9時30分～14時20分の 利用要望可
図書冊数	4,550冊
学術雑誌冊数	36冊
電子ジャーナル種数	メディカルオンラインの利用 933種
視聴覚・資料等点数	146 (VHS・DVD) 点

④その他 (附属施設など)

## 2. 評価項目別取り組み状況

### 基準1 教育理念

#### 基準1 教育理念

##### 《概略の記述》 (500字以内)

講義概要、学生便覧、学年暦、実習の手引きを年次作成し、学生に配布。学生便覧および講義概要で、「学園建学の精神」「学園訓」「教科目標」「教科課題」を明確かつ分かりやすく示し、教育指針としている。教科目標、教科課題は、社会の変化や実状に合わせ求められる人材像を教育課程編成委員会、学校評価委員会で情報提供を受け議論を重ね、学科内において必要に応じた見直し、修正をおこなっている。また、学園建学の精神である「社会から喜ばれる知識と技術をもち歓迎される人柄を兼ね備えた人材育成」を達成すべく、介護実習後の学生アンケートをもとに実習指導者打ち合わせ会議、実習指導連携研修会を実施し、介護現場からのニーズに適応できる教育を実践している。

##### ＜参考資料＞

- |                   |                 |
|-------------------|-----------------|
| 1) 「学生便覧」         | 2) 「講義概要」       |
| 3) 「教育課程編成委員会議事録」 | 4) 「学校評価委員会議事録」 |

#### 基準1 教育理念

【必須】1-1 社会のニーズなどを踏まえた将来構想を持っていますか

##### 《基本的な観点ごとの分析》 (500字以内)

学園年度初め式(4月)に理事長から年度目標、学園建学の精神に基づく人材像の発信があり、これを基に学校目標を設定している。社会のニーズを踏まえた将来構想については、学園将来構想委員会(月1回)に学園各校から委員が選出され具体的取り組みが検討される。学科の構想についても校長の発信する目標に呼応し、学園将来構想委員会によって具体的プランニングが個別管理表として作成され、実施している。

##### ＜特に優れた点＞

学科のみでなく、学校単位で個別管理表を作成し、学園全体で将来構想について検討している。また、学園合同会議によって、学園各校(12校)の年度目標や構想を共有している。

##### ＜更なる向上を目指す点＞ (改善を要する点)

出向相談会や模擬授業を含む高校への出前授業をはじめ中学生の総合学習見学会、また公開講座など幅広い世代に介護福祉士の役割を知る機会提供とお仕着せに陥らないその方策の探求。

《根拠となる資料・データ》

- |                                |              |
|--------------------------------|--------------|
| 1) 「学校目標／評価」                   | 2) 「個別管理表」   |
| 3) 「なるには講座資料 (愛知サマーセミナー 持参資料)」 | 4) 「出前講座チラシ」 |

基準1 教育理念

【選択1】1- (2) 理念・目的育成人材像は定められていますか

《基本的な観点ごとの分析》 (500字以内)

教員への周知は、学園年度初め式 (4月) に理事長から年度目標、学園建学の精神に基づく人材像等の発信があり、後日、あらためて学園エクストラネットを通じ、全職員へ再周知される。この目標をもとに、本校校長から学校目標が設定され、学校職員会議 (4月) に周知される。また講義概要、学生便覧、学年暦、実習の手引きを毎年作成し配布している。次に、学科における年度目標を設定し、HR等を通じて学生に周知している。

＜特に優れた点＞

学園が掲げる理念・目的育成人材像が年度初め式に周知確認されるのみでなく、エクストラネットを活用し再度全教職員に発信されている。また、学園各校との共有の場として、学園合同会議 (4月) を行い、学校を超えた連携を図っている。

＜更なる向上を目指す点＞ (改善を要する点)

- 1) 学習能力において多様な分布をクラス内教育、学習指導上の前提にとらえた効果的な介護福祉士育成の探求。
- 2) スーパーバイザー、マネジメントリーダー教育にはいかに取り組むかを課題とする。  
(取り組みにおいては2年間の介護福祉士教育のもとそれらの基礎的教育を構造化することが当面課題と位置づけ、様々な研修機会を生かすとする。

《根拠となる資料・データ》

- |                      |                   |
|----------------------|-------------------|
| 1) 「年度初め式資料」         | 2) 「学校目標／評価」      |
| 3) 「学園合同会議資料」        | 4) 「講義概要」         |
| 5) 「学生便覧」            | 6) 「学年暦」          |
| 7) 「実習の手引き」          | 8) 「教育課程編成委員会議事録」 |
| 9) 「学校評価委員会議事録」      | 10) 「実習指導者会議資料」   |
| 11) 「連携を高めるための研修会資料」 |                   |

基準1 教育理念

【選択2】1- (3) 育成人材像は専門分野に関連する業界などの人材ニーズに適合していますか

《基本的な観点ごとの分析》 (500字以内)

講義概要、学生便覧、学年暦、実習の手引きを毎年作成し、年度初めに配布。HR、介護総合演習に活用し説明している。



教科目標、教科課題については、社会の変化や求められる人材像を実状に合わせ取り入れるため、教育課程編成委員会、学校評価委員会をそれぞれ年間 2 回および 1 回開催し、提言を受けて議論のうえ学科において必要に応じた見直し、修正し講義概要に反映している。

＜特に優れた点＞

学園建学の精神である「社会から喜ばれる知識と技術をもち歓迎される人柄を兼ね備えた人材育成」を達成するため、実習指導者会議を年間 3 回開催し、実状に合わせた人材育成を協議している。また、卒業生、指導者、学生、教員の 4 者による研修会開催や、実習後の学生アンケート結果をもとに、社会のニーズに適した方針を共有している。

＜更なる向上を目指す点＞（改善を要する点）

実習施設と本校の教育理念の共有

《根拠となる資料・データ》

- |                   |                     |
|-------------------|---------------------|
| 1) 「講義概要」         | 2) 「学生便覧」           |
| 3) 「学年暦」          | 4) 「実習の手引き」         |
| 5) 「教育課程編成委員会議事録」 | 6) 「学校評価委員会議事録」     |
| 7) 「実習指導者会議資料」    | 8) 「連携を高めるための研修会資料」 |

## 基準 2 学校運営

### 基準 2 学校運営

《概略の記述》 (500 字以内)

- 1) 本学園の建学の精神「社会から喜ばれる知識と技術を持ち、歓迎される人柄を兼ね備えた人材を育成し、英知と勤勉な国民性を高め、科学技術・文化の発展に貢献する」～ study-smile-kindly から well-being ～を学校経営理念に
  - A) 教職員の意識、行動のさらなる活性化
  - B) 社会貢献の為の新たな事業の検討
  - C) 国際化の取り組み
  - D) 広報力の強化
  - E) 経営の効率化
  - F) 目標・プロセスの見える化促進を掲げ、自己評価課題とし、教職員個々には年間を通しての教育活動、業務行動を教員活動の自己点検表を用いて自己確認し、翌年度の目標シートに反映させる。理念等は全教職員および全学生に学生便覧をもって周知し、学外に向けてはホームページ、学校案内にメッセージとして発信している。
- 2) エクストラネット／イントラネットシステムを利用した情報の共有、活用を促進、定着を図っている。

- 3) 学園目標に沿った国家試験対策方針は学科内で合意一致がある。
- 4) 人事考課は教育委員会の方法を基準に育成型の評価として、管理監督者による目標設定、達成度評価を重点化した新人事制度を平成24年度から実施している。合わせて管理監督者研修を学園規模で開催している。
- 賃金制度は「給与規程」および同「施行規則」等に整備されている。
- なお、平成23年度から新人事制度と連動した「新給与規程」を適用している。

<参考資料>

- 1) 「学校目標／評価」
- 2) 「個別管理表」
- 3) 「就業規則」
- 4) 「組織図・分掌表」
- 5) 学園エクストラネット・学内イントラネットシステム」

基準2 学校運営

【必須】2-2 理念などを達成するための事業計画を定めていますか

《基本的な観点ごとの分析》(500字以内)

- 1) 個別管理表による進捗把握を可能にしているものの、計画の妥当性や担当する者への助力体制が整え切れていない課題がある。
- 2) 目標設定を個々の勤務評定(目標達成度管理)に連動させて取り組むとしているが、十分な組織体系の一つとし難しい現状がある。したがって学校目標／評価の各項目に対し事業計画としては各項目対応型であり、なかには計画立案が具体化していないケースがある。

<特に優れた点>

- 1) 学園規模の組織的取り組みと実行が広報活動、国際化活動、実習機器・修繕などの予算化行動にある。
- 2) 中長期目標は、学園将来構想委員会(月1回)に学園各校から委員が選出され具体的取り組みが検討される。また、学園合同会議によって、学園各校(12校)の年度目標や構想を共有している。

<更なる向上を目指す点>(改善を要する点)

個別管理表の共有が不十分。学校目標／評価に沿った学科行動、教員行動の集約表という位置づけから、個別管理表に基づいた年間活動へ活用する検討が必要ととらえる。

《根拠となる資料・データ》

- 1) 「学校目標／評価」
- 2) 「学園合同会議資料」
- 3) 「個別管理表」
- 4) 「予算編成スケジュール、各校協議会スケジュール」

## 基準 2 学校運営

### 【選択 1】2- (1) 理念に沿った運営方針を定めていますか

#### 《基本的な観点ごとの分析》（500 字以内）

学校目標／評価として明確化している。朝礼を週一回の連絡会議として開催し、同時に週一回学校運営会議を実施し、学生個々への教育指導、生活指導を問題共有とともに協議検討することは学校教育理念の well-being の追及を実践するものである。学校の理念は一貫して以下のとおり明確にしている。

1. 本学園の建学の精神「社会から喜ばれる知識と技術を持ち、歓迎される人柄を兼ね備えた人材を育成し、英知と勤勉な国民性を高め、科学技術・文化の発展に貢献する」
2. 学生一人一人のニーズを満足させると共に、質の高い医療福祉従事者を育成する。
3. これにより「well-being」の実現を目指す。また、育成すべき人材像として「専門性」「協調性」「信頼性」を掲げ、教員と学生の距離感が近いという校風の上に、高度で新たな専門知識や技術はじめ、幅広い教養と「こころ」の教育を重視している。

この理念等は全教職員および全学生に学生便覧をもって周知し、学外に向けてはホームページ、学校案内にメッセージとして発信している。

#### ＜特に優れた点＞

文書主義に頼らざるを得ないのはやむを得ないことである一方、週一回の定期的な学校運営会議は教育指導や学生指導においてプロセスを重視するものであり、教員の在り方を追究するものとなっていること。

#### ＜更なる向上を目指す点＞（改善を要する点）

- 1) 学校目標の構造化として中長期目標、翌年度年間目標を定めるが個々教員活動レベルにまで浸透させ体系化へ活用されていない。
- 2) 学校目標／評価の項目ごとの目標設定階層化を指針としてまとめた（平成 20 年度）が、組織的、体系的な取り組みの階層化が不徹底。階層化の吟味から始めて常に見直す体制作りを課題とする。

#### 《根拠となる資料・データ》

- 1) 「学生便覧」
- 2) 「ホームページコピー」
- 3) 「学校目標／評価」
- 4) 「個別管理表」
- 5) 「学校目標の構造化」

## 基準 2 学校運営

### 【選択 2】2- (3) 人事・給与に関する制度を整備していますか

#### 《基本的な観点ごとの分析》（500 字以内）

- 1) 人事、給与に関する制度整備は、就業規則、給与規定、給与規定施行規則、勤務成績の評定に関する規定など（就業規則等）に明文化にある。
- 2) 学園教職員研修（年 1 回、12 月）がおおよそ 15 テーマで開催があり、全教職員が参加

<p>3) 学内研修を年に4～5回実施。</p> <p>&lt;特に優れた点&gt;</p> <p>1) 教員活動の自己点検表による自己確認から目標シート作成</p> <p>2) 年3回の所属上長による目標設定面談、達成度（前期・後期）面談を実施。</p> <p>3) 2) の面談前の自己評価の実施。</p> <p>4) 勤務評定の所属長によるフィードバック面談。</p> <p>5) 勤務評価の都度問題点、変更要望点がある場合評価制度委員会を学園レベルで招集する。</p> <p>&lt;更なる向上を目指す点&gt;（改善を要する点）</p> <p>個々教員にとって経験年数と共に教育力、教員力が向上し実践できるしくみづくり（まずは意識下の確認と徹底）</p> <p>《根拠となる資料・データ》</p> <p>1) 「就業規則」（エクストラネットに公開）」</p> <p>2) 「勤務評価制度（エクストラネットに公開）」</p> <p>3) 「実績（目標達成度評価）シート（エクストラネットからダウンロード）」</p>
---

### 基準3 教育内容

<p>基準3 教育内容</p> <p>《概略の記述》（500字以内）</p> <p>人権や尊厳などの価値に関する授業は「介護概論」「人間の尊厳と自立」を中心に各教科で展開している。介護福祉士が狭い経験や専門性だけに依拠せず、広く人間をとらえ、謙虚に学び続ける基礎とする。そして、そのうえで“福祉の目”を育てるために、人間の尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性、介護における倫理的課題について考えさせる。認知症の理解では、知識先行とならぬよう、実習と講義演習を調整し、体験が先行できるカリキュラムとなっている。また医学的側面からみた認知症の基礎を理解したうえで、認知症支援のありかた、方法を認知症支援（介護）の理念を基に理解する。ターミナルケアにおいては、「尊厳を持った人としてかかわることを理解する事ができる」を目標に、終末期における尊厳を持った人としてかかわる介護の知識・技術を身につける事を展開している。</p>
--

<p>&lt;参考資料&gt;</p> <p>1) 「講義概要」</p> <p>2) 「時間割表」</p>
---

<p>基準3 教育内容</p> <p>【必須】3-1 人権や尊厳などの価値に関する授業を行っていますか</p>	
<p>《基本的な観点ごとの分析》（500字以内）</p> <p>介護福祉士が狭い経験や専門性のみならず、広く人間をとらえ、謙虚に学び続ける基礎としている。そのうえに“福祉の目”を育てるために、人間の尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性、介護における倫理的課題について考えさせている。</p> <p>「人間とは」の理解から始まり福祉に関わることの意味と意義を多様な角度から考え、授業を通して、考えることの楽しさを知ることから、多様な価値観を持つことができる柔軟な思考ができるよう努めている。</p> <p>介護の対象である「人間」と「生活」について、その本質を見つめ、考察できるようになることで、介護福祉士の役割と機能を理解し、介護、福祉分野の範疇にとどまらず、「人間が生きて生活する」という基本的な意味と仕組みを理解し、人間・社会・健康など包括的、総体的に捉えることができるように幅広い知識と解釈を提供している。また「生きがいのある生活」とは何かを理解し、その生活の経営と管理について考え、対象並びに介護者の安全に配慮した介護実践の方法を習得する。</p> <p>＜特に優れた点＞</p> <p>複数科目、複数教員から人間の尊厳や価値に関する教授を行うことで、偏った考え方にならないようにしている。</p> <p>＜更なる向上を目指す点＞（改善を要する点）</p> <p>複数教員が発信したのちの学生理解の確認を行い、全体での理解度を高めること。</p> <p>《根拠となる資料・データ》</p> <p>1) 「講義概要」</p> <p>2) 「時間割表」</p>	

<p>基準3 教育内容</p> <p>【選択1】3・(5) 認知症のある人に対する介護のための基本的知識・技術を習得させるために、どのような授業を行っていますか</p>	
<p>《基本的な観点ごとの分析》（500字以内）</p> <p>疾患や症状に固執しないよう、1年次はグループホームへ出かける前に、人を意識し、尊厳を深く考えられる講義や映像による授業を展開。その後、医学的・心理的・社会的など多角的に理解できるよう基礎知識を講義、演習で行っている。専門的な対応の手法としては、パーソン・センタード・ケア、回想法、リアリティーオリエンテーションを通常授業で、バリデーションを特別講義で伝えている。</p> <p>＜特に優れた点＞</p> <p>パーソン・センタード・ケアは、DCM アドバンスマッパー・認知症介護指導者が、バリデーションは、バリデーション講師が実践的指導を行い学生の理解を深めている。ま</p>	

た、熱田区地域包括ケア推進会議認知症専門部会の協力により、本年度は、はいかいお帰り支援事業へのボランティア参加も実施した。

＜更なる向上を目指す点＞（改善を要する点）

はいかいお帰り支援事業へのボランティア参加は、任意参加であったこと、実習期間と重なったこともあり、参加者数名であったため、次年度は日程調整により多くの参加により、地域で暮らす意義も深めたい。

《根拠となる資料・データ》

- 1) 「講義概要」
- 2) 「認知症の理解 DVD」
- 3) 「はいかいお帰り支援事業パンフレット」
- 4) 「平成 27 年度時間割調整表」
- 5) 「講義資料」

### 基準 3 教育内容

【選択 2】3-（6）ターミナルケアに必要な知識・技術を習得させるために、どのような授業を行っていますか

《基本的な観点ごとの分析》（500 字以内）

安楽死、尊厳死についてグループディスカッションを行っている。ディスカッションを行うことで自身の考えを見つめ直すきっかけをつくり利用者の気持ちを尊重する授業に取り組んでいる。キューブラー・ロスが提唱している「死の5段階」からどのように気持ちの変化があるのか展開している。また家族の支援「グリーンケア」について、「悲嘆のプロセス」を家族側の視点からプロセスを学ぶ授業を行っている。また終末期の利用者に対してのコミュニケーション方法として DVD 教材を取り入れている。

＜特に優れた点＞

「エンディングノート」 についての授業を新たに取り入れ、実際にノートを見ながら授業を進めている。エンディングノートに込めた想いを描いたドキュメンタリー映画を教材とし、終末期ケアを考える良いきっかけになるのではないかと考えている。

＜更なる向上を目指す点＞（改善を要する点）

知識、経験、グループワーク、映像教材を上手く授業に組み込むことで理解を深める。

《根拠となる資料・データ》

- 1) 「ドキュメンタリー映画（エンディングノート）」
- 2) 「終末期のケア～いのちを支える援助的コミュニケーション～」
- 3) 「キューブラーロス死の受容過程」
- 4) 「アルフォンス・デーケン悲嘆 1 2 過程」
- 5) 「DVD教材（エンディングノート）を観ての感想」

#### 基準4 教育方法

##### 基準4 教育方法

###### 《概略の記述》 (500字以内)

ディプロマポリシーとしては、学生便覧、講義概要、実習の手引きにより到達目標を示している。また入学時オリエンテーションで周知している。

学生のアクティブラーニングは、介護過程、介護総合演習を中心に展開し、学生が主体的に取り組める授業展開を実施している。実習では、1年次に通所系サービス、グループホームでの実習をとり入れ、在宅支援を体験している。また、熱田区地域包括ケア推進会議認知症専門部会の取り組みを紹介、ボランティア参加を促し、施設のみでなく、地域での介護福祉士の役割を理解できる場を提供している。

###### ＜参考資料＞

- |             |           |
|-------------|-----------|
| 1) 「学生便覧」   | 2) 「講義概要」 |
| 3) 「実習の手引き」 | 4) 「卒論文集」 |
| 5) 「実習評価表」  |           |

##### 基準4 教育方法

【必須】4-1 養成校の卒業時到達目標に沿った知識・技術の修得ができ、学修成果を確認できる体制をどのように作っていますか

###### 《基本的な観点ごとの分析》 (500字以内)

学生便覧では、学園建学の精神、教育課程表、入学卒業に関する細則を、講義概要では、授業の目的・ねらい・授業全体の内容の概要・授業終了時の達成課題（到達目標）を、実習の手引きでは、教育目的・方法、介護実習の目的・目標、日本介護福祉士会倫理綱領等を示し、各教科履修認定によって学習成果を確認している。また、認知症の理解では「養成校卒業生に求められる姿」を紹介し、卒業時到達目標を示している。

###### ＜特に優れた点＞

卒業年度、実習Ⅱでは介護過程の展開を通し、これまでの学習成果を最大限活用した卒論（事例研究）を作成、発表会を行うことで学修成果と残された課題を確認している。卒論作成、発表に向けては実習時担当教員が中心となり約3か月間指導にあたることおよび発表時にディスカッション、コメントをすることで、より学修成果を確認できている。

実習評価では、項目を細分化してより成果を確認できるように変更した。

###### ＜更なる向上を目指す点＞（改善を要する点）

次年度国家試験受験導入に向けた卒論作成に関する工程の見直し。

《根拠となる資料・データ》

- |             |           |
|-------------|-----------|
| 1) 「学生便覧」   | 2) 「講義概要」 |
| 3) 「実習の手引き」 | 4) 「卒論文集」 |
| 5) 「実習評価表」  |           |

基準4 教育方法

【選択1】4- (3) それぞれの教育科目において、また、教育課程全体として、学生のアクティブラーニングはどのように行われていますか

《基本的な観点ごとの分析》 (500字以内)

介護過程では、1年次はテキスト事例を活用した介護過程の展開を、2年次は卒業生が収集した情報収集シートおよび個人が実習で収集した事例を基に介護過程の展開を主体的に行っている。介護総合演習では、コミュニケーション実習前に、高齢者世代では「どのような話題が必要となるか」などを中心に学生が情報を収集、学生が主体的に取り組める授業展開を実施している。またプロセスレコードについて、事例から振り返りの視点や活用方法をグループワークで展開。事前訪問や実習計画についても講義ではなくアクティブラーニングによって学生が主体的に検討している。

＜特に優れた点＞

介護総合演習では基本的説明は講義スタイルで指導しているが、その方法や予測される課題および解決方法等についてはアクティブラーニングによって学習している為、実習に対する内発的動機付けができています。

＜更なる向上を目指す点＞ (改善を要する点)

全ての教科において、講義の比率を見直し、学生が主体的に学ぶ機会を増加する。

《根拠となる資料・データ》

- |           |                   |
|-----------|-------------------|
| 1) 「講義概要」 | 2) 「介護総合演習ワークシート」 |
|-----------|-------------------|

基準4 教育方法

【選択2】4- (5) 養成校の教育方法の向上を目指すために、特色ある独自の取り組みとして、どのような事を行なっていますか

《基本的な観点ごとの分析》 (500字以内)

年1回法人主催の教職員研修会へ参加している。約15項目から各教職員の必要性を考慮したプログラムへの参加ができ、直接学生指導や担当授業に反映出来ている。

在宅や地域包括ケアを知るため、熱田区地域包括ケア推進会議認知症専門部会主催の事業紹介およびボランティア参加の機会を促し、本年度は7名が参加。内容紹介等を、認知症の理解で紹介し、テキストと実際を結び付けている。

介護予防に関しては、「生活支援技術 介護予防とレクリエーション」を中心に、「リハ



ビリテーション論」「介護過程」等で教授している。また、ウォークラリーや福祉産業機器展に参加することで、介護予防に実践的理解を深めている。

＜特に優れた点＞

学生の学習効果を高めるため、実習指導者打ち合わせ会、連携を高める検討会を開催し、効果的な指導方法を実習施設（介護現場）の実情も踏まえて検討している

＜更なる向上を目指す点＞（改善を要する点）

地域との連携は通所系サービス実習、グループホーム実習および地域ボランティアの斡旋、紹介のみとなっており、機会は十分とは言えない状況であり、今後、「地域」を学ぶ機会を学生、教員共に増加する。

《根拠となる資料・データ》

- |                   |                     |
|-------------------|---------------------|
| 1) 「法人主催教職員研修会資料」 | 2) 「はいかいおかえり支援事業資料」 |
| 3) 「講義概要」         | 4) 「実習の手引き」         |

## 基準5 教員の資質向上

### 基準5 教員の資質向上

《概略の記述》（500字以内）

教職員を参加させる研修は次年度の年間スケジュールを作成する際に決定している。介護福祉士養成施設協会主催の全国教職員研修会、ブロック研修会には毎年参加している。ブロック研修会においては、複数名参加できる体制をとっている。

毎年度末、各教員の希望を確認したうえで、次年度担当科目の調整やそれに伴う研修参加希望をとっている。また、可能な限り複数名の教員が授業に参加し、お互いに技術向上を目指している。週1回全職員が揃い教職員会議を行っている。高い専門知識・スキルを持つものから指導を受けられる体制では法人人事規定が見直され、にPT・PS制度を導入。ベテラン教員がクラス運営・学生指導の助言を行える仕組みを実施している。1人の教員に負担が偏らないように担任・副担任制度をとっている。

職員の自己研鑽については研修日を活用している。（学園教職員研修等）メンタルヘルス対策としては年1回ストレスチェックを行い、希望により医師の面接指導を受けることができる。

講師依頼については、愛知県介護福祉士会理事・名古屋市認知症介護指導者を受託する教員が外部講師依頼の要請を受け、介護現場で働く職員や職能団体との関与等見識を広げる機会も資質向上ととらえている。研修や外部講師に出向く機会があった場合は、学科内で報告会を開き情報を共有している。

＜参考資料＞

- |                                  |            |
|----------------------------------|------------|
| 1) 「平成26年度、27年度 全国大会報告事項」        |            |
| 2) 「平成26年度、27年度 東海北陸ブロック研修会報告事項」 | 3) 「研修参加表」 |

基準 5 教員の資質向上

【必須】 5-1 教員の外部研修・学会参加の機会をどのように確保・サポートしていますか

《基本的な観点ごとの分析》（500 字以内）

教職員を参加させる研修は次年度の年間スケジュールを作成する際に決定している。介護福祉士養成施設協会主催の全国教職員研修会、ブロック研修会には毎年参加している。

平成 26 年度：全国大会 7 名 東海北陸ブロック：2 名

平成 27 年度：全国大会 1 名 東海北陸ブロック：2 名

ブロック研修会においては、複数名参加できる体制をとっている。また、一部の教員に偏らないよう、参加表を作成し、可能な限り均等な参加を目指している。なお、研修内容を共有し、自薦を促している。（研修参加費、旅費は公費）

＜特に優れた点＞

報告事項を作成し、学内で共有している。学科内においては、情報をさらに共有し、学生指導への参考にしている。

＜更なる向上を目指す点＞（改善を要する点）

教員研修会以外の研修、学会への積極的な参加による教員の資質向上

《根拠となる資料・データ》

1) 「平成 26 年度、27 年度 全国大会報告事項」

2) 「平成 26 年度、27 年度 東海北陸ブロック研修会報告事項」

3) 「研修参加表」

基準 5 教員の資質向上

【選択 1】 5-（3）各教員の担当・適性に応じたクラス運営・学生指導のスキル・質向上をどのようにサポートしていますか

《基本的な観点ごとの分析》（500 字以内）

週 1 回全職員が揃い教職員会議を行っている。また、主任者以上で構成される学校運営会議を週 1 回開催し、各クラスの運営や学生指導の状況等を確認している。

学習指導者および学生・生徒指導において高い専門知識・スキルを持つものから指導を受けられる体制では現在、法人人事規定が見直され、PT（プロフェッショナルティーチャー）・PS（プロフェッショナルスタッフ）制度を導入し、ベテラン教職員がクラス運営・学生指導の助言を行える体制を整え実施している。組織図でも教務科との連携体制が引かれており、気軽に相談ができています。

負担軽減については 1 人の教員に負担が偏らないように 2 年生に対しては担任制度を、学校生活に不慣れな 1 年生に対しては、担任・副担任制度をとり、より細やかな指導体制をとり、複数の教員によって個別指導の方法を日々検討している。

＜特に優れた点＞

法人人事制度のPT（プロフェッショナルティーチャー）は、これまでの経験や知識を後輩に助言、サポートしていく制度であり、学科のみでなく、他学科とも連携が図りやすい。特に困難ケース等ではPT（プロフェッショナルティーチャー）のサポートによって、指導スキルの向上につながっている。

＜更なる向上を目指す点＞（改善を要する点）

PT（プロフェッショナルティーチャー）を含めた定期的な検討の場を持ち、学科教員全体のクラス運営・学生指導のスキル・質向上を目指す。

《根拠となる資料・データ》

- 1) 「職員会議議事録」
- 2) 「学校運営会議議事録」
- 3) 「平成 28 年度あいち福祉医療専門学校職務分掌表」
- 4) 「平成 28 年度あいち福祉医療専門学校組織図」

#### 基準 5 教員の資質向上

【選択 2】5・（6）教員の資質向上のために、特色ある独自の取組みとして、どのようなことを行っていますか

《基本的な観点ごとの分析》（500 字以内）

春季（3 日）、夏季（12 日）、冬季（7 日）研修日を活用している。平成 27 年度は 12 月 24 日、25 日の 2 日間、法人本部主催の教職員研修を実施。平成 28 年度は、実務者研修科スクーリング勉強会へ介護福祉学科教員全 6 名が参加。年末には昨年同様学園教職員研修会へ参加予定。メンタルヘルス対策としては年 1 回ストレスチェックを行い、希望により医師の面接指導を受けることができる。

講師依頼については、愛知県介護福祉士会理事・名古屋市認知症介護指導者を受託する教員が外部講師依頼の要請を受け、介護現場で働く職員や職能団体との関与等見識を広げる機会も資質向上ととらえている。（愛知県介護福祉士会実習指導者研修、実務者研修教員養成研修、名古屋市認知症介護実践研修）研修や外部講師に出向く機会があった場合は、学科内で報告会を開き情報を共有している。本年度の介護過程や実務者研修介護過程スクーリングでは、講師依頼時の資料や当日の受講者の意見、様子も参考にして指導案や授業構成の参考にしている。

＜特に優れた点＞

法人主催の教職員研修会は、約 15 項目から各教職員の必要性を考慮したプログラムへの参加ができ、直接学生指導や担当授業に反映出来た。

＜更なる向上を目指す点＞（改善を要する点）

講師依頼については、現在均等に機会が設けられているとは言えない状況であるが、各種団体等の関係性を構築している段階であり、今後依頼に応じて対応していく。

《根拠となる資料・データ》

- 1) 「学園就業規則」
- 2) 「平成 27 年度 学校法人電波学園 教職員研修会資料」
- 3) 「講師派遣相談事項」

## 基準 6 やりがい・キャリア形成等を醸成する教育

### 基準 6 やりがい・キャリア形成等を醸成する教育

《概略の記述》 (500 字以内)

キャリア形成の仕組みを理解させるため、「愛知県介護福祉士会」より理事を派遣依頼し、職能団体加入の必要性、介護福祉士生涯研修制度などの説明、紹介を受けている。また、認定介護福祉士についての紹介を行い、具体的なキャリア形成像を示している。働く意欲や、職業倫理・社会的使命については担任による個別面談を年度初めや実習前、就職活動時などに定期的実施している。

就職への自覚や意欲を持たせる指導は、様々な介護現場へのボランティア参加や見学・実習を通して介護分野の幅を広げることにより就職への意欲を高めている。またキャリアセンター担当教員による就職特講を年数回実施している。

接遇に対しては、挨拶の徹底を学生に周知するため、毎朝教員が玄関に立ち挨拶を行っている。全ての人々の QOL (クオリティ オブ ライフ) をサポートする製品・サービス・技術を幅広く展示紹介する福祉・健康産業展への参加や福祉就職フェアなどの紹介も実施している。

<参考資料>

- 1) 「学年暦」
- 2) 「平成 27 年度 2 年生後期時間割調整表」
- 3) 「介護福祉学科 体験入学学科説明スライド」

### 基準 6 やりがい・キャリア形成等を醸成する教育

【必須】 6-1 キャリア形成の仕組みを理解させるため、どのような取組みをしていますか

《基本的な観点ごとの分析》 (500 字以内)

キャリア形成の仕組みを理解させるため、2 年生を対象に、毎年「愛知県介護福祉士会」より理事を派遣依頼し、卒業、資格取得後、職能団体加入の必要性や介護福祉士生涯研修制度などの説明、紹介を受けている。また、認定介護福祉士について、具体的な説明を直接介護福祉士会より紹介を行い、具体的なキャリア形成像を示している。

体験入学では、養成校で学ぶ意義を介護人材確保の目指す姿を示し、富士山型への構造転換を説明している。

＜特に優れた点＞

介護福祉士資格取得で慢心することのないよう、社会から期待される将来像を教員のみでなく、職能団体や実務家教員による特別講義によって、卒業前に指導している。愛知県介護福祉士会の活動紹介も兼ね、在学中に参加できる「地域研修」なども掲示板に掲示し、学生に周知している。

＜更なる向上を目指す点＞（改善を要する点）

外部委託により学生へ周知する機会は設けているが、その機会は限られているため、今後、実施回数も含め充実する予定。

《根拠となる資料・データ》

- 1) 「学年暦」
- 2) 「平成 27 年度 2 年生後期時間割調整表」
- 3) 「介護福祉学科 体験入学学科説明スライド」

基準 6 やりがい・キャリア形成等を醸成する教育

【選択 1】 6- (2) 介護福祉士として働く意欲や、職業倫理・社会的使命についての個別面談をどのように行っていますか

《基本的な観点ごとの分析》（500 字以内）

働く意欲や、職業倫理・社会的使命については担任による個別面談を年度初めや実習前、就職活動時などに定期的実施している。また、1 年次より実習配属は就職を意識した上、学生に希望をとっている。2 年次は実習配属表に学生自ら記入できるしくみをとっている。実習直前には「実習壮行会」を実施し、校長、教務部長から職業倫理、社会的使命を意識できる講話を実施している。なお、実習の手引きに「日本介護福祉士会倫理綱領」を掲載し、実習ごとに介護総合演習で確認している。

＜特に優れた点＞

以前は実習配属を教員により通勤経路を加味し決定していたが、個別面談によって配属施設を希望する学生が多かったため、学生自らが事前に調査した上、自主的に決定している。なお、実習施設は、本校を拠点に名古屋市内を中心とし、可能な限り卒業生が就職している施設を選定し、実習生が直接卒業生より卒業後の現状や様子が確認できることを期待している。

＜更なる向上を目指す点＞（改善を要する点）

実習施設との連携をさらに強化し、学生の就労意欲向上や目標を明確に見出す指導を実施する。

《根拠となる資料・データ》

- 1) 「学生調書」
- 2) 「実習配属表」
- 3) 「時間割調整表」
- 4) 「実習のてびき」

基準 6 やりがい・キャリア形成等を醸成する教育

【選択 2】 6- (3) 就職への自覚や意欲を持たせる指導をどのように行っていますか

《基本的な観点ごとの分析》 (500 字以内)

1 年次より様々な介護現場や地域へのボランティア参加、見学、実習を通して介護分野の幅を広げることにより就職への意欲を更に高めている。またキャリアセンター担当教員による就職特講を年数回 2 年次前期に実施している。

学生が、実習へ参加した際に接遇面で指導を受け、実習施設や介護に対して否定的な感情をできるだけ受けないよう、基本的な接遇に対して、「挨拶」を学生とともに徹底するため、毎朝教員が玄関に立ち挨拶を行っている。また、すれ違う際は、必ず声を掛けることを徹底している。全ての人々の QOL (クオリティ オブ ライフ) をサポートする製品・サービス・技術を幅広く展示紹介する福祉・健康産業展への参加や福祉就職フェアなどの紹介も実施し、学生の就職に対する視野、選択肢を増やす取り組みを行っている。

＜特に優れた点＞

1 年次のボランティア参加は全学生が参加しているが、ボランティア先はほとんどが本校実習先となっている。そのためイベント等の手伝いのみで終わらず、以降の実習や就職を意識した関わりをボランティア先の職員が行っている。本年度は、熱田区生き生き支援センター主催の「はいかいお帰り支援事業」にも参加しており、施設を始めとした事業所のみでなく、地域での認知症普及活動にも参加している。

＜更なる向上を目指す点＞ (改善を要する点)

就職を意識する活動は、実習先や地域など様々な場面が設定されているが、現状では「高齢者関係」が主体となっている。今後、幅広い分野での体験を増やしていく。

《根拠となる資料・データ》

- 1) 「はいかいお帰り支援事業チラシ」
- 2) 「平成 28 年ボランティア関係ファイル」

基準 7 実 習

基準 7 実 習

《概略の記述》 (500 字以内)

実習前教育としてグループワーク (介護総合演習) により課題の抽出等を実施。介護総合演習には複数の教員が参加している。実習後に関しては、各実習段階において「実習報告会」を実施し、報告準備段階および報告会でフィードバックを行っている。

実習希望地に関する本人の希望調査や学生による実習先決定、実習前に実習に関する個別面談を実施。

本人の適性に基づいた実習が行えるようにするための体制作り、実習先の実習指導者との連絡調整会や研究会は、各段階の実習前に、アンケート調査・実習指導者打ち合わせ会に担当者に来校してもらい実施。また電話等での緊密な連絡、週 1 回以上の巡回訪問を実施。

年度の総括としては「実習の在り方検討会」を実習施設職員に参加してもらい年に1回実施。

<参考資料>

- |                          |                    |
|--------------------------|--------------------|
| 1) 「講義概要」                | 2) 「実習記録」          |
| 3) 「実習報告会報告書」            | 4) 「実習配属表」         |
| 5) 「実習終了後アンケート・アンケート結果」  | 6) 「実習指導者打ち合わせ会資料」 |
| 7) 「実習施設と連携を高めるための研修会資料」 |                    |

基準7 実習

【必須】7-1 実習に向けての事前準備と実習後のフィードバックをどのように行っていますか

《基本的な観点ごとの分析》(500字以内)

実習前教育としてグループワーク(介護総合演習)により課題の抽出等を実施。事前訪問時の確認事項からカンファレンスなどについて介護総合演習に複数の教員が参加し指導している。実習後に関しては、各実習段階において「実習報告会」を実施し、報告準備段階および報告会でフィードバックを行っている。なお、2年生の報告会へは1年生が参加している。

<特に優れた点>

2年生の実習報告会へ、1年生が参加することで、これから達成する自己課題や目標が明確になっている。1年次に参加しているボランティア体験も、実習事前準備となっている。

<更なる向上を目指す点>(改善を要する点)

1年生と2年生の交流の機会を増やし、先輩から後輩へ実体験を基にした助言の機会を増やす。

《根拠となる資料・データ》

- |                          |                    |
|--------------------------|--------------------|
| 1) 「講義概要」                | 2) 「実習記録」          |
| 3) 「実習報告会報告書」            | 4) 「実習配属表」         |
| 5) 「実習終了後アンケート・アンケート結果」  | 6) 「実習指導者打ち合わせ会資料」 |
| 7) 「実習施設と連携を高めるための研修会資料」 |                    |
| 8) 「平成28年度 ボランティア一覧表」    |                    |

## 基準 7 実 習

【選択 1】 7- (3) 本人の適性に基づいた実習が行えるようにするためにどのような体制をとっていますか

### 《基本的な観点ごとの分析》 (500 字以内)

本人の適性に基づいた実習が行えるようにするための体制作りでは、各段階の実習前に、アンケート調査・実習指導者打ち合わせ会を実施している。実習担当者に来校してもらい、実習目的、到達目標、方法、本校の教育理念、実習記録等について本校、担当者間で議論を重ねている。欠席者に対しては、後日実習巡回担当教員が出向き、双方にとって効果的な実習が展開できるよう説明している。また電話等で緊密な連絡を取り合い、情報共有している。実習中は事前の調整の基、週 1 回以上巡回指導を実施、連携を図っている。

### <特に優れた点>

本年度、実習Ⅱの実習指導者打ち合わせ会議では、5月に実施した「実習Ⅰ-2」(生活支援技術)終了時に、対象学生から収集したアンケート結果から効果的な実習指導連携を検討。また、介護過程について、勉強会形式の打ち合わせを実施した。

### <更なる向上を目指す点> (改善を要する点)

今回は、学生側のみのアンケート結果を基にした検討であったため、実習Ⅱ終了時には指導者からのアンケート結果も集計し、年度末に検討会を実施する予定。

### 《根拠となる資料・データ》

- 1) 「実習巡回記録」
- 2) 「実習報告会報告書」
- 3) 「実習配属表」
- 4) 「実習終了後アンケート・アンケート結果」
- 5) 「実習指導者打ち合わせ会資料」

## 基準 7 実 習

【選択 2】 7- (5) 実習先の実習指導者との連絡調整会や研究会などをどのような方法、頻度で実施していますか

### 《基本的な観点ごとの分析》 (500 字以内)

実習先との連絡調整会にあたる「実習指導者打ち合わせ会議」以外に、平成 27 年度は年度総括として「実習の在り方検討会」を実習指導者、実習施設職員、卒業生、在校生が参加し、ディスカッション形式の勉強会を実施した。本年度も 2 月中に実施予定。

### <特に優れた点>

「実習のあり方検討会」では、実習指導がもたらす学生の学習態度の変容や、実習施設へ就職した卒業生の当時の体験や思いをディスカッション形式で実施。また、困難ケースを当事者の指導者、巡回教員でディスカッション、全体でその取り組みや変容を共有した。



＜更なる向上を目指す点＞（改善を要する点）

平成 27 年度、パネルディスカッション形式での検討会では参加した指導者以外の経験年数が浅い介護職員の発言機会が少なかったため、グループワーク形式など参加者の満足度を高める工夫を検討する。

《根拠となる資料・データ》

- 1) 「実習終了後アンケート・アンケート結果」
- 2) 「実習指導者打ち合わせ会資料」
- 3) 「実習施設と連携を高めるための研修会資料」

## 基準 8 リカレント教育体制

基準 8 リカレント教育体制

《概略の記述》（500 字以内）

卒業生・在学中で組織する校友会を設置している。支部・部会役員を卒業生が務め事務局を学内に置くと規定している。在学中は校友会の準会員であり、在学中から校友会組織との連携体制の強化を図っている。

校友会の活動は、学校活動への支援や卒業後の卒後研究会開催時の経済的支援、学校祭への支援、Uターン就職への支援である。

本校のホームページ内に校友会ホームページを開設し、卒業生への情報提供を行い、再就職紹介（卒業後 1 年以内が原則）などの支援体制を整備している。

参考資料

- 1) 「ホームページ」
- 2) 「校友会会則」

基準 8 リカレント教育体制

【必須】 8-1 介護福祉士としての資質向上の責務や継続的な学習の必要性を、在学中にどのように指導していますか

《基本的な観点ごとの分析》（500 字以内）

年 2 回（4 月、12 月）地区別懇親会を開催し、学科を超えた連携と資質向上の責務や継続的な学習の必要性について話し合っている。また、2 年生を対象に、毎年「愛知県介護福祉士会」より理事を派遣依頼し、卒業、資格取得後、職能団体加入の必要性や介護福祉士生涯研修制度などの説明、紹介を行っている。

介護福祉士の義務規定については、「介護概論（介護の基本）」を中心に教授している。

＜特に優れた点＞

介護福祉士資格取得で慢心することのないよう、社会から期待される将来像を教員のみだけでなく、職能団体や実務家教員による特別講義によって、卒業前に指導している。愛知県介護福祉士会の活動紹介も兼ね、在学中に参加できる「地域研修」なども掲示板に掲示し、学生に周知している。

＜更なる向上を目指す点＞（改善を要する点）

外部委託により学生へ周知する機会は設けているが、その機会は限られているため、今後、実施回数も含め充実する予定。

《根拠となる資料・データ》

- |           |                       |
|-----------|-----------------------|
| 1) 「学年暦」  | 2) 「校友会細則」            |
| 3) 「講義概要」 | 4) 「平成 27 年 後期時間割調整表」 |

基準 8 リカレント教育体制

【選択 1】 8- (3) 卒業生の知識・技術の向上のためにどのような取り組みを行っていますか

《基本的な観点ごとの分析》（500 字以内）

卒後研究会（年間 2、3 回）として、卒業生の希望に応じた学習の機会を設けている。  
（平成 27 年度）

平成 27 年 11 月 29 日（日） テーマ：園芸療法 参加者：15 名

平成 28 年 5 月 13 日（金） テーマ：講演「養成校卒業生への期待」参加者：106 名

平成 28 年 10 月 8 日（土） テーマ：介護の悩み相談 参加者：10 名

＜特に優れた点＞

卒後研究会は学年を超えた同窓会の役割を兼ねており、世代間交流や、役割期待やその課題について教員を含め検討できている。また、働く意欲の獲得や、介護に関するストレスケアの役割も果たしている。

＜更なる向上を目指す点＞（改善を要する点）

学校ホームページ、SNS を活用した周知活動には限界があるため、卒業生全体への広報活動は課題である。

《根拠となる資料・データ》

- |                    |              |
|--------------------|--------------|
| 1) 「ホームページ」        | 2) 「フェイスブック」 |
| 3) 「介護福祉学科卒後研究会資料」 |              |

基準 8 リカレント教育体制

【選択 2】 8- (4) 卒業後の制度・施策、業界の動向に関する最新情報を提供するために、どのような取り組みを行っていますか

《基本的な観点ごとの分析》（500 字以内）

実習指導者打ち合わせ会、愛知県介護福祉士養成施設協会「実習指導の在り方検討会 実習施設と連携を高めるための研修会」にて卒業後の制度・施策、業界の動向に関する最新情報を提供しつつ、実習指導連携について検討している。

＜特に優れた点＞

平成 28 年度は、より多くの卒業生に参加の機会ができるよう、本校主催の実習指導連携に関する研修会（平成 29 年 2 月 6 日実施予定）を愛知県内の全実習施設へ参加募集を行っている。

＜更なる向上を目指す点＞（改善を要する点）

制度・施策、業界の動向に関する最新情報提供を中心とした発信は十分とは言えない状況である。

《根拠となる資料・データ》

- 1) 「実習指導者打ち合わせ会資料」
- 2) 「実習施設と連携を高めるための研修会資料」

### 基準 9 学生の募集と受け入れ

#### 基準 9 学生の募集と受け入れ

《概略の記述》（500 字以内）

学生募集パンフレットやウェブサイトの内容、リーフレットを学園企画広報課と教務科、各学科、事務局、キャリアセンター（就職指導室）全体でチェックしている。広報活動は、事前にその広報内容についての研修を担当者全員で行っている。

外部評価については、体験入学参加者に対してアンケート実施やウェブサイトで見聞収集、入学後のアンケートを実施している。

入学選考は、入学選考基準に基づき合否が判定される。

平成 24 年度から高校既卒者を対象とする「社会人入学」と新卒者及び高校卒業後 1 年未満の出願者を対象とする介護福祉学科限定の「AO 入学」を実施している。

留学生に対しては、日本語能力の程度と保証人の状況等学業継続の可能性について総合的に審査するとし、入学相談の段階で選考についての方針説明している。

#### 参考資料

- 1) 「パンフレット」
- 2) 「広報研修資料」

### 基準 9 学生の募集と受け入れ

【必須】 9-2 学生募集を適切かつ効果的に行っていますか

《基本的な観点ごとの分析》（500 字以内）

学生募集パンフレットやウェブサイトの内容、資料請求者あてに発信するリーフレットを学園企画広報課と教務科、各学科、事務局、キャリアセンター（就職指導室）全体で原稿内容や説明表現、合格率の数値等についてその真実性、明瞭性、公平性に基づいてい

るか、過大表現となっていないかをチェックしている。広報活動は、事前にその広報内容についての研修を担当者全員で行い、入学相談が十分な配慮のもと実施でき、かつ入学希望者に十分な判断材料を提供できる体制をとっている。

外部評価については、体験入学参加者に対してアンケート実施やウェブサイトで見聞き収集、入学後のアンケート実施により評価分析を行い、効果的な広報提案を行っている。

<特に優れた点>

学園全体で適切な情報提供ができるよう、学園本部広報課を含んだ研修会を、各学科よりプレゼンテーションを行い不明な点が解消できるよう情報共有している。

<更なる向上を目指す点> (改善を要する点)

統一した広報活動に向けた研修会の実施は限られた時間であるため、逐次の連携が必要となる。

《根拠となる資料・データ》

1) 「広報研修資料」

## 基準 9 学生の募集と受け入れ

【選択 1】9- (1) 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいますか

《基本的な観点ごとの分析》 (500 字以内)

就職内定率に見る就職実績、各種国家試験合格率や合格者数、退学率等については、体験入学の本校概略説明や入学案内書、ウェブサイト、高校訪問で実数を公表している。事実を正確に伝えることは、学校のポリシーであり、入学希望者に対して広報上の正確な情報を伝えることは、本校の教育活動を顧みる意味を含めてきわめて重要な事項と認識している。

<特に優れた点>

就職内定率に見る就職実績、各種国家試験合格率や合格者数、退学率等についての実数公表。

東海地区教育懇談会 (本校会場)、教育懇談会 (15 会場)、出向ガイダンス、出前講座を実施し、より具体的な情報提供を実施している。

<更なる向上を目指す点> (改善を要する点)

出前講座数の増加

《根拠となる資料・データ》

1) 「概略説明資料」

2) 「パンフレット」

3) 「ホームページ」

4) 「東海地区教育懇談会・教育懇談会資料」

5) 「ガイダンス進行表」

6) 「出向ガイダンス報告書 (エクストラネット上で入力)」

基準 9 学生の募集と受け入れ

【選択 2】9- (6) 学生募集と受け入れのために、特色ある独自の取組みとして、どのようなことを行なっていますか

《基本的な観点ごとの分析》 (500 字以内)

平成 28 年度 体験入学 22 回、遠方の対象者に対しては体験バスツアー6 回、飛行機を使ったスカイツアー1 回実施。

本年度は、体験入学時に在校生、卒業生に参加を依頼し、在学中の情報提供に加え、卒業後の専門職像を明確化できる取組みを実施した。

＜特に優れた点＞

在校生のみでなく、卒業生の参加を実施したことで、卒業後の働く姿や活躍の実際を伝えることができ、入学前に目指す専門職像を「資格」プラス「活躍の実際」を見える化したことで、「介護福祉士」とはどのような役割を果たす専門職なのか、また「介護福祉士」を目指すためにはどのような学習が必要になるかをより具体的に発信できた。

＜更なる向上を目指す点＞ (改善を要する点)

在校生、卒業生の体験入学参加の増員

《根拠となる資料・データ》

1) 「体験入学一覧」

2) 「学科説明資料」

基準 10 内部質保証

基準 10 内部質保証

《概略の記述》 (500 字以内)

自己点検・評価について平成 21 年度に導入の検討が始まり、平成 22 年度から自己点検評価を実施した。自己点検・評価で明らかにできた改善すべき事項を、優先事項および実現可能な事項に区別し逐次改善に努めている。

校長を委員長とする学校評価委員会を組織し、各部署から職員を選出し学校全体の実施取り組みとしている。

なお、平成 25 年度から学校関係者評価委員会を発足し、職能団体の役員、病院・施設の職員や保護者・卒業生を評価委員として構成し、意見や指摘事項等に対して改善に努めている。

学校評価に関する情報として学校自己評価報告書・学園財務状況・学校関係者評価報告書を、平成 25 年度からホームページ上で公開している。

＜参考資料＞

1) 「学校自己評価報告書」

2) 「学園財務状況」

3) 「学校関係者評価報告書」

4) 「ホームページ」

基準 10 内部質保証

【必須】 10- (4) 教育情報をどのように公開していますか

《基本的な観点ごとの分析》 (500 字以内)

校長を委員長とする学校評価委員会を組織し、各部署から職員を選出し学校全体の実施取り組みとしている。

学校評価に関する情報として学校自己評価報告書・学園財務状況・学校関係者評価報告書を、平成 25 年度からホームページ上で公開している。

＜特に優れた点＞

職業実践専門課程として認可

指導者を招いてお互いの質向上のために協議会を実施している。反響は高く、実習先以外からも問い合わせがある。

＜更なる向上を目指す点＞ (改善を要する点)

学校関係者評価委員会および卒業生アンケートによる意見への改善

《根拠となる資料・データ》

- |                 |             |
|-----------------|-------------|
| 1) 「学校自己評価報告書」  | 2) 「学園財務状況」 |
| 3) 「学校関係者評価報告書」 | 4) 「ホームページ」 |

基準 10 内部質保証

【選択 1】 10- (1) 自己点検・評価をどのように行っていますか

《基本的な観点ごとの分析》 (500 字以内)

自己点検・評価について平成 21 年度に導入の検討が始まり、平成 22 年度から自己点検評価を実施した。自己点検・評価で明らかにできた改善すべき事項を、優先事項および実現可能な事項に区別し逐次改善に努めている。

校長を委員長とする学校自己点検評価委員会を組織し、各部署からの職員選出を職務分掌表上に明示し学校全体の実施取り組みとしている。

＜特に優れた点＞

学園目標から学校目標／評価を定め教職員個々の目標シートを所属上長（学校自己点検評価委員会委員）との面談で作成し、2 月に年間の達成度を点検評価するとともに、学校運営の自己点検・評価を学科単位で同じく 2 月に点検するしくみがある。合わせて厚生労働省が法令順守の観点から作成した自己点検表に基づく指定規則準拠のチェックを定期報告の際に実施している。

＜更なる向上を目指す点＞ (改善を要する点)

卒業生の社会的評価を把握しきれていなかったことを省みて、平成 28 年度から卒業生の就職先を対象に本校卒業生に関するアンケートを実施した。今後は収集した評価や意見を教育活動の改善に活用していく。

《根拠となる資料・データ》

1) 「学校自己評価報告書」

2) 「卒業生に関するアンケート」

基準 10 内部質保証 1

【選択 2】 10- (2) 学校関係者評価をどのように行っていますか

《基本的な観点ごとの分析》 (500 字以内)

平成 25 年度から学校関係者評価委員会を発足し、職能団体の役員、病院・施設の職員や保護者・卒業生を評価委員として構成し、意見や指摘事項等に対して改善に努めている。

学校評価に関する情報として学校自己評価報告書・学園財務状況・学校関係者評価報告書を、平成 25 年度からホームページ上で公開している。

＜特に優れた点＞

委員として職能団体の役員、病院・施設の職員や保護者・卒業生を評価委員として構成し、意見や指摘事項等に対して改善に努めている。

＜更なる向上を目指す点＞ (改善を要する点)

1) 構成員の任期満了に伴う構成員確保

2) 学校関係者評価委員会での意見を学科教員へ伝達しているが、十分な把握とまでは言えない状況であるため、情報の周知徹底によって、意見の実現を行う。

《根拠となる資料・データ》

1) 「学校自己評価報告書」

2) 「学校関係者評価報告書」

3) 「ホームページコピー」

専修学校職業実践専門課程（介護分野）

第三者評価試行

## 第三者評価報告書

あいち福祉医療専門学校

平成 29 年 2 月



評価調査日 平成28年11月8日

目次

<各規準の評価結果>

基準1 教育理念

基準2 学校運営

基準3 教育内容

基準4 教育方法

基準5 教員の資質向上

基準6 やりがい・キャリア形成等を醸成する教育

基準7 実習

基準8 リカレント教育体制

基準9 学生の募集と受け入れ

基準10 内部質保証

## ＜各規準の評価結果＞

### 基準1 教育理念

基準1 教育理念
<p>＜総 評＞</p> <p>1. 教育理念として、学園創設者である水野恒治氏が定めた「建学の精神」（社会から喜ばれる知識と技術をもち、歓迎される人柄を兼ね備えた人材を育成し、英知と勤勉な国民性を高め、科学技術・文化の発展に貢献する）が存在する。本精神が、学園関係者に脈々と受け継がれ、各校の実践に活かされている。</p> <p>2. 「建学の精神」をベースにしながら、専修学校の制度特性を活かして、時代の要請に応じた教育内容等の柔軟な見直しに取り組み、知識・技術・人柄を兼ね備えた「質の高い介護のプロフェッショナル」を養成し続けている。</p>

基準1 教育理念	
【必須】 1－1 社会のニーズなどを踏まえた将来構想を持っていますか	
評 定	評価ポイント 3
<p>＜評価する点＞</p> <p>1. 「学園年度初め式」において、法人理事長が全職員に向けて年度目標等の運営方針を提示し（学園エクストラネットでも再周知）、これを受けて、各学校長が学校目標（中長期目標・年間目標）を策定し、職員間で共有するという流れが確立されている。</p> <p>＜特に優れた点＞</p> <p>○学校目標を踏まえ、毎年度「個別管理表」を用いて各学科が数値目標（出願数・退学率・授業満足度など）を設定した上で、実施・運用し、実施状況を点検し、改善・見直しにつなげていく、という独自のPDCAサイクルが実行されている。</p> <p>○平成28年度入学生からの介護福祉士制度改正（段階的な国家試験受験の導入）についても、模擬試験や集中講座を計画するなど、的確な準備が図られている。</p> <p>＜更なる向上を目指す点＞（改善を要する点）</p> <p>○当該モデル校の設置主体である「学校法人電波学園」は、同校以外にも11校を運営している。各校から選出された委員による「学園将来構想委員会」が毎月1回開催され、学園全体の「将来構想」を検討しているとのことだったが、その具体的な内容は明らかではなかったため、今後の進展を期待したい。</p>	

基準1 教育理念	
【選択1】 1－2 理念・目的育成人材像は定められていますか	
評 定	評価ポイント 3
<p>&lt;評価する点&gt;</p> <p>1. 教育理念として、「建学の精神」（社会から喜ばれる知識と技術をもち、歓迎される人柄を兼ね備えた人材を育成し、英知と勤勉な国民性を高め、科学技術・文化の発展に貢献する）が存在する。本精神は、学生便覧や教室での掲示を通じて職員・学生に周知されるとともに、ホームページにも掲載されている。</p> <p>2. 育成を図る人材像として、「専門性」「協調性」「信頼性」が掲げられており、知識・技術に加え人柄が重要視されている。</p> <p>&lt;特に優れた点&gt;</p> <p>○上記の「建学の精神」に加え、本精神をベースとした日常行動の指針として、「SSK (study smile kindly) を通じてwell-beingの実現に取り組むこと」が掲げられており、独自の優れた取組として評価できる。</p> <p>○学園の60周年を記念したロゴマークが作成され、職員がバッジとして着用するとともに、「面倒見のいい電波学園」を目指していることも、独自の優れた取組として評価できる。</p> <p>&lt;更なる向上を目指す点&gt;（改善を要する点）</p> <p>○入学生の学習能力が多様化する中で、効果的な人材養成を図るための継続的な取組が期待される。</p>	

基準1 教育理念	
【選択2】 1－3 育成人材像は専門分野に関連する業界などの人材ニーズに適合していますか	
評 定	評価ポイント 3
<p>&lt;評価する点&gt;</p> <p>1. 介護実習の際の実習先への事前説明・訪問などを通じて、介護業界のニーズを把握し、適宜授業内容に反映させている。</p> <p>2. 学校自己評価（平成22年度～）・学校関係者評価（平成25年度～）が毎年実施されており、社会のニーズや在学生の学習能力に即した人材養成に取り組んでいるかどうか等を点検し、改善提言等が行われている。</p> <p>3. これら提言等の優先度を勘案し、カリキュラムに反映させるため、毎年2回「教育課程編成委員会」が開催され、講義内容等の見直しが行われている。</p>	

<特に優れた点>

- 「個別管理表」を用いて、毎年度各学科が具体的な数値目標を設定し、実施・運用し、実施状況を点検し、改善・見直しにつなげていく、という独自のPDCAサイクルが実行されている。
- 実習指導者会議が年3回開催され、社会のニーズに応じた人材育成について協議している。
- 特筆すべき取組として、実習施設と連携を高めるための研修会（卒業生・指導者・学生・教員の4者が参加）、学生に対する実習後アンケート、就職先に対する卒業生に関するアンケートがあり、介護業界の実態や要請を把握するための独自の工夫が行われている。

<更なる向上を目指す点>（改善を要する点）

- ・特に記載事項なし

## 基準2 学校運営

### 基準2 学校運営

<総 評>

1. 学園の建学の精神を日常行動に求め目指すこととしてかみ砕き「study-smile-kindly」=SSKとして発信し、常に教員は「面倒見のいい電波学園」を理念に学校運営を行っている。
2. 建学の精神・学園訓は全教職員および全学生に学生便覧をもって周知し、学外に向けてはホームページ、学校案内にメッセージとして発信している。
3. 当該モデル校の中期目標・年間目標に関する情報共有の徹底を図るために、エクストラネット/イントラネットシステムを利用し、その活用を促進することによって、定着を図っている。
4. 来年度から導入される国家試験対策については、すでに学園・学科内方針により合意一致で検討され、時間割に組み込んで取り組んでいる。
5. 人事考課は教育委員会の方法を基準に育成型の評価として、管理監督者による面接機会を年3回設け目標設定、達成度評価を重点化した人事制度を実施している。合わせて管理監督者研修及び教職員研修を学園規模で開催し組織的に取り組んでいる。
6. 賃金制度は「給与規程」および同「施行規則」等によって整備されており、勤務成績の評定に関する規定などが明文化されている。
7. 教職員個々には年間を通しての教育活動、業務行動を教員活動の自己点検表を用いて自己確認しており、学科長・教務部長・校長面接などを実施し、翌年度の教員自己評価による目標シートに反映させている。

基準2 学校運営	
【必須】2-2 理念等を達成するための事業計画を定めていますか	
評 定	評価ポイント 2
<p>&lt;評価する点&gt;</p> <p>1. 毎年度当初に理事長から学園全体の年度目標等が示され、これを踏まえて各校長が中長期目標・年度目標を立てる仕組みが確立されており、各学校・学科の特色に合わせた事業計画が定められている。</p> <p>2. 個別管理表により広報活動・入学者数・退学者数別に、取り組み内容、時期、目標数、現在までの振り返り、効果、結果の進捗状況を把握できるようにシステム化しており、目標設定を個々の勤務評定（目標達成度管理）に連動させて取り組んでいる。</p> <p>&lt;特に優れた点&gt;</p> <p>○学園規模の組織的取り組みがされており、広報活動、国際化活動、実習機器・修繕などが予算化され、介護福祉教育にも反映されている。</p> <p>○学園全体の中長期目標が定められており、学園将来構想委員会に学園各校から委員が選出され独自の具体的な取り組みが検討されている。学園各校（12校）の年度目標や構想が共有化されている。</p> <p>○学校目標／評価に沿った各項目に対応した事業計画が項目型に整理されている。</p> <p>&lt;更なる向上を目指す点&gt;（改善を要する点）</p> <p>○年度末の個別管理表の点検に留まらず、具体的な活動を年度途中においても点検・評価する仕組みを検討することが望まれる。</p> <p>○事業計画にみる目標に向けた実行力の研鑽と強化を期待。</p>	

基準2 学校運営	
【選択1】2-(1) 理念に沿った運営方針を定めていますか	
評 定	評価ポイント 2
<p>&lt;評価する点&gt;</p> <p>1. 建学の精神の実現を追求する教育実践を目指した行動指標・年度目標を定めている。</p> <p>2. 週一回朝礼を行い、連絡会議し、引き続き役職者による学校運営会議を開催し、学生個々への教育・生活指導について問題を共有し協議検討している。</p> <p>3. 建学の精神等は全教職員および全学生に学生便覧をもって周知し、学外に向けてはホームページ、学校案内にメッセージとして発信している。</p> <p>&lt;特に優れた点&gt;</p> <p>○学園・学校それぞれに中長期目標、年間目標を定めている。</p> <p>○週一回の定期的な学校運営会議を開催しており、学科の教育指導や学生指導において教育プロセスを重視し、教員一丸となって取り組んでいる点が高く評価できる。</p>	

＜更なる向上を目指す点＞（改善を要する点）  
 ○建学の精神に沿った目標の構造化として中長期目標を定めているが、介護福祉士養成施設として今後に取り組むべき課題について、教育内容・カリキュラム等の更なる具体的な運営方針の検討が期待される。

**基準2 学校運営**  
**【選択2】 2- (3) 人事・給与に関する制度を整備していますか**

評 定	評価ポイント 3
-----	----------

＜評価する点＞

1. 人事、給与に関する制度整備は、就業規則、給与規程、給与規程施行規則、勤務成績の評定に関する規程など就業規則等に明文化されている。
2. 学園教職員研修は年間4～5回開催されテーマは15分野に及び、全教職員が参加して志気を高めている。

＜特に優れた点＞

○教員活動の自己点検表による自己評価から目標シートを作成し、自己研鑽に努めている。

○学校長、教務部長、学科長と教員による個人面談を年間3回実施している。第1回目は教員が作成した目標シートを基に目標設定に関する面談を実施し、その後は授業の前期と後期に目標達成状況に関する面談を実施している。組織的な教育上の課題の追究は教員の資質向上に大きく寄与し高く評価できる。

○上記の面談や学科長からのフィードバック面談により勤務評定を行い、給与等に反映させており、評価制度委員会を学園レベルで招集し組織的に独自の優れた取組として評価できる。

＜更なる向上を目指す点＞（改善を要する点）

○人事・給与制度が確立されており、特に記載事項なし

**基準3 教育内容**

**基準3 教育内容**

＜総 評＞

1. 全教員が一体となって、「講義概要」を基にして、協力体制で教育内容を高く保っていると評価できる。「講義概要」の冊子と「時間割表」で確認した。
2. 一方的な講義形式だけでなく、グループワークや、課題を与えて調べる学習などにより、学生が自ら学び、気づきができるように工夫している。

3. パソコン実習室に 40 台を設置し、学生一人当たり 1 台を使って、資料作成などの授業が可能ないように整えている。その反面、パソコンでの検索が多くなり、図書室での、書籍の活用が進まない傾向にあるということを伺った。課題学習に文献活用を促していくような教育も必要であろう。
  4. どの教科にもアクティブラーニングにもこころがけて、取り入れるような授業の方法を工夫するように努めている。
  5. カリキュラムを吟味し、指定の 1850 時間から 1980 時間に時間数を増やして充実させ、「障害の理解」などの教科に力を入れている。「学生便覧」のカリキュラム表に明示されている。
- 以上のことから全体的に、優れた教育内容を担保していると評価できる。

基準 3 教育内容	
必須 3-1 人権や尊厳などの価値に関する授業を行なっていますか	
評定	評価ポイント 2
<p>&lt;評価する点&gt;</p> <p>1. 人権や尊厳などの価値に関する授業については「人間の尊厳と自立」の授業担当の教員や、担任だけでなく、全教員が一致して、福祉の人材を養成するための基礎的資質として、人権や、尊厳などの価値に関しての教育に力を入れている状況は評価できる。</p> <p>&lt;特に優れた点&gt;</p> <p>○学生の授業の受け止め方や、個々の学生の習得状況については教職員間で常に情報交換を行い、それらの情報を踏まえて、教員がそれぞれの担当科目の授業の構成や進行に役立てている。</p> <p>その結果、学生の、人権や尊厳などの価値に関する考えが深められ、幅広く醸成されている。</p> <p>○職員室で、絶えず情報交換して、学生の授業の受け止め方や、個々の学生の習得状況について把握しようと、絶えず努力しているとの回答が得られた。それらの情報を踏まえて、複数の教員やそれぞれの担当科目の授業においてアプローチしているということであった。その結果、学生の人権や尊厳などの価値に関する考えが深められ、また、何人かの教員の考えに触れて、幅広く醸成されていくと考えられる。</p> <p>&lt;更なる向上を目指す点&gt; (改善を要する点)</p> <p>○科目としては、「人間の尊厳と自立」を中心にして教授する科目である。授業担当教員自身の授業の工夫が具体的になされて学生へ働きかけ、他の教員の価値観も統合しつつ福祉の専門職を目指す基礎作りをしていただきたい。</p>	

- 教員全体に共通理解をさらに進めていく必要がある。また、最終的には、「生活支援技術」の科目につなげていくことを期待したい。さらには、介護実習において、利用者の尊厳を守る態度や行動が形成されるように実習教育にも関連させていくことを期待したい。
- 個々の学生の理解度を確認するため絶えず職員室で情報交換しているということを伺ったが、情報をシラバスにも反映させて、教育内容の確認・精選をしていただきたいと考える。

### 基準3 教育内容

【選択1】3-5 認知症のある人に対する介護のための基本的知識・技術を習得させるために、どのような授業を行っていますか

評 定	評価ポイント 3
	<p>&lt;評価する点&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「講義概要」に示されているとおり、最新の授業内容となっている。</li> <li>2. さまざまに工夫して教育に当たり、基礎的知識を基本として、すでに開発されている介護の技法を演習も含めて教授している。パーソン・センタード・ケア、回想法、リアリティ オリエンテーションなどを取り上げている。</li> <li>3. バリデーションについては、特別講義で、講師を招いて教授している。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・実践的な認知症の授業になり得ていると感じられる。</li> <li>・学生が、「卒業後は認知症の介護に進みたい」と言っていたのが印象的である。</li> </ul> </li> </ol> <p>&lt;特に優れた点&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「認知症の理解」の科目はベテランの専任教員が担当している。介護現場での実践の経験と、教育現場での教員経験を生かして、自信を持って、認知症の教育に当たっていると感じられた。</li> <li>○授業担当教員は「名古屋市認知症介護指導者」の資格を持ち、地域に講師として出向き、認知症の社会的認識を高める活動をしている。これが学生の学習に反映されており、卒業後は認知症の介護に進みたいと言っている学生もいた。</li> <li>○学生が、地域の事業に参加し、役割を担いながら、自分自身の学習につなげている。パンフレットで現わされているとおり、「はいかいお帰り支援事業」へのボランティア参加は特筆すべき優れた実践である。</li> </ul> <p>&lt;更なる向上を目指す点&gt; (改善を要する点)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○地域で、学生のマンパワーをさらに発揮する機会を計画的に設定し、実践的な教育の中から、学生が認知症を持つ人の支援について学ぶ機会を増やして欲しいと期待する。</li> </ul>



- 認知症の介護は、周辺症状のケアにおいて、介護福祉士の関わり的重要性が認められているが、当該モデル校の教育によって、学生がその専門性を認識し誇りを持って介護に当たって欲しいと更なる向上を期待する。
- ボランティアに参加する学生の人数が、限られているとのことを伺った。参加者がふえて活動しつつ、地域にも貢献して、マンパワーとなって欲しい。

基準3 教育内容

【選択2】3-(6)ターミナルケアに必要な知識・技術を習得させるために、どのような授業を展開していますか

評 定

評価ポイント 3

<評価する点>

1. 「講義概要」のとおり、教科「生活支援技術」のなかで「終末期の介護」は30時間にわたっている。ターミナルケアに必要な知識・技術を習得させる授業を工夫して、実践的に行なっていると評価する。
2. 「自己評価報告書」の根拠となる資料にあげられている教材は、的確に用意されており、学生の死生観の育成に効果的である。
3. ターミナルケアの代表的な教材である、「キューブラー・ロスの死の受容過程」や、「アルフォンス・デーケンの悲嘆の過程」を取り上げ、授業展開していることは評価できる。
4. 安楽死、尊厳死、グリーフケアについてグループディスカッションを行い、気づきを促している。その上で、終末期における介護や死後のケアの技術を習得させている。

<特に優れた点>

- 授業参観した。授業担当教員は、ターミナルケアでの実務経験を持っており、そのため、生や死といった、厳粛な講義を落ち着いた態度で実施していた。また、その真摯な姿勢から学生が学び取り、死生観を形成していることが感じられた。
- テキスト以外に教材を多く取り入れ、映画「エンディングノート」やDVD教材を用いて、学生が自ら感性を磨き、ターミナルケアに対するイメージを深めていく工夫をしている。
- 「教員の感性や考えを押し付けることがないように留意し、教材を多く活用して、学生の死生観を育むように努力している」教員のこの言葉から、生と死の教育に対する真剣な姿勢が感じ取れた。

<更なる向上を目指す点> (改善を要する点)

- 難しい教育内容であるが、更に、学生の死生観を育み、教員自身の死生観や考えを押し付けることなく、終末期にある人に寄り添えるような、学生を育てて欲しいと期待する。
- 今後の介護において重要課題であり、また、専門性が要求されている「終末期の介護」を志向する卒業生を送り出していきたいと念願する。

#### 基準4 教育方法

基準4 教育方法	
<p>&lt;総 評&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学生便覧、講義概要、実習の手引きによりディプロマポリシーを示している。また入学時オリエンテーションで学生に周知している。</li> <li>2. 様々な介護現場経験を有する専任教員組織により、各自の専門性を生かした教育実践を行っている</li> <li>3. 介護過程、介護総合演習、介護実習の教科を中心にもアクティブラーニングを展開し、学生が主体的に取り組める授業展開を実施している。</li> <li>4. 実習では、1年次に通所系サービス・グループホーム（各75時間）の在宅支援実習を体験し、2年次には生活支援・介護過程実習（各150時間）で特別養護老人ホームや老人保健施設での実習を行っている。</li> <li>5. 「介護過程」「介護総合演習」の教科と実習を関連させて、より学生の学習効果をねらった取り組みがなされている。</li> <li>6. well-being の実現を追求した実践の場として熱田区地域包括ケア推進会議認知症専門部会の取り組みを紹介している。ボランティア参加を促し、施設のみならず地域で果たす介護福祉士の役割を理解できる場を提供し、独自の実践的な取り組みを行っている。</li> <li>6. 熱田区地域包括ケア推進会議認知症専門部会の取り組みを紹介、ボランティア参加を促し、施設のみならず地域で果たす介護福祉士の役割を理解できる場を提供し、独自の実践的な取り組みを行っている。</li> <li>7. 要介護者の専門的知識・技術だけでなく、介護予防に関して、独自の取組を「生活支援技術の介護予防とレクリエーション」を中心に教授している。 更にウォークラリーや福祉産業機器展に参加することで、介護予防における実践的理解を深めている。</li> </ol>	

基準4 教育方法	
【必須】4-1 養成校の卒業時到達目標に沿った知識・技術の修得ができ、学修成果を確認できる体制をどのように作っていますか	
評 定	評価ポイント 3
<p>&lt;評価する点&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学生便覧、講義概要、実習の手引きによって授業時の達成課題（到達目標）を明文化しており、学習成果として卒業論文（事例研究）を作成、発表会を行っている。</li> <li>2. 実習の手引きに、教育目的・方法、介護実習の目的・目標、日本介護福祉士会倫理綱領等を示し、各教科履修認定によって学習成果を確認している。</li> </ol>	

<p>3. 授業の中で「養成校卒業生に求められる姿」を紹介し、卒業時到達目標を示して学生に意識づけている。</p> <p>&lt;特に優れた点&gt;</p> <p>○卒業年度、介護実習Ⅱでは介護過程の展開を実践し、実習時担当教員が中心となり指導を行い、各自のこれまでの学修成果の集大成として精度の高い卒業論文（事例研究）を作成、発表している。また、実習評価項目が細分化されより成果が確認できるようにしている。</p> <p>&lt;更なる向上を目指す点&gt;（改善を要する点）</p> <p>○卒業論文指導を強化しているため、次年度以降国家試験受験導入により、卒業論文作成における工程の見直しと質の確保が課題となっている。</p>
---

<p>基準4 教育方法</p> <p>【選択1】4- (3) それぞれの教育科目において、また、教育課程全体として、学生のアクティブラーニングはどのように行われていますか</p>	
<p>評定</p>	<p>評価ポイント 2</p>
<p>&lt;評価する点&gt;</p> <p>1. 介護過程では、1 年次はテキスト事例を活用した介護過程の展開を、2 年次は卒業生が収集した情報収集シートおよび個人が実習で収集した事例を基に、介護過程の展開を主体的に行っている。</p> <p>2. 介護総合演習では、コミュニケーション実習前に、「高齢者世代との話題」などを中心に学生が情報を収集し主体的な学びをしている。</p> <p>3. プロセスレコードの学習、事前訪問・実習計画指導等において、学生が主体的に取り組み効果的な学習を行っている。</p> <p>4. 少人数のグループでディスカッションする中からテーマを決め、取り組みを発表・報告し、更に課題を見つけグループ学習をするなど、学生主体の学習を展開している。</p> <p>&lt;特に優れた点&gt;</p> <p>○「介護総合演習」をはじめ様々な授業で基本的説明を講義スタイルで指導し、その方法や予測される課題および解決方法等についてはグループワーク・発表により学生が主体的に取り組み効果的な学習を展開している点にある。</p> <p>訪問時にもパソコン室で各自が模擬授業用資料（パワーポイントによるスライド）を楽しそうに作成していた。</p> <p>&lt;更なる向上を目指す点&gt;（改善を要する点）</p> <p>○全ての教科において、教授方法見直し、学生が主体的に学ぶ機会を増加することが期待されている。</p>	

基準4 教育方法	
【選択2】4- (5) 養成校の教育方法の向上を目指すために、特色ある独自の取り組みとして、どのような事を行なっていますか	
評 定	評価ポイント 3
<p>&lt;評価する点&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 年1 回法人主催の教職員研修会を実施している。約15テーマが設定され、各教職員の要望や必要性を考慮したプログラムとなっている。研修会に参加することによって、直接学生指導や担当授業に反映されている。</li> <li>2. 専任教員が密接に連携して教育しており、学生の教育成果を高めている。</li> <li>3. 在宅や地域包括ケアを知る目的で、熱田区地域包括ケア推進会議認知症専門部会主催の「はいかいおかえり支援事業」の実践的な運営に係わり、独自の取組を行っている。</li> <li>4. 介護予防に関して、「生活支援技術の介護予防とレクリエーション」の授業で教授しているほか、ウォークラリーや福祉産業機器展に参加することで、実践的理解を深めている。</li> <li>5. 毎年2～3回テーマを決めて卒業生を対象にした研究会を設けており、卒後教育にも力を入れている。</li> </ol> <p>&lt;特に優れた点&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学生の学習効果を高めるため、実習ごとに実習指導者打ち合わせ会を開催し学習課題を明確にしている。</li> <li>○学生の実習後の振り返りアンケート結果をもとに、効果的な実習指導方法を介護実習施設の実情も踏まえて検討し連携を高めている。</li> <li>○実習・ボランティア活動を中心に地域との連携を密にして、学習活動を展開している。</li> </ul> <p>&lt;更なる向上を目指す点&gt; (改善を要する点)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○更に「地域」を学ぶ機会を増加し、地域に根差した実践的な取り組みを進展することが期待される。</li> </ul>	

#### 基準5 教員の資質向上

基準5 教員の資質向上
<p>&lt;総 評&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 専任教員は定数より1名多く6名体制としており、介護福祉学科と共に実務者研修も含めて分担している。この体制は教員の資質向上に効果的である。</li> <li>2. 学科長を含めて6名の専任教員のうち、5名にインタビューした。それぞれの教員が介護に対する熱い思いと教育に対しての使命感を語っていた。</li> <li>3. 卒業生が3名、教員として母校の教壇に立っている。謙虚な中に誇りを持って任務にあたっていると感じられ、伝統も作りつつ、自らの後輩を育てていることが教員としてのやりがいにもなっていると思われる。</li> </ol>

4. 教員室の中に、なんでも相談できる体制があることが、教員が口々に発言する言葉から受け止められた。また、実習先とも連携して、優れた人材を社会に送り出したいという気運が現われていた。
5. 個人の査定は、管理職が年に3回の個人面談を実施して、本人の努力目標を明確にしている。
6. 「研修会報告」「研修参加表」に現わされているとおり、積極的に教員を研修に参加させている。
7. 法人の独自の計画により、教職員の研修を義務付けている。
8. 外部から講師依頼を受け、講師を派遣している。それぞれの専門性によって、専任教員が分担して担当しており、教員自身の力量のアップにつながっている。

基準5 教員の資質向上	
【必須】5-1 教員の外部研修・学会参加の機会をどのように確保していますか（サポートしていますか）	
評 定	評価ポイント 3
<p>&lt;評価する点&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教員の資質向上に対して、努力している姿勢が明確に感じ取れる。また、体制作りもなされており、高く評価できる。</li> <li>2. 教員に対して、管理者が個別面接を実施し、各教員の資質向上に留意し、研修の機会を確保し、努力目標を設定して見守っている。</li> </ol> <p>&lt;特に優れた点&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○外部研修・学会参加に複数の教員が参加する体制を年間計画で確保し、参加後に報告書を作成して、学内で共有している。</li> <li>○学科内では、学科長を中心にして、情報を学生への指導に反映させるといった観点で、活用している。これらは「全国大会報告」「東海北陸ブロック研修会報告」などの資料で報告されている。</li> <li>○教員の学ぶ姿勢が、学生の学習態度に大きな影響を与えていると感じられた。</li> <li>○年2回、介護福祉学科卒後研究会を開催し、卒業生と合同で実施し研修の機会としている。平成27年度はアロマセラピーなどを取り上げ、講演会を開催している。</li> </ul> <p>&lt;更なる向上を目指す点&gt;（改善を要する点）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○研修や学会の参加の機会は、十分確保されていると思われるが、教育機関としての、法人の内容に加えて、介護の担当科目の専門性を高めるための研修に、更に力を入れていただきたい。</li> <li>○今後は、外部からの講師依頼を可能な限り受諾して、介護福祉教育に貢献していただきたいと期待する。</li> </ul>	

基準5 教員の資質向上	
【選択1】5－(3)各教員の担当・適性に応じたクラス運営・学生指導のスキル・質向上をどのようにサポートしていますか。	
評 定	評価ポイント 3
<p>&lt;評価する点&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教員にインタビューした結果、各教員の担当・適性に応じたサポート体制が整えられていると評価する。</li> <li>2. 法人全体で、ベテラン教員が新人に助言して支える体制が引かれているので、気軽に相談が出来る。</li> <li>3. 「職務分掌表」や「学校組織図」にサポート体制が明確に示されており、負担がひとりの教員に偏らないように配慮されている。</li> </ol> <p>&lt;特に優れた点&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ベテラン教員が助言する体制を取り、法人人事制度のプロフェッショナル・ティーチャーとして確立している。つまり、ベテラン教員のサポートにより、困難を感じる指導事例なども対応でき、指導のスキルが上がるようになっている。</li> <li>○ひとりの教員が負担に感じたり、ひとりで悩んだりすることが無いように、しっかりと連携の状況が整備されている。</li> </ul> <p>&lt;更なる向上を目指す点&gt; (改善を要する点)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○すでにサポート体制は整っているのですが、今後は、各教員が熱心すぎて疲れたり、燃え尽きたりしないように、自分自身も自己ケアしながら、介護教員として、また、更なるキャリアアップを目指していただきたい。教員組織の持つ雰囲気が学生の指導に生かされると感じられたので、今後も保ち続けていただきたいと期待する。</li> </ul>	

基準5 教員の資質向上	
【選択2】5－(6)教員の資質向上のために、特色ある独自の取り組みとして、どのようなことを行っていますか。	
評 定	評価ポイント 2
<p>&lt;評価する点&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 独自の取り組みとしては、法人本部主催の教職員研修を実施している。</li> <li>2. 愛知県介護福祉士会理事や、名古屋市認知症介護指導者を受託する教員が、外部講師依頼の要請を受け、講師として活動しており、自校の教育に効果的に活用できている。</li> </ol> <p>&lt;特に優れた点&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○法人の主催による教職員研修会を開催しており、プログラムの中から、必要に応じて、選択して、参加できる。その結果は、授業や学生指導に反映されている。</li> <li>○外部の研修の講師として、活動し、学内に成果を反映し、情報提供している。</li> </ul>	

- 講師依頼を受けることで、見識を広げ、資質の向上につながっていると評価でき、水準の高い教員組織であると確認できる。
  - 「個別管理表」を用いて、各教員の勤務状況やレベルアップについて、法人全体で確認し、資質向上に繋げており、特色ある独自の取り組みをしていると評価する。
- <更なる向上を目指す点> (改善を要する点)
- 今後、ますます、介護福祉教育に携わる教員の資質向上のために、外部の講師を積極的に受けて、活動していただきたい。更に、講師の派遣によって地域の介護福祉教育の発展にも貢献していただきたい。

**基準6 やりがい・キャリア形成等を醸成する教育学校運営**

基準6 やりがい・キャリア形成等を醸成する教育学校運営

<総 評>

1. キャリア形成の仕組みを理解させるため、「愛知県介護福祉士会」より講師を派遣依頼し、職能団体加入の必要性、介護福祉士生涯研修制度などの説明、紹介を受けている。
2. 認定介護福祉士についての紹介を行い、具体的なキャリア形成像を示している。
3. 担任による個別面談を年度初めや実習前、就職活動時など定期的を実施し、就職意欲や、職業倫理・社会的使命に関する意識を図っている。
4. 介護現場との連携は強く、様々な介護現場へのボランティア参加や見学・実習を通して介護分野の幅を広げるにより就職への意欲を高めている。
5. キャリアセンター担当教員による就職特講を年数回実施している。
6. 接遇に対して、挨拶の徹底を学生に周知するため、毎朝教員が玄関に立ち挨拶を行っている。
7. 福祉・健康産業展への参加や福祉就職フェアなどを紹介し、就職に関する視野・選択の機会を増やしている。

基準6 やりがい・キャリア形成等を醸成する教育学校運営

【必須】6-1 キャリア形成の仕組みを理解させるため、どのような取り組みをしていますか

評 定	評価ポイント 2
<p>&lt;評価する点&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 キャリア形成の仕組みを理解させるため、2 年生を対象に、毎年「愛知県介護福祉士会」より理事を派遣依頼し、卒業、資格取得後、職能団体加入の必要性や介護福祉士生涯研修制度などの説明、紹介を受ける機会を設けている。</li> <li>2. 認定介護福祉士について、具体的な説明を直接介護福祉士会より紹介を行い、具体的なキャリア形成像を示している。</li> </ol>	

<p>3. 体験入学では、養成校で学ぶ意義を介護人材確保の目指す姿を示し、富士山型への構造転換を説明している。</p> <p>&lt;特に優れた点&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○専任教員は特別養護老人ホームや老人保健施設、病院、地域など様々な介護現場の経験者で構成されており、社会から期待される将来像を各教員が学生に伝えるとともに、職能団体による特別講義によってやりがい・キャリア形成等について指導している。</li> <li>○専任教員より、愛知県介護福祉士会の活動紹介も兼ね、在学中に参加できる「地域研修」を具体的に掲示板に掲示し、学生に周知している。</li> <li>○やりがい・キャリア形成については「愛知県介護福祉士会」等の外部講師による学生へ周知する機会を設けている</li> </ul> <p>&lt;更なる向上を目指す点&gt;（改善を要する点）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○自己点検・自己評価によれば、外部講師による機会を増やし今後さらに充実する予定あることが示されている。</li> </ul>
---

<p>基準6 やりがい・キャリア形成等を醸成する教育学校運営</p> <p>【選択1】6- (2) 介護福祉士として働く意欲や、職業倫理・社会的使命についての個別面談をどのように行っていますか</p>	
<p>評 定</p>	<p>評価ポイント 2</p>
<p>&lt;評価する点&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 働く意欲や、職業倫理・社会的使命については担任による個別面談を年度初めや実習前、就職活動時などに定期的実施している。</li> <li>2. 実習配属は就職を意識させる為に学生の希望をとり、面談により実習配属を決定している。</li> <li>3. 各実習直前には「実習壮行会」を実施し、校長、教務部長から職業倫理、社会的使命についての講話を実施し、全教員で激励し意識を高めている。</li> <li>4. 実習の手引きに「日本介護福祉士会倫理綱領」を掲載し、実習ごとに介護総合演習で確認している。</li> </ol> <p>&lt;特に優れた点&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○実習配属に関しては将来の就職意欲に関連するため、配属施設を決定するにあたり就職を意識した上で、学生自らが事前に調査し個別面談して自主的に決定している点である。</li> <li>○実習施設は可能な限り卒業生が就職し、実績のある施設を選定し、実習生が直接卒業生より指導を受ける体制を整えることによって介護福祉士のやりがい・キャリア形成に繋げている。</li> </ul>	



＜更なる向上を目指す点＞（改善を要する点）  
 ○実習施設との連携をさらに強化し、学生の就労意欲向上や目標を明確に見出す指導が期待される。

基準6 やりがい・キャリア形成等を醸成する教育学校運営  
 【選択2】6- (3) 就職への自覚や意欲を持たせる指導をどのように行っていますか

評 定	評価ポイント 3
-----	----------

＜評価する点＞

1. 校長自ら介護実習の目的に応じて各実習前（4回）の「実習壮行会」で助言をするなど、教職員が一丸となって熱心な教育を行い、学生の士気を高めている。
2. 1年次より様々な介護現場や地域へのボランティア参加、見学する仕組みを構築しており、実習を通して介護分野の幅を広げるにより就職への意欲を更に高めている。
3. キャリアセンター担当教員による就職特講を年数回2年次前期に実施している。
4. 介護のやりがい・魅力を伝えるために、まず学生が実習へ参加した際に基本的な態度・接遇面で指導を受けないように、日ごろから「挨拶」を学生と教員ともに徹底して行っている。
5. 全ての人々のQOLをサポートする製品・サービス・技術を幅広く展示紹介する福祉・健康産業展への参加や福祉就職フェアなどに参加する機会を設け、学生の就職に対する視野、選択肢を増やす取り組みを行っている。

＜特に優れた点＞

- 4回の各介護実習前に「実習壮行会」を行い、教職員が一丸となって介護実習における心構え、取り組みなどについて教育・指導を行っている。
- 1年次に全学生が実習先等のボランティアに参加し、介護現場のやりがい・魅力を感じられるような仕組みづくりを行っている。特にボランティア先の職員との連携のもとで実習や就職を意識した関わりにつなげている点が評価できる。
- 卒業生が介護現場で育っており、後輩に対して丁寧な指導を行っている。
- 熱田区生き生き支援センター主催の「はいかいお帰り支援事業」の運営に係わり、施設の事業のみならず地域との連携を図り、介護実践に関する視野を広げている。

＜更なる向上を目指す点＞（改善を要する点）  
 ○実習先や地域など就職を意識する様々な場面が設定されているが、今後は更なる幅広い分野を体験する機会を増やしていくことが期待される。

## 基準7 実習

基準7 実習	
<p>&lt;総評&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 全体的にとてもよく整えられ、当該モデル校で作成した冊子「介護実習の手引き」に添って優れた実習教育を実践していると評価する。</li> <li>2. 実習前・実習中・実習後ともに手厚く学生の学習を支援している。</li> <li>3. 実習前の「介護総合演習」の授業においてグループワークなどのアクティブラーニングの技法により、学生が自己課題を明確にし、意欲を持って実習に臨めるように準備している。</li> <li>4. 実習中は巡回指導により学生の個々の実習の状況を把握し、実習施設との連携の下に、円滑な実習ができるように支援している。</li> <li>5. 実習後は実習終了直後に、学生にアンケートを実施し、実習指導に対して、どのように受け止めたかを明らかにして、実習の指導に生かしている。</li> <li>6. 「介護実習の手引き」を作成し、学生の実習の要点を整理している。また、学生、実習指導者、教員の共通の資料として教育・連携に活用されている。</li> </ol>	

基準7 実習	
【必須】7-1 実習に向けての事前準備と実習後のフィードバックを、どのように行っていますか	
評定	評価ポイント 3
<p>&lt;評価する点&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 中心となる科目の「介護総合演習」の授業に複数の教員が入って、実習前に綿密に準備している。</li> <li>2. 実習後は、「実習報告会」を実施して、フィードバックを行なっている。実施状況は「実習報告会報告書」としてまとめられている。</li> <li>3. 担当教員が実習施設へ事前に訪問し、打ち合わせをする。実習中は、カンファレンスに出席し情報を共有している。</li> <li>4. 実習後の「実習報告会」は実習の各段階ごとに実施している。</li> </ol> <p>&lt;特に優れた点&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○2年生の報告会に1年生が入ることで、先輩の学習から自己課題や学習目標を学び、明確にしている。</li> <li>○ボランティア体験を実習施設の事前把握や実習のイメージ作りに生かしている。</li> <li>○2年生に実習の要望を聴くため、アンケートを実施し「実習終了後アンケート・アンケート結果」としてファイルされている。学生の生の声を実習終了直後に収集し、フィードバックしている。</li> </ul>	

○各実習直前に実習壮行会を実施し、校長が学生を激励し、講話をして学生を意識付けしている。

<更なる向上を目指す点> (改善を要する点)

・改善を要する点はない。更に向上を目指していただきたい。

○「面倒見のいい学校」と自負されているとおり、学生が安心して実習に集中でき、実習現場で成長できるように、今後も更に一人ひとりの学生を大切にしておつきりを持っていただきたい。

○記録の苦手な学生が増えている状況を踏まえて、個別に指導し、記録の能力を高めるように教育を工夫していただきたい。訪問調査の折に学生の「実習記録」を確認して、丁寧な指導の跡がうかがわれたが、個々の学生の情報交換を、実習指導者との間で、更に綿密に連携していただきたい。

#### 基準7 実習

【選択1】7-(3) 本人の適性に基づいた実習が行えるようにするために、どのような体制をとっていますか

評 定

評価ポイント 3

<評価する点>

1. 文章力が苦手な学生に対しては、その状況に応じ、個別的に指導するなど手厚く、面倒を見ている。
2. 個々の学生の資質に応じた指導をするために、その都度、電話などで実習指導者と連絡を取り、本人の適性を尊重した対応をしている。

<特に優れた点>

○ 実習の段階ごとに、綿密に計画し、実習指導者と連携し、一人ひとりひとりの学生の個性や学力、文章能力などに配慮した教育をしている。労を惜しまない姿勢が感じられる。

○実習施設を学生が主体的に選ぶことも取り入れている。卒業生の3割が実習施設に就職するということから、本人の適性に応じた実習の方法や配置を工夫していると評価できる。

○「面倒見のいい学校」という言葉どおり、実習に関する個別面談を実施している。きめ細かく、学力が不足している学生を切り捨てることなく、記録指導など、本人の適性に基づいた実習が出来るように、学生の個性に応じた指導にあたっている

<更なる向上を目指す点> (改善を要する点)

特になし

○「自己評価報告書」の記載のとおり、実習指導者へのアンケートの実施と、その結果をふまえての検討会に期待している。

基準7 実習	
【選択2】7-(5) 実習先の実習指導者との懇談会等を、どのような方法、頻度で実施していますか	
評定	評価ポイント 3
<p>&lt;評価する点&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 週1回以上の巡回指導を通して、詳細に情報を共有している。</li> <li>2. その情報を「実習指導者打ち合わせ」や「実習施設との連携を高めるための研修会」において活用し、連携に生かしている。各々年1回開催され、それぞれファイルされている。</li> <li>3. 年度総括として、「実習のあり方検討会」を開催し、施設職員、卒業生、在校生も出席し、検討事項を共有している。</li> </ol> <p>&lt;特に優れた点&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○2年生では実習後にアンケート調査を行い、学生が実習指導をどのように受け止め・理解しているかを具体的に記入させて、指導上の参考資料にしている。 この実習アンケートは「実習終了後アンケート・アンケート結果」にファイリングされ、実習懇談会などの会議で実習施設の指導者と情報を共有し、連携のための資料として活用されている。</li> <li>○「実習のあり方検討会」も年度総括として実施し、実習指導者の意図と学生の受け止めを確認し、ギャップがあれば、反省材料として指導に生かしている。</li> </ul> <p>&lt;更なる向上を目指す点&gt; (改善を要する点)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○介護を受ける介護過程展開の受持利用者の立場でも考えて欲しい。利用者の気持ちや、学生から受けるストレス、なども実習上の大事な観点として留意して欲しい。</li> <li>○学生・教員・実習指導者の三者に加えて、利用者のニーズも満足できるような実習にして欲しい。そこから、介護過程展開は、利用者の個別性に添った介護であることを体感して、感性と能力を備えた卒業生を育てていただきたいと期待する。</li> <li>○実習施設との連携の方法として、「介護総合演習」の授業の講師として、実習指導者が一部分を担当することも良いのではないかと。また、卒業生の、在学中の体験談として「実習への期待と不安」などのお話も学生の意欲につながるのではないかと。</li> <li>○「自己評価報告書」にも記載されていたとおり、「実習のあり方検討会」の実施方法を工夫し、参加者の意見を広く吸い上げていただきたい。</li> </ul>	

## 基準8 リカレント教育体制

基準8 リカレント教育体制
<p>&lt;総 評&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 進学等の理由で就職を希望しない者（毎年度数名程度）を除けば、毎年度就職内定率は100%を達成している。卒業生が県内外の介護施設等で活躍し、研修・研究等にも積極的に取り組んでいる。</li> <li>2. 平成23年3月に、他学科を含め学校全体の卒業生（正会員）及び在校生（準会員）で組織する校友会が発足し、卒後研究会・地区別懇談会・部会活動・学園祭などの開催支援を行っている。</li> <li>3. 毎年2～3回テーマを決めて開催される「卒後研究会」には、毎回多くの卒業生が参加している。</li> <li>4. 校友会ホームページも開設され、卒業生等に対する情報発信が図られている。</li> </ol>

基準8 リカレント教育体制	
【必須】8-1 介護福祉士としての資質向上の責務や継続的な学習の必要性を、在学中にどのように指導していますか。	
評 定	評価ポイント 2
<p>&lt;評価する点&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「介護概論」の中で、介護福祉士の責務などの講義が行われている。</li> <li>2. 2年生を対象に愛知県介護福祉士会役員による特別講義が実施され、在校生に職能団体の加入の必要性、生涯学習制度などの説明・紹介が行われている。</li> <li>3. 愛知県介護福祉士会が主催する、在学中から参加可能な「地域研修」についても、掲示板により周知されている。</li> </ol> <p>&lt;特に優れた点&gt;</p> <p>○校友会が毎年2回（4月・12月）開催する「地区別懇談会」では、他学科を含めた在校生（準会員）間の交流を図り、卒後研究会で卒業生（正会員）と交流することを通じて、卒業後の学習継続への意識付けが図られており、独自の優れた取組として評価できる。</p> <p>&lt;更なる向上を目指す点&gt;（改善を要する点）</p> <p>○卒業生の職能団体への加入状況は明らかではなかったので、今後の進展を期待したい。</p>	

基準8 リカレント教育体制	
【選択1】8-3 卒業生の知識・技術の向上のためにどのような取組みを行っていますか	
評 定	評価ポイント 2
<p>&lt;評価する点&gt;</p> <p>1. 平成23年に校友会が設立され、卒後研究会・地区別懇談会・部会活動・学園祭などの開催支援を行い、校友会ホームページも開設されている。</p> <p>2. 毎年2～3回開催される「卒後研究会」は、本校同窓会も兼ねており、メンタル面も含めた卒業生のフォローアップの場となっている。</p> <p>&lt;特に優れた点&gt;</p> <p>○他学科（精神保健学科・理学療法学科・作業療法学科）で実施されている卒後聴講生制度（国家試験再受験に備え、2000円で最終学年後期授業を聴講できる仕組み）は、平成28年度入学者から段階的に国家試験が導入される介護福祉学科にも適用される見込みで、卒業後も独自の手厚いフォローアップが行われている。</p> <p>&lt;更なる向上を目指す点&gt;（改善を要する点）</p> <p>○開校15年目ということもあって、校友会など卒業生向けの取組は近年着手されたものも多く、発展途上にあると受け止められたので、今後の進展を期待したい。</p>	

基準8 リカレント教育体制	
【選択2】8-4 卒業後の制度・施策、業界の動向に関する最新情報を提供するために、どのような取組みを行っていますか	
評 定	評価ポイント 2
<p>&lt;評価する点&gt;</p> <p>1. 毎年2～3回テーマ（平成27年度は園芸療法、養成校卒業生への期待、介護の悩み相談）を決めて開催される「卒後研究会」には、多くの卒業生が参加している。</p> <p>2. 卒業生が制度・施策・業界などの最新動向を把握する手段は、様々なものがあると考えられるが、当該モデル校や校友会のホームページ・フェイスブック等にアクセスしている卒業生も多いと考えられる。</p> <p>&lt;特に優れた点&gt;</p> <p>○当該モデル校主催の「実習施設と連携を高めるための検討会」については、愛知県内の全実習施設に向けて参加募集を行い、卒業生含めできるだけ多くの実習指導に関わる方が参加できるよう、独自の工夫が行われている。</p> <p>&lt;更なる向上を目指す点&gt;（改善を要する点）</p> <p>○開校15年目ということもあって、卒業生向けの取組は近年着手されたものも多く、発展途上にあると受け止められたので、今後の進展に期待したい。</p>	

## 基準9 学生の募集と受け入れ

### 基準9 学生の募集と受け入れ

<総 評>

1. 正確で魅力的なパンフレット・ホームページ等が作成され、高等学校や入学希望者に情報発信されている。
2. 数多くの体験入学（会）を開催し、そこに参加した学生が当該モデル校に魅力を感じ出願する、という流れが出来上がっているほか、推薦入学やAO入学も実施されている。
3. 学園独自の奨学金制度も設けられている。
4. これらの取組の成果として、入学定員80人（2クラス）を堅持しながら、高い定員充足率を確保し続けている（平成27年度を除けば概ね8割以上の高水準）。

### 基準9 学生の募集と受け入れ

【必須】9-2 学生募集を適切かつ効果的に行っていますか

評 定

評価ポイント 3

<評価する点>

1. 学園本部に企画広報課が設置され、各学校の教務課・各学科・キャリアセンター等と連携し、各校の「売り」（教育内容の強み、面倒見の良さ、低い退学率、国家試験対策、就職内定率100%など）を把握し、正確で魅力的なパンフレット・ホームページ等が作成されている。
2. 体験入学時や入学後のアンケート、ウェブサイトを通じた意見収集を行い、より効果的な広報につなげる仕組みもある。

<特に優れた点>

- 在學生と懇談した中でも、通いやすさ（名古屋のターミナル駅である金山駅から徒歩1分）や体験入学の際の学校の雰囲気の良さが当該モデル校を選ぶ決め手になった、という声が多く聞かれた。数多くの体験入学会を開催し、出願につなげる流れが確立されている。
- 推薦入学やAO入学などの工夫も行われ、多数の入学者の確保につながっている。
- 永年にわたり入学定員80人（2クラス）を堅持しつつ、留学生（原則として在留資格制度が整ってから受入れ）や職業訓練生（毎年10名程度）に頼ることなく、高い定員充足率を確保し続けている（平成22～28年度の入学者は82人・78人・75人・80人・64人・47人・61人）。

<更なる向上を目指す点>（改善を要する点）

・特に記載事項なし

基準9 学生の募集と受け入れ	
【選択1】9-1 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいますか	
評 定	評価ポイント 2
<p>&lt;評価する点&gt;</p> <p>1. 東海北陸地区を中心に各高等学校を訪問する際には、退学率・就職内定率などの数字を正確に伝えるとともに、その内容を入学案内書・ホームページ等でも公表している。入学希望者に正確な情報を知った上で出願してもらうことが、当該モデル校のポリシーとされている。</p> <p>&lt;特に優れた点&gt;</p> <p>○高等学校に出向いての進路ガイダンスや出前講座など、独自の取組みを行っている。</p> <p>&lt;更なる向上を目指す点&gt; (改善を要する点)</p> <p>○教員は在学生の「面倒見」を優先するため、依頼があっても出前講座に行けないこともあるとのことであったが、今後も高校卒業者数が減少する中で、出前講座等の拡充が期待される。</p>	

基準9 学生の募集と受け入れ	
【選択2】9-6 学生募集と受け入れのために、特色ある独自の取組みとして、どのようなことを行っていますか	
評 定	評価ポイント 3
<p>&lt;評価する点&gt;</p> <p>1. 年22回の体験入学や学園祭の際に、数多くの参加者を集め、そこで当該モデル校を気に入った学生等が高い割合で出願する流れが確立されている。</p> <p>2. 「電波学園ありがとう奨学生制度」(学業・人物共に優れた学生向け)・「電波学園専門学校ファミリー奨学金制度」(卒業生・在校生の親族向け)など、本校独自の奨学金制度が設けられ、活用されている。</p> <p>&lt;特に優れた点&gt;</p> <p>○学園全体の取組として、近隣10県からのバスツアー(年6回)・沖縄からのスカイツアー(年1回)を実施し、遠方の学生が体験入学しやすいよう、独自の取組が行われている。</p> <p>○卒業生も体験入学に参加することで、参加者が当該モデル校卒業後の働く姿までイメージできるよう独自の工夫がなされている。</p> <p>&lt;更なる向上を目指す点&gt; (改善を要する点)</p> <p>・特に記載事項なし</p>	



## 基準 10 内部質保証

基準 10 内部質保証
<p>&lt;総 評&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 内部質保証について計画的、制度的に取り組んでいると評価する。</li> <li>2. 自己点検・評価は平成22年度から実施している。「学校自己評価報告書」を作成している。</li> <li>3. 自己評価で明らかになった改善点を、優先順位を設定して、順次改善している。</li> <li>4. 校長を委員長とする学校評価委員会を組織し、学校全体で取り組んでいる。</li> <li>5. 学校外からの評価委員を組織し、意見を取り入れている。</li> <li>6. 学校評価に関する情報をホームページ上で公開している。</li> </ol>

基準10 内部質保証	
【必須】10-4 教育情報をどのように公開していますか	
評 定	評価ポイント 2
<p>&lt;評価する点&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学校評価に関する情報を、平成25年度からホームページ上で公開している。「学校自己評価報告書」「学園財務状況」「学校関係者評価報告書」などである。</li> </ol> <p>&lt;特に優れた点&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○職業実践専門課程として認可されている。その際、最初から申請し、県や各組織に働きかけてきたことは大いに評価したいことである。自校のみならず、介護福祉教育業界全体のレベルアップに大きく貢献し、リーダー的な立場をとっている。特に、愛知県においては中心的に活動し、信頼を得て、モデル校となっている。</li> <li>○外部からの評価も得ており、内部の質保証は十分に確保されていると評価する。</li> </ul> <p>&lt;更なる向上を目指す点&gt; (改善を要する点)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○優れた教育を実践し、外部講師も勤めていることなど、特長として、アピールできることは多いので、情報公開に力を入れて欲しい。</li> <li>○特に、建学の精神から流れている、「面倒見の良い学校」、「好ましい人材を送り出すこと」、「安定した財政で経営していること」など、大いに伝えて欲しいことである。</li> </ul>	

基準10 内部質保証	
【選択1】 10－(1) 自己点検・自己評価をどのように行っていますか	
評 定	評価ポイント 3
<p>&lt;評価する点&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 平成 22 年度から自己点検を実施し、よく取り組んでいると評価する。平成 26 年度学校自己評価報告書」により、確認した。</li> <li>2. 校長を委員長として、学校全体で取り組み、「自己点検・自己評価委員会」は各学科から委員を選出し参加させている。</li> <li>3. 評価項目は、基準10項目に分類され、それぞれに、中項目が立てられ、自己評価されている。18 ページにわたって記入されている。</li> </ol> <p>&lt;特に優れた点&gt;</p> <p>○「評価基準作り」は1年の検討を経て準備された。具体的に自己評価がなされているととらえられる。</p> <p>&lt;更なる向上を目指す点&gt; (改善を要する点)</p> <p>○十分に出来ていると思われる。社会に対して、発信していただきたいと念願する。それが、ひいては、介護福祉教育全体の向上につながると期待している。</p>	

基準10 内部質保証	
【選択2】 10ー(2) 学校関係者評価をどのように行っていますか	
評 定	評価ポイント 2
<p>&lt;評価する点&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 平成25年度から学校関係者評価委員会を発足している。</li> <li>2. 外部からの委員を入れて構成されたメンバーで委員会が開催される。</li> <li>3. 意見を尊重し、教育に取り入れ、反映させている。</li> <li>4. ホームページ上で公開している。</li> </ol> <p>&lt;特に優れた点&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○平成25年度から学校関係者評価委員会を発足して、外部からの意見や指摘を受ける体制を取っている。</li> <li>○特に、学生の保護者や、卒業生をも評価委員として、構成している点は、評価できる。卒業生の意見は「学校に対しては厳しいが、学生の介護に対する姿勢は誉めてもらえる」という返答であった。このことから、外部からの声を取り入れようとする状況・姿勢が、内部質保証として、教育実践が高い水準を保持していることを表しているにとらえられる。</li> </ul> <p>&lt;更なる向上を目指す点&gt; (改善を要する点)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○更に委員を精選し、率直な意見や、幅広く介護のリーダーとなれる人を委員として取り上げて欲しい。また、その際、介護現場で活動している人や、実際に利用者にかかわっている人を重要なメンバーと考えていく必要がある。現場と距離を大きくしない姿勢が学校を実践教育として、向上していく要素になると考える。</li> <li>○平成28年度に卒業生の就職先を対象にアンケート調査を実施している、その結果を教育に反映させていただきたいと期待する。</li> </ul>	

専修学校職業実践専門課程（介護分野）

第三者評価試行

自己点検・自己評価報告書

尾道福祉専門学校

平成28年11月30日

## 目次

### 1. 学校現況票

### 2. 評価項目別取り組み状況

基準 1 教育理念

基準 2 学校運営

基準 3 教育内容

基準 4 教育方法

基準 5 教員の資質向上

基準 6 やりがい・キャリア形成等を醸成する教育

基準 7 実 習

基準 8 リカレント教育体制

基準 9 学生の募集と受け入れ

基準 10 内部質保証

## 1. 学校現況票

### (1) 養成施設名・設置者・本部の所在地・開講年度

養成施設名	尾道福祉専門学校
設置者	社会福祉法人尾道さつき会
本部の所在地	広島県尾道市久保町 1760-1
開講年度	平成9年度

### (2) 課程・学科の構成

課程名	学科名	開講年度	修業年限	入学定員	収容定員
専門課程	介護福祉学科	平成22年4月1日	2年	60名	120名
	合 計			60名	120名

### (3) 教育課程

課程名	学科名	修了要件単位数	終了科目 (課目) の登録期 間 および単 位数	教職員組織	教員基準数	専任教員数	兼任教員数	学習環境等
会議福祉 専門課程 (昼間部)	介護福 祉学科	1980 時間	2年	・学校校長 ・主任教員 ・選任教員 ・非常勤講師 ・事務職員	4人	4人	13人 (うち非常 勤9人)	

(4) 施設の概要

①校地面積

基準面積	総面積	専用面積	共有面積
	5557.35 m <sup>2</sup> (うち借用 5557.35 m <sup>2</sup> )	5557.35 m <sup>2</sup> (うち借用 5557.35 m <sup>2</sup> )	m <sup>2</sup> (うち借用 m <sup>2</sup> )

内訳

	総面積	専用	共用	備考
校舎敷地面積	920.14 m <sup>2</sup>	920.14 m <sup>2</sup>	m <sup>2</sup>	
運動場	m <sup>2</sup>	m <sup>2</sup>	m <sup>2</sup>	
その他	m <sup>2</sup>	m <sup>2</sup>	m <sup>2</sup>	

②校舎面積

総面積	専用	共用	備考
1626.74 m <sup>2</sup>	1626.74 m <sup>2</sup>	m <sup>2</sup>	

内訳

教室名称	室数	面積	専用	共用	備考
校長室、職員室	1	172.00 m <sup>2</sup>	172.00 m <sup>2</sup>		
更衣室	1	43.75 m <sup>2</sup>	43.75 m <sup>2</sup>		
図書館	1	86.00 m <sup>2</sup>	86.00 m <sup>2</sup>		
普通教室 1	1	70.00 m <sup>2</sup>	70.00 m <sup>2</sup>		
普通教室 2	1	70.00 m <sup>2</sup>	70.00 m <sup>2</sup>		
視聴覚教室	1	140.00 m <sup>2</sup>	140.00 m <sup>2</sup>		

介護実習室	1	98.65 m <sup>2</sup>	98.65 m <sup>2</sup>		
介護実習室和室	1	12.28 m <sup>2</sup>	12.28 m <sup>2</sup>		
入浴実習室	1	74.72 m <sup>2</sup>	74.72 m <sup>2</sup>		
家政実習室	1	74.72 m <sup>2</sup>	74.72 m <sup>2</sup>		
在宅介護室	1	39.80 m <sup>2</sup>	39.80 m <sup>2</sup>		
学生ホール	1	86.00 m <sup>2</sup>	86.00 m <sup>2</sup>		

③図書館・図書資料など

閲覧座席数	35席
図書館開館時間	8時 30分 ~ 18時 00分
図書冊数	4691冊
学術雑誌冊数	22種類480冊
電子ジャーナル種数	1種
視聴覚・資料等点数	24点

④その他（附属施設など）



## 2.評価項目別取り組み状況

### 基準1 教育理念

#### 基準1 教育理念

《概略の記述》 (500字以内)

1-1【必須】社会のニーズなどを踏まえた将来構想を持っていますか

1-2 理念・目的育成人材像は定められていますか

1-3 育成人材像は専門分野に関連する業界などの人材ニーズに適合していますか

1-4 理念などの達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいますか

1. 本校を運営している社会福祉法人尾道さつき会の理念は「地域に親しまれ、支えられるとともに、地域に貢献できる専門学校づくり」であり、学校側との協議の上、そのもとで、以下の目的が設定されている。

① 教育内容の充実

介護福祉に関する専門的な知識・技術を教授し、介護福祉士の取得が可能な学生を育成する。

② 介護現場に即した人材の育成

福祉現場が直面している課題を反映した教育内容や、介護職員の声を生かした教育を実施する。

③ 福祉動向の把握及び理解

関係機関との連携を深め、早期に施策の動向を収集することで、福祉の実情を反映した学習内容を編成し、高齢者及び障害者福祉の向上に寄与できる学生を育成する。

④ 地域貢献

地域や事業所の行事あるいは活動に参加する特別活動を充実し、社会性や自主性を育むとともに、地域に貢献できる学生を育成する。

<参考資料>

・ホームページ (学校紹介)

・入学案内

#### 基準1 教育理念

【必須】 1-1 社会のニーズなどを踏まえた将来構想を持っていますか

《基本的な観点ごとの分析》 (500字以内)

1. 当法人の理念である「地域に親しまれ、支えられるとともに、地域に貢献できる専門学校づくり」として①教育内容の充実②介護現場に即した人材の育成③福祉動向の把

握及び理解④地域貢献を掲げている。

2. 介護福祉士養成教育には資格取得時の11の到達目標があり、これらに基づいて介護福祉士養成教育を展開している。
3. 年2回開催する教育課程編成委員会において、国の政策動向や介護業界のニーズを把握し将来構想などを協議したうえで、求める介護福祉士像及びカリキュラム編成について委員からの提案があり、教育活動に有益な助言を得ている。

<特に優れた点>

○介護福祉士養成施設が、地域にどう貢献できるかについて、様々な取り組みを試みている。

<更なる向上を目指す点> (改善を要する点)

○介護福祉士に求められる質はどんどん増えていく一方で、量の確保も同時に求められ、また入学生の質も年齢も、経験も様々となり、どこに目標を定めて人材育成を行うのかが、難しくなっている。業界のニーズも人手不足もあって様々である。今後求められる介護福祉士像を見極め、教育を見直していくことが課題である。

《根拠となる資料・データ》

- ・ ホームページ
- ・ 入学案内
- ・ 社会福祉法人尾道さつき会 尾道福祉専門学校教育課程編成委員会規則
- ・ 委員名簿

## 基準1 教育理念

【選択1】1-2 理念・目的育成人材像は定められていますか

《基本的な観点ごとの分析》 (500字以内)

1. 本校の学則において、「介護福祉に関する専門的知識及び技術を教授すると共に、地域福祉の向上を目指した教育を行う」ことを目的と明記している。
2. 通常の学習に加え、介護実習においては育成目標が達成できるよう実習施設及び実習指導者との連携を強化し、求める介護福祉士像の共有を図り学生の教育に生かしている。

<特に優れた点>

○実習施設及び実習指導者との連携。

<更なる向上を目指す点> (改善を要する点)

特になし。

《根拠となる資料・データ》

- ・ 学則
- ・ 実習指導者連絡会実施報告

## 基準1 教育理念

【選択2】1-4 理念などの達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいますか

《基本的な観点ごとの分析》（500字以内）

1. 介護福祉における専門的知識及び技術を習得し、地域福祉の資質の向上が図れる介護福祉士像を目標として養成教育を実施している。
2. 特に、本校は社会福祉法人立の介護福祉士養成校であり、法人内の介護・障害者施設の中核として働いている職員を数多くの授業に講師として招き、今求められている介護の実践についてリアルタイムに学ぶことが出来ることが特色である。

＜特に優れた点＞

○本校は市内のふくしむらに位置し、法人内の事業所からだけでなく、ふくしむらに所属する高齢者施設、障害者施設、児童施設からの協力も日常的に可能となっている。

＜更なる向上を目指す点＞（改善を要する点）

特になし。

《根拠となる資料・データ》

- ・法人パンフレット
- ・シラバス（介護の基本Ⅱ、介護過程の基礎、障害の理解Ⅱ等）

## 基準2 学校運営

### 基準2 学校運営

《概略の記述》（500字以内）

- 2-1 理念に沿った運営方針を定めていますか
  - 2-2 【必須】理念などを達成するための事業計画を定めていますか
  - 2-3 人事・給与に関する制度を整備していますか
  - 2-4 意思決定システムを整備していますか
  - 2-5 情報システム化に取り組み、業務の効率化を図っていますか
  - 2-6 国家試験に対する方針は明確になっていますか
1. 運営方針、事業計画については、毎年教職員間で協議を行ったうえで策定し、理事会に提出している。
  2. 学校運営については、教職員は教務分掌で役割を明確にして実施しており、協議事項は毎月2回開催している教職員会議等で十分協議したうえで、決定事項として情報の共有化を図っている。
  3. 人事・給与に関する規定は、法人全体で見直しが図られ整備された。教育活動については当校のホームページ等により情報公開に努めている。

<参考資料>

・2017年度事業計画

基準2 学校運営

【必須】2-2 理念などを達成するための事業計画を定めていますか

《基本的な観点ごとの分析》（500字以内）

1. 事業計画は、毎年本校の理念・教育方針に基づき教職員間で協議を行ったうえで策定し、理事会に提出し承認を得ている。
2. 予算計画とも併せて、中間期及び期末に見直しを行い適宜修正し、目標達成に努めている。特に、学生募集の目標及び経営改善については法人と一体的に計画を見直し、改定を行っている。

<特に優れた点>

特になし。

<更なる向上を目指す点>（改善を要する点）

- 求人状況が改善され、また一方で経済的には格差が広がり、今後、介護福祉士養成校の学生募集についてはかなり厳しい状況が見込まれる。しかし一方、介護人材の確保は国や自治体にとっても今後の大きな課題である。学校運営について、学校の努力はいうまでもないが、法人全体や関連分野、また自治体との連携が課題である。

《根拠となる資料・データ》

2017年度事業計画

基準2 学校運営

【選択1】2-3 人事・給与に関する制度を整備していますか

《基本的な観点ごとの分析》（500字以内）

1. 2015年度より、それまでの人事・給与制度を見直し、新人事制度を導入している。

見直しの目的

- ①個人の成績が「昇給・昇格・昇進・賞与」にきちんと反映できる仕組の構築。
- ②数値・行動・スキル目標の導入により、職員の意識改革と行動改革に期待できる。

この制度の特徴は、実力主義のルールとキャリアパスを重視しているので優秀な職員やスタッフの確保が可能となっている。

<特に優れた点>

特になし。

<更なる向上を目指す点>（改善を要する点）

- 人事・給与制度は法人全体の見直しは行われたが、学校独自性についての協議がより必要である。

《根拠となる資料・データ》

・法人給与制度規程

## 基準2 学校運営

【選択2】2-6 国家試験に対する方針は明確になっていますか

《基本的な観点ごとの分析》（500字以内）

1. 国家試験についての国の示す動向について情報収集に努め、教職員間で対応方針についての協議を定期的に行う予定である。例年、カリキュラムには卒業試験対策の時間を2年次に22時間設けていたが、今後は1年次の授業及び試験から国家試験を意識した内容にしていくことを考えている。

＜特に優れた点＞

特になし。

＜更なる向上を目指す点＞（改善を要する点）

○教職員間の意識改革。

《根拠となる資料・データ》

・時間割

・国試対策資料

## 基準3 教育内容

### 基準3 教育内容

《概略の記述》（500字以内）

3-1 【必須】 人権や尊厳などの価値に関する授業を行っていますか

3-2 個別の心身状況に沿った介護を行うために、「介護過程」「生活支援技術」などの専門科目においてどのような授業を行っていますか

3-3 専門職に必要な基礎的教養としての「人間と社会」、介護行為の根拠となる「こころとからだのしくみ」などの授業をどのように行っていますか

3-4 さまざまな対象者に応じた個別的なコミュニケーションの方法を習得させるために、どのような授業を行っていますか

3-5 認知症のある人に対する介護のための基本的知識・技術を習得させるために、どのような授業を行っていますか

3-6 ターミナルケアに必要な知識・技術を習得させるために、どのような授業を行っていますか

3-7 医療的ケアに関する専門的な知識・技術を習得させるために、どのような授業を行っていますか

1. 養成の到達目標の 11 項目を踏まえ、領域「介護」をメインに、それを領域「人間と社会」と「こころとからだのしくみ」がバックアップすることを念頭に置き、各領域内での科目の設定や内容の分担、その上での 3 領域間の連携を意識して教育内容を組み立てている。
2. またそれと同時に、2 年間の実習の流れを組み立て、それぞれの実習の目標を教員全体が共有した上で、各実習の課題のクリアを可能にする授業内容を各教員が工夫し、カリキュラム交流会に各科目のシラバスを配布して、相互理解・相互交流を行い、より教育効果の高い授業となるよう努力している。

<参考資料>

- ・カリキュラム交流会資料

基準 3 教育内容

【必須】 3-1 人権や尊厳などの価値に関する授業を行っていますか

《基本的な観点ごとの分析》 (500 字以内)

1. 人間のこれまでの歩みを追いながら、その時代の中で人間の命と尊厳はどのように扱われてきたのか、「尊厳の保持」や「人権擁護」はどのように掘み取られてきたのかを学び、現代に求められる「人間の尊厳と自立」支援のあり方を、利用者と共に考えていける価値観を身に付ける。

<特に優れた点>

- その考え方や原理原則が生まれてきた歴史的背景を学びつつ、それを今の自分と重ねてつかみ直して、出来るだけ具体的な支援場面で生かせるように工夫している。

<更なる向上を目指す点> (改善を要する点)

- 学生自身が、自分に引き付けて考えたり、支援の具体的場面を想像することが、年々難しくなっているので、より一層の工夫が求められる。

《根拠となる資料・データ》

- ・シラバス
- ・授業資料

基準 3 教育内容

【選択 1】 3- (2) 個別の心身状況に沿った介護を行うために、「介護過程」「生活支援技術」など専門科目においてどのような授業を行っていますか。

《基本的な観点ごとの分析》 (500 字以内)

1. 1 年生の前期から介護過程を学習するにあたり、介護過程そのものや利用者像がイメージしづらいことを考え、まずは学生同士で学校生活が始まったことへの不安などを聞きだし、目標を考え計画を立てていくといったことを授業で行っている。

2. そして徐々に介護過程と生活支援技術、こころとからだのしくみの連動を意識してもらうために、生活支援技術では事例を登場させ利用者を紹介し、こころとからだのしくみでは疾患や障害について説明、介護過程ではその利用者を講義で登場させ、学生が視覚で意識できるように取り組んでいる。
3. 介護過程、生活支援技術それぞれの授業の中で事例を活用し、ICFについて説明を行い、介護過程では簡単な事例をもとに、アセスメントを行い、各項目の関係性を説明している。
4. 実習を終えた後期以降、施設や利用者(高齢者)のイメージができることを考え、生活支援技術で登場した1人の利用者をもとに、フェイスシートなどを作成し、介護過程の一連の展開を授業で行っている。その中で、心身の状況をアセスメントしながら、「本人の思い」を生活支援技術でも取り入れ、支援が必要である場面と、利用者が自分であろうと思う気持ちに気付くことの必要性やコミュニケーションの重要性も説明しながら授業を行っている。

<特に優れた点>

- 同じ事例の利用者をモデルとして、生活支援技術の演習と介護過程の展開をしている点やそれぞれの科目で連携している点。

<更なる向上を目指す点> (改善を要する点)

- 介護過程の考察(解釈・関連づけ・統合化)の部分をもっと生活支援技術の演習につなげて考え、文章化することと実践することが連動できるようにしていきたい。
- また事例の内容を踏まえて、環境などを視覚化できるようにすることも考えていきたい。
- 文章化することが苦手な学生が多いなか、一人ひとり個別に指導していく体制が必要であると考えている。

《根拠となる資料・データ》

・シラバス

・授業時作成資料

### 基準3 教育内容

【選択2】3-(7) 医療的ケアに関する専門的な知識・技術を習得させるために、どのような授業を行っていますか。

《基本的な観点ごとの分析》

1. 医師法、医療法の規定、社会福祉士及び介護福祉士法の改正の背景や内容を説明し、介護福祉士が行う医療的ケアの根拠とその範囲を徹底した。
2. 喀痰吸引、経管栄養とも医療職との連携の中で実施していくことを、技術の手順方法の中で織り込んで学べるようにした。

<p>&lt;特に優れた点&gt;</p> <p>○医療的ケアにおいて、介護福祉士の専門性を発揮できるように、医療的ケアの前に何ができるのか学生に考えるように授業を構成した。例えば、居室の湿度、利用者の体位の工夫等の日常の介護支援で、喀痰を促せること、栄養摂取等の工夫等で経口摂取を検討実施していくことを理解している。各単元で重要項目を明確にし、小テストや実技の評価項目で、知識、技術とも個人の到達状況を確認した。</p> <p>&lt;更なる向上を目指す点&gt;（改善を要する点）</p> <p>○2年時での介護実習での、医療的ケアの見学を全員が行い、喀痰吸引や経管栄養  その他の医療的ケアの実際を学ぶ。多職種連携ができ、介護福祉士としての専門性の意識、知識、技術を明確にする。</p> <p>《根拠となる資料・データ》</p> <p>・シラバス</p> <p>・授業資料</p>
---

**基準 4 教育方法**

<p>基準 4 教育方法</p> <p>《概略の記述》 (500 字以内)</p> <p>4-1【必須】養成校の卒業時到達目標に沿った知識・技術の修得ができ、学修成果を確認できる体制をどのように作っていますか</p> <p>4-2 養成校の卒業時到達目標を達成するためにどのようなカリキュラムを作り、それをどのように授業で行っていますか</p> <p>4-3 それぞれの教育科目において、また、教育課程全体として、学生のアクティブラーニングはどのように行われていますか</p> <p>4-4 関係施設の職員や介護関係（企業を含む）者や市民など、学外関係者との交流などを授業にどのように取り入れていますか。また、実習以外のインターンシップなど、特別の工夫を行っていますか</p> <p>4-5 養成校の教育方法の向上を目指すために、特色ある独自の取り組みとして、どのような事を行なっていますか</p> <p>1. 年 2 回カリキュラム交流会を行い、常に目標に沿って授業が展開されているか教員全体で確認し、担当講義の振り返りや関連科目の連携のあり方を工夫している。</p> <p>2. 学生が、できるだけ主体的に授業参加し、相互に助け合って成果をあげられるような展開を常に意識して授業を展開している。</p> <p>3. 当事者の状況や、現場での最先端の取り組み、また地域の現実やそこでの様々な活動など授業に積極的に取り入れている。</p>
---

<p>参考資料</p> <p>・シラバス</p>
--------------------------



基準4 教育方法

【必須】4-1 養成校の卒業時到達目標に沿った知識・技術の修得ができ、学修成果を確認できる体制をどのように作っていますか

《基本的な観点ごとの分析》（500字以内）

1. 入学時及び進級時のオリエンテーションで、学生便覧及び追加資料を使い、学生に教育の全体像や卒業時到達目標を説明している。また「介護の基本Ⅰ」でも1年前期に介護福祉士教育のこれまでの歴史と養成カリキュラムの全体像や各領域ごとのねらいを伝えている。また各教科でも、シラバスを提示し、到達目標を常に示しながら授業を進行している。
2. 学習成果の確認は、前後期試験だけでなく、各授業時、また単元ごとの小テストや提出物の評価などきめ細かく行うと共に、その結果は教職員会議で共有し、一人の学生を関連教科全体で支えることを目指している。

＜特に優れた点＞

○学生の状況に応じた個別指導をかなり丁寧に行っているし、授業内容にも反映している。

＜更なる向上を目指す点＞（改善を要する点）

○個別対応が必要な学生の増加の中で、教員の理解力や指導力の向上が必要である。

《根拠となる資料・データ》

- ・カリキュラム進行表
- ・カリキュラム・シラバス交流会資料

基準4 教育方法

【選択1】4-（4）関係施設の職員や介護関係（企業も含む）者や市民など、額が関係者との交流など、授業にどう取り入れていますか。また実習以外のインターンシップなど、特別の工夫をおこなっていますか。

《基本的な観点ごとの分析》（500字以内）

1. 本校は、子どもからお年寄りまで7法人8施設が隣接する「尾道ふくしむら」に誘致されており、さらに途中から社会福祉法人立の学校となり、同法人は高齢者のみならず障害者関連の様々な施設・事業所を37か所（うち同敷地内で3か所、周辺で5か所）運営しているという、とても恵まれた環境にある。
2. 常に現場の最先端の現実に対応できる教育を目指しており、授業でも多くの卒業生を含む現場職員をゲストスピーカーに招き、また生活支援技術では、場面によっては教員と共に、現場の介護職員の協力をお願いしている。

3. 学生への適切な指導を行うために、実習以外でも学生の受け入れをお願いしているし、施設からの行事他の応援要請にも積極的に応えている。

4. 尾道では季節ごとに様々な地域の行事があり、学生の出番がある。

<特に優れた点>

○尾道市から誘致された学校であり（土地の無償貸与も受けている）、地域での立ち位置を生かした活動に取り組みやすい。

<更なる向上を目指す点>（改善を要する点）

○学校周辺の当事者との協力関係を広げ、学校のある地域の暮らしをより意識した教育を模索したい。

《根拠となる資料・データ》

・シラバス

・年間行事計画

#### 基準4 教育方法

【選択2】4-（5）養成校の教育方法の向上を目指すために、特色のある独自の取り組みとして、どのようなことを行っていますか。

《基本的な観点ごとの分析》（500字以内）

1. もともとYMCAが設置した養成校であり、利用者の生活や人生をより豊かにする「福祉レクリエーション」には力を入れてきた。その延長で同敷地内の地域密着型特養に出掛けるのガーディニングや散歩、買い物ツアーなども授業に取り入れてきた。

2. また、YMCAは「学校体育」に対して「社会体育」⇒生涯スポーツにも熱心であり、教育内容に介護予防をいち早く取り入れ、また現場のレクリエーションの場でも、筋力アップを目指す貯筋体操などを実践している。

3. 最近では日レクと吉本興業が普及する「スポーツテンカ」を通して、高齢者のみならず小・中学校対象の地域のスポーツ活動にもその関わりを広げ、看護師・保育士のように、小さい頃からの介護福祉士との出会いの場を意識的につくっている。

<特に優れた点>

○生活体験が少ない学生たちに、様々な出会いの場、活動の場を提供し、生きる力・人と関わる力アップを目指している。

<更なる向上を目指す点>（改善を要する点）

○ボランティアに行くことも躊躇する学生や、人との関わりが難しい学生の増加の中で、段階を踏んだ教育指導のあり方。

《根拠となる資料・データ》

・シラバス

・授業資料

## 基準5 教員の資質向上

### 基準5 教員の資質向上

《概略の記述》 (500字以内)

- 5-1 【必須】 教員の外部研修・学会参加の機会をどのように確保・サポートしていますか
- 5-2 各教員の担当・適性に応じた授業技術向上をどのようにサポートしていますか
- 5-3 各教員の担当・適性に応じたクラス運営・学生指導のスキル・質向上をどのようにサポートしていますか
- 5-4 教員の資質向上の為に相互にサポートするチーム体制をどのように作っていますか
- 5-5 各教員の資質やその向上をどのように把握していますか
- 5-6 教員の資質向上のために、特色ある独自の取組みとして、どのようなことを行っていますか
1. 学生は卒業後、職場では最先端の課題への対応を迫られるが、教える教員の側は、油断をしていると現実からどんどん立ち遅れていくことになる。これまでの積み重ねや磨かれてきた原則・方法を踏まえつつ、急激に変化する現代の生活問題や介護問題のリアルな現実を認識し、そこと切り結べる新たな考え方や方法を常に模索していくことが、今、何よりも教員には求められる。
  2. したがって、それぞれの担当領域での新たな状況や課題が認識できるようなフィールドをきちんと持つことや、関連分野の研修会・学会の情報提供を心がけている。また、依頼された外部研修・地域活動には積極的に取り組んでいる。
  3. さらに、最近では課題を抱える学生も多くなっており、発達障害への理解や教員全体でのサポート体制を心がけている。

<参考資料>

### 基準5 教員の資質向上

【必須】 5-1 教員の外部研修・学会参加の機会をどのように確保・サポートしていますか

《基本的な観点ごとの分析》 (500字以内)

1. 研修や学会については広く情報を収集し、教員に情報提供している。
  2. 参加希望を基本に、出来るだけ全教員が参加できるように調整し、年間の研修計画を作成している。
  3. 研修参加については出張扱いで対応している。
  4. 研修報告書や研修資料は全教員に回覧している。
- <特に優れた点>
- ただ受講する、参加するだけでなく、報告者や講師としての役割を果たし、また主体的に企画・運営する側となるよう意識的に仕組んでいる。

＜更なる向上を目指す点＞（改善を要する点）

○学生数の減少により予算の確保が困難となっている。

《根拠となる資料・データ》

・年間研修計画

・企画・運営した研修他資料

基準5 教員の資質向上

【選択1】5-（3）各教員の担当・適性に合ったクラス運営・学生指導のスキル・質向上をどのようにサポートしていますか

《基本的な観点ごとの分析》（500字以内）

1. 隔週で教職員会議を実施し、学生情報は担任及び教科担当から毎回かなり丁寧に報告され教職員全員で共有し、対応についても協議する。
2. 主担任、副担任制をとり、一人の教員が抱え込まないように配慮している。
3. 委託訓練生担当や、重い課題を抱える学生については適切な教員がフォローするなどの体制をとっている。

＜特に優れた点＞

○個別対応はかなり丁寧にやっている。

＜更なる向上を目指す点＞（改善を要する点）

○引きこもり・うつ・発達障害等へのより深い理解と対応を学ぶ場が必要だし、その保護者との関わり方も課題である。

《根拠となる資料・データ》

・業務分担表

基準5 教員の資質向上

【選択2】5-（6）教員の質の向上のために、特色ある独自の取り組みとして、どのようなことを行っていますか。

《基本的な観点ごとの分析》（500字以内）

1. 校長が全国・県レベルでの役割を持っており、介護をめぐる最新の情報が伝えられるし、それを教育に反映できる。
2. 介養協の全国教職員研修会や日本介護福祉教育学会の主管校を引き受けたり、広島県福祉・介護人材確保等総合支援協議会が毎年開催する「介護の日フェスタ in 広島」や「介護の学校 in 広島」「未来を拓くK A I G Oカフェ in 尾道」の企画運営、『介護基礎ハンドブック』の作成とその講習会での講師など、主体的にその役割を果たすことで、教員としての質の向上が図られている。

<特に優れた点>

○学校の中だけに閉じこもることなく、活動を広げ、経験を重ねることで、教員としての問題意識もネットワークも広がり、存在意義を自覚することとなり、それが教育に反映されてきている。

<更なる向上を目指す点> (改善を要する点)

○できるだけこの活動を広げていきたい。

《根拠となる資料・データ》

・関連企画資料

## 基準6 やりがい・キャリア形成等を醸成する教育

基準6 やりがい・キャリア形成等を醸成する教育

《概略の記述》 (500字以内)

6-1 【必須】キャリア形成の仕組みを理解させるため、どのような取組みをしていますか

6-2 介護福祉士として働く意欲や、職業倫理・社会的使命についての個別面談をどのように行っていますか

6-3 就職への自覚や意欲を持たせる指導をどのように行っていますか

6-4 介護福祉を担う専門職の土台となる、社会人としての教養・一般常識・マナーなどをどのように伝えていますか

6-5 介護福祉士のやりがい・キャリア形成等を醸成する教育のために、特色ある独自の取組みとして、どのようなことを行なっていますか

1. 介護福祉士のキャリア形成のしくみについては、募集活動の体験入学の中でパンフレットを使って説明している。

2. 入学後も、主として「介護の基本Ⅰ」で、現代の介護問題の理解を踏まえて、介護福祉士としての社会的使命とやりがい、求められる専門性の幅の広さと資質向上の責務等について学ぶか、これは介護領域の他の科目や演習の中でも常に意識的に伝えている。

<参考資料>

・パンフレット

・シラバス

<p>基準6 やりがい・キャリア形成等を醸成する教育</p> <p>【必須】6-1 キャリア形成の仕組みを理解させるため、どのような取組みをしていますか</p> <p>《基本的な観点ごとの分析》（500字以内）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「介護の基本Ⅰ」で、今後の介護福祉士のキャリアアップと職能団体の役割や認定介護福祉士や管理介護福祉士の検討資料などについて説明している</li> <li>2. 卒業直前に、広島県介護福祉士会から入会の呼びかけと、生涯研修制度などについて紹介する場を設けている。</li> </ol> <p>＜特に優れた点＞</p> <p>特になし</p> <p>＜更なる向上を目指す点＞（改善を要する点）</p> <p>特になし</p> <p>《根拠となる資料・データ》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ シラバス</li> <li>・ 行事予定</li> </ul>
--

<p>基準6 やりがい・キャリア形成等を醸成する教育</p> <p>【選択1】6-（2）介護福祉士として働く意欲や、職業倫理・社会的使命についての個別面談をどのようにおこなってますか。</p> <p>《基本的な観点ごとの分析》（500字以内）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 1・2年次とも、前期・後期の始めと終わりに定例の個別面談を行う。</li> <li>2. 実習前・実習中・実習後も、学生の様子や提出物の状況によって、必要に応じて個別面談を行う。</li> <li>3. 前期・後期の試験の結果によって、個別面談を行う。 その他、学生が希望する場合に、適切な教員他が個別面談を行う。 場合によっては卒業生や実習指導者にお願いすることもある。</li> <li>4. 就職関連の面接は、担任及び必要によって、ジョブカード作成アドバイザーの資格を持つ教員が対応する。</li> </ol> <p>＜特に優れた点＞</p> <p>○学生の状況によって、適切な対応が取れる条件がある。</p> <p>＜更なる向上を目指す点＞（改善を要する点）</p> <p>○学生の抱える課題の重さ（家族のことも含む）をきちんと受け止める教員の許容範囲を広げる。</p> <p>《根拠となる資料・データ》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個別面談記録</li> </ul>
---

基準6 やりがい・キャリア形成等を醸成する教育

【選択2】6- (3) 就職への自覚や意欲を持たせる指導はどのように行っていますか

《基本的な観点ごとの分析》 (500字以内)

1. 学内で福祉の職場説明会と、参加施設との個別面談の場を設けている。職場説明のプレゼンテーションには、施設の管理者や人事担当者に加えて、そこに就職した本校卒業生も複数参加し、就職への心構えや、就職してからの経験を語ってくれて、在校生にはいい刺激となっている。

＜特に優れた点＞

○11月に行う県知事を実行委員長として県庁前広場で行われる「介護の日フェスタ in 広島」や「介護の学校 in 広島」、また本校で企画した「未来を語るKAIGOカフェ」など、現場の介護職員や施設・事業所、福祉機器や福祉車両を扱う企業との出会いの中で、就職への自覚や意欲を持たせる努力をしている。

＜更なる向上を目指す点＞ (改善を要する点)

○その学生の就職先のマッチングをどこまでフォローするか。

《根拠となる資料・データ》

・福祉の職場説明会資料

基準7 実習

基準7 実習

《概略の記述》 (500字以内)

7-1 【必須】 実習に向けての事前準備と実習後のフィードバックをどのように行っていますか

7-2 実習巡回時に実習指導者と十分なカンファレンスの時間を取るために、どのような働きかけをしていますか

7-3 本人の適性に基づいた実習が行えるようにするためにどのような体制をとっていますか

7-4 施設や居宅など多様な暮らしの特性を学ばせるためにどのような実習体制をとっていますか

7-5 実習先の実習指導者との連絡調整会や研究会などをどのような方法、頻度で実施していますか

7-6 実習先との連携のために、特色ある独自の取組みとしてどのようなことを行なっていますか

1. 介護実習に向けて、事前準備として、学生は、実習施設に一日ボランティアとして施設の様子や利用者の生活の様子を知る機会を設けている。このことにより、事前に学習しておくことや実習中の目標設定が明確になる。学生の性格や能力と実習施設や実

習指導者の指導の特徴などと合わせ、より実習しやすく、あるいは成果のある実習になるように実習施設を選定し、実習指導者には学生の情報や指導してほしい事柄等を事前に伝えている。

2. 実習指導者連絡会の開催を行い、実習の目的や目標が共有できるようにしている。
3. 実習中は、実習巡回を週1回から、学生の状況により、回数を増やし、実習場所での適時指導が図れるように、指導者との情報共有や反省会等を行っている。
4. 多様な暮らしの特性を学ぶため、実習前から、現場の職員の話をお聴くことや、同じ法人やふくしま内の施設見学、レクリエーションの実施を施設で行なうことで、多くの利用者と関わり、多様な暮らしを学ぶ機会としている。実習中は、利用者の生活理解を、施設内での支援のあり方や、地域とのつながりを意識した指導や学びができるようにしている。
5. 実習後は、実習報告会として、経験した生活支援技術、多職種連携、介護過程の展開の事例報告等、学生個々の振り返りや、学生間での学び合いの場となるように助行で取り組んでいる。

#### <参考資料>

- ・実習の手引き

#### 基準7 実習

【必須】7-1 実習に向けての事前準備と実習後のフィードバックをどのように行っていますか

《基本的な観点ごとの分析》（500字以内）

1. 実習前教育として、実習施設の状況や利用者との関わりが具体的にイメージでき、心構えや学習準備ができるように、ボランティアに行ったり、ロールプレイで利用者との関わりを模擬体験したりしている。
2. 実習中のマナーや態度、報告や相談等、学生全体や個別でオリエンテーションを行っている。実習後は、個別での実習の振り返りをした後、グループで、また全体で、報告を共有し合い学びを深めている。

<特に優れた点>

- 実習前教育として、学生の実習に対する漠然とした心理的な不安の軽減や介護の現場の楽しさを体験するために、学生同士で話し共感しあい、生活支援技術等を通して利用者に関わる楽しさを伝えている。
- 実習のオリエンテーションは介護総合演習だけでなく、あらゆる科目や機会を通して、実習での態度、取り組む姿勢、資料等の管理、相談報告、記録等が意識できるように、教員間で情報を共有し連携して指導している。



＜更なる向上を目指す点＞（改善を要する点）

○実習報告会の実施は、実習後学生間の学び合いの機会となり、必ず実施しているが、今後は、実習指導者の参加を検討していく。

《根拠となる資料・データ》

- ・シラバス
- ・実習の手引き
- ・実習報告会資料

## 基準7 実習

【選択1】7- (2) 実習巡回時に実習指導者と十分なカンファレンスの時間をとるためにどのようなはたらきかけをしていますか。

《基本的な観点ごとの分析》（500字以内）

1. 実習前に、実習指導者連絡会の場を設け、実習指導者と巡回教員が実習の目的や実習生の情報を共有し指導方針が一致するようにした。このことがあり、実習巡回中は、実習指導に時間や配慮を受けている場合が多くあり、実習指導者と話す機会が得られやすい環境がつけられた。

＜特に優れた点＞

○巡回指導教員と実習指導者が、巡回での指導や学生状況を指導者へ報告するとともに、学生の実習状況に応じて、必要な巡回の回数や指導内容、指導時間を指導者と相談して決定し実施している。

＜更なる向上を目指す点＞（改善を要する点）

○実習前の指導者連絡会により、学校の教員と実習指導者の連携により、効果的な実習が行えている面や課題等、を話し合うことで、実習指導者としての意識を向上させる機会となっている。しかし、全実習指導者の参加は難しく、また、施設現場の人員等余裕のない状況ではあるが、施設の職員の実習指導の協力を得る必要がある。

《根拠となる資料・データ》

特になし

## 基準7 実習

【選択 2】7- (5) 実習先の実習指導者との連絡会議や研究会などをどのような方法、頻度で実施していますか。

### 《基本的な観点ごとの分析》

1. 実習の目的や実習状況から、実習指導者と話し合い、検討すべき課題をテーマにし、情報共有や実習指導の方法を話し合う場としている。

実習目標を明確にしたり、実習評価表の項目の検討や学生状況を伝える場とする。

また、介護分野や介護福祉士教育の国の方針などの動きを知り、現場施設の職員個々の介護の専門性を発展させる意識を再確認する場ともする。

### ＜特に優れた点＞

○2016年度の実習のために、2016年1月には、地域密着型施設実習の指導者を7月には、入所実習の指導者、通所実習の指導者を対象にした実習指導者連絡会を計3回実施し、実習目標や実習内容の確認や学生状況と望ましいと思われる目標設定や指導方法等の話し合いを行った。

### ＜更なる向上を目指す点＞（改善を要する点）

○実施時期や会議でのテーマの設定等の検討が必要である。

実習施設現場の煩雑な状況はさらに進み、職員の実習指導の協力が得られにくい状況があると思われる。また、学生もコミュニケーション能力や介護福祉士となる目的意識や意欲等に課題をもつ場合もあり、指導の工夫や配慮を、教員と指導者で共有するために、明確にしていく必要がある。

### 《根拠となる資料・データ》

・実習指導者連絡会資料

## 基準8 リカレント教育体制

### 基準8 リカレント教育体制

#### 《概略の記述》 (500字以内)

8-1 【必須】 介護福祉士としての資質向上の責務や継続的な学習の必要性を、在学中にどのように指導していますか

8-2 卒業後の就労意欲の維持向上（離職防止）のために、どのような取組みを行っていますか

8-3 卒業生の知識・技術の向上のためにどのような取組みを行っていますか

8-4 卒業後の制度・施策、業界の動向に関する最新情報を提供するために、どのような取組みを行っていますか

8-5 卒業生と在学生の協力体制をどのように築いていますか。

8-6 介護福祉士の専門的力量的向上のために、特色ある独自の取組みとして、どのようなことを行なっていますか

8-7 資格取得後のキャリア形成について、どのように授業に取入れていますか

1. 社会福祉士及び介護福祉士法改正で、資格取得後の自己研鑽として「質向上の責務」が義務規定に加えられたし、人類が初めて経験する人生 80 年時代の老後問題・介護問題への取組みであることが在学中から強調している。
2. 同窓会があり、卒業生にはその機関誌で最新の情報や卒業生の近況なども知らせている。昨年度卒業生は、主体的に卒業後 3 ヶ月での集まりを学校で開いたが、3 ヶ月の試用期間が終わり、新人研修も様々で、お互いの状況の交流と自分の振り返りができており、この時期の集まりの重要性を認識したところ。  
卒業生の学校への貢献度は高い。

<参考資料>

・ シラバス

・ 同窓会機関誌

基準 8 リカレント教育体制

【必須】 8-1 介護福祉士としての資質向上の責務や継続的な学習の必要性を、在学中にどのように指導していますか

《基本的な観点ごとの分析》（500 字以内）

1. 社会福祉士及び介護福祉士法改正で、資格取得後の自己研鑽として「質向上の責務」が義務規定に加えられたことのみならず、人類が初めて経験する人生 80 年時代の老後問題・介護問題への取組みは、お手本はどこにもなく、利用者や関連職種との不断の努力を積み上げるしか、この事態は支えられないことを在学中から常に語っている。

<特に優れた点>

○現代の介護問題分析を意識的に行っている。

<更なる向上を目指す点>（改善を要する点）

○もっと介護福祉士の社会的存在意義を伝えたいが、国の介護福祉士像が揺らいでおり、悩むところ…介護福祉士の未来は誰が決めるのだろう。

《根拠となる資料・データ》

・ シラバス

・ 授業配布資料

基準8 リカレント教育体制

【選択1】8-(2) 卒業後の就労意欲の維持向上（離職防止）のために、どのような取り組みを行っていますか

《基本的な観点ごとの分析》（500字以内）

1. 同窓会では、新採用となった卒業生を、ベテランの先輩たちや教職員が支えようと6月末に懇親会を企画している。

ともかく、何かあったら学校に来れば何とかなる、という雰囲気普段からつくりだす努力をしている。全体の同窓会の集まりだけではなく、学年やクラス、グループで集まる時は、出来るだけ学校を集合場所にするよう働きかけ、教職員も顔を合わせる努力をしている。

卒業生からの相談も丁寧に対応するし、図書室も開放して、本の貸し出しもしている。

<特に優れた点>

○小規模校なので、対応しやすい。

<更なる向上を目指す点>（改善を要する点）

○懇親会に加えて、今は、介護をめぐる最新情報を、機関誌だけでなく、直接伝えられる機会をつくりたい。

《根拠となる資料・データ》

特になし

基準8 リカレント教育体制

【選択2】8-(5) 卒業生と在校生の協力体制をどのように築いていますか

《基本的な観点ごとの分析》（500字以内）

1. 授業や演習に卒業生の協力を得ている。

卒業生はゲスト講師をするだけでなく、障害者本人とヘルパーとしての卒業生が登場し、絶妙な掛け合い講義をしてくれる場面もあった。

実習時も本校卒業生の指導者の場合、本校の実習を良く理解した上での対応なので、教員も安心である。実習指導者交流会でも適切な発言をしてくれる。またその施設への就職希望がある場合など、適切なアドバイスをもらっている。

2. 一方、卒業生を通しての施設の研修などは、積極的に引き受けるよう心掛けている。

本校卒業生の教員は3名いたが、現在は他養成校卒業生教員が2名となっている。

<特に優れた点>

特になし

<更なる向上を目指す点>（改善を要する点）

○卒業生との定期的な交流会を増やしたいが、現場での多忙さでなかなか参加が難しいという声もあるし、学校もまた余裕がなくなってきている。

《根拠となる資料・データ》

・ シラバス

・ 実習指導者交流会資料

## 基準9 学生の募集と受け入れ

基準9 学生の募集と受け入れ

《概略の記述》 (500字以内)

9-1 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいますか

高等学校等の教育機関には、年間を通じて入学案内・募集要項等を持参して情報提供に取り組んでいる。

9-2 学生募集を適切かつ効果的に行っていますか

9-6 学生募集と受け入れのために、特色ある独自の取組みとして、どのようなことを行なっていますか

1. オープンキャンパスの開催、下校・退社時等に気軽に相談できる学外相談会等を開催して、進路相談を実施して、学校独自の取組みなどの説明を行っている。

＜参考資料＞

・ 入学案内

・ 募集要項

・ 学校ホームページ

基準9 学生の募集と受け入れ

【必須】9-2 学生募集を適切かつ効果的に行っていますか

《基本的な観点ごとの分析》 (500字以内)

1. 学校訪問・校内ガイダンス・会場ガイダンス等により、直接希望学生に対して情報提供を実施している。進路選択後の将来設計等も説明して、不安感解消に努めている。

＜特に優れた点＞

○入学希望者に対しては、進学後の様子等が伝えられることが大変優れている。

○進路指導教員・保護者への働きかけも可能なことから、効果は期待できると考える。

＜更なる向上を目指す点＞ (改善を要する点)

○会場・校内ガイダンスについては、進路選択希望者は参加する場合もあるが、保護者や進路指導教員の参加は不定期なため、同席できるような改善が必要と考える。

《根拠となる資料・データ》

・ 学校ホームページ

基準9 学生の募集と受け入れ

【選択1】9- (1) 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいますか

《基本的な観点ごとの分析》 (500字以内)

1. 高等学校等の教育機関には、年間を通じて入学案内・募集要項等を持参して情報の提供を実施。4月・7月・10月には、主に入学案内を用いて、教育内容等を詳細に進路指導担当教員へ実施している。5月～6月・9月には、オープンキャンパス情報・福祉業界の現状等を記載したリーフレット等を作成して、説明配布も行っている。
2. 新たな学校としての支援制度や国の施策等を適宜案内・説明を行い情報提供に取り組んで教育機関に対する情報提供は行えている。

＜特に優れた点＞

- 高等学校等の教育機関、特に進路指導担当との関係性を構築するには、学校訪問等を実施することで、学校の情報提供を的確に行え、大変優れた取組みとなっている。

＜更なる向上を目指す点＞ (改善を要する点)

- 高等学校等の教育機関への情報が、対象となる学生・保護者へ十分な情報提供がなされていない点。関係性をさらに高めながら、直接的な情報提供が可能な関係を構築することを目指す必要がある。

《根拠となる資料・データ》

・入学案内

・募集要項

基準9 学生の募集と受け入れ

【選択2】9- (6) 学生募集と受け入れのために、特色ある独自の取組みとして、どのようなことを行なっていますか

《基本的な観点ごとの分析》 (500字以内)

1. 年間10回のオープンキャンパスの開催に加え、下校・退社時等に気軽に相談できる学外相談会等を開催して、進路相談を実施している。すべての開催で、在校生が直接学校の授業の様子や学生生活について語り、入学希望者・検討者の不安解消に努めている。
2. 奨学金制度や公的支援制度以外に、学校独自の支援制度も取り入れ、経済的な支援の充実を図り学生募集に活かしている。

＜特に優れた点＞

- オープンキャンパス等には在校生が参加することで、入学希望者に対しての不安感を解消できている。特に授業の様子や学費への不安感は、在校生から生の声を聞く事はとても優れている。

＜更なる向上を目指す点＞ (改善を要する点)

- オープンキャンパスの開催時期・学外相談会の会場設定など、相談に参加しやすい時期・会場選びが必要。地方開催も含めた更なる改善を行っていく必要がある。

《根拠となる資料・データ》

- ・入学案内
- ・学校ホームページ
- ・オープンキャンパスリーフレット
- ・学校フェイスブック

## 基準 10 内部質保証

### 基準 10 内部質保証

《概略の記述》 (500 字以内)

- 10-1 自己点検・評価をどのように行っていますか
  - 10-2 学校関係者評価をどのように行っていますか
  - 10-3 評価の充実に向けてどのような工夫を行っていますか
  - 10-4 【必須】教育情報をどのように公開していますか
  - 10-5 内部質保証についての特色ある独自の取組みとしてどのようなことを行っていますか
1. 学校評価については、「社会福祉法人尾道さつき会尾道福祉専門学校 学校関係者評価委員会設置規則」を整備して規則に則り実施している。  
自己評価票を基に教職員間で教育活動や学校の運営状況について分析・評価を行い、自己評価報告書にまとめ、学校関係者評価委員会に提出している。
  2. 学校関係者評価委員会は学校が選任した評価委員と学校の教員で組織し、自己評価報告書をもとに現状と課題等について評価し、評価委員からは今後の改善方策等について助言を得ている。
  3. 評価の充実に向けては、今年度評価委員の更新にあたり、福祉施設関係者及び福祉行政関係者のほかに福祉コースのある高等学校教諭に依頼して、進路選択を指導する立場からの学校評価の意見を聴取し、次年度の学校運営の見直しに位置づけた。
  4. 教育情報の公開については、自己評価及び学校関係者評価報告を当校のホームページで公開している。

<参考資料>

- ・社会福祉法人尾道さつき会尾道福祉専門学校 学校関係者評価委員会設置規則
- ・委員名簿

基準 10 内部質保証

【必須】 10-4 教育情報をどのように公開していますか

《基本的な観点ごとの分析》（500 字以内）

1. 自己評価報告書及び学校関係者評価報告書は、学校関係者評価委員会開催後当校のホームページで公開している。

＜特に優れた点＞

特になし。

＜更なる向上を目指す点＞（改善を要する点）

特になし。

《根拠となる資料・データ》

- ・ ホームページ

基準 10 内部質保証 1

【選択 2】 10-1 自己点検・評価をどのように行っていますか

《基本的な観点ごとの分析》（500 字以内）

1. 部科学省で示されている、自己評価票に基づき教職員間で分担して現状及び課題を分析して評価を行う。評価内容については副校長がまとめ、校長が再確認を行い自己評価報告書にまとめる。
2. 学校関係者評価委員には評価委員会開催前に郵送し、評価委員会で必要資料を基に協議・評価を行う。

＜特に優れた点＞

特になし。

＜更なる向上を目指す点＞（改善を要する点）

特になし。

《根拠となる資料・データ》

- ・ 自己評価報告書



基準 10 内部質保証

【選択 1】 10-2 学校関係者評価をどのように行っていますか

《基本的な観点ごとの分析》 (500 字以内)

1. 学校関係者評価委員会は学校が選任した評価委員と学校教員で組織し、自己評価報告書をもとに現状と課題等について評価し、評価委員からは今後の改善方策等について助言を得ている。
2. 今年度、評価委員の選任にあたり、福祉施設関係者及び福祉行政関係者のほかに福祉コースのある高等学校教諭に委嘱する。進路選択を指導する立場からの学校評価の意見を聴取し、次年度の学校運営の見直しに位置づけた。

＜特に優れた点＞

- 学校関係者評価委員会では、学校の現状把握の他に、国及び県レベルの動向について詳しい情報提供を行い、評価の基準を具体化している。

＜更なる向上を目指す点＞ (改善を要する点)

- 評価委員会の開催回数。現在年 1 回となっているが、自己評価内容をじっくり協議して頂くには複数回の開催が必要と思われる。

《根拠となる資料・データ》

- ・ ホームページ

専修学校職業実践専門課程（介護分野）

第三者評価試行

## 第三者評価報告書

尾道福祉専門学校

平成 29 年 2 月

調査訪問日 平成 28 年 12 月 8 日

## 目 次

<各規準の評価結果>

基準 1 教育理念

基準 2 学校運営

基準 3 教育内容

基準 4 教育方法

基準 5 教員の資質向上

基準 6 やりがい・キャリア形成等を醸成する教育

基準 7 実 習

基準 8 リカレント教育体制

基準 9 学生の募集と受け入れ

基準 10 内部質保証

## ＜各規準の評価結果＞

### 基準1 教育理念

基準1 教育理念
<p>＜総 評＞</p> <p>1. 当該モデル校は社会福祉法人さつき会の運営する介護福祉科単価の養成校である。当該モデル校の前身校は尾道ふくしむらの整備の一環として1997年に開設された。その後全国的な入学者の減少に際し、学校を誘致した尾道市と尾道ふくしむらの一員であり、これまでも実習などを通して関係の深かった社会福祉法人さつき会が協議をし、質の高い介護従事者養成の必要性と社会福祉法人の社会的責任の観点から、2010年より同法人がその運営を引き継ぐこととなった。</p> <p>2. 社会福祉法人さつき会は、保健・医療・福祉の連携に基づき、障害児・者及び高齢者が安心して生活できる地域社会の実現を目指すとの運営理念を掲げている。これを受け、当該モデル校の教育理念を「地域に親しまれ、支えられるとともに、地域に貢献できる専門学校づくり」とし、①教育内容の充実②介護現場に即した人材の育成③福祉動向の把握及び理解④地域貢献の4点を運営方針としている。</p>

基準1 教育理念	
【必須】 1-1 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を持っていますか	
評 定	評価ポイント 3
<p>＜評価する点＞</p> <p>1. 学校の将来構想についてはその必要性を痛感しており、経営改善をふくめ、ワーキンググループ等での検討を進めている。しかし、介護福祉士の将来目指すべき位置づけについての議論は国レベルでまだ継続しており、学校の将来構想の策定を困難にしている。</p> <p>2. 当該モデル校としては今現在の介護人材の必要性、介護の仕事への理解を促進するため、様々な取り組みを実践している。</p> <p>実習施設懇談会、実習施設職員への国家試験対策の実施、施設での事例検討会や研修会への協力、県実施のホームヘルパー研修への協力、県介護福祉士会立ち上げへのバックアップとその後の協力、市ホームヘルプ研究会の実施、高校家庭科部会・福祉部会への協力等を養成施設としての役割として積極的に関わっている。</p> <p>また、校長は介護福祉士養成施設協議会の理事、教育・研修委員会委員として、介護教員講習会、全国教職員研修会、介護福祉教育学会等において積極的に発言している。こうした様々な取り組みを通して将来構想策定への手がかりを探っている。</p> <p>3. 当該モデル校の教育課程編成委員会において、国の政策動向や介護業界のニーズを把握し将来構想などを協議したうえで、求める介護福祉士像及びカリキュラム編成について、有益な助言を得ている。</p>	

＜特に優れた点＞  
 特に記載事項なし  
 ＜更なる向上を目指す点＞（改善を要する点）  
 ○国の政策動向や介護業界のニーズを把握しつつ、さらなる学内での将来構想に関する議論を進め、計画策定に至ることが期待される。

基準1 教育理念	
【選択1】 1－(2) 理念・目的育成人材像はさだめられていますか	
評定	評価ポイント 2
<p>＜評価する点＞</p> <p>1. 当該モデル校の教育理念は「地域に親しまれ、支えられるとともに、地域に貢献できる専門学校づくり」とされ、次の4点を運営方針としている。</p> <p>①教育内容の充実          ②介護現場に即した人材の育成          ③福祉動向の把握及び理解          ④地域貢献</p> <p>2. 介護現場に即した人材の育成では、福祉現場が直面している課題を反映した教育内容や介護職員の声を生かした教育を実施するとされている。</p> <p>3. 地域貢献に関しては、地域や事業所の行事あるいは活動に参加する特別活動を充実し、社会性や自主性を育むとともに地域に貢献できる学生を育成するとされている。学則には「介護福祉に関する専門知識及び技術を教授すると共に、地域福祉の向上を目指した教育を行う」事が明記されている。</p> <p>4. 介護実習においては、実習目標が達成できるように実習施設及び実習指導者との連携を強化し、求める介護福祉士像の共有を図り、学生の教育に生かしている。</p> <p>＜特に優れた点＞</p> <p>○実習指導を依頼する施設との関係づくりが、重層的で多様である。教員の施設担当制、施設行事への協力、実習施設懇談会の実施等のほかに、資格のない介護員が実習指導をすることへの対応として実習施設職員の国家試験対策の実施、施設での事例検討会や研修会への協力など、求める介護福祉士像の共有ということが言葉だけでなく実践されていることがうかがえる。</p>	

＜更なる向上を目指す点＞（改善を要する点）

○当該モデル校の目指す介護福祉士像については、入学希望者向けパンフレットやホームページはもとより、介護の日フェスタや介護の学校 in 広島など県レベルの催しへの参加、地域の祭りや施設行事への参加等、その理解促進のための取り組みが行われている。

しかし、入学者等の動向をみると介護に対するマイナスイメージが払拭されつつあるとはい言い難い。今後のさらなる工夫・努力を期待したい。

基準1 教育理念

【選択2】 1－(4) 理念などの達成に向けた特色ある教育活動にも取り組んでいますか

評 定	評価ポイント 3
-----	----------

＜評価する点＞

1. 社会福祉法人さつき会は、保健・医療・福祉の連携に基づき、障害児・者及び高齢者が安心して生活できる地域社会の実現を目指すとの運営理念を掲げている。  
これを受け、当該モデル校では介護福祉における専門的知識及び技術を習得し、地域福祉の向上を図れる介護福祉士像を目標として養成教育を実施としている。
2. 特に、本校は地元自治体と社会福祉法人さつき会による地元に着した介護福祉士養成校であり、法人内の介護・障害者施設をはじめ、地元尾道ふくしむらの諸施設から、福祉現場の中核として活躍している職員を数多く講師として招き、今求められている介護実践についてリアルタイムに学ぶことができることが特色である。

＜特に優れた点＞

○社会福祉法人さつき会は「尾道の福祉を担う」を合言葉にしており、その傘下の28か所の施設・事業所が当該モデル校の養成教育に全面協力をしている。

また、地元自治体と強いきずなを背景に尾道ふくしむらだけでなく、尾道市及び周辺地域の社会福祉法人の施設・事業所からも協力が得られ、学外の実習施設は128か所を確保している。

○特に尾道ふくしむら内の施設とは、実習のみならず授業でも、施設見学や現場からの特別講師派遣、また福祉レクリエーション関連の授業では、施設の利用者さんとの合同プログラム(買い物ツアー、園芸作業、介護予防の貯筋肉体操など)を実施し、貴重な体験となっている。

＜更なる向上を目指す点＞（改善を要する点）

特に記載事項なし

## 基準2 学校運営

基準2 学校運営
<p>&lt;総 評&gt;</p> <p>1. 運営方針、事業計画については、毎年教職員間で協議を行ったうえで策定し、理事会に提出している。</p> <p>学校運営については、教職員は教務分掌で役割を明確にして実施しており、協議事項は毎月2回開催している教職員会議等で十分協議したうえで、決定事項として情報の共有化を図っている。</p> <p>2. 人事・給与に関する規定は、法人全体で見直しが行われ整備された。教育活動についてはホームページ等により、情報公開に努めている。</p>

基準2 学校運営	
【必須】2-2 理念等を達成するための事業計画を定めていますか	
評 定	評価ポイント 2
<p>&lt;評価する点&gt;</p> <p>1. 事業計画は、毎年教育理念・教育方針に基づき教職員間で協議を行ったうえで策定し、理事会に提出し承認を得ている。</p> <p>予算計画とも併せて、中間期及び期末に見直しを行い適宜修正し、目標達成に努めている。特に、学生募集の目標及び経営改善については法人と一体的に計画を見直し、改定を行っている。</p> <p>2. 27年度、28年度とも事業計画の重点目標として、魅力ある学校づくりと入学者の確保による経営の安定化の二点を掲げている。</p> <p>&lt;特に優れた点&gt;</p> <p>特に記載事項なし</p> <p>&lt;更なる向上を目指す点&gt;（改善を要する点）</p> <p>○学校関係者評価委員会報告では「入学者の確保について、近年社会に定着しつつある介護に対するマイナスイメージを払拭すべく、介護の魅力や安定した職業としての将来性などを積極的に発信していく必要がある」と指摘している。</p> <p>本校での様々な取り組みや介護福祉士養成校サイドのみの取り組みには限界のあることを踏まえつつ、さらなる検討が望まれている。</p> <p>○また、自己評価報告書によれば、「法人全体の職制や給与の在り方についての見直しはおこなわれたが、学校の場合は専門学校独自の評価が必要であり、この点についてのさらなる検討・協議が必要である」とされている。</p>	

基準2 学校運営	
【選択1】 2－(3) 人事・給与に関する制度を整備していますか	
評 定	評価ポイント 2
<p>&lt;評価する点&gt;</p> <p>1. 2015 年度より、それまでの人事・給与制度を見直し、新人事制度を導入している。 見直しの目的は①個人の成績が「昇給・昇格・昇進・賞与」にきちんと反映できる仕組の構築、②数値・行動・スキル目標の導入により、職員の意識改革と行動改革に期待できることである。この制度の特徴は、実力主義のルールとキャリアパスを重視しているので優秀な職員やスタッフの確保が可能となっている。</p> <p>&lt;特に優れた点&gt; 特に記載事項なし</p> <p>&lt;更なる向上を目指す点&gt; (改善を要する点)</p> <p>○人事・給与制度については法人全体の見直しは行われた。しかし、当該モデル校においては単なる介護福祉士養成校の範疇を超えた多様な活動(たとえば、学力や生活力に課題を抱える学生への個別支援、介護に対する社会のマイナスイメージを払拭するための県単位の企画の推進、さらに介護現場からの特別講師の派遣や授業と施設利用者との合同プログラムの継続、実習指導会議の深化などの地域や介護現場のニーズに基づいた教育活動の展開)が実践されており、こうした専門学校独自の評価を反映した人事・給与制度の確立についてさらなる協議が期待される。</p>	

基準2 学校運営	
【選択2】 2－(6) 国家試験に対する方針は明確になっていますか	
評 定	評価ポイント 2
<p>&lt;評価する点&gt;</p> <p>1. 国家試験に対する国の示す動向については、情報収集に努め、対応方針についての教職員間で協議を定期的に行っている。また、これまで卒業試験対策の時間を2年次に22時間設けていたが、今後は1年次の授業及び試験から国家試験を意識した内容にしていくこととされている。</p> <p>&lt;特に優れた点&gt; 特に記載事項なし</p> <p>&lt;更なる向上を目指す点&gt; (改善を要する点)</p> <p>○自己評価書によれば、「学力や生活力に課題を抱える学生も増加し、学業の継続にかなりの支援を必要とする状況が生まれている」との認識が示されている。 こうした状況について学生一人一人についてのケアプランが必要であり、相手の状況に合わせた丁寧な指導を教員のチームワークで達成していくとされている。教員の数多い業務の中困難な課題であると思われるが、健闘を期待したい。</p>	



### 基準3 教育内容

#### 基準3 教育内容

##### <総 評>

1. 尾道を中心に福祉施設を運営する社会福祉法人尾道さつき会を母体とした専門学校である。高齢者総合ケアセンター、介護老人保健施設や障害者生活支援センター、尾道市生きがい活動推進センターなどの各種施設が集まる福祉コミュニティ（尾道ふくしむら）の一角にキャンパスがあり、介護福祉を学ぶ学生と介護福祉サービスを利用者している高齢者や障がいのある人々や従事者との交流が積極的に行われており、講義と実践が一体となった教育が行われている。
2. また、広島県福祉・介護人材確保等総合支援事業には学校長の高いリーダーシップのもと、専任教員と学生が積極的に参画し、介護福祉職の中核的な存在である介護福祉士の存在を学生に認識付け、介護実践力の高い介護福祉士を養成している。
3. 介護福祉士養成の到達目標の11項目をふまえ「介護領域」を軸として「人間と社会」と「こころとからだのしくみ」「医療的ケア」に加え「関連科目」で構成された教育が行われ、介護福祉士養成施設指定規則である1850時間を大幅に超える2144時間の教育内容が準備されている。
4. 介護福祉士の受験資格に加えて福祉レクリエーションワーカー資格も取得できる科目が配置され、介護福祉分野と社会福祉分野におけるレクリエーションのあり方や福祉レクリエーションの視点を持った支援ができる学生を育てることを目指している。  
しかし、平成29年度入学生からは1896時間に変更し選択科目制を導入し学生に応じた柔軟な対応を予定しているということであった。
5. 各科目の配列や教育内容の検討は、カリキュラム交流会を持ち専任教員はじめ非常勤講師と共に教育効果を上げる工夫がなされている。
6. さまざまな学校行事やイベントには学生全員が取り組み、創造性豊かな人間としての成長を願い、介護福祉実践の場で活躍できる人材を育成している。
7. 教育内容に関しては当該モデル校の運営指針の1番目に「教育内容の充実」が示され、介護福祉に関する専門的な知識・技術を享受し、介護福祉士の資格取得が可能な学生を育成することが記されている。

基準3 教育内容

【必須】3-1 人権や尊厳などの価値に関する授業を行っていますか

評 定

評価ポイント 3

<評価する点>

1. 1年生前期には「人間の尊厳と自立」で、人間の理解を基礎として、人間としての保持と自立・自律した生活を支える必要性について理解し、介護場面における倫理的課題に対応できる基礎となる能力を養うことを目的とした講義が行われ、介護の基本I、介護のコミュニケーション、生活支援技術、介護過程、介護実習等、福祉レクリエーションすべての科目の中で、尊厳や人権に関する内容を教授し、学生自身が考え行動できる力を養っている。

学校の教務室は開放的で、各専任教員は顔が見える位置に配置されており講義内容、講義の進度、学生の理解力等を情報交換し、専任教員がひとり一人の学生を大切に育てる姿勢そのものが人権や尊厳の意味を伝えていることが確認できた

2. 本校の特徴でもある福祉コミュニティ（尾道ふくしむら）の中で教育が行われており、障害のある人、認知症のある人、その家族から直接話を聞く機会が多く設けられ、講義内容をダイレクトに学生達は体感することができ、対人援助職として求められる人権や尊厳の考え方や介護観・倫理観を学んでいる。

3. また、卒業生や現役の介護福祉職員による講義を多く取り入れ、介護福祉現場の最先端の現実に対応できる教育を目指していることが確認できた。

4. 学校行事やイベント、地域の祭りや介護の日フェスタには学生を積極的に参加させ、他校の学生、地域の人々との交流を通して自他の存在価値や他者を尊厳することを実感する機会を設けている。

5. 卒業生や在校生との面談時、「利用者のねがいや心をかなえる思いを忘れないように介護をしたい」と述べていた。人権や尊厳などの価値を基盤においた教育が行われていることが確認できた。

<特に優れた独自の取り組み>

○教育目標を達成するために、専任教員の教育に加え、当事者の生の声や卒業生、介護福祉現場の職員を招き、講義の中に多く取り入れている。

○さらに現場の声を生かした教育環境にあり、学生の介護福祉力向上と人間形成教育を視野に入れた教育が行われていることが特に高く評価できる。

<更なる向上を目指す点>（改善を要する点）

改善を要する点は見当たらない。

○委託訓練生や多様な学力・特性を有する学生が入学して来ると思うが、個々の学生に応じた教育方法を他校介護福祉教員や研修会等で紹介していただきたい。

基準3 教育内容

【選択1】3- (2) 個別の心身状況に沿った介護を行うために、「介護過程」「生活支援技術」など専門科目においてどのように授業を行っていますか。

評 定	評価ポイント 3
-----	----------

<評価する点>

1. 利用者の心身の状況に沿った介護を行う教育は、本校のカリキュラムの中に配置されている全ての科目が該当している。中でも質の高い介護福祉実践を達成させるためのプロセスとして介護過程展開の授業を工夫している。

介護過程展開のプロセス理解させるために、1年生前期ではまず、学生自身の生活課題を明確にして目標設定から計画を立てる取り組みを行っている。さらに「介護過程」「生活支援技術」「こころとからだのしくみ」の教育内容を関連させ、「生活支援技術」で利用者を登場させ、「こころとからだのしくみ」では利用者の疾患や障害について理解させ、「介護過程」では利用者の介護過程展開を学べるように教育内容の配列が行われている。

2. また、生活支援技術では事例を活用し ICF の理解や介護過程展開の説明を行っている。これらの学びを介護実習につなげ、利用者の思いに気づき、利用者のフェイスシートを作成し、利用者の尊厳や自立に向けた介護計画を実習後の授業につなげていることが確認できた。

3. 介護過程は介護福祉を進めていく上でのプロセスであるが、単なるアセスメント、課題の明確化、計画、実施、評価といった一連の流れを教授するのではなく、利用者の思いや気持ちに気づけることを大切に、紙上事例での展開が可視化できるような工夫を行っている。

4. 「介護過程」「生活支援技術」「こころとからだのしくみ」を担当している教員間の連携、一方的な講義ではなく、教員と学生が双方向のコミュニケーションを図りながら介護過程展開の意味を理解し実践できるような講義が行われていることを確認できた。利用者の暮らしを整えていくためには何が大切であるかを入学時から順序立てて教授することで利用者の心身の状況にそった介護ができるように取り組んでいる。

<特に優れた独自の取り組み>

○紙上事例を「生活支援技術」の演習、介護過程展開、こころとからだのしくみの授業で共有し、学生の理解を促し、介護実習やボランティアや地域で出会う利用者に求められる生活支援を考えさせている点が高く評価できる。

<更なる向上を目指す点> (改善を要する点)

○介護総合演習Ⅳでは実習Ⅱでかかわった利用者の介護過程展開を整理し、合同発表会を実施しているが、事例研究としてまとめ探求的な姿勢が養われることを期待する。

基準3 教育内容	
【選択2】3-(7) 医療的ケアに関する専門的な知識・技術を習得させるために、どのような授業をおこなっていますか。	
評定	評価ポイント 2
<p>&lt;評価する点&gt;</p> <p>1. 医療的ケアは介護福祉士養成施設指定規則では50時間が指定されているが、当該モデル校では医療的ケアⅠ・Ⅱ・Ⅲを設定し90時間を配置している。また、看護師資格のある専任教員2名で教授されている。</p> <p>本年度は平成27年度入学（2年生）も医療的ケアⅠ・Ⅱの105時間分も並行して教育されているが、年間スケジュールを立て、知識を一方向的に教授するのではなく、学生の興味を引き出した上で医療的ケアに必要な知識・技術を教授している。</p> <p>2. テキストに記載された内容が理解できるように、映像も取り入れ、法的根拠や倫理的配慮、介護福祉士が医療的ケアを担うことの意味、医療職との連携や介護福祉士の役割、喀痰吸引と経管栄養の知識を学習し、医療的ケアの手技について十分に学習できるように演習を行っている。</p> <p>3. 喀痰吸引と経管栄養の各項目の技術チェックでは5回目は実技テストを課し、技術習得度のチェックを予定している。医療的ケアの手技を学ぶ過程では学生個々の理解度を確認し、学生に応じた指導方法を工夫していることを確認した。</p> <p>&lt;特に優れた独自の取り組み&gt;</p> <p>○ 喀痰吸引と経管栄養の手技は学生の習得能力に応じて指導内容・指導方法を工夫している点である。</p> <p>&lt;更なる向上を目指す点&gt;（改善を要する点）</p> <p>○ 医療的ケアは介護福祉教育が始まって新しい分野であり、各介護福祉養成校は教育方法を試行錯誤している現状がある。当該モデル校では学生の能力に応じた指導を計画しており、手先の器用さが求められるカテーテル操作につまずく学生への指導方法等、今後の取り組みを期する。</p>	

**基準4 教育方法**

基準4 教育方法
<p>&lt;総評&gt;</p> <p>1. 当該モデル校は、地域社会から親しまれ支えられ、地域に貢献できる人材を育成し、「教育内容の充実」、「介護現場に即した人材の育成」、「福祉動向の把握及び理解」、「地域貢献」を基盤に質の高い介護福祉士養成を目指した教育システムが整っている。</p> <p>2. 介護福祉士国家資格の取得と福祉レクリエーションワーカーの資格が取得できるようなカリキュラムが構成されている。</p>

平成 29 年度からは福祉レクリエーションワーカー取得に関する科目は選択科目制となるが、介護の現場や地域で介護予防、レクリエーション活動ができる人材の育成のためのカリキュラム構成となっている。

3. 『学生便覧』には学校運営方針、これに基づく各課程の教育目標としてシラバスが作成され、各科目の授業終了時の達成課題（到達目標）が記述されている。年 2 回カリキュラム交流会を開催し、目標に沿った授業が展開されているかを教員全体で確認し、担当講義の振り返りや関連科目の連携のあり方を工夫している。
4. 教員からの一方向的な授業内容を知識として覚えるのではなく、学生たちが主体的に参加し課題を解決する力がつくような教育方法を取り入れている。  
さらに、当事者の状況や現場での最先端の取り組み、地域の現実やそこでの活動などを授業の中に積極的に取り入れている。
5. 各科目に求められる知識やスキルの習得の確認は、毎回の小テストを実施し、理解力の確認を行っている。介護動作の訓練は反復訓練を行い、未習得科目があれば補講や追試を用意し、個々の学生が科目の到達目標に達成するまで指導している。
6. 地域交流行事、介護の日フェスタ in 広島、尾道みなとまつり、クリスマス会などの学校行事等に積極的に参画する機会を設け、準備（企画）から実行までの過程を踏ませ、介護福祉専門職に求められる実践能力を育成している。

#### 基準 4 教育方法

【必須】 4-1 養成校の卒業時到達目標に沿った知識・技術の修得ができ、学修成果を確認できる体制をどのように作っていますか

評 定

評価ポイント 3

<評価する点>

1. 卒業時の到達目標は学校長のリーダーシップのもと、専任教員のみではなく非常勤講師とも共有し教育を行っている。学生には入学時及び進級時のオリエンテーションで、学生便覧や資料を使用し、学生に教育の全体像や卒業時到達目標を説明している。  
各科目については、年に 2 回実施されるカリキュラム交流会で、カリキュラムの確認を行い、学生の理解度に沿った調整をしている。各教科の授業ではシラバスを提示し、到達目標を提示しながら授業を進めている。
2. 学修成果は、毎回の授業で小テストの実施、提出物の評価をきめ細かく行い、学期末には試験を実施し、修得度を測定している。介護実技に関しても小テストの実施を行い介護動作の訓練を反復させ、学習習慣を身に付けさせるとともに、技術力の自信につなげている。これらの学修成果は教職員会議で共有し、学生の成長を確認している。
3. ポートフォリオに収集する学習の成果物として、配布されたプリント、課題レポート、授業中の記録、クラスメイトからの学び、グループワークで作成した発表資料等を科目単位でまとめ、学生が理解を深め、新たな発見や探求心を養う工夫をしている。

<p>4. 在校生（1年生）との面談の中では、中学校・高校時代には勉強にまったく関心がなかったが尾道福祉専門学校に入学し、「授業が楽しい」「授業はためになる」「メモをとらないともったいない気持ちになる」といった話を聞くことができた。</p> <p>5. 小テストや技術の反復訓練等で学修の成果を確認しているが、介護福祉専門職として自ら学べるように学生の成長を促す教育に取り組んでいることが確認できた。</p> <p>&lt;特に優れた点&gt;</p> <p>○在校生・卒業生の面談からも、「教員と学生とは人間関係が良い」「厳しい指導もあるが自分を育ててくれる」といった話を聞くことができ、授業や課外活動を通し、教職員一丸となって細やかな指導をしている。</p> <p>○翌日がクリスマス会といったタイミングでの校内見学であったが、催し物や展示の準備は学生達の自主性を重視している場面からも確認できた。</p> <p>&lt;更なる向上を目指す点&gt;（改善を要する点）</p> <p>○介護福祉士養成施設指定規則である 1850 時間を大幅に超える 2144 時間の教育内容を準備しているが、講義前後の予習時間・自習時間を確保し、その成果を把握する取り組みを期待する。</p> <p>○委託訓練生、高校からのストレート入学生、さまざまな事情を抱えた学生等、個別対応が今まで以上に求められているということである。学生の多様化に伴った教育方法や個別対応への工夫は他校でも共通する課題である。本校ならではの工夫を研修会や研究会で発表し他専門学校の教員と情報共有できることを期待する。</p>
--

<p>基準4 教育方法</p> <p>【選択1】4-(4) 関係施設の職員や介護関係（企業を含む）者や市民など、学外関係者との交流など、授業のどう取り入れていますか。また、実習以外のインターンシップなどの特別の工夫をおこなっていますか。</p>	
<p>評定</p>	<p>評価ポイント 3</p>
<p>&lt;評価する点&gt;</p> <p>1. 社会福祉法人尾道さつき会を母体とした専門学校で、7法人8施設が隣接する「尾道ふくしむら」の中にあるという教育環境にある。高齢者や障害のある人達の生活の場に学生が共に暮らし介護福祉の専門知識を学ぶことができることを確認した。</p> <p>介護福祉現場の最先端の知識や課題をいち早く教育に取り入れることができる。</p> <p>2. 授業には卒業生や現場職員をゲストスピーカーとして招き、生活支援技術では教員と現場の職員と一緒に教授する機会を多く設けている。</p> <p>在校生との面談時、「認知症や障害のある人を授業で学ぶと同時に、当事者が教室に向いてくれる。当事者から直接話を聞く機会がある。理解が深まる」「介護従事者や職員からも直接話を聞くことができる」と話し、尾道福祉専門学校の良い所と指摘してい</p>	

<p>たことから、利用者、関係施設の職員や介護従事者との交流が積極的に行われていることが確認できた。</p> <p>3. ボランティア活動も行われており、施設の行事や、地域の祭りや介護の日フェスタ等には学生を積極的に参加させ、他校の学生、地域の人々との交流の機会があり、各担当教員が人材育成教育の一環として取り組んでいることが確認できた。</p> <p>4. 学生が就職先を選定するときは、学年担任と他の教員が連携して希望に応じたインターンシップ先を紹介している。</p> <p>5. また、当該モデル校は、介護職員や介護福祉教員を対象とした研修センターの役割も果たしており、関係施設の職員や介護関係（企業を含む）者や市民などの出入りが多い。</p> <p>6. 卒業生や在校生との面談や、評価員の校内見学時や授業参観時の来学者への挨拶等から学生との学外関係者との交流の機会が多く、その機会を日々の教育の中に取り入れていることが確認できた。</p> <p>&lt;特に優れた点&gt;</p> <p>○尾道ふくしむらの専門学校が位置し、学内で学んだ事を高齢者・障害のある人、施設従事者からダイレクトにフィードバックを得ることができ、学生が主体的に考え、視野を広げやすい教育環境にある。</p> <p>&lt;更なる向上を目指す点&gt;（改善を要する点）</p> <p>特に記載事項なし。</p> <p>今後も地域福祉の発展に寄与した教育を期待する。</p>
---

<p>基準4 教育方法</p> <p>【選択2】4-(5) 養成校の教育方法の向上を目指すために、特色ある独自の取組みとして、どのようなことを行っていますか。</p>	
<p>評 定</p>	<p>評価ポイント 3</p>
<p>&lt;評価する点&gt;</p> <p>1. 当該モデル校では介護福祉専門職に求められる介護予防やレクリエーション活動ができる人材育成に力を入れている。</p> <p>特に利用者の生活や人生をより豊かにする「福祉レクリエーション」に力を入れ、福祉レクリエーションワーカーの資格が取得できるようにカリキュラムが構成されている。介護領域の「生活の快支援論」や関連科目の「福祉レクリエーション支援法」「福祉レクリエーション原論」「福祉レクリエーション実技」と他科目と連携し、学生の理解を深める取り組みをしている。</p> <p>2. 講義で学んだ内容の実践例として、同敷地内にある地域密着型特別養護老人ホーム内でガーデニングに取り組み、種まきから収穫まで学生が計画し、入居高齢者との交流を行っている。</p>	

また買い物ツアーには学生が同行し、認知症高齢者と交流する機会を設けている。在校生との面談時、「認知症については校内の授業で理解していたつもりであったが、買い物ツアーに同行して、認知症高齢者を理解できた」「認知症の介護は誰にでもできるものではなく、奥が深い」といった話を聞くことができ、アクティブな取り組みを行うことで、学んだ知識を深め介護福祉専門職として取り組む課題を自ら見出せるような体制ができていることが確認できた。

3. 講義の中に日本レクリエーション協会と吉本興業が共同開発した「スポーツテンカ」を取り入れている。「スポーツテンカ」はスポーツ経験が少ない学生や運動になじみの少ない学生でも気軽に楽しめるスポーツで、本校の教員の指導のもと地域活動でスポーツテンカを楽しむ活動に力を入れている。

卒業生との面談時、「学校で学んだレクリエーションの展開方法を応用して取り組み役立っている」という話からも介護予防やレクリエーション活動に関する取組みが卒業後の介護実践に生かされているという印象を受けた。

<特に優れた点>

- 生活体験が少ない学生たちに、様々な出会いの場、活動の場を提供し生きる力・人とかわる力を伸ばす取り組みができている。
- 福祉レクリエーションの授業で取り組んだ「ガーデニング」等では、授業終了後も特養に出入りし高齢者との交流の場が用意されている。

<更なる向上を目指す点> (改善を要する点)

- 平成 29 年度入学生からは関連科目は選択制になるということであるが、介護予防やレクリエーションに関心を持ち、実践できる介護福祉士の育成に取り組んでいただきたい。
- 対人関係の構築に課題がある学生へのボランティア活動やレクリエーション活動への教育指導は今後益々求められるため、さらなる教育方法の改善や工夫を期待する。

## 基準 5 教員の資質向上

### 基準 5 教員の資質向上

<総 評>

- 教員は現場を離れて教育に専念している中で現場の現実から置いて行かれる恐れがある。時代の変化の中で介護を取り巻く新たな現実などにも対応しなければならない。しかし一方、教員にはこれまでの積み重ねもあり、また何度も繰り返されより洗練されてきた原理原則などもあるため、その新しい現実に対応できる基本を持っている。従って教員にとっては新たな状況や課題を認識しその周辺情報などを把握することが重要であり、それによって学生への教育も次々とリニューアルして行ける事になる。外部研修や地域活動などにはそれらの情報が豊富にあるため依頼されたものについて



は積極的に受けるようにしている。

同時に、学生自身が抱えている課題も変化しているため、発達障害の理解や教員間のサポート体制も重要であるためそれらへの取り組みもしている。

基準5 教員の資質向上

【必須】5-1 教員の外部研修・学会参加の機会をどのように確保していますか（サポートしていますか）

評 定

評価ポイント 3

<評価する点>

1. 研修や学会への参加機会を均等にするために年間の研修計画を作成している。
2. また、参加した者は報告書を作り他の者にもシェアしている。
3. また出張として公費で支弁している。

<特に優れた点>

○参加する学会や研修会では進んで役割を引き受け、主体的に学べるように意識している。

<更なる向上を目指す点>（改善を要する点）

○予算が少なくなってきたため参加費用の確保が困難になりつつある。

基準5 教員の資質向上

【選択1】5-3 各教員の担当・適性に応じたクラス運営・学生指導のスキル・質向上をどのようにサポートしていますか

評 定

評価ポイント 2

【選択5-3】

<評価する点>

1. 担任と副担任を置き、複数で学生指導に当たるため、特定の教員が課題を抱え込まない体制にしている。
2. また、職業訓練生や、特別な課題を持つ学生に対しては個別の担当者を定めている。

<特に優れた点>

○個人個人に関わる学生指導の記録を作成保存し、都度都度の指導に活用しているなど個別対応に力が入っている

<更なる向上を目指す点>（改善を要する点）

○日常の学生指導の範囲の向こう側にあるような状況（ひきこもり、鬱、発達障害など）への対応に難しさがああり、同時にその保護者への関わりについても模索している部分がある。

基準5 教員の資質向上	
【選択2】5-6 教員の資質向上のために、特色ある独自の取組みとして、どのようなことを行っていますか	
評定	評価ポイント 3
<p>&lt;評価する点&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 校長自身が様々な関連団体での役割を持っていて、その関係で教員もまた学会や研修会で運営側としての立場に関わることが多い。</li> <li>2. 介養協全国教職員研修会、日本介護福祉教育学会は両方とも校長自身が役員を務める形となっていて、さらに広島県福祉介護人材確保等総合支援協議会が毎年開催する「介護の日フェスタ イン 広島」や「介護の学校 イン 広島」、「未来を拓くK A I G Oカフェ イン 尾道」などのイベントの企画運営、また「介護基礎ハンドブック」の作成や、介護教員講習会のコーディネートなど様々な場面で校長を中心として学校全体で取り組んでいる。</li> <li>3. その結果、教員にとっても広い視野と強い実効力が身につく結果となっていて、こういう環境の中で教員としての資質が向上される結果に結びついている。</li> <li>4. 福祉レクリエーションの専任教員は、学校が属する社会福祉法人の高齢者施設やそれ以外の場での福祉系スポーツの活動を積極的に進めていて、特にスポーツテンカという種目の普及についてはその生みの親であるタレントの「ワッキーさん」の力も貸してもらいながら学校全体として取り組んでいる事が確認できた。</li> </ol> <p>&lt;特に優れた点&gt;</p> <p>○校長の担っている役割を十分に活用し教員の資質向上に役立っている事は他の学校では真似のできない優れた点である。</p> <p>&lt;更なる向上を目指す点&gt; (改善を要する点)</p> <p>○学内者である校長の活動範囲の周辺での資質向上に関する取り組みに加えて学外者や場合によっては分野以外の講師などからの学びも得られると更により取り組みになると思料される。特に選択5の3でのさらなる取り組みなどについてはそういうアプローチについても検討する余地があると思われる。</p>	

## 基準6 やりがい・キャリア形成等を醸成する教育

基準6 やりがい・キャリア形成等を醸成する教育
<p>&lt;総 評&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 入学を希望、検討している進学希望者に向けて、募集活動や体験入学の機会を利用してパンフレット等を使いながらキャリア形成についてアナウンスしている。</li> <li>2. 入学後は、カリキュラムに則り、介護の基本や現代が抱える介護問題を十分に理解させ、そのうえで介護福祉士としての社会的使命、やりがい、求められる専門性について学ぶことができる環境を用意している。</li> <li>3. これらについては、カリキュラムのみではなく、学生生活のあらゆる場面において提供していく運営体制が確認できた。</li> </ol>

基準6 やりがい・キャリア形成等を醸成する教育	
【必須】6-(1) キャリア形成の仕組みを理解させるため、どのような取り組みをしていますか	
評 定	評価ポイント 2
<p>&lt;評価する点&gt;</p> <p>1. 「介護の基本Ⅰ」の中で、介護福祉士のキャリアアップ（認定介護福祉士・管理介護福祉士）、介護福祉士会等の職能団体の役割について説明を行っている。</p> <p>2. 卒業直前には、広島県介護福祉士会を招き、生涯研修制度等について説明の機会を設けている。</p> <p>&lt;特に優れた点&gt;</p> <p>○上級資格や制度について、外部団体の協力を得て積極的なアナウンスに取り組んでいる。</p> <p>&lt;更なる向上を目指す点&gt;（改善を要する点）</p> <p>特に記載事項なし。</p>	

基準6 やりがい・キャリア形成等を醸成する教育	
【必須】6-1 キャリア形成の仕組みを理解させるため、どのような取り組みをしていますか	
評 定	評価ポイント 2
<p>&lt;評価する点&gt;</p> <p>1・2年次それぞれで、年4回の定例個別面談を行い、学生個々の状況の把握に努めている。実習時面談においては、実習前・実習中・実習後の学生の取り組み姿勢やレポート等の提出状況によって、必要に応じて個別に面談を行っている。</p> <p>2. その他、前期・後期の試験結果による個別面談、学生希望による面談、卒業生や実習指導者との面談等、あらゆる場面やタイミングで学生と関わるよう体制を整えていることが確認できた。</p> <p>3. 就職に関連するアドバイスのために、ジョブカード作成アドバイザーの資格を持つ教員も配置している。</p> <p>4. 面談等を通じ学生のニーズをより理解し、更なる効果的な対応ができる体制を目指しているということから、その点の努力の継続に期待したい。</p> <p>&lt;特に優れた点&gt;</p> <p>○学生の状態や状況を定期面談や日常の関わりの中で把握し、介護福祉士の働きの中に生涯を通じたキャリア形成を促す方向で適切な対応が取れる環境を整えている。</p> <p>&lt;更なる向上を目指す点&gt;（改善を要する点）</p> <p>特に記載事項なし。</p>	

基準6 やりがい・キャリア形成等を醸成する教育

【選択2】6-(3) 就職への自覚や意欲を持たせる指導はどのように行っていますか

評 定

評定ポイント 2

<評価する点>

1. 学内にて福祉施設の職場説明会や参加施設との個別面談の機会を設けている。そこには、施設管理者や人事担当者その他、そこに勤務する本校のOB・OGも参加していただき、就職への心構えや、介護福祉士としての経験談を交え、学生への就職意欲向上へと繋げている。
2. また、県主催の介護の日フェスタや、当該モデル校が企画・主催する様々なイベントにおいて、より多くの企業や団体で活動する方々とコミュニケーションをとることで、学生に就職への自覚や意欲を持たせる環境を提供している。

<更なる向上を目指す点> (改善を要する点)

特に記載事項なし。

基準7 実 習

基準7 実 習

<総評>

1. 介護実習の事前準備として、実習施設に一日ボランティアとして足を運ばせ、施設概要や利用者の様子を把握する機会を設けている。その結果、事前にしておくべきことが整理され、実習の目標が明確となっている。
2. 個々の学生の特徴や希望、能力を最大限に引き出せるよう、実習施設や実習指導者とのマッチングを十分に精査し、成果ある実習を目指していることが確認できた。
3. 実習指導者連絡会の開催はもちろん、実習巡回も学生の状況によりフレキシブルに対応し、指導者との情報共有や反省会等を行っている。
4. 同法人やふくしむら内の施設を活用し、実習を中心に多様な暮らしを学ぶ機会を効果的に提供する体制を整えていることが確認できた。

基準7 実習	
【必須】7-(1) 実習に向けての事前準備と実習後のフィードバックを、どのように行っていますか	
評定	評定ポイント 2
<p>&lt;評価する点&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習前教育では、事前ボランティアの実施や講義にてロールプレイによる模擬体験を行っている。実習前に学生同士のディスカッションの時間を設けることにより、不安の軽減や期待を共有し、前向きな姿勢で実習に取り組めるよう工夫をしている。</li> <li>2. また、実習中のマナーや態度、報告や相談の必要性や方法等は、全体・個別での教育・指導を実施している。</li> <li>3. 実習後は、個人で振り返りを行い、その後はグループおよび全体報告会などを通じて、学生同士で共有し、学びを深めている。</li> <li>4. これまで以上に実習指導者が実習報告会へ参画できるよう検討がなされ、学生にとってより充実した実習環境を提供していただくことに期待する。</li> </ol> <p>&lt;特に優れた点&gt;</p> <p>○前述のとおり、実習前後で学生同士が話し合うことができる環境を提供し、利用者との関わりにおいて大切なことを共有し、充実した実習となるような仕組みを構築している。今回の現地調査により、実習以外のあらゆる科目において、教員の積極的な学生への関わりが確認できた。</p> <p>&lt;更なる向上を目指す点&gt; (改善を要する点)</p> <p>特に記載事項なし。</p>	

基準7 実習	
【選択1】7-(2) 実習巡回時に実習指導者と十分なカンファレンスの時間をとるためにどのようなはたらきかけをしていますか。	
評定	評定ポイント 2
<p>&lt;評価する点&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習前の実習指導者連絡会にて、実習指導者と巡回教員が実習目的や、実習生の情報を十分に理解することで指導方針の共有が図れている。それにより、実際に実習巡回中の情報共有が円滑になっていることがヒアリングにより確認できた。</li> </ol> <p>&lt;特に優れた点&gt;</p> <p>○巡回指導教員と実習指導者が、情報交換を密に行うことにより、巡回数や指導内容を相談したうえで実施されている。</p> <p>&lt;更なる向上を目指す点&gt; (改善を要する点)</p> <p>○実習前の指導者連絡会へ、できれば全ての実習指導者が参加していただくための努力をご検討いただきたい。</p>	

基準7 実習

【選択2】7-(5) 実習先の実習指導者との連絡会議や研究会などをどのような方法、頻度で実施していますか。

評 定	評価ポイント 2
<p>&lt;評価する点&gt;</p> <p>1. 地域密着型施設実習指導者連絡会、入所実習の指導者、通所実習の指導者を対象にした実習指導者連絡会を年度内に複数回実施している。連絡会では、学生がより学びやすい実習の環境づくりを中心に意見交換をおこなっていることが確認できた。</p> <p>&lt;特に優れた点&gt;</p> <p>○連絡会の開催状況から、実習施設と当該校が十分な協力体制を構築し、学生ひとり一人を大切に指導していくための環境整備に努めていることが確認できた。</p> <p>&lt;更なる向上を目指す点&gt; (改善を要する点)</p> <p>○実習施設側も多忙を極めている状況もあり、実施時期や会議テーマの設定等について、改めて検討をお願いし、より効率的な連絡会や研究会の企画に期待したい。</p>	

基準8 リカレント教育体制

基準8 リカレント教育体制
<p>&lt;総 評&gt;</p> <p>1. 先の法改正で第42条に資格取得後の「知識及び技能向上の義務」が明記された事を受けてそれを授業内で伝達している。学生に対しては卒業後の職業人生の全てに関わる事であると強調している。</p> <p>2. 人類が初めて出会う「人生80年時代」に対応する専門職が介護福祉士である事を在学中に十分に理解してもらうようにしている。それによって卒後の自己研鑽も継続できることを期待している。</p>

基準8 リカレント教育体制

【必須】8-1 介護福祉士としての資質向上の責務や継続的な学習の必要性を、在学中にどのように教育していますか。

評 定	評価ポイント 2
<p>&lt;評価する点&gt;</p> <p>1. 上記基準8の総評で記載したような社会状況であることを十分に伝え、人類が未経験の領域に踏み込みつつある事を強調し、そしてその回答やお手本は無い、という事の中でさらなる研鑽をしてほしいと伝えている。</p>	

<p>&lt;特に優れた点&gt;</p> <p>○現在の介護福祉問題を取り上げその分析や解釈を授業内で学生に伝わる様、講義、グループワークなどを通じて学修の機会を与えている。</p> <p>&lt;更なる向上を目指す点&gt; (改善を要する点)</p> <p>○授業という構造の中ではある程度教員から示す事の出来る「解答」のようなものがあることが前提である。しかるに社会環境の変化に加えて、国の定める介護福祉士資格のあり方もまた変化し揺らいでいる状況で、学生からの質問に対して考え方の基本を明確に示すことが難しい時もある、とモデル校の自己評価には記載されている。一学校だけの課題ではなく国全体の課題としてとらえ直す必要があるかもしれない。</p>
---

<p>基準8 リカレント教育体制</p> <p>【選択1】8-2 卒業後の就労意欲の維持向上（離職防止）のために、どのような取組みを行っていますか</p>	
<p>評 定</p>	<p>評価ポイント 2</p>
<p>&lt;評価する点&gt;</p> <p>1. 6月に開催される同窓会を、新規卒業生の就労継続を支える目的を持って卒業生たちが集まる機会としている。同時に何かあったら学校に戻ってくれば何とかかなんと言う意識付けも普段から行なっている。</p> <p>2. オフィシャルな同窓会だけではなく、クラスの集まりなどでもとにかく学校を会場にすることを勧めている。学校を身近に感じるようにしておけば、離職等の悩みを抱えるようになっても相談しやすく、また離職ではなく転職などへの方向転換も受け入れてもらい易い状況になる。</p> <p>&lt;特に優れた点&gt;</p> <p>○小規模校なので卒業生と教員が相互に顔が見えているため対応しやすい。</p> <p>&lt;更なる向上を目指す点&gt; (改善を要する点)</p> <p>○同窓会、諸懇親会などの機会だけでなく、今後はそういう集いに参加できない卒業生も視野に入れて機関紙での伝達や更にそれをきっかけとして直接伝えることができる機会も探しているとの事、是非そういうルートを開拓して頂きたい。</p>	

基準8 リカレント教育体制

【選択2】8-5 卒業生と在校生の協力体制をどのように築いていますか。

評 定

評価ポイント 3

<評価する点>

1. 卒業生に授業に来てもらい、現場の生き生きとした話をしてもらおう場面を作っている。また、ヘルパーをしている卒業生が利用者さんと一緒に授業の場で現場の話をそれぞれの立場で話をしてくれる機会もある。そういう機会は教員からの授業だけでは得られない貴重なものである事は想像を待たない。
2. さらに、在校生が実習に行くときにその指導者が卒業生であるような機会も増えているようだがそれは学校の事を熟知している指導者があたってくると言う意味でもあるので学校としては安心感を持って任せる事が出来ているようだ。その延長で就職先に卒業生がいる場合も適切に対応してくれることが期待できる。
3. 一方で、卒業生を通じての研修依頼などは積極的に受けるようにしている。そういう関係の中で普段の授業にも、また卒業後の学校とのかかわりにおいても良い循環になっていることが認められる。

<特に優れた点>

○卒業を機に学校を離れるのではなく、授業、実習、就職、施設研修の場などでの関わりが途切れていない点が優れていると認められる。

<更なる向上を目指す点> (改善を要する点)

○卒業生との定期的な交流会に欠けているとの自己評価であるが、学校も卒業生もそれぞれの守備範囲があるのであまり構想だけを広げるのも現実的ではないと思料される。現状の交流を維持しつつ機会を探るとい程度のアクションが継続されればよろしいのではないかと思われる。

基準9 学生の募集と受け入れ

基準9 学生の募集と受け入れ

<総 評>

1. カラー刷り 18 ページの入学案内は、写真を多用し、介護現場の先輩たちの姿を通じた現状、学校の特色、カリキュラム、実習のすがた、就職状況、介護福祉資格や奨学金制度のこと、当該モデル校の施設と連携したオリジナル活動などが分かりやすく説明されている。
2. さらに「地域の星のきみたちに」との小冊子は介護の仕事のイメージを変えようとの若者向けの小冊子も配布している。  
ホームページや様々の地域や施設での催し物を利用した当該モデル校 PR は重層的かつ多様である。



3. 年 10 回のオープンキャンパスの開催、下校・退社時等に気軽に相談できる学外相談会(駅近隣のお店を借りて実施)を開催して、進路相談を実施して、学校独自の取り組みなどの説明を行っている。

基準 9 学生の募集と受け入れ

【必須】 9 - (2) 学生募集を適切かつ効果的に行っていますか

評 定	評価ポイント 2
-----	----------

<評価する点>

1. 学校訪問・校内ガイダンス・会場ガイダンス等により、直接希望学生に対して情報提供を実施している。そのおりに、進路選択後の将来設計等の説明や在学生との面談等の取入れ、不安感解消に努めている。

<特に優れた点>

○ 入学希望者に対しては、進学後の様子等が教員だけでなく在学生からも伝えられることが大変優れている。

<更なる向上を目指す点> (改善を要する点)

○ 会場・校内ガイダンスについては、進路選択希望者は参加する場合もあるが、保護者や 進路指導教員の参加は不定期なため、同席できるような工夫が望まれる。

基準 9 学生の募集と受け入れ

【選択 1】 9 - (1) 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいますか

評 定	評価ポイント 2
-----	----------

<評価する点>

1. 高等学校等の教育機関には、年間を通じて入学案内・募集要項等を持参して情報の提供を実施している。4月・7月・10月には、主に入学案内を用いて、教育内容等を詳細に進路指導担当教員へ説明している。5月～6月・9月には、オープンキャンパス情報・福祉業界の現状等を記載したリーフレット等を作成して、説明配布している。

2. 今年度の学校関係者評価委員会の委員の選任にあたり、福祉施設関係者及び福祉行政関係者のほかに福祉コースのある高等学校教諭に委嘱することとされた。進路選択を指導する立場からの学校評価の意見を聴取し、次年度の学校運営の見直しに位置づけるためである。

<特に優れた点>

特に記載事項なし

＜更なる向上を目指す点＞（改善を要する点）

○学校訪問・校内ガイダンス・会場ガイダンス等の機会を除くと、高等学校等の教育機関へ提供した情報が、対象となる学生・保護者へ十分伝わっていないという現状がある。今後高等学校等との関係性をさらに高めながら、効果的な情報提供が可能な方法を構築することが求められる。

基準9 学生の募集と受け入れ

【選択2】9-(6) 学生募集と受け入れのために、特色ある独自の取り組みとして、どのようなことを行っていますか

評 定

評価ポイント 2

＜評価する点＞

1. 年間 10回のオープンキャンパスの開催に加え、下校・退社時等に気軽に相談できる学外相談会（駅近隣のお店を借りて実施）等を開催して、進路相談を実施している。  
すべての開催で、在校生が直接学校の授業の様子や学生生活について語り、入学希望者・検討者の不安解消に努めている。
2. 奨学金制度や公的支援制度以外に、学校独自の支援制度も取り入れ、経済的な支援の充実を図り学生募集に活かしている。

＜特に優れた点＞

○オープンキャンパス等には在校生が参加することで、入学希望者に対しての不安感を解消できている。特に授業の様子や学費への不安感の解消のためには、在校生から生の声を聞く事はとても有効だと思われる。

＜更なる向上を目指す点＞（改善を要する点）

○オープンキャンパスの開催時期・学外相談会の会場設定など、相談に参加しやすい時期・会場選びが必要である。地方開催も含めた更なる改善を行っていく必要がある。

## 基準10 内部質保証

### 基準10 内部質保証

#### <総 評>

1. 学校評価については、「社会福祉法人尾道さつき会尾道福祉専門学校 学校関係者評価委員会設置規則」を整備して規則に則り実施されている。
2. 自己評価票を基に教職員間で教育活動や学校の運営状況について分析・評価を行い、自己評価報告書にまとめ、学校関係者評価委員会に提出している。
3. 学校関係者評価委員会は学校が選任した評価委員と学校の教員で組織し、自己評価報告書をもとに現状と課題等について評価し、評価委員からは今後の改善方策等について助言を得ている。
4. 評価の充実に向けては、今年度評価委員の更新にあたり、福祉施設関係者及び福祉行政関係者のほかに福祉コースのある高等学校教諭に依頼して、進路選択を指導する立場からの学校評価の意見を聴取し、次年度の学校運営の見直しに位置づけている。
5. 教育情報の公開については、自己評価及び学校関係者評価報告を当校のホームページで公開している。

### 基準10 内部質保証

【必須】10-4 教育情報をどのように公開していますか

評 定

評価ポイント 2

#### <評価する点>

1. 自己評価報告書及び学校関係者評価報告書は、学校関係者評価委員会開催後当校のホームページで公開している。

#### <特に優れた点>

特に記載事項なし

#### <更なる向上を目指す点> (改善を要する点)

特に記載事項なし

基準10 内部質保証	
【選択1】 10－(1) 自己点検・評価をどのように行っていますか	
評 定	評価ポイント 2
<p>&lt;評価する点&gt;</p> <p>1. 文部科学省で示されている、自己評価表に基づき教職員間で分担して現状及び課題を分析して評価を行っている。評価内容については副校長がまとめ、校長が再確認を行い自己評価報告書にまとめている。</p> <p>2. 学校関係者評価委員には評価委員会開催前に郵送され、評価委員会で必要資料を基に協議・評価が行なわれている。</p> <p>&lt;特に優れた点&gt;</p> <p>特に記載事項なし</p> <p>&lt;更なる向上を目指す点&gt; (改善を要する点)</p> <p>特に記載事項なし</p>	

基準10 内部質保証	
【選択2】 10－(2) 学校関係者評価をどのように行っていますか	
評 定	評価ポイント 2
<p>&lt;評価する点&gt;</p> <p>1. 学校関係者評価委員会は学校が選任した評価委員と学校教員で組織し、自己評価報告書をもとに現状と課題等について評価し、評価委員からは今後の改善方策等について助言を得ている。</p> <p>2. 今年度、評価委員の選任にあたり、福祉施設関係者及び福祉行政関係者のほかに福祉コースのある高等学校教諭に委嘱した。進路選択を指導する立場からの学校評価の意見を聴取し、次年度の学校運営の見直しに位置づけた。</p> <p>&lt;特に優れた点&gt;</p> <p>特に記載事項なし</p> <p>&lt;更なる向上を目指す点&gt; (改善を要する点)</p> <p>○評価委員会の開催回数は現在年1回となっている。しかし、自己評価内容をじっくり協議するためには複数回の開催が妥当と思われる。</p>	

専修学校職業実践専門課程（介護分野）

第三者評価試行

自己点検・自己評価報告書

学校法人麻生塾

専門学校麻生医療福祉&観光カレッジ

平成28年11月8日

# 目次

1. 学校現況票
2. 評価項目別取り組み状況

基準 1 教育理念

基準 2 学校運営

基準 3 教育内容

基準 4 教育方法

基準 5 教員の資質向上

基準 6 やりがい・キャリア形成等を醸成する教育

基準 7 実 習

基準 8 リカレント教育体制

基準 9 学生の募集と受け入れ

基準 10 内部質保証

## 1. 学校現況票

### (1) 養成施設名・設置者・本部の所在地・開講年度

養成施設名	専門学校麻生医療福祉&観光カレッジ
設置者	学校法人麻生塾
本部の所在地	福岡県飯塚市芳雄町 3-83
開講年度	平成 8 年度

### (2) 課程・学科の構成

課程名	学科名	開講年度	修業 年限	入学 定員	収容 定員
介護福祉専門 課程	介護福祉学科	平成 8 年	2 年	50 名	100 名
商業実務専門 課程	医事スペシャリスト科	平成 19 年	2 年	40 名	80 名
	医療秘書科	平成 8 年	2 年	40 名	80 名
	エアライン科	平成 21 年	2 年	30 名	60 名
	ホテル・ブライダル科	平成 21 年	2 年	30 名	60 名
教育・社会福祉 専門課程	子ども福祉科	平成 16 年	3 年	40 名	120 名
	合 計			230 名	500 名

(3) 教育課程

課程名	学科名	修了要件単位数	終了科目 (課目) の登録期間 および単 位数	教職員組織	教員基準数	専任教員数	兼任教員数	学習環境等
介護福祉専門 課程	介護福祉 学科	2,009 時間	2年間 2,009 時間	校長1名 専任教員 15名以上 兼任教員 30名以上 事務職員 4名以上	4	4	8	
商業実務専門 課程	医事スペシャリスト科	1,765 時間	2年間 1,765 時間		2	3	7	
	医療秘書科	1,804 時間	2年間 1,804 時間		2	2	8	
	エアライン科	1,835 時間	2年間 1,835 時間		2	2	15	
	ホテル・ブライダル科	1,970 時間	2年間 1,970 時間		2	3	14	
教育・社会福 祉専門課程	子ども福祉科	3,145 時間	3年間 3,145 時間		3	3	25	

(4) 施設の概要

①校地面積

基準面積	総面積	専用面積	共有面積
	1,898.38 m <sup>2</sup> (うち借用 0 m <sup>2</sup> )	1,898.38 m <sup>2</sup> (うち借用 0 m <sup>2</sup> )	0 m <sup>2</sup> (うち借用 0 m <sup>2</sup> )



内訳

	総面積	専用	共用	備考
校舎敷地面積	1,898.38 m <sup>2</sup>	1,898.38 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	
運動場	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	
その他	284.07 m <sup>2</sup>	284.07 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	駐車(駐輪)場

②校舎面積

総面積	専用	共用	備考
3,765.34 m <sup>2</sup>	2,282.60 m <sup>2</sup>	1,482.74 m <sup>2</sup>	

内訳

教室名称	室数	面積	専用	共用	備考
講義室	15	1,062.32 m <sup>2</sup>	1,062.32 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	
コンピュータ実習室	3	341.46 m <sup>2</sup>	341.46 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	
介護実習室	1	87.60 m <sup>2</sup>	87.60 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	
入浴実習室	1	43.80 m <sup>2</sup>	43.80 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	
家政実習室	1	43.80 m <sup>2</sup>	43.80 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	
調理実習室	1	43.80 m <sup>2</sup>	43.80 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	
その他実習室	7	428.31 m <sup>2</sup>	428.31 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	
教務室・事務室	2	174.60 m <sup>2</sup>	174.60 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	
保健室	1	13.98 m <sup>2</sup>	13.98 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	
図書室	1	42.93 m <sup>2</sup>	42.93 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	

③図書館・図書資料など

閲覧座席数	28 席
図書館開館時間	9 時 30 分 ～ 17 時 30 分
図書冊数	2,048 冊
学術雑誌冊数	年間購読 10 種
電子ジャーナル種数	0 種
視聴覚・資料等点数	135 点

④その他 (附属施設など)

## 2. 評価項目別取り組み状況

### 基準1 教育理念

基準1 教育理念
《概略の記述》 (500字以内)
1-1【必須】社会のニーズなどを踏まえた将来構想を持っていますか ○設置法人である麻生塾は、「現在そして未来の日本だけでなく、諸外国に対しても多面的な付加価値を高められる教育を提供することによって、その結果、社会から我々に高い信頼、価値の創造がもたらされ、教職員、学生、そして我々の存在する地域が永続的に反映していくこと」を目的としている。また、経営理念を「世界中の人々の生きがいをデザインする」としている。本校ではこれらに基づき、社会ニーズ、国の施策、業界の将来を踏まえ、目指す学校像を設定している。
1-2 理念・目的育成人材像は定められていますか ○設置法人である麻生塾としての経営方針や理念、教育方針が定められており、これを全教職員に配布する「麻生塾ルールブック」や「キックオフ会議資料」に記載し周知を図っている。また、各学校、学科においても育成する人材像を定め、ホームページや学生要覧等に記載すると同時に入学前オリエンテーションや新入生オリエンテーションにおいて説明し、学生に周知している。
1-3 育成人材像は専門分野に関連する業界などの人材ニーズに適合していますか ○年に2回開催している教育課程編成委員会での意見および企業に対して実施している「お客様アンケート」の結果、就職グループからのヒアリング情報を元に業界の人材ニーズを把握した上で、学科の育成人材像やカリキュラムの見直しを行っている。
1-4 理念などの達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいますか ○麻生塾の教育方針である「専門性を高め、かつ人間性・人格の成長を図ります」の達成に向け、人間力を高める独自の教育プログラムである「グローバルシティズンベーシック (GCB)」を導入している。GCBプログラムを通し、幅広い視野のもと、志と感謝心をもって行動できる人材の育成を目指している。

#### <参考資料>

- 1「麻生塾ルールブック」 2「学生要覧」 3「総合パンフレット」 4「GCBプログラム」  
5「麻生専門学校グループホームページ」 7「学校ホームページ」  
119「お客様アンケート 2015 書式」

## 基準1 教育理念

【必須】1-1 社会のニーズなどを踏まえた将来構想を持っていますか

《基本的な観点ごとの分析》（500字以内）

- 超高齢社会の日本においては、今後ますます介護を必要とする人の数は増え、福祉サービスの利用量が急増する中で質の高いサービスの確保、それを提供する質の高い専門職の養成が大きな課題となっている。また少子高齢化、人口減少に伴い、ますます不足する介護人材の安定的確保が求められている。
- さらに文部科学省においては、国家戦略としての人材養成プロジェクト等の推進として「成長分野等における中核的専門人材養成等の戦略推進」や「専修学校留学生就職アシスト事業」等が推し進められている。
- 教育機関としては、専門職として介護の質の担保に努めることはもちろん、働く意味、専門性を追及し、プロとしての職業観を養うことで、その仕事の魅力を他者へ伝え、有資格者として後継者の育成に努めることの出来る人材を育成することが重要であると考えている。また、就職後のミスマッチを防ぎ早期離職防止を図ること、社会人や留学生、地域住民等、様々な人々が学べる環境を整備することで、一人でも多くの専門職を養成することも重要である。
- 本校では、職業教育を通して、その成果を広く地域社会に還元することを目指しており、目指す学校像を次のように掲げている。
  - ・「生き生きとした学生の姿や職業教育を通し、職業観や勤労観、専門職としての魅力を伝える学校」
  - ・「多種多様な人が学習できる環境が整備され、実践的な職業教育の提供を通し、地域、社会に貢献する」

＜特に優れた点＞

- 社会人の入学者数が多い。特に、福岡県の介護福祉士養成科委託訓練生の定員は充足されている。社会人に対しては、介護福祉士を目指す方への奨学金・支援金制度の周知が必要であると考え、オリジナルでチラシを作成し、本校パンフレットに同封し、介護福祉施設に設置していただいている。

＜更なる向上を目指す点＞（改善を要する点）

- 介護を学びたいという留学生からの問い合わせはあるが、入学実績はない。入学につながらなかった理由を探り、留学生のニーズに合った環境を整備していく必要がある。

《根拠となる資料・データ》

- 8「平成28年度キックオフ会議資料」
- 5「麻生専門学校グループホームページ」
- 9「介護福祉士を目指す方のための奨学金支援金チラシ」
- 10「パンフレット設置施設リスト」

## 基準1 教育理念

【選択1】1- (2) 理念・目的育成人材像は定められていますか

《基本的な観点ごとの分析》(500字以内)

○設置法人である麻生塾としての経営方針や理念を以下の通り定め、全教職員に配布する「麻生塾ルールブック」や「キックオフ会議資料」に記載している。また、各学校、学科についても育成する人材像を定め、学校パンフレットや学生要覧等に記載することで学生に周知している。

【経営理念】 世界中の人々の生きがいをデザインする

【ミッション】 質の高い教育サービスにより学生の付加価値を高め、顧客である企業の求める人材を育成し社会に貢献します

【ビジョン】 一人でも多くの人卒業し、社会に貢献し続ける人材育成を行う教育機関

【教育方針】 専門性を高め、かつ人間性・人格の成長を図ります

【校訓】 「無私」

無私とは、私利私欲をはからず、他人に尽くすことで、自分自身の成長を促し、かつ他人に対して、思いやりの心で接し、相手の考えや立場を尊重するという意味である。

【介護福祉科の育成する人材】

- ・人間性、社会性、専門性を具えた福祉業界のリーダーとなる人材を育成する。
- ・根拠を理解した知識、技術の習得ができる実践的なカリキュラムを基本とし、質の高いサービスが提供できる接遇・マナーを身に付ける。また、有資格者として、地域や福祉業界に貢献できる人材の育成を目指す。

＜特に優れた点＞

○育成する人材像は、学科コンセプトとして学内でプレゼンし、常勤はもちろん、非常勤講師とも共有し、その育成に向けた教育活動に繋げている。また入学希望者に対しても、本校の方針、姿勢を理解していただくため教育内容が記載された総合パンフレットを配布すると共に入学希望者とその保護者を対象とした入学前オリエンテーションを実施している。

＜更なる向上を目指す点＞(改善を要する点)

○麻生塾としての教育理念や教育方針、学校の学習指導方針等、多くの文言が存在しているため、もう少し分かりやすく整理する必要がある。

《根拠となる資料・データ》

1「麻生塾ルールブック」

2「学生要覧」

3「総合パンフレット」

8「平成28年度キックオフ会議資料」

11「学科コンセプト」

## 基準1 教育理念

【選択2】1- (4) 理念などの達成に向け、特色ある教育活動に取り組んでいますか

《基本的な観点ごとの分析》(500字以内)

○特色ある教育活動としては、人間力を高める独自の教育プログラムである「グローバルシティズンベーシック (GCB)」が挙げられる。

GCBは、学校生活の中で専門力だけではなく、その専門力を最大限発揮するため継続的かつ多角的にマナーの重要性や協働精神、また相乗効果を生み出す組織力などを、学んでいくことが必要であるという考えから作られたものである。GCBは、「感謝と思いやり」をテーマとしたGCBⅠ、「志を立てる」をテーマとしたGCBⅡ、「貢献志向」をテーマとしたGCBⅢから成り立っている。

○現在、キャリア教育の強化を図る活動を推進している。職業観や勤労観を醸成し、キャリアビジョン・キャリアプランを描き、自己実現・自己成長を実感できるよう、キャリア教育の体系化を進めている。

＜特に優れた点＞

○麻生塾では、平成23年度からGCBを導入しているが、GCBの指導にあたっては、①学生を主体者と認め、肯定的な姿勢で取り組む、②学生自身の「気づき」を促すことにより、継続的な行動変容につなげる、③教職員自らが学生とともに学ぶ姿勢をもつことを基本姿勢としている。「身に付けさせる」のではなく、「身に付けてほしいもの」として、学生が自発的にその重要性に気づき、行動できるよう導くと同時に、指導者も「ともにグローバルシティズンを目指す」という姿勢で臨んでいる。

＜更なる向上を目指す点＞(改善を要する点)

○キャリア教育の必要性について教員研修を行い、キャリア教育に対する認識を共有した上で、2年間のキャリア教育の体系化を平成27年度より3年計画で取り組んでいる。しかしまだ具体的なキャリア教育指導計画書の完成に至っていない。

○自己成長の実感を確認する卒業時アンケートを実施しているが、その基本指標の妥当性や評価レベルの設定等が課題と考える。

《根拠となる資料・データ》

3「総合パンフレット」

4「GCBプログラム」

5「麻生専門学校グループホームページ」

12「キャリア教育指導計画書」

## 基準 2 学校運営

### 基準 2 学校運営

《概略の記述》 (500 字以内)

2-1 理念に沿った運営方針を定めていますか

○麻生塾の経営理念「世界中の人々の生きがいデザインする」、教育方針「専門性を高め、かつ人間性・人格の成長を図ります」に沿って、本校の教育方針を以下のように定めている。

- ・目的意識を持ち、自ら考え行動できる人材を育成する
- ・志とチャレンジ精神を持ち、体験の中から学び成長する喜びを知る人材を育成する

○本校では、社会や産業界がその時代に必要とする優れた人材を育成するため、「企業が真に求める人材」を的確に捉え、社会に貢献できる次世代の担い手を送り出すべく、教職員全員でミッション、行動規範等を共有している。

2-2 【必須】 理念などを達成するための事業計画を定めていますか

○事業計画は毎年、理事長の運営方針に則り、前年度までの実績や今後の社会環境等の変化を捉えた上で校長代行が立案し、麻生塾全教職員参加で行われる「キックオフ会議」にて教職員への周知を図っている。また、この事業計画に沿って、教職員一人ひとりが必達すべき目標を設定し、具体的な施策に落とし込まれる仕組みとしている。

2-3 人事・給与に関する制度を整備していますか

○「就業規則」や人事評価制度である「新入材マネジメント制度」、「昇格について」「給与規程」が定められており、文書化されている。

2-4 意思決定システムを整備していますか

○麻生塾全体の意思決定は、常任理事会、MM会議、共有会議、校長代行会議、募集戦略会議、教育戦略会議、各委員会等で行われる。本校では、月末の定例全体会議や学科ごとの教務会議、必要に応じて行われるリーダー会議、各委員会等の会議にて、学校運営に関する進捗管理や詳細な決定等を行っている。会議等は議事録にて、職制による意思決定は稟議書にて経過を明確にしている。

2-5 情報システム化に取り組み、業務の効率化を図っていますか

○学生情報は、入学時から卒業後までの活動記録、個人情報「麻生塾システム」にて一元管理している。また教職員の情報共有や、業務に関する稟議決済等については、「デスクネット」を利用し業務効率を図っている。情報システムの管理は、経営推進本部 事業戦略グループが主管している。

2-6 国家試験に対する方針は明確になっていますか

○本校では、平成 28 年度介護福祉科入学生より、学生全員に対し国家試験の受験を義務付けることとしている。また、国試合格に向けては、e-learning の活用、オリジナル模試の実施、習熟度別クラスでの実践型試験対策授業、120 時間の総合学習の導入等の対策を行う。

<参考資料>

1「麻生塾ルールブック」	6「学校パンフレット」
8「平成28年度キックオフ会議資料」	13「目標シート」
14「就業規則」	15「給与規程」
16「昇格について」	17「デスクネッツ」
18「麻生塾システム」	

基準2 学校運営

【必須】2-2 理念などを達成するための事業計画を定めていますか

《基本的な観点ごとの分析》（500字以内）

- 平成26年度に5年後の学校のビジョンを打ち立て、経営環境の分析、中長期を見据えた取り組み等についての検討を行った。それをベースに、日々変化する社会情勢やニーズに対応すべく、学校としてのあり方を毎年見直し、事業計画書を作成している。
- 事業計画の策定においては、理事長の方針をもとに、現状と課題、今後の業界の方向性、学生の資質等を学内で振り返る「振り返り会議」を実施している。その中で出た内容を校長代行が整理し、学校、学科としての重点項目及び具体策を決定した上で、事業計画書に次年度の運営方針、目標数値、目標達成のための取り組みについて定め、毎年3月下旬に行われるキックオフ会議にて全教職員に周知している。
- この事業計画に沿って、教職員一人ひとりが必達すべき目標を設定し、各自の目標シートにて具体的な施策が計画、実行される仕組みとしている。

<特に優れた点>

- 事業計画における重点項目は、教職員一人ひとりの年度目標として落とし込みを行っており、全教職員で学校の年度目標到達に向けて取り組んでいる。
- 年度初めに、上司が教職員一人ずつと面談を行い、双方の同意の下で目標設定を行っている。また、中間と期末にも個人面談を実施し、進捗状況や課題の確認等を行っている。

<更なる向上を目指す点>（改善を要する点）

- 目標達成のための施策に対する月ごとのアクションプランを可視化していくようにしていきたい。

《根拠となる資料・データ》

8「平成28年度キックオフ会議資料」	13「目標シート」
--------------------	-----------

基準 2 学校運営

【選択 1】 2- (1) 理念に沿った運営方針を定めていますか

《基本的な観点ごとの分析》 (500 字以内)

○麻生塾の経営理念「世界中の人々の生きがいをデザインする」、教育方針「専門性を高め、かつ人間性・人格の成長を図ります」に沿って、本校の教育方針を以下のように定めている。

- ・ 目的意識を持ち、自ら考え行動できる人材を育成する
- ・ 志とチャレンジ精神を持ち、体験の中から学び成長する喜びを知る人材を育成する

○教育方針を具現化するために、以下に示す行動規範が定められている。

【麻生塾行動規範】

- 一、常に企業の求める人材の育成を考え実行します。
- 一、一人ひとりを大事にし、愛情を持って接します。
- 一、コミュニケーションを大切にし、楽しく働きがいのある職場を作ります。
- 一、決定した事は、全員一致協力して実行します。

＜特に優れた点＞

○教職員が意識を高め、学生（仕事）に向かえるようミッション、行動規範を毎朝の朝礼にて教職員全員で唱和している。運営方針については、毎年開催されるキックオフ会議で発表し共有している。

○麻生塾では年功や経歴とは関係なく、実力のある人が組織リーダーとなり、その力を存分に発揮できるような組織風土を形成している。

＜更なる向上を目指す点＞ (改善を要する点)

○年度当初に立てた計画は、その時々に応じて変化させていく必要がある。年頭計画を徹底して追求することは重要であるが、期の途中で状況が変わった場合には臨機応変に対応することも必要であると考え。今後は必要に応じて、速やかな計画見直しを進めていきたい。

《根拠となる資料・データ》

8「平成 28 年度キックオフ会議資料」

基準 2 学校運営

【選択 2】 2- (3) 人事・給与に関する制度を整備していますか

《基本的な観点ごとの分析》 (500 字以内)

○人事規定は就業規則により周知が図られ、「麻生塾ルールブック」にも記載されている。また平成 25 年度より導入された「新人材マネジメント制度」は、成果評価とプロセス評価を併せた評価制度であると同時に、組織の成長に必要な人材の機能要件と個人のキャリア開発支援をマッチングさせるキャリアパスモデルとなっている。



○賃金制度は給与規程として文書化されている。また採用制度も採用までの流れとして文書化している。

<特に優れた点>

○「新人材マネジメントシステム」においては、経営戦略に対応できる人材開発と組織開発や現状の教職員構成がもたらす構造的な人事課題への対応、努力した者が報われる評価制度の導入による個人のモチベーションアップ、創造的な仕事への取り組みや効率的な働き方の風土づくり、麻生塾職員としての一体感や自分たちが組織を支えていくという当事者意識の醸成が期待できる。

○組織の成長に必要な人材の職能要件と個人のキャリア開発支援をマッチングさせることができる制度であり、プロセス評価と成果評価のバランスが取れた評価制度と考える。

<更なる向上を目指す点> (改善を要する点)

○目標の設定において、全教職員の達成すべき目標レベルや成果の平準化が課題である。

《根拠となる資料・データ》

1「麻生塾ルールブック」

14「就業規則」

15「給与規程」

19「新人材マネジメント制度資料」

### 基準3 教育内容

#### 基準3 教育内容

《概略の記述》 (500字以内)

3-1【必須】人権や尊厳などの価値に関する授業を行っていますか

○人権、尊厳を理解することは、介護実践の基本的姿勢であるため、1年次前期に「人間の尊厳と自立」という科目にて教授している。当該科目以外でも人権や尊重について繰り返し学生に伝えている。

3-2 個別の心身状況に沿った介護を行うために、「介護過程」「生活支援技術」などの専門科目においてどのような授業を行っていますか

○介護過程では実習とリンクさせ授業を展開している。各自の展開事例を、学生同士が検証し合うことでさらに学びを深められるよう取り組んでいる。生活支援技術では学生同士で評価を行うことで、その実技の留意点に気付くよう取り組むとともに、実技テストを実施し確実な技術の習得に努めている。

3-3 専門職に必要な基礎的教養としての「人間と社会」、介護行為の根拠となる「こころとからだのしくみ」などの授業をどのように行っていますか

○「こころとからだのしくみ」ではカリキュラム会議や各々のシラバスの確認を通して、「生活支援技術」と単元の実施時期を考慮して教授している。「人間と社会」の領域は専門職に必要な基礎的教養となることから5つの科目に分け、そのほとんどの科目を1年次に履修するようにしている。

3-4 さまざまな対象者に応じた個別的なコミュニケーションの方法を習得させるために、どのような授業を行っていますか

○「コミュニケーション技術」では、介護におけるコミュニケーションの意義と目的を理解し、介護福祉士に求められる様々なコミュニケーション技法について、理論と事例を組み合わせるようになっている。また、グループでの作品制作やレクリエーション活動を通じて、自己表現や他者の特性を理解し協働に必要な視点を伝えている。加えて外部講師によるコミュニケーション技法を体験的に学ぶ機会を設けている。

○「こころとからだのしくみ」「生活支援技術」などの当該授業以外でも個別性を理解することの重要性とその関わりについて教授している。

3-5 認知症のある人に対する介護のための基本的知識・技術を習得させるために、どのような授業を行っていますか

○認知症の人が尊厳を持ち人生を継続していくために必要な支援や介護のあり方について、医学的知識や歴史的背景、その施策を教授するだけでなく、認知症の人の体験事例を学生が検討することで、そこから生じる日常生活への影響を学生にイメージさせている。このような取り組みにより、認知症の人の行動理由を理解できるようにしている。

3-6 ターミナルケアに必要な知識・技術を習得させるために、どのような授業を行っていますか

○施設における「看取り」の現状、介護福祉士の役割の重要性を学生が理解したうえで、段階的に①身体変化やそのケア②精神的ケア③医療との連携を教授している。

3-7 医療的ケアに関する専門的な知識・技術を習得させるために、どのような授業を行っていますか

○基本講義でも適切な時期に演習を取り入れることで、学生が主体的に取り組める工夫をしている。演習は前期・後期で評価を行うため、夏季休暇中に補講を行い、確実な技術を習得できるようにしている。

#### <参考資料>

「シラバス (20 人間の尊厳と自立・21 介護過程・22 生活支援技術 23 認知症の理解)」

「演習評価表 (24 生活支援技術・25 医療的ケア)」 54 「教務会議議事録」

2 「学生要覧 P 19(教育課程) 」

26 「実習記録 (利用者全体像 情報整理 介護計画 )」

27 「介護過程資料」

### 基準3 教育内容

【必須】3-1 人権や尊厳などの価値に関する授業を行っていますか

《基本的な観点ごとの分析》（500字以内）

○人権、尊厳を理解することは、介護実践の基本的姿勢であるため、まず1年次前期に「人間の尊厳と自立」という科目にて教授し、これからの学びの基礎となるようにしている。

また3回の施設実習を終え就職年次である2年次の科目「介護の基本Ⅰ（総合）」にて、さらに尊厳を支える介護の意味を捉え、様々な事例に触れ、各自の感性を育成している。加えて「障害の理解」の科目中では障害をもった人と大きく捉えるだけでなく難病や精神疾患のある人の介護について学ぶ際にも、あらためてその人権や尊重について学生に伝えている。

○当該科目では講義の中で社会問題となった人権侵害に関わる諸問題の事例を学生がディスカッションすることにより、他者の尊厳を自分のこととして理解することが出来ている。

○個別性の多様化、個人の生活や背景などの価値の多様性については、「介護の基本Ⅰ」の授業において個別ケアの考え方として、介護技術としての個別ケアだけでなく生活支援としての個別ケアを意識できるよう、高齢者の生きてきた時代背景をグループで調べ発表する機会を設けている。

これにより目の前の高齢者の今だけでなく、今まで生きてきた背景に目を向けられている。またこれらの学びを実習ともリンクさせ、段階的に個別性を理解できるようにしている。

○介護過程では講義後、実習での各自の事例を展開し、学生同士が検証し合うことで、さらにその個別性に気付くような取り組みを行っている。なお、身体拘束や虐待についての項目については「介護の基本Ⅱ」介護福祉士の倫理の項目にて教授している。

○専門職としての感情のコントロールについては「コミュニケーション技術」にて教授している。

＜特に優れた点＞

○人権や尊厳の理解は、介護実践における基本的姿勢であることから、複数科目において繰り返し考える機会を設けている。

そのため担当する教員間での情報共有を重要視し、カリキュラム会議の中で科目間での調整を行うと共に、各授業内のどの時期にどのような内容を学習しているかをお互いが確認できるようシラバスやコマシラバスを共通のフォルダに管理している。

＜更なる向上を目指す点＞（改善を要する点）

○介護福祉科の学生は社会人経験者など年齢や経験も様々であるため、それぞれの価値観などにも違いがある。そのため学生の価値観に応じた対応を検討する必要がある。

《根拠となる資料・データ》

「シラバス (20 人間の尊厳と自立・28 介護の基本 I・29 II・30 障害の理解・32 医療的ケア・31 コミュニケーション技術)」 4「GCBプログラム」 33「介護実習の意義と目的」 34「実習評価表」 35「授業資料 (人間の尊厳・介護の基本 I)」

基準 3 教育内容

【選択 1】 3- (6) ターミナルケアに必要な知識・技術を習得させるために、どのような授業を行っていますか

《基本的な観点ごとの分析》 (500 字以内)

- この単元は、こころとからだのしくみの 2 年前期の最終章に取り入れている。この時期の学生は 1 年次よりすでに 4 回の実習を終えており、実習施設が入所者の重症化に伴い看取りを行っていることも認識できている。そのため生活を支える介護福祉士が、その人の人生の締めくくりに立ち会うことに重要な役割を持つということを自覚したうえで学びを深めることが出来ると考えている。
- 授業の展開としてはまず、死に向かう身体変化について学ぶようにしている。その後、状態に応じたケアや医療職をはじめとした多職種との連携、本人、家族のその心境についてグループワークを取り入れ学生が能動的に学べるように関わっている。
- 看取りの心境では、亡くなった後の遺族へのケアも重要となる。精神的な安寧はもちろん、信仰や宗教が精神的支えとなることもホスピスやビハラの役割の説明とともに学生に伝達している。もちろん「こころとからだのしくみ」ひとつの科目の履修だけでターミナルに必要な知識・技術が習得できるわけではない。  
施設実習においてターミナルだけでなく、その家族支援や多職種連携の実際のケアを学ぶよう第Ⅲ段階実習の実習目標に位置づけている。
- コミュニケーション技術や生活支援技術、介護過程、医療的ケアといった授業の中でも関連付けた学びを行い、全人間的ケアの必要性を伝えている。

＜特に優れた点＞

- 新聞記事などを用いてグループワークを実施することで、身近なこととして QOD について学生自身が考える機会を持つようにしている。

＜更なる向上を目指す点＞ (改善を要する点)

- エンゼルケアについては説明のみに留まり、技術を習得できる授業とは言いがたい。次年度は実際に使用されている物品を使用した演習を取り入れ、技術の習得だけでなく、そのような場面における亡くなった方への尊厳への配慮や家族の気持ちを考えた関わりが、より理解出来るようにしたい。

《根拠となる資料・データ》

「シラバス (36 こころとからだのしくみ II ②)・32 医療的ケア・22 生活支援技術・21 介護



＜更なる向上を目指す点＞（改善を要する点）

○医療的ケア実施の現状は、常に変化しているため新しい情報を確認し確実な情報を学生に伝える取り組みが必要である。

《根拠となる資料・データ》

32「シラバス（医療的ケア）」

39「授業資料(医療的ケア)」

40「DVD（メヂカルフレンド社 医療的ケア 付録「医療的ケア実施手順）」

38「介護実習意義と目的（第Ⅲ段階実習）」

#### 基準4 教育方法

##### 基準4 教育方法

《概略の記述》（500字以内）

4-1【必須】養成校の卒業時到達目標に沿った知識・技術の修得ができ、学修成果を確認できる体制をどのように作っていますか

○養成校としての卒業時到達目標に沿った知識・技術が習得できるように、毎年、専任教員にてカリキュラム会議を開き、学生が到達目標を達成できているかの検証をしている。福祉業界において、現在だけでなくこれからの介護福祉士に求められる力を検証し、その力を習得させるための、各教科の取り組みや内容を検討している。

○学修成果の確認については学期ごとの定期テストだけでなく、小テストやレポート、実習の評価や振り返りなどにより、細かく確認し学生が確実に学修内容を習得できるようにしている。

○各授業内での取り組みや学生の反応等は週1回の教務会議の中で必要時に情報を共有し、その取り組みについて検討している。

○授業ではシラバスやコマシラバスを作成し各授業内のどの時期にどのような内容を学習しているか教員間で確認できるよう、共通のフォルダに管理している。

4-2 養成校の卒業時到達目標を達成するためにどのようなカリキュラムを作り、それをどのように授業で行っていますか

○介護福祉科の育成する人材像に則り、人間性、社会性を育成するカリキュラムとして、麻生塾オリジナルの教育プログラムであるGCBを導入している。

○学生自身が目指す将来像を描けるよう、多様な福祉施設の見学、管理職、主任クラスの方の講話等の体験を授業に数多く取り入れている。

4-3 それぞれの教育科目において、また、教育課程全体として、学生のアクティブラーニングはどのように行われていますか

○授業内では事例に対するディスカッションなどのグループワークを多く取り入れ、学生が主体となって、学びや気づきを深く検討できるような取り組みを行っている。

○小学校訪問や地域の介護予防教室など学生が企画、運営するような行事もあり、学生が社会人基礎力を身につける場となっている。

4-4 関係施設の職員や介護関係（企業を含む）者や市民など、学外関係者との交流などを授業にどのように取り入れていますか。また、実習以外のインターンシップなど、特別の工夫を行っていますか

○在籍期間中に学生は5回のボランティアが義務付けられている。これにより実習施設でない施設やそれ以外の場でも社会人としてのスキルを学んでいる。

○当校ではマナー週間が設定されており、すべての学生が順番に校外清掃や挨拶運動に参加することで、地域の方との交流を図る機会となっている。

○実習施設とは異なる小規模多機能で勤務している卒業生からの講話や就労支援など多くの事業を持つ障害者活動センターの見学を行い、広い視野で福祉業界を捉えられるような取り組みを行っている。

4-5 養成校の教育方法の向上を目指すために、特色ある独自の取り組みとして、どのような事を行なっていますか

○介護の対象である高齢者を理解することを目的として、入学してすぐの時期に高齢者模擬体験と福祉用具見学の機会を設けている。また福祉業界の広い分野で活躍できるよう、障害者地域活動センターの見学を行った。

○入所施設だけでなく放課後デイサービスや就労支援事業の見学や生活介護事業の方の話を聞くことで、学生が在宅での生活まで幅広く捉え、専門職としての役割を理解するきっかけとなっている。

#### <参考資料>

2「学生便覧P3」

4「GCBプログラム」

41「高齢者模擬体験資料」

42「施設見学資料（障害者施設）」

43「講義資料①②」

44「小学校訪問資料」

45「介護教室資料」

46「ボランティア参加記録カード」

47「マナー委員会資料」

54「教務会議議事録」

#### 基準4 教育方法

【必須】4-1 養成校の卒業時到達目標に沿った知識・技術の修得ができ、学修成果を確認できる体制をどのように作っていますか

《基本的な観点ごとの分析》（500字以内）

○介護福祉科の育成する人材像は、学生要覧に記載するとともに、入学前オリエンテーション、新入生オリエンテーションにて、本人、保護者へ説明し周知している。また折に触れ、育成する人材像を学生が意識する機会を設けている。

○養成校としての卒業時到達目標に沿った知識・技術が習得できるように、半年に1度、専任教員にてカリキュラム会議を行い、現行カリキュラムを評価している。今後の福祉

業界において、現在だけでなく、これからの介護福祉士に求められる力を検証し、その力を習得させるための各教科の取り組みや内容を検討している。その際、現場の声として本校の学生レベルを理解している教育課程編成委員会の意見を確認する体制を取っている。

○学修成果の確認については学期ごとの定期テストだけでなく、小テストやレポート、実習の評価や振り返りなどにより、細かく確認しその習得が不十分と思われる学生には早い段階で個別に関わっている。

○各授業内での取り組みや学生の反応などは週 1 回の教務会議の中でも必要時、情報を共有し、それぞれの取り組みの妥当性について検討している。

○授業ではシラバスやコマシラバスを作成し各授業内のどの時期にどのような内容を学習しているか教員間で確認できるように共通のフォルダに管理している。

<特に優れた点>

○目標を到達するための取り組みのひとつとして、実習に段階ごとの目標とその評価を明確に設定し、実習の事前指導で学生に伝えている。

○学生の習熟度については、実習毎の実習前面接や実習後で振り返りシートなどを用いて確認している。最後の実習となる第Ⅲ段階実習では、実習後に「資格取得時の介護福祉士養成の目標」の評価表を用いて、学生が自分自身を評価し、卒業までの半年間で今後どのような取り組みが必要かを学生自身が自覚できるようにしている。

<更なる向上を目指す点> (改善を要する点)

○業界からの声をより幅広く取り入れるためには、教育課程編成委員会以外にも現場の方から意見を頂く機会をさらに増やす必要がある。

≪根拠となる資料・データ≫

2「学生要覧 P1. P3」

48「資格取得時の介護福祉士養成の目標」

49「介護実習資料 (介護実習の意義と目的・実習評価表)」

#### 基準 4 教育方法

【選択 1】 4- (2) 養成校の卒業時到達目標を達成するためにどのようなカリキュラムを作り、それをどのように授業で行っていますか

≪基本的な観点ごとの分析≫ (500 字以内)

○介護福祉科の育成する人材像に則り、人間性、社会性を育成するカリキュラムとして、麻生塾オリジナルの教育プログラムである GCB を導入している。GCB は、学校生活の中で専門力だけではなく、その専門力を最大限発揮するため継続的かつ多角的にマナーの重要性や協働精神、また相乗効果を生み出す組織力などを身に付ける内容となっている。

○福祉業界をリードする人材となるためには、福祉業界全体を見渡し、他職種を理解する



意識を持たせることが重要であることから、本校では学生自身が、目指す将来像を描けるよう、多様な福祉施設の見学、管理職、主任クラスの方の講話等の体験を授業に数多く取り入れている。

＜特に優れた点＞

○国内だけでなく海外の福祉を学ぶことで、広い視野で今後の福祉業界を考えることが出来るよう、毎年海外研修旅行を実施している。

○海外研修旅行では、海外の施設設備の見学だけでなく、実際に利用者と触れ合う機会を設けている。学生達が日本の福祉の現状や日本文化を振り返る機会にもなっている。

＜更なる向上を目指す点＞（改善を要する点）

○介護サービスの現場で求められる接遇の授業が不足しているため、次年度カリキュラムよりサービス接遇を導入する予定である。

○海外研修旅行については、経済的理由で参加出来ない学生がいることもあり、必須カリキュラム化が出来ていない。

《根拠となる資料・データ》

4「GCBプログラム」

42「施設見学資料（障害者施設）」

43「講義資料①②」

50「海外研修旅行資料」

#### 基準4 教育方法

【選択2】4-（5）養成校の教育方法の向上を目指すために、特色ある独自の取り組みとして、どのようなことを行っていますか

《基本的な観点ごとの分析》（500字以内）

○介護の対象である高齢者を理解することを目的として、入学してすぐの時期に高齢者模擬体験と福祉用具見学の機会を設けている。この体験では介護を必要としている高齢者以外にも、地域で生活している高齢者の多くが加齢による変化があり、それとともに日常生活を送っていることを認識する。またこの取り組みを通して、その後の学びへの意欲と理解につながっている。福祉用具見学ではさまざまな福祉用具に触れることで専門職として幅広い知識が必要であることを実感している。

○その他の取り組みとして、今年度は「介護＝高齢者」ではなく、福祉業界の広い分野で活躍できるよう、障害者地域活動センターの見学を行った。入所施設だけでなく、放課後デイサービスや就労支援事業所の見学や生活介護事業所の方の話聞くことで、学生が在宅での生活まで幅広く捉え、専門職としての役割を理解するきっかけとなっている。

○学生が福祉の業界を理解したうえでビジョンを持って学べるような取り組みをカリキュラム会議や教務会議で検討し、取り入れている。このような取り組みの際には、担当

教員からの学生への動機付けや実施後アンケートなどで学生の反応を確認している。  
教員間でも共有し、各教科においてその学びをさらに深めるようにしている。

<特に優れた点>

○実習では目の前の介護だけに捉われてしまいがちで、介護福祉士の仕事のやりがいを感じ取れない学生も多いことから、多様な福祉施設の見学や管理職、主任クラスの方の講話等の体験を通し、介護福祉士としての専門性を活かした幅広い活躍の場があることを示している。また早いうちから将来像を意識させることで、学生のキャリア形成につなげている。

<更なる向上を目指す点> (改善を要する点)

○様々な取り組みにおいても受け身な姿勢の学生がいる。学生が学びに主体性をもち、広い視野を持ち、深く理解しようとする姿勢を身につけられるような取り組みの工夫が必要である。

《根拠となる資料・データ》

41 「高齢者模擬体験資料」

42 「施設見学資料 (障害者施設)」

43 「講義資料①②」

54 「教務会議議事録」

## 基準 5 教員の資質向上

### 基準 5 教員の資質向上

《概略の記述》 (500 字以内)

5-1 【必須】 教員の外部研修・学会参加の機会をどのように確保・サポートしていますか

○「学校法人麻生塾 教職員研修規程」に則り、教員自身の受講希望および勤務経験、役職、今後期待する業務等を鑑み、校長代行が年間の教職員研修計画書を策定している。また、その研修受講に必要な費用を予算化している。

○研修受講後は、「出張および研修参加報告書」の提出を義務付けると共に、他の教員に対する研修報告の場を設け、情報を共有することとしている。

5-2 各教員の担当・適性に応じた授業技術向上をどのようにサポートしていますか

○学生による授業評価を定期的に行い、評価結果をもとに授業観察や研修等の改善活動に繋げている。年 2 回実施される教師アンケートの結果を本人に返却し、教師アンケート改善確認シートに該当者名を記載し、対象者に対する指導、授業見学等の改善活動を行う。

○常勤講師については、麻生塾研修プログラムに「授業力向上研修」が組み込まれている。

5-3 各教員の担当・適性に応じたクラス運営・学生指導のスキル・質向上をどのようにサポートしていますか

○本校は、担任制を導入し学生の日常生活も含めた指導を行っているが、同時に教職員全員での指導体制を重要視している。

○副担任としてフリーで各学年に関わる教員 1 名を配置し、各クラスの状況を把握すると共に必要な支援を行えるようにしている。

○行事や実習、補講、面談、保護者連絡等、学生の状況や指導内容に応じて、担任以外の教員にも役割分担を行い、一人の教員に負担が偏らないようにしている。

5-4 教員の資質向上の為に相互にサポートするチーム体制をどのように作っていますか

○日本介護福祉士養成施設協会主催のブロック研修会、全国教員研修会については、質の高い介護福祉士を育成する上で、今後の介護福祉士養成教育と養成施設のあり方について考える重要な研修であるとの認識のもと、年間の研修計画に落とし毎年教員を参加させている。

○次年度のカリキュラムを検討するカリキュラム会議を開催し、各科目の内容や前年度の卒業時共通模試の結果等を踏まえ、担当科目を見直している。教員全員が科目に対する共通認識を持った上で、授業に臨んでいる。

5-5 各教員の資質やその向上をどのように把握していますか

○教育力は授業アンケートの結果にて、その他麻生塾基本・学校運営・社会人基礎については、人材マネジメント制度で設定する目標シート、業務遂行評価をもとにした面談等で把握している。

5-6 教員の資質向上のために、特色ある独自の取組みとして、どのようなことを行っていますか

○麻生塾では、平成 28 年度より全教職員を対象として新たな研修制度を導入している。この研修制度は、教職員が体系化されたプログラムを段階的に受講していくことで、新任・中堅・管理職等の階層別に必要な知識や今後求められる知識等を順次修得できる仕組みとしている。

#### <参考資料>

- |                     |                   |
|---------------------|-------------------|
| 13 「目標シート」          | 19 「人材マネジメント制度」   |
| 51 「研修計画書」          | 52 「出張および研修参加報告書」 |
| 53 「教師アンケート」        | 55 「麻生塾研修プログラム」   |
| 56 「麻生塾教職員研修規程」     | 57 「授業見学アドバイスシート」 |
| 58 「教師アンケート改善確認シート」 | 59 「業務遂行シート」      |
| 60 「カリキュラム会議議事録」    |                   |

#### 基準 5 教員の資質向上

【必須】 5-1 教員の外部研修・学会参加の機会をどのように確保・サポートしていますか

《基本的な観点ごとの分析》 (500 字以内)

○「学校法人麻生塾 教職員研修規程」には、「麻生塾は、教職員に対する研修の必要性を把握し、その結果に基づいて研修に関する計画を立案し、その実施に努める」と規定されている。また研修は、「教職員に対して、現在就いている職又は将来就くことが予想される職に係る職務の遂行に必要な知識又は技能等を修得させ、その遂行に必要な教職員の能力及び資質等の向上を図ることを目的とする」とされている。

- 本校では、この規定に則り、年度当初に校長代行が年間の研修計画書を策定し、その予算を確保している。
  - 研修計画書の策定に当たっては、各教員が各自の1年間の目標設定を行い、上司との面談を行っている。目標達成に向けた具体的施策を検証していく中で、本人が希望する研修の確認を行うと共に、上司が今後期待する業務に必要と思われる能力を伝え、双方が同意した上で受講する研修を決定している。
  - 年度途中において、受講すべき研修、受講を希望する研修が発生した場合でも、上司と相談の上、参加申込を行うことが出来る仕組みも整えている。
  - 日本介護福祉士養成施設協会主催のブロック研修会、全国教員研修会については毎年、教員を参加させている。本研修は、質の高い介護福祉士を育成する上で今後の介護福祉士養成教育と養成施設のあり方について考える重要な研修であるとの認識を全教員が持ち、年間研修計画に落とし込んでいる。
  - 研修受講後は、「研修報告書」の提出を義務付けると共に、他の教員に対する研修報告の場を設け、情報を共有することとしている。
  - 研修参加による教員の不在時に、学校、学科運営、学生指導について極力支障のないよう、あらかじめ研修参加の情報は教職員朝礼や毎月の全体会議内で連絡し、不在の旨及び不在期間のサポートについて共有することで、教員が研修に参加しやすい体制を整えている。
- <特に優れた点>
- 研修報告は、週1回の教務会議内で適宜実施されている。どのような学びがあり、今後の業務へどう活かすのか等の観点から報告することとしている。他の教員にとっては、次はどのような研修を受けたいのか、どのような学びを得たいのかを各自で考える機会となっており、自らの研修計画を検討する材料となっている。
- また、受講した教員にとっても、報告を行うことで自らの学びを改めて振り返る機会となっている。
- <更なる向上を目指す点> (改善を要する点)
- 関連団体や現場と連携した教員研修を強化していく。特に麻生グループのスケールメリットを活かし、グループ企業と連携した教員研修も取り入れていきたい。
- 《根拠となる資料・データ》
- |                 |                   |
|-----------------|-------------------|
| 51 「研修計画書」      | 52 「出張および研修参加報告書」 |
| 56 「麻生塾教職員研修規程」 | 63 「全体会議議事録」      |
| 64 「教員研修について」   |                   |

基準5 教員の資質向上

【選択1】5-(3) 各教員の担当・適性に応じたクラス運営・学生指導のスキル・質向上をどのようにサポートしていますか

《基本的な観点ごとの分析》(500字以内)

○本校は、担任制を導入し学生の日常生活も含めた指導を行っているが、同時に教職員全員での指導体制も重要視している。

○副担任としてフリーで各学年に関わる教員1名を配置し、各クラスの状況を把握すると共に必要な支援を行えるようにしている。また、行事や実習、補講、面談、保護者連絡等、学生の状況や指導内容に応じて、担任以外の教員にも役割分担を行い、一人の教員に負担が偏らないようにしている。

○このような指導体制を取っていくには、情報の共有が非常に重要となることから、週1回教務会議を実施し、学生の学習状況、生活状況等を共有し、指導内容の検討を行っている。指導内容は、学生ごとに作成する「ガイダンス記録表」に記録し、共有している。

○新任教員に対しては、麻生塾内で実施している研修制度において「クラス運営」「カウンセリングI」講座の受講が必須とされており、基本的なスキルを修得できるようにしている。

○チューター制を導入し、指導教員が週1回状況確認を行い、新任教員の状況に応じ、きめ細やかなサポートを実施している。

<特に優れた点>

○一人の学生に対して、担任だけに関わるのではなく、統一した教育方針の下、学科の教員全員で関わることを重視した取組みを行っている。

○特に実習においては、実習施設ごとに決められた実習担当教員から指導を行うこととしている。少人数での指導により、きめ細やかなサポートを可能にすると共に複数の指導教員が関わることで多角的な視点からの指導が可能となっている。

○1年次前期終了後には、学生の実習状況の報告も含めた三者面談(教員・学生・保護者)を実施しているが、この三者面談についても実習担当教員が担当することとしている。

<更なる向上を目指す点>(改善を要する点)

○新任教員に対しては、随時業務内容の確認等を進めているが、2年課程の学科として2年間で1サイクルとして、改めて年度末に2年間の業務内容、役割、学生指導方法を振り返り検討する必要がある。

《根拠となる資料・データ》

54「教務会議議事録」

62「クラス担任表」

63「全体会議議事録」

65「ガイダンス記録」

66「チューター制度実施要領」

67「新任教職員状況報告書」

## 基準5 教員の資質向上

【選択2】5-(6) 教員の資質向上のために、特色ある独自の取組みとして、どのようなことを行っていますか

《基本的な観点ごとの分析》 (500字以内)

○麻生塾では、平成28年度より教育の質向上、学校運営力の基盤強化を目的に新たな研修制度を導入している。この新制度は、教職員が体系化された「麻生塾スキルマップ」を元に、設定されているプログラムを計画的に受講していくことで、新任・中堅・管理職等の階層別に必要な知識や今後求められる知識等を修得できる仕組みとしている。

○研修内容は、①麻生塾基本、②社会人基礎、③学校運営、④教育力、⑤自由選択の5つの区分に分けられており、それぞれ階層別に受講すべき講座が設定されている。①麻生塾基本と④教育力の講座を中心にスタートし、全教職員が3年を目処に必須講座を受講完了するという予定で進められている。

○研修プログラムの実施にあたっては、対象者の時間確保が大きな課題となっていたことから、スキルアップデイと称する研修日を事前に設定し、確実に時間が確保できるようにしている。

＜特に優れた点＞

○新たな研修制度では、学校法人に勤める者として必要な知識を「麻生塾基本」と位置付け、教員だけでなく事務職員に対しても受講を必須としている。

○「麻生塾基本」では、学生指導においては、教員だけでなく事務職員も同じスタンスで指導することが必要であるという考えに基づき、学則を初めとする各種規程や学校の教育方針等に関する講座を設定している。

＜更なる向上を目指す点＞ (改善を要する点)

○研修制度においては、全教職員対象の必須プログラムを設定しているが、部門によっては業務の繁忙期と重なりスケジュール調整が難しい状況も発生している。次年度以降については、開講時期の見直しを行い、全ての教職員が受講しやすい環境づくりを行う必要がある。

《根拠となる資料・データ》

55 「麻生塾研修プログラム」

61 「麻生塾スキルマップ」

## 基準6 やりがい・キャリア形成等を醸成する教育

基準6 やりがい・キャリア形成等を醸成する教育

《概略の記述》 (500字以内)

6-1【必須】キャリア形成の仕組みを理解させるため、どのような取組みをしていますか

○介護福祉士資格取得後、専門職としてどのように成長していくのかを具体的にイメージできるように、介護現場の管理職や職員、卒業生などからの講話を取り入れている。講話を通

して、将来どのような選択肢があるのかを知ると共に、キャリアとは何なのかを学生自身が考える機会としている。

6-2 介護福祉士として働く意欲や、職業倫理・社会的使命についての個別面談をどのように行っていますか

○本校では、実習前に実習目標や課題を確認するための実習前面接を実施している。

実習前面接では、身だしなみ、立ち居振る舞い、資格を持つ者としての自覚、利用者理解などを踏まえ、個別にアドバイスを行っている。必要に応じて再面接を実施し、学生が自覚を持って実習に臨める体制にしている。

また、面接時の本人の捉え方や実習に臨む姿勢に課題が残る学生には、実習担当者が個別面談を行い、その状況を実習指導者へつなぎ、現場での指導に活かしている。

6-3 就職への自覚や意欲を持たせる指導をどのように行っていますか

○学生が実際に施設見学に行き、現場の職員の働いている様子や仕事に対する姿勢などを学ぶことにより、自己の将来について考える機会を設けている。

○入学前から卒業まで一貫して、専門職として働くことを意識した指導を実施すると共に、保護者を交えた指導の機会を早くから設け、教員と保護者が共通理解の下、学生の教育に携わることができる環境を構築している。

6-4 介護福祉を担う専門職の土台となる、社会人としての教養・一般常識・マナーなどをどのように伝えていますか

○本校独自のカリキュラムである GCB 教育や実技試験、就職研修などを通し指導している。

6-5 介護福祉士のやりがい・キャリア形成等を醸成する教育のために、特色ある独自の取組みとして、どのようなことを行なっていますか

○オープンキャンパスでの学科説明や入学前オリエンテーションなど早い時期から、専門職としての意識を持って取り組むことの重要性を学生だけでなく保護者も含めて伝えている。

#### <参考資料>

29 「シラバス (介護の基本Ⅱ)」	43 「講義資料①②」
68 「施設見学資料(複合施設、障害者施設)」	71 「入学前オリエンテーション資料」
72 「オープンキャンパス学科説明資料」	74 「就職研修資料」
73 「保護者会資料」	75 「三者面談資料」
79 「就職模試」	82 「実習前面接要領 (再面接、評価表)」

基準6 やりがい・キャリア形成等を醸成する教育

【必須】6-1 キャリア形成の仕組みを理解させるため、どのような取り組みをしていますか

《基本的な観点ごとの分析》（500字以内）

○本校では、介護福祉士資格取得後、専門職としてどのように成長していくのかを具体的にイメージさせることを重要視している。これらを実現させるために、①社会福祉施設の見学、②介護現場の職員からの講話を積極的に取り入れている。

○まずは、施設見学の中で介護福祉士とご利用者の関わりに触れることで、介護福祉士の仕事を実感させる。次に、介護現場の管理職や職員、卒業生などから、介護福祉士が社会的に求められる資格であることや、実際にご利用者と関わる中で感じる介護の魅力などを語っていただくことで、学生の仕事へのモチベーションを高めるとともに、専門職としての将来像を、より具体的にイメージし、自身のキャリア形成を考える機会としている。

○キャリア形成には就職後も自己成長を意識し、学び続けることが必要であるとの認識を持たせることも重要であると考え、介護福祉士会が研修会や資格取得のサポートを行っていることを説明し、卒業後の学びに対する動機付けを行っている。

○同窓会組織である校友会が定期的で開催している総会も、卒業生の貴重な情報交換の場となっている。

＜特に優れた点＞

○福祉施設の施設長などの管理職の講話を聴く機会を設けている。施設長ご自身が福祉業界に入り、現在までどのようにキャリアを重ねてきたのかを具体的に伺うことにより、学生自身が自分のキャリアについて考える機会になっている。

＜更なる向上を目指す点＞（改善を要する点）

○学生のキャリア形成に対する考えは、経験を重ねるごとに変化していると考えられるが、その変化を十分に確認することができていない。定期的な確認と個別アドバイスが今後の課題である。

《根拠となる資料・データ》

43「講義資料①②」

68「施設見学の資料（複合施設、障害者施設）」

76「介護福祉士会入会案内パンフレット」 77「校友会総会案内」

基準6 やりがい・キャリア形成等を醸成する教育

【選択1】6-（3）就職への自覚や意欲を持たせる指導をどのように行っていますか

《基本的な観点ごとの分析》（500字以内）

○1年次後期に実施している施設見学では、障害者施設と複合施設を見学している。障害者施設では、入所・通所・居宅・就労支援・相談支援事業所の見学を行い、複合施設では、地域密着型特別養護老人ホーム、グループホーム、小規模多機能型居宅介



護、障害者福祉サービス事業所の見学を実施している。現場の職員の働いている様子や仕事に対する姿勢などを実際に見学することで、介護福祉士が社会的に求められる資格であることや介護の魅力が学生に体感させている。

○就職活動をはじめる前に、様々な事業所における介護福祉士の役割を学ぶことにより、介護福祉士としての働き方にも様々な形があることを理解させている。さらに、入学前から卒業まで一貫して、専門職として働くことを意識した指導を行っている。

○入学前オリエンテーション、オープンキャンパス、就職保護者会、三者面談など保護者を交えた指導の機会も設け、教員と保護者が共通理解の下、学生の教育に携われる環境を作っている。

<特に優れた点>

○本校は地域に根ざす学校であり、多くの卒業生が現場で指導者としても活躍している。そのため見学に伺わせていただいた施設においても、多くの卒業生が活躍している姿を目にすることができる。この経験で、学生がより自己の将来像を描きやすくなる。

○学生指導に関しては、クラス担任のみが行うのではなく、専任教員間で常に情報を共有し、誰もが同じベクトルで指導できる体制をとっている。そのため、学生や保護者の面談についても専任教員全体で対応している。

<更なる向上を目指す点> (改善を要する点)

○福岡県の介護福祉士養成科委託訓練生には、就職意識が低い者や就業条件に制約がある者もあり、指導に難しさを感じることもある。

《根拠となる資料・データ》

34「実習評価表」

68「施設見学資料（複合施設・障害者施設）」

70「就職部会資料」

71「入学前オリエンテーション資料」

72「オープンキャンパス資料」

74「就職研修資料」

75「三者面談資料」

基準6 やりがい・キャリア形成等を醸成する教育

【選択2】6-(4) 介護福祉を担う専門職の土台となる、社会人としての教養・一般常識・マナーなどをどのように伝えていますか。

《基本的な観点ごとの分析》 (500字以内)

○本校独自の教育プログラムである GCB プログラムをはじめとして、就職研修、実技試験などを通し、指導している。GCBは、専門力を身に付けるだけでなく、その専門力を最大限発揮するため、継続的かつ多角的にマナーの重要性や協働精神、また相乗効果を生み出す組織力など、社会人予備軍としての学校生活の中で学んでいくことが必要で

あるという考えから作られたものである。GCB は、「感謝と思いやり」をテーマとした GCBⅠ、「志を立てる」をテーマとした GCBⅡ、「貢献志向」をテーマとした GCBⅢから成り立っている。学生自身の持てる力を発揮し、目指す業界でやりがいを感じながら活躍できる人材になること、一人ひとりの学生が人生を無駄にせず価値あるものとし、志を持ち、働く意味や学ぶ意味を自分自身でしっかりと考え将来のキャリアビジョンを描けるような人材の育成を目指している。

○2年生進級前に行われる就職研修では、社会人としてのマナーを学生が演習しながら学べるよう、外部講師を招き実施している。

○卒業生をモデルとした実技試験を実施し、実際の卒業生からの評価を受けることにより、適切な生活支援技術に加え、言葉かけや表情、介護を受けての印象などのアドバイスから利用者主体の援助について学ぶことができるようにしている。

○これらの取り組みにより、学校生活の中で専門職として働くことを意識して物事へ取り組み、働くことへの高い意欲を持つことができると思われる。

<特に優れた点>

○学内にマナー委員会が設置されており、学生が玄関前で挨拶運動を行っている。また、学校周辺の校外清掃も実施している。

<更なる向上を目指す点> (改善を要する点)

○介護福祉科は、既卒者も多く学生の年齢も様々である。年齢や経験の違いにより捉え方も異なるため、学生個々へのアプローチを変えることが必要となっており、指導の工夫の必要性を感じている。

《根拠となる資料・データ》

4「GCBⅠ・Ⅱ・Ⅲ」

47「マナー委員会資料」

74「就職研修資料」

78「実技試験モデルアンケート」

## 基準7 実習

### 基準7 実習

《概略の記述》 (500字以内)

7-1【必須】実習に向けての事前準備と実習後のフィードバックをどのように行っていますか

○各実習前後、介護総合演習にて実習意義、目的、配属施設概要を指導している。巡回時の指導、帰校日では、実習の振り返りと翌週の目標を明確化している。

○事後指導では、全体指導と個別に資格取得の上で課題となり得ることを伝達し、今後学校生活で習得すべき課題を意識させている。また、必要に応じて保護者連絡、面談を実施し情報共有を行っている。

7-2 実習巡回時に実習指導者と十分なカンファレンスの時間を取るために、どのような働きかけをしていますか

○指導を要する学生状況を確認する場合は、事前にアポイントを入れ、実習指導者に時間を設けて頂いている。多くの場合は、教員の都合に合わせた時間帯で巡回を行っているため、指導者不在の場合は他の職員から話を伺えるよう、事前打ち合わせ時にご依頼している。

7-3 本人の適性に基づいた実習が行えるようにするためにどのような体制をとっていますか

○個々の適性と指導体制がマッチングできる施設への配属、また、円滑な実習が行えるよう施設へ事前に学生状況を伝えている。

7-4 施設や居宅など多様な暮らしの特性を学ばせるためにどのような実習体制をとっていますか

○既存の実習以外に、障害者、複合施設の見学実習を行い「入所、通所、居宅、就労支援」を学ぶ機会を設けている。

○施設清掃ボランティアを実施し、清掃活動を通して利用者の生活を理解することにつなげている。

7-5 実習先の実習指導者との連絡調整会や研究会などをどのような方法、頻度で実施していますか

○年1回、2年次4月の実習報告会は施設指導者にも出席していただいている。学生の学びの共有及び施設担当者自身が実習指導のあり方を見直す機会となっている。

7-6 実習先との連携のために、特色ある独自の取組みとしてどのようなことを行なっていますか

○実習先にも学校と共に福祉人材を育成していただく意識を持っていただく取り組みのひとつとして、昨年度は実習配属施設に対し、福祉現場で求められるスキル、資格取得の必要性、職員のスキルアップのための取り組み、雇用条件等のアンケート調査を行った。

○学生の実習報告会へ施設指導者にも出席していただくことで、学生の学びの共有とともに、施設指導者自身が実習指導のあり方を見直す機会にもなっている。

#### <参考資料>

- 34「実習評価表」「実習報告会のご案内」 43「講義資料①②」  
46「ボランティア参加記録カード」 49「介護実習の意義と目的」  
83「実習打合せ事項・実習生個人票」  
90「シラバス（介護総合演習Ⅱ）」 84「講義内容（介護総合演習）」 85「シラバス（介護過程Ⅲ）」 82「実習前面接要領（再接 評価表）」 80「施設実習巡回表」 88「清掃ボランティア実施要綱」 68「施設見学資料（複合施設・障害者施設）」

## 基準7 実習

【必須】7-1 実習に向けての事前準備と実習後のフィードバックをどのように行っていますか

《基本的な観点ごとの分析》(500字以内)

- 実習前教育では、意義、目的、留意点を特に重視している。まず事前学習として、学生自ら実習施設の概要を調べ、実習場所や環境を具体的にイメージできるようにしている。
- 施設担当教員からの伝達および個別指導後、学生が実習施設を事前訪問し、実習指導者からオリエンテーションを受けることで、円滑な実習が実施できるように繋げている。さらに実習前面接として、集団面接形式により、施設概要、実習目的、想定される事例の対応等を確認し、学生自身が実習目的、課題を明確に捉え、具体的な動きができるよう指導している。
- 実習後には、各自で実習の学びを振り返り、目標の達成度を確認させている。実習評価返却については実習担当教員が行い、ひとりひとりの個別課題を明確化し、今後の指導に繋げている。また各実習終了後には、毎回実習報告会を実施している。各段階で行われる実習報告会は実習の振り返り、今後の課題を明確にできる機会となっている。
- 特に1年次2月の最後の実習報告会は1年間の集大成としての学びを報告する場とし、実習施設にも参加のご案内を行っている。  
参加された施設職員からは、アンケートにてご意見を頂き、その内容を学生にフィードバックしている。

＜特に優れた点＞

- 実習前面接では施設訪問時のマナーとして、立ち居振る舞いの指導を行うとともに、その段階における実習目標や課題を明確に持っているか、具体的な動きのイメージが出来ているか等の確認を行っている。回答が不明瞭な場合は、個別指導、再面接を行った上で実習に向かわせている。
- 1年次最後の実習報告会は、2年次4月に実施し、入学後間もない新1年生を参加させている。1年生の早い段階から2年生の実習の話聞くことで、介護の仕事やその専門性、福祉施設への理解を深め、実習に対するイメージを持つことにつなげている。

＜更なる向上を目指す点＞(改善を要する点)

- 課題を有する学生の指導にどうしても時間がかかってしまい、全学生へ平等に時間を取った指導が行えていない。個々の学生のレベルにあった成長を実感させるためには、自身の成長を実感できる機会をさらに設けていくことが必要である。

《根拠となる資料・データ》

33「介護実習の意義と目的」

34「実習評価表」

43「講義資料①②」

46「ボランティア参加記録カード」

80「施設実習巡回表」	81「講義内容（介護実習Ⅰ段階実習）」
82「実習前面接要領（再面接・評価表）」	88「清掃ボランティア実施要項」
87「実習報告会聴講に関するアンケート集計結果」	90「シラバス（介護総合演習Ⅱ）」

<p>基準7 実習</p> <p>【選択1】7-（2）実習巡回時に実習指導者と十分なカンファレンスの時間を取るために、どのような働きかけをしていますか</p> <p>《基本的な観点ごとの分析》（500字以内）</p> <p>○実習前に行う事前打ち合わせ時には、担当教員より学校での指導内容、学生状況等を伝え、段階別の実習目標を確認していただいている。その上で実習目標に沿った実習内容を行えるよう配慮いただいている。</p> <p>○実習を通し、実習目標の到達が難しいことが予想される学生に対しては、担当教員から実習指導者に電話にてアポイントをとり、学生の実習中の様子、本人の課題、改善に対するアドバイス等をいただいている。</p> <p>○実習巡回については、多くは教員の都合に合わせた巡回時間を設定しているため、実習指導者が不在のことも多い。その場合は、学生状況を伺える現場職員を事前に指導者から指定いただき、その方と話が出来るようにしている。</p> <p>&lt;特にすぐれた点&gt;</p> <p>○実習前には必ず配属した実習生の個々の学習状況、課題等を実習指導者と情報共有する時間を設けている。その際、必要に応じ、前回実習評価票表や学生のレポート等を持参し、指導を要する箇所や指導方法を共有している。</p> <p>&lt;更なる向上を目指す点&gt;（改善を要する点）</p> <p>○実習指導者によっては、教育的視点での学生指導が行われない場合もある。また配属施設によっては、指導者と現場職員の情報共有ができておらず、学生の目標達成に繋がらない場合もある。</p> <p>○学校と現場が連携して人材を育成していく観点を持っていただくためには、学校の到達目標や指導方針を理解していただくことが必要である。そのためには指導者だけでなく、現場職員への働きかけの強化やその機会を設けることが課題であると考えます。</p> <p>《根拠となる資料・データ》</p> <p>33「介護実習の意義と目的」</p> <p>80「施設実習巡回表」</p> <p>34「実習評価表」</p> <p>83「実習打ち合わせ事項・実習生個人票」</p>
---

## 基準7 実習

【選択2】7-(6) 実習先との連携のために、特色ある独自の取組みとしてどのようなことを行っていますか

《基本的な観点ごとの分析》(500字以内)

- 実習先と共に福祉人材を育成していきたいとの学校の方針を、ことあるごとに施設に伝えている。その取り組みのひとつとして、昨年度は実習配属施設に対し「介護人材育成、確保に関するアンケート」調査を行い、福祉現場で求められるスキル、資格取得の必要性、職員のスキルアップのための取り組み、雇用条件等、現場での状況を確認した。
- アンケート実施時には、学校としての取り組みや学生の学びを資料としてまとめ添付した。アンケートから得られた情報は、福祉業界の理解や将来性として学生へ伝える場を設けフィードバックした。
- 2年次4月の実習報告会では、施設指導者にも出席していただき、学生の学びの共有とともに、施設指導者自身が実習指導のあり方を見直す機会にもなっている。
- 年1回、清掃ボランティアを実施している。本ボランティアを通し、学生は施設職員や利用者と交流を図っている。

＜特に優れた点＞

- 実習施設の法人本部と連携し、法人内の実習施設以外の別の事業所の見学実習を行っていただいている。その際、施設見学だけでなく、現場職員から介護のやりがい、将来性を話していただく時間を設けることで、学生のキャリア形成に繋げている。
- 施設側にも学校の取り組みを理解して頂けることで、共に人材育成を行っているという意識が高まっている。

＜更なる向上を目指す点＞(改善を要する点)

- 施設の見学実習は、プラスαで行っているため、次年度はカリキュラムに導入していく予定である。

《根拠となる資料・データ》

- 68「施設見学資料(複合施設・障害者施設)」 83「実習打ち合わせ事項・実習生個人票」
- 87「実習報告会聴講に関するアンケート集計結果」 88「清掃ボランティア実施要領」
- 89「介護人材(育成・確保)に関するアンケート結果報告」
- 90「シラバス(介護総合演習Ⅱ)」 91「活動実績、実習報告会紹介資料」

## 基準8 リカレント教育体制

### 基準8 リカレント教育体制

《概略の記述》 (500字以内)

8-1【必須】介護福祉士としての資質向上の責務や継続的な学習の必要性を、在学中にどのように指導していますか

○主に「介護の基本Ⅱ」、「介護総合演習」の授業、実習前後の指導にて、社会福祉士及び介護福祉士法義務規定の説明をしている。

○卒業生を招き、実際にどのように仕事に取り組んでいるのか、仕事に求められる知識、スキル、また今後どのようにキャリアアップしていこうと考えているのか等の講話が聴講できる機会を設けている。

8-2 卒業後の就労意欲の維持向上（離職防止）のために、どのような取り組みを行っていますか

○在学中より有資格者としての役割や責任について話をし、自己感情が要因である離職を防止するようにしている。卒業前には、改めて入職後の新任としての仕事の取り組み方や自己成長の学びの必要性について考えさせる時間を設けている。

○離職や転職を考えている卒業生の相談来校があるため、その都度個別にアドバイスを行っている。

8-3 卒業生の知識・技術の向上のためにどのような取り組みを行っていますか

○リカレント教育としてオープンキャンパスにて介護支援専門員の勉強会などの紹介をしているが、継続的な実施に至っていない。卒業生から資格取得に対する問い合わせなどがある場合、学校に来校してもらいアドバイスを行っている。

○今後は介護福祉士国家試験に対するリカレント教育が必要である。

8-4 卒業後の制度・施策、業界の動向に関する最新情報を提供するために、どのような取り組みを行っていますか

○卒業前に介護福祉士会の役割や活動内容について説明し、入会の案内を行っている。

○同窓会組織である校友会の総会が定期的で開催されており、卒業生同士の情報交換の場となっている。

8-5 卒業生と在学生の協力体制をどのように築いていますか。

○学内で行う在校生の実技試験のモデルや第Ⅱ段階実習報告会への参加を卒業生に依頼し、結果やアドバイスを卒業生から在校生にフィードバックしてもらう仕組みを作っている

○介護過程の授業において、在校生が展開する事例についても、卒業生から事例を提供してもらい、より現状にあった事例を学生に提供できるようにしている。

8-6 介護福祉士の専門的力量的向上のために、特色ある独自の取り組みとして、どのようなことを行なっていますか

○高齢者に関わる専門性を活かし、地域で暮らす高齢者の生活にスポットを当てた活動を展開している。昨年度の取り組みは、以下の通りである。

①戸畑警察署と連携した高齢者偽電話詐欺被害防止活動

②地区の社会福祉協議会、市民センターの協賛による介護予防教室の開催

8-7 資格取得後のキャリア形成について、どのように授業に取入れていますか

○GCBⅡ第1講座にて「志とは何か。どうすれば志を立てることが出来るのか」について学び、考え、自分なりの答えを出し言語化させている。GCBⅡを通して、卒業後の自身の仕事や人生に対するビジョン、キャリアについて考えさせている。

○卒業前には、実際に施設で勤務する卒業生や施設管理者からの講話や、北九州高齢者福祉事業協会が主催する、「みんなで支える『あったか介護』」の聴講を取り入れ、卒業後のキャリアをより具体的に描けるようにしている。

<参考資料>

4「GCBⅡプログラム」

6「パンフレット 51 ページ」

29「シラバス（介護の基本Ⅱ）」

43「講義資料②」

45「介護教室資料」

76「介護福祉士会入会案内パンフレット」

78「実技試験モデルアンケート」

92「実習に関するアンケート集計結果」

93「あったか介護資料」

94「就職部卒業生訪問資料」

95「偽電話詐欺防止活動表彰式」

基準8 リカレント教育体制

【必須】8-1 介護福祉士としての資質向上の責務や継続的な学習の必要性を、在学中にどのように指導していますか

《基本的な観点ごとの分析》（500字以内）

○1年次前期の「介護の基本Ⅱ」の学習において、社会福祉士及び介護福祉士法の義務規定（47条の2）に基づき、資格取得後の自己研鑽が必要であるということが法律の中に明記されていることを理解させている。

入学後早い時期の授業でその内容を押さえることにより、介護福祉士は学び続け、専門職として成長し続けることが求められるという意識付けとしている。

○卒業生や施設管理者の方の話を伺う機会を設けることで、実際にどのようにキャリアアップしてきたのか、また、今後しようと考えているのかを見聞きすることで、その必要性を実感させている。

○介護福祉士の仕事は、ご利用者の生活を支えることであること、対象となるご利用者の方々の生活スタイルや価値観も日々変化しているため、多様化するニーズに対応するためにも学び続ける必要があるということを教授している。



<特に優れた点>

- 実習先には、多くの卒業生が勤務しており、学生が実際にご指導いただくことも多い。その卒業生との関わりを通して、学生は資質の向上や学び続ける必要性を実感している。
- このように卒業生との連携が図れるのは、教員が在学中から一人ひとりの学生に深く関わり、卒業後も卒業生と連絡を密に取り、真摯に対応することで、しっかりとした信頼関係を構築しているからこそである。

<更なる向上を目指す点> (改善を要する点)

- 上記のような取り組みを行っているが、実際に学生が在学中に、資質向上や継続的な学習の必要性に対し、どのくらい理解できているかを測る客観的データが取れていない。

《根拠となる資料・データ》

29「シラバス（介護の基本Ⅱ）」

43「講義資料①②」

68「施設見学資料（複合施設、障害者施設）」

#### 基準8 リカレント教育体制

【選択1】8-（5）卒業生と在校生の協力体制をどのように築いていますか

《基本的な観点ごとの分析》（500字以内）

- 在校生に対し学内で実施している実技試験のモデルを卒業生に依頼し、卒業生から評価やフィードバックをしていただいている。在校生にとって、介護福祉士として現場で活躍する卒業生のアドバイスは貴重な学びになると同時に、卒業生にとっても介護の基本を振り返り、指導者としてアドバイスを行うための良い経験になっており、お互いの相乗効果が認められる。
- 第Ⅱ段階実習報告会を行う際は、実習施設で勤務している施設長、実習指導者、卒業生にも参加していただき、実習を終えた学生の学びを共有している。参加した方からは、「現場の職員にも聞かせたい、実習生の指導や新人教育に役立てたい」といった感想をいただいている。
- 卒業生に関しては、現場における自己の指導が学生にどのように伝わり理解されているのかを知る場になっている。さらに学生のレベルにあった指導について見直す機会になっていると思われる。

<特に優れた点>

- 今年度から、介護過程の授業において、卒業生から事例を提供して頂き、在校生がその事例に対して介護過程を展開していくこととしている。その内容について卒業生から質問やアドバイスをいただくことで、在校生はより実践的な介護過程の展開を学習できる。卒業生にとっては、現場での介護計画立案の視点とは異なる新たな視点を得られる機会になると思われる。

＜更なる向上を目指す点（改善を要する）＞

○リカレント教育については、在校生の学びを主軸としたものが多く、卒業生を主軸とした取り組みが不足している。

《根拠となる資料・データ》

77「校友会総会案内」

78「実技試験モデルアンケート」

92「実習に関するアンケート集計結果」

#### 基準8 リカレント教育体制

【選択2】8-（6）介護福祉士の専門的力量的向上のために、特色ある独自の取り組みとして、どのようなことを行っていますか

《基本的な観点ごとの分析》（500字以内）

○専門的に学んだ高齢者に関する知識を広げ、地域で暮らす高齢者の生活にスポットを当てた活動を展開している。

昨年度は戸畑警察署との連携により、高齢者偽電話詐欺被害防止活動に取り組んだ。学生がデザインを考案したポスターを作成し、警察官や地域の老人クラブとともに、地域の高齢者宅を訪問し、詐欺被害防止を訴えポスターを配布した。この活動は、戸畑警察署から表彰を受けている。

○地域の社会福祉協議会、市民センターに協賛していただき、地域住民を対象とした「認知症の理解と予防方法」に関する介護教室を開催した。この介護教室には30名を超える参加者があった。学生達は自分で内容を考え、進行し、認知症の症状や認知症の方の思いを理解できるようにパワーポイントを作成し講義を行った。

実際に認知症予防効果のある体操やゲームを行うなど、学生と参加者が一緒に楽しめる工夫もできていた。

○これらの体験を通して、学生は、介護福祉士として就職先での業務だけでなく地域で専門職として活躍する意義や、専門的な知識を活用し人に伝える難しさなどを学ぶことができたのではないかと確信している。

○卒業生に対しては、介護支援専門員資格取得の勉強会を行っている。学習のアドバイスや参加を希望していても勤務の都合がつかない卒業生に教材を送付する等、資格取得へのサポートを行っている。

＜特に優れた点＞

○地域の方と協力した取り組みを通して、学生は達成感や、専門職として地域に関わる喜びを感じることが出来ている。

また単なる知識・技術の習得に留まらず、様々な機関との連携や地域貢献の実践的な学びとなっている。

＜更なる向上を目指す点＞（改善を要する点）

○様々な活動、取り組みを行っているが、固定化された形でカリキュラムに反映されていないため、体系化を行う必要があると考える。

《根拠となる資料・データ》

6「学校パンフレット 51 ページ」

45「介護教室資料」

95「偽電話詐欺防止活動表彰式」

## 基準 9 学生の募集と受け入れ

### 基準 9 学生の募集と受け入れ

《概略の記述》（500 字以内）

9-1 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいますか

○学生募集については、アドミッションポリシー、学費、特待生制度、募集学科、募集定員等を募集要項やパンフレット、HPにて公表し、学校としての学生受け入れ方針を明らかにしている。

○本校が育成する人材像、目指す資格検定、習得できる知識や技術、さらに本校の教育成果として、就職実績、資格取得状況、卒業生の活躍等を印刷物や Web サイトに掲載し、情報提供を適宜行っている。

○高等学校に対しては、学生募集に関する情報だけでなく、該当の高等学校出身の在校生の状況についても、適宜報告を行っている。

9-2 【必須】 学生募集を適切かつ効果的に行っていますか

○広報部員が定期的に高等学校を訪問し、在校生や卒業生の状況報告や進学に関する情報提供を行っている。また、高校教員向けの学校説明会も毎年開催し、本校の教育方針等に対する理解を得るべく活動している。

○入学希望者や保護者と直接接することのできるオープンキャンパスは、学校の方針を直接伝えることができると同時に学校施設や学内の雰囲気を見ていただける非常に貴重な機会だと捉え、綿密な計画の下、開催している。

9-3 入学選考基準を明確化し適切に運用していますか

○入学選考は、募集要項に記載している入試区分ごとに定められた選考方法に従って、公正に実施している。10 月 1 日より入学願書の受付を行い、入学試験は募集要項に記載された日程に実施している。

○可否については、試験回ごとに校長代行・事務長・広報関係者から構成される可否判定会議にて入試基準をもとに決定している。

9-4 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用していますか

○学科ごとのオープンキャンパス参加者、志願者、入学者等のデータは、全体で共有しており、次年度以降の募集活動計画時に基本データとして活用している。

○介護福祉科では、入学試験で基礎学力調査を実施しており、その結果を入学後の学習サポートを検討する際の資料として活用している。基礎学力調査の点数と退学状況、卒業時共通試験点数との相関を見るためのデータを収集しているところである。

9-5 留学生など、多様な人材の募集及び受け入れについてどのようなことを行っていますか

○多様な人材確保のため、以下のような取り組みを行っている。

- ・留学生…留学生受入の担当部署である国際交流センターと連携し、外国人留学生に対するHP、パンフレット、コンテンツの作成、更新を行う。日本語科及び他の日本語学校と連携し、留学生を専門課程へ入学させるための募集要項の作成、学校説明会の実施、入試対応等を行っている。
- ・社会人…福岡県の介護福祉士養成科委託訓練生の受け入れを行っている。また職業訓練給付金制度や、奨学金制度、県の就学資金等の経済支援制度をまとめた資料を作成し、社会人資料請求者への送付や、介護福祉施設へ設置していただいているパンフレットに同封している。

9-6 学生募集と受け入れのために、特色ある独自の取組みとして、どのようなことを行なっていますか

○高校生のキャリア教育支援として、職業理解イベントである「お仕事スタジアム」「おしごと探検 in 北九州」等を毎年開催している。

○また広報では募集年間スケジュールを作成し、ターゲットを明確にした募集活動を行っている。

○AO入試では、合格者に向けた特典としてフォローアップ講座を企画、運営している。

#### <参考資料>

5「麻生専門学校グループホームページ」

6「学校パンフレット」

7「学校ホームページ」

9「介護福祉士を目指す方のための奨学金・支援金制度」

96「募集要項」

97「留学生用募集要項」

98「AO入学選考チラシ」

99「平成28年度委託訓練における企画書評価結果通知」

100「お仕事スタジアム案内チラシ」

#### 基準9 学生の募集と受け入れ

【必須】9-2 学生募集を適切かつ効果的に行っていますか

《基本的な観点ごとの分析》（500字以内）

○本校では、高等学校からの新卒学生の入学が過半数を占めていることから、募集活動において、高等学校との関係は非常に重要である。そのため担当校を決め、広報部員が定期的に高等学校を訪問し、在校生や卒業生の状況報告や進学に関する情報提供を行っている。また、高校教員向けの学校説明会も毎年開催し、本校の教育方針等に対する理解を得るべく活動している。

○入学希望者や保護者と直接接することのできるオープンキャンパスは、学校の方針を直接伝えることができると同時に学校施設や学内の雰囲気を見ていただける非常に貴重な機会だと捉え、複数回開催している。

＜特に優れた点＞

○募集活動においては、入学後のミスマッチを防ぐことも重要なポイントであると考えており、学校の方針だけでなく希望学科の学習内容や到達目標などについてもしっかりと伝えることを心がけている。

○本校では、入学生の約9割がオープンキャンパスに参加していることから、オープンキャンパスでは、学校の方針や教育活動について説明すると共に入学希望者が求めている学校生活に関する情報についても在校生との交流を通して得ることができるよう工夫している。また、個別相談の時間も設定し、入学希望者ごとの質問にも対応できるようにしている。

＜更なる向上を目指す点＞（改善を要する点）

○定員に対し受験者数は、全体数も介護福祉科も年々減少している。業界の人材不足へのニーズ対応、「一人でも多くの方が麻生塾を卒業し、社会に貢献し続ける人材育成」を継続し続けることが求められる。

《根拠となる資料・データ》

6「学校パンフレット」

3「総合パンフレット」

7「学校ホームページ」

96「募集要項」

101「高校教員対象説明会当日スケジュール」

102「担当校一覧」

103「オープンキャンパススケジュール」

## 基準9 学生の募集と受け入れ

【選択1】9-（4）入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用していますか

《基本的な観点ごとの分析》（500字以内）

○介護福祉科では、平成26年入学選考（平成27年度入学生）より、入学試験で基礎学力調査を実施している。入学時の基礎学力調査の結果は、校長代行及び教務にフィードバックされている。

○教務は基礎学力調査の結果、入学までのリメディアル教育課題状況、入学後に実施する基礎学力テスト、学力共通試験等の結果を総合的に見て、学力的に厳しい学生を絞り、担任による各授業ノートの確認や非常勤講師による全8回の国語講座等を行っている。国語講座では、小学校から中学校レベルの漢字、文章作成の基礎等を学習することで基礎学力の向上および実習時の記録等に活かせる内容としている。

○平成27年度入学生の単位未取得による退学者の入学時基礎学力調査結果を確認し、点数と退学状況の分析を行うことで進級に関わるボーダーラインとなる点数を設定してお

り、ボーダーラインに近い学生には特に留意して指導を行っている。ただし本結果に捉われることなく、あくまでも1資料であることを認識し、学生の可能性や、やる気を引き出すような声掛けと適切な個別指導をこまめに行うことを重視している。

<特に優れた点>

○担任は、国語講座の担当講師より学生ごとの課題、今後の学習指導に対するアドバイスをいただき、講座終了後も引き続き基礎学力の向上に向けた指導を継続している。

<更なる向上を目指す点> (改善を要する点)

○今年度の卒業時共通試験と入学時基礎学力調査の結果の関係についてもデータ分析を行う。

《根拠となる資料・データ》

104 「基礎学力調査結果」

105 「退学者分析データ」

106 「共通模試データ」

107 「国語講座報告書」

#### 基準9 学生の募集と受け入れ

【選択2】9- (6) 学生募集と受け入れのために、特色ある独自の取り組みとして、どのようなことを行っていますか

《基本的な観点ごとの分析》 (500字以内)

○学生募集と受け入れのため、高校営業やガイダンス、オープンキャンパス、高校教員に対する学校説明会、個別の学校説明会等を行う以外にも多種多様なキャリア教育支援イベント等を実施している。中でも特に力を入れているのが、3月に開催している「お仕事スタジアム」である。多数の企業にもご協力いただき、業界、仕事の魅力をイベント参加者に伝えることで、「自分の未来」を考えるきっかけを提供し、ミスマッチのない職業選択へとつなげることができると考えている。

○A0 入学選考での合格者に対しては、A0 フォローアップ講座を行っている。アドミッションポリシーの具現化、さらなる強化を目的に、入学前から本校の講座に参加することができる特典を付加し、本校への入学に「強い熱意や意欲」「目標やビジョン」を有している方を一人でも多く入学させる仕組みを構築している。

<特に優れた点>

○お仕事スタジアムは、企業と連携し業界の魅力を伝え、将来の職業選択につなげることを目的に平成18年から毎年開催しているイベントである。九州・山口から多数、来場していただいている(平成28年3月は約4000名)。平成27年度からは、対象を今までの高校生から大学生・留学生へと拡大し、広く若年者に対し将来を考える機会を提供している。

＜更なる向上を目指す点＞（改善を要する点）

○A0 フォローアップ講座の更なる周知を図り、A0 での入学者数を増やすことで、熱意、意欲ある人材の確保につなげる。

《根拠となる資料・データ》

96「募集要項」

98「A0 入学選考チラシ」

100「お仕事スタジアム案内チラシ」

108「A0 フォローアップ講座カリキュラム」

## 基準 10 内部質保証

### 基準 10 内部質保証

《概略の記述》（500 字以内）

10-1 自己点検・評価をどのように行っていますか

○「自己点検・評価委員会規程」に基づき、校長代行の下で教職員が参加し、学校の目標・計画等に沿った取り組みの達成状況や、それらの取り組みが適切に行われたかどうか等について毎年 1～3 月に評価を行い、学校運営の改善等に活用している。

○評価結果については、本校のホームページにて公開している。

10-2 学校関係者評価をどのように行っていますか

○「学校関係者評価委員会規程」に基づき、より実践的な職業教育の質を確保し、学校運営の改善を図ることを目的として、平成 26 年から年に 1 回開催している。学校関係者評価の結果については、本校のホームページで公開している。

10-3 評価の充実に向けてどのような工夫を行っていますか

○自己点検評価の結果を報告書に取りまとめ、その結果を受け、今後の改善方策について検討「自己点検・評価フォローアップシート」を提出する。改善策に対する取り組み後には、対策の有効性の評価、確認を行っている。

○麻生塾内において内部監査を実施し、自己点検・評価の妥当性をチェックしている。

10-4【必須】教育情報をどのように公開していますか

○文部科学省の示すガイドラインに則り、本校の教育内容、学修成果等を広くホームページにて公開している。

○入学希望者・学生については、募集要項やパンフレット、学生要覧においても教育情報を掲載し、情報提供を行っている。

10-5 内部質保証についての特色ある独自の取り組みとしてどのようなことを行っていますか

○自己点検・評価は学校評価の基本となるものであり、教職員全員が参加して、設定した目標や具体的計画等を共有し組織的に取り組むことが重要である。そのため自己評価委員会、内部監査委員等、自己評価を中心となって実施するための組織を設けている。

○目標や計画の達成に向けた方策は、特定の教職員のみが対応するのではなく、全教職員が計画の策定、評価、改善方策の検討等の過程において参画し、各校の課題や特色を共有している。

<参考資料>

2「学生要覧」	6「学校パンフレット」
7「学校ホームページ」	96「募集要項」
109「自己点検・評価委員会規程」	110「学校関係者評価報告書」
111「学校関係者評価委員会規程」	112「自己点検・評価フォローアップシート」
113「自己点検・評価活動年間スケジュール」	

基準 10 内部質保証

【必須】 10-4 教育情報をどのように公開していますか

《基本的な観点ごとの分析》（500字以内）

- 専門学校は教育機関として、在校生がより良い教育を受けることができるよう、学校運営、教育活動について常に改善を図り、教育の質の向上と保証を図る責任がある。また、学校運営、教育活動等の学校情報を公表し、学生および入学前の生徒・保護者をはじめとする学校関係者に対し、説明責任を果たすことが求められている。
- このことから、本校では文部科学省の示すガイドラインに則り、本校の教育内容、学修成果等を広くホームページにて公開している。また、入学希望者・学生については、募集要項やパンフレット、学生要覧においても教育情報を掲載し、情報提供を行っている。
- 本校は、全学科が職業実践専門課程として認可を受けているため、所定の様式にて基本情報の公開も行っている。

<特に優れた点>

- 本校ホームページのトップページに情報公開ページへのリンクを貼ったバナーを表示し、情報公開ページに速やかに移動できるようにしている。

<更なる向上を目指す点>（改善を要する点）

- 情報公開ページに集約されていない内容があり、今後ホームページの構成を見直す必要がある。

《根拠となる資料・データ》

2「学生要覧」	5「麻生専門学校グループホームページ」
6「学校パンフレット」	7「学校ホームページ」
96「募集要項」	



基準 10 内部質保証

【選択 1】 10- (1) 自己点検・評価をどのように行っていますか

《基本的な観点ごとの分析》 (500 字以内)

○「自己点検・評価委員会規程」に基づき、校長代行の下で教職員が参加し、学校の目標・計画等に沿った取り組みの達成状況や、それらの取り組みが適切に行われたかどうか等について毎年 1~3 月に評価を行っている。

評価は、自己点検委員の指示に従い、以下の手順に則って実施している。

①各学科、部署の教職員にて「自己点検評価シート」の項目に添って自己点検を行う。

②校長代行が、点検内容を集約し、学校としての最終評価を決定する。

③自己点検委員会にて、自己点検・評価報告書を作成する。

自己点検・評価報告書は、本校のホームページにて公開している。

<特に優れた点>

○自己点検・評価の妥当性をチェックし、学校運営のブラッシュアップが行われているかを確認するため、麻生塾内の他部門による「内部監査」を実施している。

○内部監査では、改善活動のチェック確認だけでなく、自分たちでは気がついていない良い施策や取り組みについても発見し、麻生塾内のグループ校にも共有されている。また、内部監査を実施する内部監査員に対して研修を実施し、内部監査の質向上にも努めている。

<更なる向上を目指す点> (改善を要する点)

○自己点検の評価基準は主観となるため、評価基準レベルが設定されると、さらに客観性のある評価が可能となる。今後、自己点検委員会にて評価項目の見直しと共に評価基準についても検討していく。

《根拠となる資料・データ》

7 「学校ホームページ」

109 「自己点検・評価委員会規程」

112 「自己点検・評価フォローアップシート」

114 「自己点検評価報告書」

115 「内部監査計画書」

116 「内部監査報告書」

基準 10 内部質保証

【選択 2】 10- (2) 学校関係者評価をどのように行っていますか

《基本的な観点ごとの分析》 (500 字以内)

○「学校関係者評価委員会規程」に基づき、より実践的な職業教育の質を確保し、学校運営の改善を図ることを目的として、平成 26 年から年に 1 回開催している。

現在は 15 名の委員で構成された学校関係者評価委員会にて、以下に示す視点から評価を行っていただいている。

- ・ 自己評価の結果の内容が適切かどうか
- ・ 自己評価の結果を踏まえた今後の改善方策が適切かどうか
- ・ 学校の重点目標や自己評価の評価項目等が適切かどうか
- ・ 学校運営の改善に向けた実際の取り組みが適切かどうか

○学校関係者評価の結果については、「学校関係者評価報告書」にまとめ、本校のホームページにて公開している。

<特に優れた点>

○委員会では、教育活動の観察や意見交換等の時間を十分に確保することが必要である。自己点検評価結果は事前送付し、委員会当日は、学内における授業見学や前年度実績報告、学科活動報告などを盛り込み、限られた時間の中で、より具体的に学校教育活動を理解していただけるよう工夫している。

<更なる向上を目指す点> (改善を要する点)

○委員会当日の欠席者からのヒアリング精度を高める。

《根拠となる資料・データ》

111 「学校関係者評価委員会規程」

110 「学校関係者評価報告書」

117 「学校関係者評価委員名簿」

118 「学校関係者評価委員会議事録」

専修学校職業実践専門課程（介護分野）

第三者評価試行

## 第三者評価報告書

学校法人麻生塾

専門学校麻生医療福祉&観光カレッジ

平成 29 年 2 月

調査訪問日 平成 28 年 11 月 22 日

## 目 次

### <各規準の評価結果>

- 基準 1 教育理念
- 基準 2 学校運営
- 基準 3 教育内容
- 基準 4 教育方法
- 基準 5 教員の資質向上
- 基準 6 やりがい・キャリア形成等を醸成する教育
- 基準 7 実 習
- 基準 8 リカレント教育体制
- 基準 9 学生の募集と受け入れ
- 基準 10 内部質保証

## <各規準の評価結果>

### 基準1 教育理念

#### 基準1 教育理念

##### <総 評>

1. 学校法人麻生塾としての経営方針や理念、教育方針が定められている。  
法人が定めるビジョン（将来構想）に沿って当該モデル校、学科において育成する人材像を毎年設定している。目標達成に向け、教職員が一丸となって実行されている。
2. 麻生塾オリジナルプログラム「グローバル・シティズン・ベーシック（GCB）」は社会人として必要なマインドの育成を目的に学生、全員が履修している。  
更に、教職員自ら学生とともに学ぶ姿勢が学生から受け入れられ、学生は自ら考え、行動し、学生と教職員との一体感が醸成されている。

##### <評価基準ごとの評価>

基準1ー（1）社会のニーズなどを踏まえた将来構想を持っていますか

- 当該モデル校の設置法人である麻生塾が掲げる教育理念の実現に向けて、社会のニーズ、国の施策、業界の将来を踏まえ、目指す学校像を設定している。

基準1ー（2）理念・目的育成人材像は定められていますか

- 設置法人である麻生塾としての経営方針や理念を定めている。

学校、学科についての育成する人材像も定めている。

学校パンフレットや学生要覧等に記載し、学生に周知している。

基準1ー（3）育成人材像は専門分野に関連する業界などの人材ニーズに適合していますか

- 年に2回開催している教育課程編成委員会での意見および企業に対して実施している「お客様アンケート」の結果、就職グループからのヒアリング情報を元に業界の人材ニーズを把握した上で、学科の育成人材像やカリキュラムの見直しが行われている。

基準1ー（4）理念などの達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいますか

- 特色ある教育活動としては、人間力を高める独自の教育プログラムである「グローバル・シティズン・ベーシック（GCB）」が挙げられている。

GCBは、学校生活の中で専門力だけではなく、その専門力を最大限発揮するため継続的かつ多角的にマナーの重要性や協働精神、また相乗効果を生み出す組織力などを、学んでいくことが必要であるという考えから設計されている。

基準 1 教育理念	
必須 1-① 社会のニーズなどを踏まえた将来構想持っていますか	
評 定	評価ポイント 3
<p>&lt;評価する点&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 当該モデル校の設置法人である麻生塾が掲げる教育理念の実現に向けて、社会ニーズ、国の施策、業界の将来を踏まえ、目指す学校像を設定している。</li> <li>2. 社会人に対しては、介護福祉士を目指す学生への奨学金・支援金制度の周知が必要であると考え、オリジナルでチラシを作成し、学校パンフレットに同封し、介護福祉施設の40箇所に設置を依頼している。</li> <li>3. 就職後のミスマッチを防ぎ早期離職防止を図る目的として卒業生アンケートを実施している。</li> </ol> <p>&lt;特に優れた点&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○就職部では平成 27 年 12 月から就職後のミスマッチを防ぐ目的として、求人先に訪問し求める人物像のヒアリングを行っている。</li> <li>○社会人の入学者を積極的に受け入れ、福岡県の介護福祉士養成科委託訓練生の定員充足を達成している。</li> </ul> <p>&lt;更なる向上を目指す点&gt; (改善を要する点)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○留学生のニーズにあった環境整備と、受け入れ態勢の構築が望まれる。</li> </ul>	

基準 1 教育理念	
選択 1-② 理念・目的育成人材像は定められていますか	
評 定	評価ポイント 3
<p>&lt;評価する点&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 設置法人である麻生塾としての経営方針や理念を定めている。当該モデル校・介護福祉学科についての育成する人材像も定めている。</li> <li>2. 学校パンフレットや学生要覧等に記載し学生に周知している。 <ul style="list-style-type: none"> <li>○理念・目的育成人材像とは <ul style="list-style-type: none"> <li>【経営理念】世界中の人々の生きがいデザインする</li> <li>【ミッション】質の高い教育サービスにより学生の付加価値を高め、顧客である企業の求める人材を育成し社会に貢献します</li> <li>【ビジョン】一人でも多くの人卒業し、社会に貢献し続ける人材育成を行う教育機関</li> <li>【教育方針】専門性を高め、かつ人間性・人格の成長を図ります</li> <li>【校 訓】「無私」</li> <li>【介護福祉科の育成する人材】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・人間性、社会性、専門性を具えた福祉業界のリーダーとなる人材を育成する。</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul> </li> </ol>	

<ul style="list-style-type: none"> <li>・根拠を理解した知識、技術の習得ができる実践的なカリキュラムを基本とし、質の高いサービスが提供できる接遇・マナーを身に付ける。</li> <li>・有資格者として、地域や福祉業界に貢献できる人材の育成を目指す。</li> </ul> <p>&lt;特に優れた点&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○育成する人材像は、学科コンセプトとして学内でプレゼンテーションし、常勤教員はもちろん、非常勤講師とも共有し、その育成に向けた教育活動に繋げている。</li> <li>○入学希望者に対しては学校の方針、姿勢を教育内容等が記載された総合パンフレットを配布すると共に入学希望者とその保護者を対象とした入学前オリエンテーションが実施されている。</li> </ul> <p>&lt;更なる向上を目指す点&gt; (改善を要する点)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○教育理念や教育方針、学校の学習指導方針等の全体像を、図解化するなどすればもっと解り易く普及できるであろう。</li> </ul>
--

<p>基準1 教育理念</p> <p>選択1-④ 理念などの達成に向け、特色ある教育活動取り組んでいますか</p>	
<p>評定</p>	<p>評価ポイント 3</p>
<p>&lt;評価する点&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 特色ある教育活動としては、人間力を高める独自の教育プログラムである「グローバル・シティズン・ベーシック (GCB)」が挙げられている。 GCBは、学校生活の中で専門力だけではなく、その専門力を最大限発揮するため継続的かつ多角的にマナーの重要性や協働精神、相乗効果を生み出す組織力などを、学んでいくことが必要であるという考えから設計されている。</li> <li>2. GCBは、「感謝と思いやり」をテーマとしたGCBⅠ、「志を立てる」をテーマとしたGCBⅡ、「貢献志向」をテーマとしたGCBⅢから成り立っている。 また、キャリア教育の強化を図る活動を推進しており、職業観や勤労観を醸成し、キャリアビジョン・キャリアプランを描き、自己実現・自己成長を実感できるよう、キャリア教育の体系化が進められている。</li> <li>3. また自己成長の実感を確認する卒業時アンケートを実施している。</li> </ol> <p>&lt;特に優れた点&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○特色ある教育活動としては、人間力を高める独自のプログラムであるGCB「グローバル・シティズン・ベーシック」が挙げられる。このプログラムは社会人として必要なマインドの育成を目的に全学生が履修している。</li> <li>○GCBの指導にあたって教職員は、学生を肯定的なスタンスでとらえて取り組んでいる。教職員自ら学生とともに学ぶ姿勢が学生に受け入れられ、押し付けではない学びの気づき(学生自ら考え、行動する)に繋がっている。</li> </ul>	

○キャリア教育の必要性について教員研修を行い、キャリア教育に対する認識を共有した上で、2年間のキャリア教育の体系化を平成27年度より3年計画で取り組んでいる。現在2年間のキャリア教育指導計画書を作成途中である。

<更なる向上を目指すことがら（改善を要する点）>

○さらに有効な資料とすべく、卒業時アンケートの項目の改善が期待される。

## 基準2 学校運営

### 基準2 学校運営

<総 評>

1. 学校法人麻生塾としての経営方針や理念、教育方針が定められている。法人が定めるビジョン（将来構想）に沿って学校、学科において育成する人材像を毎年設定している。
2. 学校単体の事業計画は社会情勢やニーズを反映し、毎年作成されている。作成された事業計画に沿って、教職員一人ひとりに個人目標が設定され具体的な施策が落とし込まれている。
3. 人事評価は個人目標の達成度合いと「新入材マネジメント制度」に沿って評価が実施されている。

<評価基準ごとの評価>

基準2ー（1）理念に沿った運営方針を定めていますか

○麻生塾の経営理念、教育方針、学校の教育方針を策定している。

基準2ー（2）理念などを達成するための事業計画を定めていますか

○平成26年度に5年後の学校ビジョンを策定し、経営環境の分析、中長期を見据えた取り組みを定めている。

日々変化する社会情勢やニーズに対応すべく毎年、学校としてのあり方として事業計画書を作成している。

基準2ー（3）人事・給与に関する制度を整備していますか

○人事規定、賃金制度について明文化され、整備されている。

基準2ー（4）意思決定システムを整備していますか

○学校法人麻生塾全体の意思決定は、常任理事会、MM会議、共有会議、校長代行会議、募集戦略会議、教育戦略会議、各委員会等で行われている。

○当該モデル校では、月末の定例全体会議や学科ごとの教務会議、必要に応じて行われるリーダー会議、各委員会等の会議にて、学校運営に関する進捗管理や詳細な決定等が行われている。

○会議等は議事録にて、職制による意思決定は稟議書にて経過を明確にしていることが確認できた。

基準2ー（5）情報システム化に取り組み、業務の効率化を図っていますか

○学生情報は、入学時から卒業後までの活動記録、個人情報「麻生塾システム」にて一元管理されている。



○教職員の情報共有や、業務に関する稟議決済等については、「デスクネッツ」を利用し業務効率を図っている。

情報システムの管理は、経営推進本部 事業戦略グループが主管していることが確認できた。

基準 2- (6) 国家試験に対する方針は明確になっていますか

○平成 28 年度介護福祉科入学生から学生全員が試験の受験を義務付けられている。

国試合格に向けては、e-learning の活用、オリジナル模試の実施、習熟度別クラスでの実践型試験対策授業、120 時間の総合学習の導入等の対策が行われていることが確認できた。

## 基準 2 学校運営

必須 2-② 理念などを達成するための事業計画を定めていますか

評 定	評価ポイント 3
-----	----------

<評価する点>

1. 平成 26 年度に 5 年後の学校ビジョンを策定し、経営環境の分析、中長期を見据えた取り組みを定めている。日々変化する社会情勢やニーズに対応すべく毎年、学校としてのあり方として事業計画書を作成している。

2. 計画内容

12 月：「振り返り会議」 ⇒ 現状把握と課題の整理

3 月：キックオフ会議 ⇒ 次年度の事業計画を教職員に向け発表

(運営方針、目標数値、目標達成のための取り組みを定めている)

平成 28 年度キックオフ会議資料 (社外秘資料：評価委員が学校にて確認)

<特に優れた点>

○事業計画に沿って教職員一人ひとりに目標が設定され、目標シートに具体的な施策・計画がされている。

○年度初めに上司が教職員一人ずつと面談を行い、双方の同意の下で目標設定を行っている仕組みはよく工夫されている。

○中間と期末にも個人面談が実施されており、進捗状況や課題確認の場が設定されている点も評価できるポイントである。

<更なる向上を目指す点> (改善を要する点)

○目標達成のための施策に対するアクションプランとスケジュール表など可視化できるように工夫することが望ましい。

基準2 学校運営	
選択2-① 理念に沿った運営方針を定めていますか	
評 定	評価ポイント 3
<p>&lt;評価する点&gt;</p> <p>1. 学校法人麻生塾の経営理念、教育方針、学校の教育方針を策定している。</p> <p>2. 学校法人麻生塾の経営理念「世界中の人々の生きがいをデザインする」、および麻生塾の教育方針「専門性を高め、かつ人間性・人格の成長を図ります」に沿って学校の教育方針、運営方針が設定されている。</p> <p>①目的意識を持ち、自ら考え行動できる人材を育成する</p> <p>②志とチャレンジ精神を持ち、体験の中から学び成長する喜びを知る人材を育成する、</p> <p>&lt;特に優れた点&gt;</p> <p>○学校法人麻生塾の教育方針を具現化するために、行動規範が定められており、毎朝の朝礼にて行動規範を教職員全員で唱和している。この取り組みから教職員の帰属意識を高め、モチベーションUP（学生へのミッション）に繋がっている事が確認できた。</p> <p>○新しい取り組みを評価する「ベストプラクティス賞」が設けられており、更に個人の成長を促す研修制度も導入されている。</p> <p>○年功や経歴とは関係がなく、実力のある人間がその力を存分に発揮できる組織風土が醸成されている事が確認できた。</p> <p>&lt;更なる向上を目指す点&gt;（改善を要する点）</p> <p>特に記載事項なし。</p>	

基準2 学校運営	
選択2-③ 人事・給与に関する 制度を整備していますか	
評 定	評価ポイント 3
<p>&lt;評価する点&gt;</p> <p>1. 人事規定、賃金制度について明文化され、整備されている。</p> <p>人事規定は就業規則により周知が図られ、「麻生塾ルールブック」にも記載されている。</p> <p>2. 平成25年度より導入された「新入材マネジメント制度」は、成果評価とプロセス評価を併せた評価制度であると同時に、組織の成長に必要な人材の機能要件と個人のキャリア開発支援をマッチングさせるキャリアパスモデルとなっている。</p> <p>3. 賃金制度は給与規程として文書化されている。また採用制度も採用までの流れとして文書化している。</p> <p>&lt;特に優れた点&gt;</p> <p>○「新入材マネジメントシステム」においては、経営戦略に対応できる人材開発と組織開発や現状の教職員構成がもたらす構造的な人事課題への対応、努力した者が報われる評価制度の導入による個人のモチベーションアップ、創造的な仕事への取り組みや効率的</p>	

<p>な働き方の風土づくり、麻生塾職員としての一体感や自分たちが組織を支えていくという当事者意識の醸成が期待できる。</p> <p>○組織の成長に必要な人材の職能要件と個人のキャリア開発支援をマッチングさせることができる制度であり、プロセス評価と成果評価のバランスが取れた評価制度である。</p> <p>&lt;更なる向上を目指す点&gt; (改善を要する点)</p> <p>特に記載事項なし</p>
--

### 基準3 教育内容

<p>基準3 教育内容</p> <p>&lt;総評&gt;</p> <p>1. 厚労労働省指定カリキュラムに基づく科目 1,850 時間のほか、当該学校法人共通のカリキュラム「GCB (グローバル・シティズン・ベーシック=社会人として必要なマインドを育成する麻生塾独自の科目)」を加えて、計 2,009 時間が設定されている。</p> <p>この2段構えにより、社会人としての基本姿勢を基盤として専門性をもった専門職業人を育成するという組み立て・教育姿勢が法人内他校及び当該校内全学科を通じて共通している。</p> <p>2. 介護福祉士養成カリキュラムにおいては、現場経験の長い専任教員を中心に学生や福祉現場の現状、ニーズを取り入れて毎年カリキュラム体系と内容を見直し、教育内容に柔軟に工夫を加えている。</p> <p>3. GCB 及び介護福祉士養成カリキュラムやその内容に対する姿勢や意図は閲覧した複数の資料に横断的に貫かれており、各教員への聞き取りからも一貫して共有されていることが確認でき、その徹底ぶりは高く評価できる。</p> <p>&lt;評価基準ごとの評価&gt;</p> <p>基準3－(1)【必須】人権や尊厳などの価値に関する授業を行っていますか</p> <p>○「人間の尊厳と自立」「介護の基本」の科目では演習をまじえて基礎知識を教授し、「こころからだのしくみ」「認知症の理解」等の医学系知識に関する科目では疾患や障がいをもった人との向き合い方も併せて教授している。</p> <p>○これらを踏まえて「コミュニケーション技術」「生活支援技術」では介護実践における基本的価値を体現する場として統合すべく各科目が体系付けられており、科目間連携を意識したカリキュラム体系になっている。</p> <p>基準3－(2) 個別の心身状況に沿った介護を行うために、「介護過程」「生活支援技術」などの専門科目においてどのような授業を行っていますか</p> <p>○人間の尊厳などの価値をあらゆる科目の基礎に置き、介護過程、生活支援技術に介護実習をリンクさせた内容で各科目を展開している。</p> <p>介護計画や身体介護等の技術は学生同士の評価、実習指導者からの指導、教員による総合的な指導と重層的かつきめ細やかに行っている。</p>
--

○「生活支援技術」では、社会的動向を踏まえ、多様な障害を学ぶ上で発達障害にも力を入れた内容となっており、年々工夫を加えている。

基準3－(3) 専門職に必要な基礎的教養としての「人間と社会」、介護行為の根拠となる「こころとからだのしくみ」などの授業をどのように行っていますか

○基礎的な科目は1年次に集中させ、施設見学や初期の実習における利用者とのコミュニケーション、観察等により知識の確認、自身の態度として体現できるようカリキュラムを組んでいる。

基準3－(4) さまざまな対象者に応じた個別的なコミュニケーションの方法を習得させるために、どのような授業を行っていますか

○利用者は高齢者以外にも多様な障害を持つ人々であることを理解させるために、近年は障害者施設への見学等に力を入れている。

○コミュニケーション技術は単なる技術の伝授にとどまらず広く「利用者理解」と解釈し、利用者の暮らした時代背景等を調べて展示・発表するなどの取り組みも行っている。

基準3－(5) 認知症のある人に対する介護のための基本的知識・技術を習得させるために、どのような授業を行っていますか

○「人間の尊厳と理解」での学びが各科目に通底する理念となり、「介護の基本」「コミュニケーション技術」と連携しながら、当該科目ではさまざまな事例を取り上げながら認知症のメカニズムや各種症状を学ぶことで、生活の視点からみた認知症の人を理解できるよう工夫されている。

基準3－(6) ターミナルケアに必要な知識・技術を習得させるために、どのような授業を行っていますか

○実習全段階が修了した時期に合わせ、「こころとからだのしくみ」の最終章にこのテーマを取り上げ、理念と実践の統合、まとめの意味も込めて死に向かう人の心身状態の変化に関する知識を学ぶようにしている。

○新聞記事等を活用して当事者だけでなく家族の立場や視点も取り入れたグループワークを行い、学生自身がどのように向き合い知識・技術を提供していくかを考えさせている。

基準3－(7) 医療的ケアに関する専門的な知識・技術を習得させるために、どのような授業を行っていますか

○1年後期の基本研修の講義で、まずDVDを観て実際の手技を視聴し、これから学ぶ医療的ケアがどのようなものか理解させた上で詳細の講義に入り、学生の興味を引き出していることが特徴である。

○「人間の尊厳と理解」での学びが基礎となり、医療的ケアの必要な状態にある人の気持ち、実際にケアを受けた場合の苦痛などを学生が想像しながら講義・演習を進められるよう工夫されている。

基準3 教育内容	
【必須】 3－(1) 人権や尊厳に関する教育をどのように行っていますか。	
評 定	評価ポイント 2
<p>&lt;評価する点&gt;</p> <p>1. 複数科目による人権や尊厳に関する多面的な学びの機会の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当該モデル校では1年前期に『人間の尊厳と自立』で基礎を押さえ、実習等を経て2年次に『介護の基本(総合)』で多くの事例をもとにその意味を実践的に理解させている。</li> <li>・人権や尊厳をさまざまな側面(個別性、個々の生活背景、障害のある人の生活、身体拘束や虐待等)から捉えられるよう『障害の理解』『医療的ケア』『コミュニケーション技術』等の複数科目をまたいで繰り返し考える機会を設けている。</li> </ul> <p>2. 実践における人権や尊厳に関する体験的理解と面接等によるフィードバック</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この理念を実践上で統合し理解・体得するのが「生活支援技術」「介護過程」「介護実習」等であるが、これらは常に学生同士のディスカッション、担当教員と学生の面談等を通じて自己の考えを言語化させ、解釈が浅ければさらに議論して考察を深める等の取組みが徹底されている。</li> <li>・各科目担当教員間のコミュニケーションにより、どの科目でどの程度の理解を目指すか、他科目で触れた項目を自科目でステップアップさせるかといったやり取りが常になされている。このことは専任教員3名からの聞き取り及び在学生・卒業生からの聞き取りでも確認することができた。</li> </ul> <p>&lt;特に優れた点&gt;</p> <p>○科目間連携、教員間連携を通じてテーマや形を変えながら繰り返し教授すること、実践と言語化、ディスカッションを通じて理解を深めること等が徹底されている。</p> <p>成績評価とは別に、どんな学生も自身の現状に応じて段階的に理解・体得していくことができる教育環境にあることが特に高く評価できる。</p> <p>&lt;更なる向上を目指す点&gt; (改善を要する点)</p> <p>○理念については養成施設在学中の到達目標をどこに設定し、どのような尺度で評価するかが困難である。世代や入学背景による人生経験や価値観の違い、卒業後に現場で学び取るべきこと等とのバランスの中で、ある程度の基準を設けられると良い。</p> <p>単一の尺度では難しくとも、ループリック形式で多面的に評価できるようなシステム作りが期待される。</p>	

基準3 教育内容	
【選択】3-(6) ターミナルケアに必要な知識・技術を習得させるために、どのような授業を行っていますか。	
評 定	評価ポイント 3
<p>&lt;評価する点&gt;</p> <p>1. 終末期及び死に関する知識・技術及び倫理・態度を総合的・体系的にカリキュラムに組み入れている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2年前期、すべての実習を終えた「こころとからだのしくみ」の最終章にこのテーマを取り上げ、死に向かう人の心身状態の変化に関する知識を学んでいる。</li> <li>・新聞記事等を活用して当事者だけでなく家族の立場や視点も取り入れたグループワークを行い、学生自身がどのように向き合い、知識・技術を提供していくかを考えさせている（死後の処置(エンゼルケア)の技術は実施していない）。</li> </ul> <p>2. 技術系科目における体験的理解と考察</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「介護実習」「コミュニケーション技術」「生活支援技術」「介護過程」「医療的ケア」など他の科目・実習でもこのテーマに触れ、科目を横断して全人的な理解と適切な態度で接し、技術を提供できるようにしている。</li> </ul> <p>&lt;特に優れた点&gt;</p> <p>○ターミナルケアに限らず他のあらゆるテーマに対しても特徴的な心身状況に対する知識・技術に特化した授業展開というよりも、あらゆるテーマを科目横断的に組み込んでいる。</p> <p>学生が利用者のライフステージの流れに沿って総合的にアセスメントし、介護実践を検討できるようにしている。</p> <p>○授業の内容や進度（ハード面）だけでなく学生の理解度や修得状況についても複数教員が綿密に意思疎通を図り、個々の能力やペースに応じて学修できるようソフト面でも細やかな配慮をしている。</p> <p>&lt;更なる向上を目指す点&gt;（改善を要する点）</p> <p>○エンゼルケアは説明に留めているとのことだが、就職後に生身の利用者に関わった上で学び身につけるべきとの考え方もある。</p> <p>介護福祉士の資質向上義務（自己研鑽義務）、現場のOJTにつなげる基礎的な学びとして養成校学生のレベルをより強固なものにしていくためにも、在学中の到達目標をどこまでとするかを検討し、現行の内容をさらに深め、高めていく工夫が期待される。</p>	

基準3 教育内容	
【選択】3-(7) 医療的ケアに関する専門的な知識・技術を習得させるために、どのような授業を行っていますか。	
評定	評価ポイント 3
<p>&lt;評価する点&gt;</p> <p>1. 手技を導入材料としてその意義や目的を考察し深めていく授業展開</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1年後期の基本研修の講義で、まずDVDを観て実際の手技を視聴し、これから学ぶ医療的ケアがどのようなものか理解させた上で詳細の講義に入り、学生の興味を引き出している。当該科目を見学したが、教員は以前教授した医療機器の名前やその機器が適応する症状を問いかけ、多くの学生が口々に発言し、ある学生は断片的な記憶で発言して教員に正しい知識を確認していた。</li> <li>・正確に身につけるべき知識だからこそ積極的に教員とコミュニケーションを図りながら知識を確かなものにしていく過程の一端を確認できた。</li> </ul> <p>2. 手技と専門職としての態度を一体とした学びの機会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・喀痰吸引について学ぶ際も単なる手技としてだけでなく、多くの場合自分の意思を伝えられない心身状況であること（人間としての尊厳を踏まえた声かけや言語・非言語によるコミュニケーションの重要性）も併せて繰り返し伝えるなど、介護福祉士としての基本的姿勢に根差した教授を心がけているとのことだった。</li> <li>・技術の体得と専門職としての態度を一体のものとして理解できるように授業を進行していることが授業見学での教員と学生とのやり取りから確認できた。</li> </ul> <p>3. 多様な立場・視点からの技術の確認と考察・向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・演習では学生同士で評価し合うが、役割は手技者評、評価者評だけでなく評価者が確実に評価できているかを確認する役割も設定するなど、知識と技術の確認を徹底している。</li> <li>・夏期休暇中には自主演習を行い最終的な評価を教員が行うなど、学生及び学生同士の能動的な学びを中心に据えて確実な知識・技術の修得を図っている。</li> </ul> <p>&lt;特に優れた点&gt;</p> <p>○手技と専門職としての態度を一体とした学びの機会が、設けられている。また、喀痰吸引について学ぶ際も単なる手技としてだけでなく、多くの場合自分の意思を伝えられない心身状況であること（人間としての尊厳を踏まえた声かけや言語・非言語によるコミュニケーションの重要性）も併せて繰り返し伝えるなど、介護福祉士としての基本的姿勢に根差した教授を心がけているとのことだった。技術の体得と専門職としての態度を一体のものとして理解できるように授業を進行していることが授業見学での教員と学生とのやり取りから確認できた。</p> <p>○多様な立場・視点からの技術の確認と考察・向上が認められる。演習では学生同士で評価し合うが、役割は手技者評、評価者評だけでなく評価者が確実に評価できているかを確認する役割も設定するなど、知識と技術の確認を徹底している。このほか夏期休暇中には自主演習を行い最終的な評価を教員が行うなど、学生及び学生同士の能動的な学び</p>	

を中心に据えて確実な知識・技術の修得を図っている。

○知識を一方向的に教授するのではなく、学生の興味を引き出した上で介護福祉士として必要な態度や思考に沿って知識・技術を教授する段階的で細やかな授業展開（医療的ケアに限らずあらゆる科目・テーマにおいてもこのことが通底している）は特に優れた点である。

<更なる向上を目指す点>（改善を要する点）

○介護福祉士の業務の中でも医療的ケアは特に多職種協働が不可欠なものであり、介護福祉士として自らの技術をどう根拠づけて遂行し、連携体制の中でどう発信・説明するかという点も、在学中に教授していくことが望ましい。

○利用者の心身状況は流動的で個別性もあるため、教員自身が新たな知識や技術を常に修得し、日々の授業に取り入れていくことが望ましい。

#### 基準4 教育方法

##### 基準4 教育方法

<総評>

1. 厚生労働省の掲げる「介護福祉士資格取得時の到達目標」11の大項目は全55の小項目に細分化され具体的に記述され、教員と共に学生自身もチェックできるようになっている。
2. このほか『学生要覧』の「教育の目標と学生の心構え」に教育方針、これに基づく各課程の教育目標として学生生活の心構え、各科目の到達目標が記述されている。
3. 学生生活の心構えには「企業人として企業や施設から受け入れられる社会人を目指しましょう」（生活習慣、挨拶、就業規則の遵守、就職試験等）とあり、単に資格取得だけではなく職業人、社会人としての基礎に基づき、その上で高い倫理観と知識・技術をもった専門職を目指すという構造が明確になっている。
4. これらは「麻生塾ルールブック」に記載されているほか、自立した社会人への成長を促す「GCB（グローバル・シティズン・ベーシック＝社会人として必要なマインドを育成する麻生塾独自の科目）」が全学科を通じて実施されている。

<評価基準ごとの評価>

基準4－（1）養成校の卒業時到達目標に沿った知識・技術の修得ができ、学修成果を確認できる体制をどのように作っていますか

○カリキュラムは外部（実習先、就職先を含む）の声を取り入れながら毎年見直し、年内は各科目の進捗を確認しながら調整している。

○学修成果は定期試験以外に小テスト、実技評価（学生同士の相互評価、先輩による評価、教員による総合評価）、レポート等学期中の提出物や成果物等から多面的に行っている。

基準4－（2）養成校の卒業時到達目標を達成するためにどのようなカリキュラムを作り、それをどのように授業で行っていますか



○教育目標を学生生活、各科目、実習等の各場面に具体的に落とし込み、それに沿って教員と学生・保護者が共有しながら総合的に学生自身の内面的成長、社会人及び介護福祉士としての資質修得・向上に向かっており、この姿勢が徹底されていることが各種資料（特に記録物）及び聞き取りから確認できた。

基準4－(3)それぞれの教育科目において、また、教育課程全体として、学生のアクティブラーニングはどのように行われていますか

○講義系科目でもディスカッションを中心としたグループワークによって知識の確認と定着、多様な考え方の学び合い等を行っている。

ワークの成果物を多くの人の目に触れる公共場所に展示し、達成感やさらなる動機づけに役立っている。

○介護福祉士の意義や魅力、基本的な介護技術を小学生に伝える機会を設けるなど、学生が自らの学びや技術を確認してそれをアウトプットすることで、能動的学修に結びつけている。

基準4－(4)関係施設の職員や介護関係（企業を含む）者や市民など、学外関係者との交流などを授業にどのように取り入れていますか。また、実習以外のインターンシップなど、特別の工夫を行っていますか

○施設見学やボランティアなどには特に積極的である。

○実習施設や外部関係者とは日ごろからこまめに情報共有・交換をし、特に実習指導者や就職先には人材育成に関するアンケートを行ったり実習報告会に招いてコメントをいただくなど、積極的に連携を図っている。

学生の現状や声、施設側の声を相互にフィードバックすることで互いの成長・発展につなげている。

基準4－(5)養成校の教育方法の向上を目指すために、特色ある独自の取り組みとして、どのような事を行なっていますか

○当該学校法人独自の「GCB（グローバル・シティズン・ベーシック）」を設けている。教員側も多様な研修を受けたりチューター制度によって自身の教育力を高める機会が設けられている。

○介護福祉士の活躍の場を広く「福祉業界」と理解させるために、高齢者以外の障害分野等、あるいは施設以外で在宅介護にも力を入れ、見学や外部講師の招聘なども行っている。

基準4 教育方法	
【必須】 4－(1) 養成校の卒業時到達目標に沿った知識・技術の修得ができ、学修成果を確認できる体制をどのように作っていますか	
評 定	評価ポイント 3
<p>&lt;評価する点&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 介護福祉科の育成する人材像や教育目標が学生要覧に記載され、入学前・入学時のオリエンテーション時に本人・保護者に説明して周知している。</li> <li>2. 各科目については、半年に一回専任教員がカリキュラム会議を開き、現行カリキュラムの確認を行って各科目の進捗や学生の理解度に沿った調整をしている。</li> <li>3. 学修成果の確認は学期ごとの定期テスト以外に小テストやレポート、実習の評価や振り返りなどにより細かく確認している。</li> <li>4. 知識の確認、技術、専門職としての思考や態度の修得などについてはテストで確認しているほか、それらの本質的理解や実践への応用については教員の目で確認しつつ個別に声をかけたり教員間で相互に確認したりしている。</li> <li>5. 上記のような多角的評価を通して、学生が自己課題に主体的に取り組めるような個別的支援へとつなげている。</li> </ol> <p>&lt;特に優れた点&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○介護福祉士国家資格取得だけでなく、その基本となる社会人・企業人として守るべきルール、身につけるべきスキルを具体的に定めている。教員側からの一方的な指導でなく学生自身が主体的に習得することを教員だけでなく職員一丸となってサポートしている姿勢が、聞き取りのさまざまな発言、構内見学時に見えた教職員と学生の面談風景等から確認できた。</li> <li>○目標を学生生活、各科目、実習等の各場面に具体的に落とし込み、それに沿って教員と学生・保護者が共有しながら総合的に学生自身の内面的成長、社会人及び介護福祉士としての資質修得・向上に向かっているという印象を受けた。</li> <li>○授業見学時には、学生の自由な発言を促しながら理解度を確認し、クラス全体の集団力動を活用しながら各自のレベルに沿った指導を行っていた。学んだ知識を確実なものにするための仕掛け（先述の小学生への指導など）も細やかにされていた。</li> <li>○どの学校でも行っていることではあるが、聞き取りの際の一言一言が具体的で教員間で共通認識をもって発言されており、教育目標が形骸化せず着実に具体化・個別化していることが確認できた。</li> </ul> <p>&lt;更なる向上を目指す点&gt;（改善を要する点）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○教員との面談では「学生のレベルや各学年・クラスの雰囲気にはバラつきがあり、上記のような取組みが必ずしもうまくいっているわけではない」とのことである。 近年は学力低下や基本的な生活習慣の身につけていない学生、不本意入学の学生などモチベーションにも個人差がある。 社会人学生が現役学生の良い刺激になる場合もあるが反対の場合もあり、授業の雰囲気作り、個々の学生への個別指導の内容やこれにかかる時間のバランス等に苦慮してい</li> </ul>	

る。どの学校にも共通する課題ではあるが、当該モデル校でも学生の入学背景や入学動機  
 の多様化に伴うより決め細やかな対応が求められる。

基準4 教育内容

【選択】 4－(2) 養成校の卒業時到達目標を達成するためにどのようなカリキュラムを  
 作り、それをどのように授業で行っていますか。

評 定

評価ポイント 3

<評価する点>

1. 福祉現場の声を取り入れたカリキュラムや授業内容の見直し
  - ・教育課程編成委員会に福祉現場の職員の声を取り入れ、学生の現状だけでなく将来現場で求められる人材像を確認しながら各教科の内容や進め方を検討している。
  - ・たとえば入浴介助では現在大型の機械浴槽よりも家庭浴（個浴）が主流となっていること、入所施設でも在宅復帰を意識して日々の介護に当たっていることなどを「生活支援技術」に取り入れているとのことである。
2. 「指導」する場を通じた学びの成果の確認と自己課題発見の機会
  - ・「生活支援技術」で学んだことを活用して、2年次に地域貢献イベントで小学生に車椅子の操作指導を行う場を設け、小グループでチームを組んで実際に指導に当たっている。
  - ・学生は、自己の知識や技術が確実なものになっているかを振り返り、グループメンバーを確認し合いながら面白みのあるわかりやすい指導を企画することで、学習内容をより実践的なものにする機会となっている。このことは社会福祉士及び介護福祉士法における介護福祉士の業務規定のうち「家族等への指導」の能力を高める基礎となる。
  - ・さらに「資格を取るってこういうことなんだ」と責任の重さや自己課題を実感して資質向上に努めたり、「やればできるんだ」と自信を持てたりする機会になっている。このことは、現場職員をゲストに招いての授業、高齢以外も対象にした幅広い分野の施設・事業所見学等にも言えることである。
3. 学びの成果を見える化してモチベーション向上に役立っている
  - ・演習授業の写真やその時の成果物を展示して学生の達成感やモチベーションを向上させる「しかけ」をそこかしこで確認することができた。
  - ・単なる教員からの一方的な指導でなく、教育目標の達成度や理解度に沿って個々の学生が「できていること・不十分なこと」を自覚し、自己の成長のために教員に気軽に相談するきっかけにもなっていると思われる。
4. 海外研修（準備、成果のフィードバック、非参加学生との共有）
  - ・希望する学生を対象に海外研修旅行を実施しており、ある年にはハワイを訪れ、現地の老人ホームで利用者との交流会で学生企画の出し物を披露したという。
  - ・「世界の人々の生きがいをデザインする」という学校法人全体の経営理念をもとに、言語・非言語を通じた多様なコミュニケーションのあり方を学ぶきっかけになっているほ

か、経済的な事情等で参加できなかった学生も一緒に準備やフィードバックに参加し、体験を共有できるよう配慮した仕組みを整えている。

5. 教員間の情報共有

・教員間・科目間の進捗やその調整については、相互の科目や進捗を共通フォルダで保管し、いつでも確認できるようにしてある。

6. 頻回の面接を通じた学生の自己目標及びその成果の確認

・教育目標・到達目標と自らの到達度や現状・今後の課題を学生自身が自覚することも大切である。実習を単体で考えずに学内授業の統合化ととらえ、実習各段階終了時に「振り返りシート」などを用いて面接しながら教育目標の到達度や現状・課題などを自覚できるようにしている

・このほか、介護実習第Ⅲ段階終了時に「介護福祉士資格取得時の到達目標」11項目を自己評価してどの程度到達したかを確認し、卒業までの半年間で身につけるべき知識・技術やその習得に向けた取組みを自覚できるようにしている。

<特に優れた点>

○到達目標、教育目標がカリキュラム体系に具体的に落とし込まれ、それが着実に実践されているだけでなく、教職員チームあるいは教職員一人ひとりの意識にまで浸透し、学校全体で個々の学生の成長をサポートする体制が確立していることを確認できた。

○講義・演習・実習あるいは日々の学生生活は明確にそれらを区別できるものではなく、それらが相互に影響を与え合って教育効果が現れるものであることを鑑みるに、理想的な形で教育実践されていると高く評価することができる。

<更なる向上を目指す点> (改善を要する点)

○教育内容・方法の工夫や随時の見直し、課題を抱える学生に対する個別指導を中心に教員にかかる負担は年々増しているとのことであり、それは校長代行や法人でも認識している。学生にとってのより良い教育環境と教員にとって適切な労働環境の均衡を図ることは大きな課題であり、その改善・向上に向けて今後も継続した取組みが期待される。

基準4 教育内容

【選択】4-(5) 養成校の教育方法の向上を目指すために、特色ある独自の取組みとして、どのようなことを行っていますか。

評 定

評価ポイント 3

<評価する点>

1. グローバル・シティズン・ベーシックを基盤とした社会人基礎力に根差した専門職養成、自立した社会人への成長を促す「GCB (グローバル・シティズン・ベーシック＝社会人として必要なマインドを育成する麻生塾独自の科目)」が全学科を通じて徹底され、これとともに介護福祉士資格取得時の到達目標や教育目標が掲げられることで、社会人・職業人・国家資格を持つ専門職としての体系を整え、授業や学生生活上の指導を行っている。

## 2. 自己のキャリアビジョンを踏まえた現場の理解

学生が目先の介護技術や知識の習得にとらわれることなく、専門職としてのやりがいを感じ、介護だけでなく広く「福祉業界」の現状を理解したうえで将来のキャリア形成を描けるよう、多様な福祉施設の見学や管理職、主任クラスの方の講話等を体験し、幅広い活躍の場があることを認識しながら日々学べるようにしている。

このような取組みは就職を意識する前の1年生の早い時期から継続的に行っており、これにより学生自身が主体的に就職を含めた長期的な将来ビジョンを描くことができるようになってきている。

## 3. 面接、アンケート等を通じて学校・現場・学生間の実態を教育に取り入れる仕組み

これらは教職員の価値観だけで行っているのではなく、適宜アンケート等で学生や福祉現場の声を聞き、学生の現状や意向を踏まえてカリキュラム会議や教務会議で検討して行っているとのことである。

<特に優れた点>

- 単に資格を取得するだけでなく、自立した社会人、職業人となる準備教育と介護福祉士になるための専門教育が車の両輪のように連動しながらカリキュラムが組まれている。
- この姿勢はどの教職員に尋ねても一貫して同じ返答が返ってきたことから、教職員が共通認識をもち一丸となって授業や日々の学生指導に当たっていることを裏づけていた。

<更なる向上を目指す点> (改善を要する点)

- すべての学生に教育効果が現れるわけではなく、不本意な入学や失敗体験などを背景に、受身的な姿勢が改善されない学生もいるとのことである。今後も多様な背景や資質をもった学生が入学してくることが予想されるため、現状の体制や教育姿勢を維持向上させつつ、さらなる工夫や仕掛けが期待される。

。

## 基準5 教員の資質向上

### 基準5 教員の資質向上

<総評>

1. 学校法人麻生塾は、「顧客は誰か」との問いに対して、「顧客は学生を採用する福祉施設・事業所・企業である」との基本的な視点から、教職員は学生が資格を取得するだけではなく顧客が求めるプロとして役立つ介護福祉士に育つよう、介護福祉教育の高度な知識・教育内容・方法・指導力を身につけなければならない、とされている。

※「顧客は福祉施設・事業所・企業」との意味は、顧客のニーズ即ち福祉施設経営者のニーズではなく、福祉施設のご利用者である高齢者、障害のある人の生活ニーズ、支援ニーズであると考えられる。

<評価基準ごとの評価>

基準5－(1) 教員の外部研修・学会参加の機会をどのようにサポートしていますか

○「目標管理」のシステムとして、年度末には来年度へ向けての個別面談が行われる。その機会に教員は、自身の目標、挑戦課題を述べるとともに、外部研修等の受講希望を申し出る一方、管理者からは、教員への期待、要望が述べられ、合意が形成される。

○各教員と管理者の面談の結果、全体の年度教職員研修計画が策定され、計画がただちに実施可能な内容となっている。

こうした一貫した「目標管理」のシステムの運用は、高く評価できる。

基準5－(2) 教員の担当・適性に応じた授業技術向上をどのようにサポートしていますか

○定期的に学生による授業評価を行い、その評価結果をもとに、必要によっては、他の教員による「授業観察」とアドバイス、麻生塾研修プログラム「授業力向上研修」を受講し、ただちに授業改善につなげる努力行われるよう取り組まれており、成果が認められる。

基準5－(3) 各教員のクラス運営・学生指導のスキル・質の向上をどのようにサポートしていますか

○クラス運営は、学年ごとのクラス担任制をとっている。副担任としてフリーで各学年に関わる教員を配置している。学生を複数の視点から見るができる。

○さらに、学校行事、実習、補講、面談、保護者連絡等で学生の状況を把握した場合、状況を把握した教員が、学生別の個票「ガイダンス記録」に記述し、担任以外の教員とウェブ上で情報共有する仕組みを確立している。効果的に実施されており、高く評価できる。

基準5－(4) 教員の資質向上のために相互にサポートするチーム体制をどのように作っていますか

○外部研修、とくに日本介護福祉士養成施設協会主催のブロック研修会、全国教員研修会は重要な研修であるとの認識から、年間の研修計画に織り込んで、毎年教員が研修に参加している。

○次年度のカリキュラムを検討する「カリキュラム会議」を開催し、各科目の内容や前年度の卒業時共通模試の結果等を踏まえて、担当科目の内容を見直し改善が進んでおり、評価できる。

基準5－(5) 各教員の資質やその向上の課題をどのように把握していますか

○各教科の学生の理解度は、授業アンケートにより把握している。

○さらに、法人の「新入材マネジメント」の実施として「目標管理」が運用され、教員個々の状況が把握されている。

○各教員の目標シートによる達成度の把握、次年度の挑戦課題に関する上司面談を通じて、客観性をもった状況把握がされており、評価できる。

基準5－(6) 教員の資質向上のために、特色ある独自の、どのような取り組みを行っていますか

○学校法人麻生塾として、「教員養成研修プログラム」(階層別研修)を導入している。麻生専門学校グループのスケールメリットを活かした研修体系であるとともに、法人が教職員の人材育成の責務を負っていることを明確にしたものであり、たいへん優れたものである。

残された課題としては、法人としての非常勤教員の資質向上策の検討が望まれる。

基準5 教員の資質向上	
【必須】 5- (1) 教員の外部研修・学会参加の機会をどのように確保していますか	
評 定	評価ポイント 3
<p>&lt;評価する点&gt;</p> <p>1. 基本的な考え方、方針が文書により明確にされ、教職員に周知されており、評価できる。  「学校法人麻生塾教職員研修規程」において、学校法人麻生塾は、各教職員が現在の職務および将来予測される職務に関する知識技能を修得するために、研修に関する計画を立案し、その実施に努める、とされており、研修受講までの手順、「年間計画」の策定、予算の確保等が明確にされている。</p> <p>2. 「どのように」に関し、次の研修の受講機会の確保策が講じられており、高く評価できる。  ①教職員は、「目標管理」活動の一環として、上司（校長代行）との面談を通じて、年度の目標、挑戦課題、受講したい研修、学会参加等の希望を述べる機会がある。上司は、各教員の目標、自己研鑽の課題等を提示し合意を得るよう努めている。  ②研修参加時の体制保障として、研修参加による教員不在時に、学校・学科運営、学生指導等に支障が生じないよう、毎月の全体会議、教職員朝礼等で情報共有し、他の教員のサポート体制をとっている。  ③公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会主催の研修として、日本介護福祉士養成施設協会主催のブロック研修会、全国教員研修会への参加を重視し、「年間研修計画」に盛り込んでいる。  ④研修・学会終了後は、週1回開催される教務会議において、研修内容等が報告されている。</p> <p>3. 参加機会の確保方策の実施の効果として、次の事柄が認められ、高く評価できる。  教員の自発的な研修参加の要望が尊重され、上司からは期待される研修受講の希望が示される等、相互に意見交換しながら「年間研修計画」が作成されており、研修参加が教職員の重要な職務であることが自覚され、研修効果も上がりやすいと考えられる。</p> <p>&lt;特に優れた点&gt;</p> <p>○学校法人麻生塾は、「顧客は福祉施設・事業所・企業等」とし、そのニーズに応えたプロの介護福祉士を養成していく使命を内外に明示している。教職員の資質向上は法人の重要な責務であるとの基本認識を明確にし、「教職員研修規程」を定めていること。  ○教職員は、この使命を自覚し、自己研鑽の重要性を共通認識としていること。  ○個々の教職員は、「目標管理」活動として、今年度の目標を立て、挑戦課題を明らかにして上司面談に臨んでいる。面談の場で、自己研鑽の目標や計画、研修受講等の希望を述べ、上司との合意により研修が受講でき、主体的な研修への取り組みがなされていること。</p> <p>&lt;更なる向上を目指す点&gt;（改善を要する点）</p> <p>○法人内研修が基本であり、外部研修受講はその上乘せと考ええると、法人内研修が地域社会、および「顧客」のニーズである“社会性、専門性を持ったプロを育成していく教職員の指導力強化”への期待に対応し、一層の充実が期待される。麻生専門学校グループのスケー</p>	

ルメリットを活かして、顧客である現場の福祉施設等と連携した専門研修の実施等が望まれる。

基準5 教員の資質向上

【選択1】 5-(3) 各教員の担当・適性に応じたクラス運営、学生指導のスキル・質向上を、どのようにサポートしていますか

評 定	評価ポイント 3
-----	----------

<評価する点>

1. クラス運営、学生指導の基本的な考え方、方策は次の通りである。
  - ①学年ごとにクラス担任を配置するとともに、副担任としてフリーの教員を配置し、担任だけに負担が偏らないよう配慮されている。担任以外の教職員全員が役割分担して、授業、実習等の中でも指導に当たっている。
  - ②学生指導の内容、学生の日々の状況等を学生ごとの個票「ガイダンス記録表」に記述し、教員間の情報共有を図っている点は、特に優れた取り組みであると評価できる。
2. クラス運営、学生指導として、次の実施方針・実施内容であり、その効果が認められる。
  - ①教員による学生指導の体制は、クラス担任、副担任が中心となり、他の教員も、学校行事、実習、学生・保護者面談、保護者連絡等を分担しており、評価できる。
  - ②学生・保護者との三者面談をタイミングよく定期開催しており、評価できる。
 

【1年生】6月：実習前、8月：前期成績結果、10月：実習前、3月：後期試験結果

【2年生】6月：就職活動に向けて
  - ③「ガイダンス記録票」を作成し、クラス担任、副担任、教科目担当、実習担当、就職指導等担当教員それぞれが、各学生と面談した時に必ず面談結果を記録し、パソコン・データによって情報を共有しており、高く評価できる。
  - ④補講が必要な学生への支援として、「入学試験」の成績、入学直後に実施する「学力試験」の結果に基づいて、例えば日本語力が十分でなく「国語補講」が必要な学生には、小学校1年生から6年生の漢字の習得、文章表現の補講等が実施されている。その結果も教職員の間で共有しており、評価できる。
  - ⑤実習前、就職活動前の面談に力を入れている。専門職を目指して学ぶ学生(実習生)が、社会との関わりをもつに先だって、準備の面接を何度も積み重ね、「合格」しないと実習に行けない、同様の主旨で就職活動の開始に当たっても面接を重視しており、評価できる。

<特に優れた点>

- 個々の学生に対する日常のクラス指導、学校行事、実習指導等の状況把握「ガイダンス記録票」の記述と情報共有は、大変な努力を要するものであり、優れた取り組みである。
- 学生が、社会人、専門職として成長していく目標に対応した個別面接、保護者面談が計画的に取り組みされており、教職員間、保護者等との間の情報共有が徹底されていた。



<更なる向上を目指す点> (改善を要する点)

○学生に対する個別指導に全力で取り組む教職員は、恒常的な業務過重となっていると思われる。教員体制整備（非常勤教員との連携等）や上司による業務分担へのいっそうの配慮が望まれる。

○法人として、多様化している学生の現状を踏まえた教員の指導力の質向上のための研修等の方策※の強化が望まれる。（※例：「麻生塾スキルマップ」の④「教育力」の充実）

#### 基準5 教員の資質向上

【選択2】 5－(6) 教員の資質向上のために、特色ある独自の取り組みとして、どのようなことを行っていますか

評 定	評価ポイント 3
-----	----------

<評価する点>

1. 法人として教職員の資質向上の基本方針、実施計画が策定され教職員に提示されている。学校法人麻生塾として、教職員全員に関する「麻生塾スキルマップ」（新任・中堅・管理職）を設定し、階層別の研修プログラム「教員養成研修プログラム」が実施され、教員、職員は自分の階層に該当する必須科目を3カ年で受講していく。新たな研修制度は、平成28年度から実施している。法人によるこの取り組みは、高く評価できる。

2. 法人独自の取り組みである「教員養成研修プログラム」を受講しやすい環境の整備として、「スキルアップデイ」と称する研修日を事前に設定し、計画的な取り組みがされており、評価できる。

3. 新任教員に対するチューター制による支援が実施されており、優れた取り組みである。介護福祉学科では、平成27年度に新規採用された新任教員に対して、ベテラン教員がチューターとして支援に取り組んできた。チューターは、週1回、「状況報告書」により、新任教員の状況確認を行い、上司(校長代行)に随時状況報告を行う。「状況報告書」には、本人が記載するチェック欄が設けられている。「仕事に関する情報を得る機会がある」「自分の能力が活かされている」「職場で意見を言える機会がある」「身体的な負担、精神的な負担を感じる」など、該当する状況を記載することとされている。

取り組まれた支援内容は、教材の準備、担当科目のシラバス上での教育目標、教育内容に関する他の科目との調整、授業展開、授業参観後のアドバイス等である。

4. 実施後の効果測定として、当該教員は、支援を得ながら初めて担当する教科、初めて接する学生の状況にあわせた授業展開を1年間積み上げることができた。その結果、介護福祉学科の専任教員の中のよいチームワークを形成できたものと評価できる。

<特に優れた点>

○法人は、教職員に求められるスキルの水準、レベル設定を行い、「教員養成研修プログラム」が実施されていた。目標を示すことで、教職員の自主的な自己研鑽の努力が行われていた。

○介護福祉学科の教職員は、その法人の基本的な考え方に沿って、福祉施設・事業所(の利用者である高齢者・障害のある人等)のニーズに応えることができるプロの介護福祉士を養成していく責務を自覚して、高い意欲、こだわりを持った教育実践を行っていることが認められた。なによりも、専任教員のチームとしての組織性が高いことが、特色である。

<更なる向上を目指す点> (改善を要する点)

○教職員の業務の繁忙、業務過重の中で、教員のスキルアップへの支援の取り組みは、個別性への配慮が必要である。経験・実績に応じてどのようなスキルアップの課題、必要性があるのかを焦点化・重点化して、集中した研修受講ができる体制の確保が期待される。

○法人としての「教員養成研修プログラム」の実施は、平成28年度が初年度であり、3か年の受講状況等の推移をみて、受講の動機づけとしての「人事考課」との関連性、さらなる受講しやすい環境の整備、研修成果と課題を把握し分析するなどの努力が期待される。

## 基準6 やりがい・キャリア形成等を醸成する教育学校運営

### 基準6 やりがい・キャリア形成等を醸成する教育学校運営

<総 評>

1. 学校法人麻生塾として、GCB(※6-(4)で詳述)の教育により、社会人としての基礎となる価値、態度、社会生活スキル、マナー等を育成している。
2. さらに、介護福祉学科の教職員の強い信念は、卒業までに「プロとして社会で役割が果たせる介護福祉士」「科学的根拠(エビデンス)を考え生活支援ができる専門職」を養成する教育を実践しており、こうした在学中からの強い結びつきが、卒業後のやりがい、キャリア形成を醸成しているものと評価できる。

<評価基準ごとの評価>

基準6-(1) キャリア形成の仕組みを理解させるため、どのような取り組みをしていますか

○介護福祉士資格を取得した後に、どのようにキャリアを付けていくのか、より良くイメージできるように、介護現場の施設長や卒業生などから講話を聴く機会を設けている。

○その後の実習を通じて、こうした講話と現実とのギャップ等を理解し、専門職としての役割等を体得していくうえでは、意義がある取り組みであると評価できる。

基準6-(2) 介護福祉士として働く意欲や職業倫理・社会的使命を理解するための個別面談をどのように行っていますか

○実習に行く前の面談に力を注いでいる。実習目標を明確にできない学生に対して、「ご利用者の生活を理解する」(どこを、どのように着目するか)、「実際にできるようになる」(何を、いつ、どのように)など、噛み砕いて再面接に至ることが多いという。

○面接でなお課題が残る学生に関しては、よく事情を理解している実習指導者、卒業生等に個別の依頼を行う等、きめの細かい指導、配慮を行っており、たいへん優れた取り組みであると評価できる。

基準6-(3) 就職への自覚や意欲を持たせる指導をどのように行っていますか

○入学前から卒業まで一貫して、専門職として働くことを意識した指導を行っている。進路、就職に関して保護者を交えた合意の機会を早くから設けている。入学後は、1年生の実習前に保護者との三者面談など、早期からの取り組みが行われており、良い効果を挙げている。

○学生の自覚や意欲、動機づけは、1年次の施設見学(障害福祉施設、高齢者地域総合施設等)、実習指導の中でも意図して取り組んでいる。2年次6月、就職部門の職員による「就職前面接」を受けている。改めて就職活動を行う上での意欲や決意を固めるうえで効果的である。

基準6－(4) 介護福祉を担う専門職の土台となる、社会人としての教養・一般常識・マナーなどを、どのように教授していますか

○麻生塾独自のカリキュラム「GCB」を教員が一丸となって取り組んでおり、学生は、社会人としての教養、マナー、貢献・使命観等を身につけることができ、優れた教育実践であると評価できる。

○さらに、2年次の「実技試験」では、卒業生が利用者モデル、アドバイザー役となり、介護技術の根底にはコミュニケーション、声かけが重要であること等を学んでおり、優れた教育実践であると評価できる。

基準6－(5) 介護福祉士のやりがい、キャリア形成を醸成する教育のために、特色ある独自の取り組みとして、どのようなことを行っていますか

○オープンキャンパスでの学科説明や入学前オリエンテーションなど、早い時期から、学生だけでなく保護者も含めて、専門職を目指して学び、働きながらさらに学び続ける必要性について伝えている。

基準6 やりがい・キャリア形成等を醸成する教育

【必須】6－(1) キャリア形成の仕組みを理解させるため、在学中から、どのような取り組みをしていますか

評 定	評価ポイント 2
-----	----------

<評価する点>

1. 介護現場の施設長、卒業生から学ぶ場を設定しており、良い取り組みであると評価できる。介護福祉士資格取得の後に専門職としてどのような役割を果たし、そのためにどのように成長していくのかイメージを明確にするために、介護現場の施設長、卒業生などの「講話」を聴き、学生自身がキャリア形成を考える機会を設定している。

2. 実施方針に基づいた次の取り組みを行っており、標準的な取り組みであると評価できる。

①福祉施設の見学の実施

1年次後半の学習として、障害者施設と高齢者複合施設の見学を実施。介護＝高齢者、という概念を取り払うことができ、福祉の仕事の全体像を理解できる。介護福祉士とご利用者との関わりを通じて介護福祉士の仕事を理解する。

②施設長、卒業生の「講話」を聴く機会では、施設長等に講話を依頼する段階から、ねらいを明確にしている。施設長自身、一職員として福祉の仕事に従事し始めてから管理者になるまで、どのようなやりがいを持ち、どのような方法でキャリアを積んできたのか。講話を聴いた後の振返りで、学生一人ひとりが「施設長への質問」を書きFAX送信し、後日、施設長からていねいな返事、回答が届けられた。

3. 取り組み後の学生の成長、「自分ができる貢献」を考える機会となっており、評価できる。

①施設見学、②施設長等の講話を聴く機会は、年々、積み上げられてきている。教科としての現場実習教育とは異なる成果がみられる。現場実習の場合は「自分のできないことを指導される」が、施設見学等はボランティア活動であり、「自分ができること」に気づき、自分が発揮できる力に気づくことができたなど、独自の教育効果を挙げることができたものと評価できる。

<特に優れた点>

○施設見学、ボランティア体験活動は、介護現場に足を運び、ご利用者と生活を共にすることによって、はじめてご利用者の生活ニーズ、高齢者や障害のある人が持っている生活力、職員の支援内容、介護福祉士が果たしている役割、施設長の生き方や思いを客観的に直に肌で感じることができ、優れた取り組みである。

<更なる向上を目指す点> (改善を要する点)

○回数を重ねている卒業生による「介護福祉士が果たしている役割」の講話を聴く、ボランティア体験活動をするその時期とタイミング、方法、これら以外の学生指導の在り方、教科や実習などの達成課題との関連等、これまでの取り組みの効果測定とその改善が期待される。

○学生のキャリア形成は、介護福祉に関する専門の学習が進み、実習等を経て変化・成長していくが、その変化に対応し、GCBの教育と関連させ、「私のキャリアプラン」等を描くなど独自の指導方法を開発していくことが望まれる。

基準6 やりがい・キャリア形成等を醸成する教育

【選択1】6-(3) 就職への自覚や意欲を持たせる指導をどのように行っていますか

評 定	評価ポイント 2
-----	----------

<評価する点>

1. 基本的な考え方として介護現場等(顧客)が求めるプロの介護福祉士を養成し現場に送り出す重責を自覚し、学生への個別指導・支援を徹底している点は、高く評価できる。

入学前のオリエンテーションから卒業まで、一貫して、顧客である福祉施設や事業所・企業等(のご利用者)が求めるプロ、専門職として育てていくことを意識し、教科、施設見学、実習、適宜に実施される保護者面談に取り組んでいる。

2. 具体的な取り組みとしては、次のとおりであり、基準からみて標準的な取り組みである。

①施設見学・・・前述(6-(1))のとおり。高齢者分野だけでなく障害福祉分野で、卒業生が活躍している姿を知り、専門職としての自己の将来像、就職後の多様な進路を考えることができる。

②就職担当部による就職支援

1年次の3月から、就職部による就職研修、マナー研修等を受講する。

2年次の6月、就職担当部は「合格基準」を設定し、職員による「就職個人面談」を実施している。面談に合格しないと、「求人票」の閲覧や学校紹介の就職活動に入ることができないこととされている。

3. 取り組みの結果、良い効果、成果が挙げられていると評価できる。

①施設見学、ボランティア体験活動では、学生（社会人－ハローワークからの委託訓練生－を含む）は、はじめて障害者支援施設や高齢者複合施設を見学し、ご利用者と交流し、その生活を理解できる。介護福祉士の役割、就職先をイメージするうえで効果的である。

②就職担当部の職員による厳しい個人面接指導

2年次の冒頭に、社会への入り口に立って、個人指導を受けることによって、それまで曖昧であった就職への意欲、専門職として働くための基本姿勢を見直す機会となる。だれもが避けて通れない「ハードル」が設定されていることは有効であり、評価できる。

③卒業生に対するインタビューの中で、福祉施設や事業所から「麻生塾の卒業生ですか。麻生塾は指導が厳しいだけにしっかりしていますね」と評判になっているとの話が聞かれた。

<特に優れた点>

○就職に向けての指導、支援に関しても、就職担当部門の職員のプロの目から見た「個別面談」を実施する等、しっかりした指導体制が確立している。卒業後、専門職として福祉施設、事業所等で働く基本姿勢ができていない場合には、その「甘さ」を是正して自分と厳しく向き合うよう支援している点は、優れた就職指導であるといえる。

<更なる向上を目指す点>（改善を要する点）

○「自己評価報告書」によると、社会人（ハローワークからの委託訓練生）のなかには、将来の専門職としての仕事イメージが描けないために、就職活動に熱が入らない学生もいるとの課題が挙げられている。社会人経験が活かされるよう、個別支援が期待される。

基準6 やりがい・キャリア形成等を醸成する教育

【選択2】6－（4）介護福祉専門職の土台となる社会人としての教養・一般常識、マナー等どのように伝えていますか。

評 定	評価ポイント 3
-----	----------

<評価する点>

1. 専門職としての価値観、社会人としての教養、マナー等を学ぶ機会として、学校法人麻生塾独自の教育プログラム「GCBプログラム」(※)が実践されており、高く評価できる。

※ GCB(グローバル・シティズン・ベーシック)

「学校生活の中で、専門力だけではなく、その専門力を最大限に発揮するための継続的かつ多角的にマナーの重要性や協働精神、また相乗効果を生み出す組織力を身につけていくこと」を目的としている。テーマは、GCB I「感謝と

思いやり」、GCBⅡ「志を立てる」、GCBⅢ「貢献志向」。平成23年度から実施されている。(自己評価報告書8頁参照)

2. 一つの教科目としてGCBⅠ、Ⅱ、Ⅲの順を追って実施しており、優れた実践である。

クラス担当の専任教員が、社会人としてのあり方に関するエピソード、大切な言葉、フレーズ等を教授し、専門職員がもつべきマナー、あるべき姿を指摘している。GCBⅠの実践として、学内にマナー委員会が設置され、玄関前でのあいさつ運動が実施されている。

3. GCB実施後の学生の反応、効果

在学生(社会人を含む)、および卒業生への聴き取り調査の結果、「先生がしっかり言ってくれるので、改めて自分の態度について考えるきっかけになった」「先生がこんなに真剣にやっているのは見たことがない」といった評価する声の半面、「先生は青くさいセリフをいう(分かり切ったことをいう、の意味)」「素直に聴くことができなかった」等、学生の反応は分かれた。専門職として社会人として職務に就き、使命を果たしていくときに、対人理解、実践理念など、その意義がより明確になっていくのではないかと推測される。

4. 卒業生(介護福祉士として勤続5年以上)が参加した「実技試験モデル」の実施の効果

「実技試験」を受けた後、卒業生が評価、アドバイスをする取り組みが実施されている。アドバイスのポイントは、適切な生活支援技術が使えているか、言葉かけは適切であるか、目線、笑顔など表情の豊かさはどうか、介護を受けての印象(支援を受ける利用者の視点)等である。学生は自分の介護に関する知識、実技等の状態、傾向を知ることができる。

5. 卒業生は、「実技試験」実施後、アンケートに答えている。

アンケートの質問内容は、「試験に臨む学生の姿勢」「気になった援助場面(危険な介護行為等)」「コミュニケーション(相手に与える印象)」等である。その回答が試験後学生にフィードバックされ、学生はさらに深く学ぶことができることから、優れた取り組みと評価できる。

<特に優れた点>

○GCBⅠ、Ⅱ、Ⅲの学習の主体は学生である。学生が自らの使命を明確にできるよう、プロセスを踏んだ学習内容が編成され、専門性に関連させた教材、教授内容、方法が工夫されており、優れた取り組みである。

<更なる向上を目指す点> (改善を要する点)

○「自己評価報告書」では、高校卒業生、社会人等社会経験の違いによってGCBの受けとめ方も異なり、クラスの中で反感を示す学生がいると真剣に学びたい学生にとってマイナスとなる、と指摘されている。GCBの授業に加えて、その後の個別指導が期待される。

## 基準7 実習

### 基準7 実習

#### <総評>

1. 介護や看護の長い現場経験をもつ専任教員だけでなく法人内研修を受けた経験豊富な就職担当職員も合わせて卒業生を中心とした現場との太いパイプをもった学校であり、実習においても各施設・事業所の特色と学生の資質がマッチするように配属先を調整・決定している。
2. 実習の各段階を個別に捉えず、成功体験や失敗体験を踏まえて学生自身が自らの現状を自覚して主体的に改善・向上していくことを重視して実習前・中・後の指導を行っている。
3. 特に当該校では実習を単に学校教育の一環として捉えず、施設・事業所とともに人材を育成するという共通認識をもち、対等な立場で連携体制を形成していること（実習指導者が単に学校から委託された指導者にとどまらず、学校と連携しながら現場に求められる人材を育成する姿勢を持っていること）が、実習に関する打ち合わせ事項、実習指導者による個別指導の報告書、実習報告会聴講に関するアンケート、介護人材（育成・確保）に関するアンケート結果報告等の各種資料から確認できた。

#### <評価基準ごとの評価>

基準7－（1）実習に向けての事前準備と実習後のフィードバックをどのように行っていますか

- 3名の専任教員は介護や看護の長い現場経験を持ち、現場に求められるスキルや資質を熟知していることから、実習前・中・後を通して個々の学生の現状に応じたこまやかな指導を行っている。
- 実習を各科目での学びを統合しての実践の機会として捉えており、教員間の情報交換、保護者をまじえた面談等を積み重ね、学生自身が自らの課題に気づいてモチベーションを高め、その克服や成長に向き合えるようにしている。

基準7－（2）実習巡回時に実習指導者と十分なカンファレンスの時間を取るために、どのような働きかけをしていますか

- 事前に学生の学習状況、課題等を実習指導者と共有している。その際、必要に応じて前回の実習の評価表や学生のレポート等も持参して指導を要する箇所や指導方法を共有している。このことによって指導者も個々の学生の性質や課題に応じたきめ細やかな指導が可能となっている。例えばレポート等を確認してもらうことにより、特に苦手とする学生の多い記録の指導に役立つ。

基準7－（3）本人の適性に基づいた実習が行えるようにするためにどのような体制をとっていますか

- 入学時より学生及び保護者との三者面談を行うほか、学生の状況及び学校の教育方針（実習を含む）を保護者に伝えて情報共有することで、学校側の一方的な指導や実習配属とならないよう配慮している（日ごろの信頼関係を基盤として実習指導にもあたっている）

<p>○実際の配属は、個々の適性と指導体制がマッチングできる施設への配属、また、円滑な実習が行えるよう施設へ事前に学生状況を伝えていることで、施設側も個々の学生の状況に応じた指導を行えている。</p> <p>基準7-(4) 施設や居宅など多様な暮らしの特性を学ばせるためにどのような実習体制をとっていますか</p> <p>○高齢者施設以外に、障害者、複合施設の見学実習を行い「入所、通所、居宅、就労支援」を学ぶ機会を設けている。</p> <p>○施設清掃ボランティアを実施し、清掃活動を通して利用者の生活を理解することにつなげている。</p> <p>基準7-(5) 実習先の実習指導者との連絡調整会や研究会などをどのような方法、頻度で実施していますか</p> <p>○年1回、2年次4月の実習報告会は施設指導者にも出席している。学生及び指導者の感想を相互にフィードバックすることで、学生の学びの共有及び施設指導者自身が実習指導のあり方を見直す機会となっている。</p> <p>基準7-(6) 実習先との連携のために、特色ある独自の取組みとしてどのようなことを行なっていますか</p> <p>○平成27年度に実習配属施設に対して「介護人材育成・確保に関するアンケート」を行い、福祉現場で求められるスキル、資格取得の必要性、職員のスキルアップへの取り組み、雇用条件等、現場での状況を確認している。これを学校全体で共有したうえで学生にもフィードバックし、実習指導や将来のキャリア形成に関する指導等に幅広く活用している。</p> <p>○このことから、当該校が実習を単なる介護福祉士養成カリキュラムの一環としてだけでなく、現場に求められる資質やスキルを醸成する場として捉えていることが確認された。</p>
--

基準7 実習	
【必須】7-(1) 実習に向けての事前準備と実習後のフィードバックをどのように行っていますか。	
評 定	評価ポイント 3
<p>&lt;評価する点&gt;</p> <p>1. 実習前・中・後を通して個々の学生の現状に応じたこまやかな指導を行っている。</p> <p>①3名の専任教員は長い現場経験を持ち、現場に求められるスキルや資質を熟知しており、実習前～後を通して個々の学生の現状に応じた細やかな指導を行っている。</p> <p>②実習前面接では集団面接形式で施設概要、実習目的、想定される事例への対応等を確認し、学生自身が実習目的、課題を明確に捉え、具体的な動きができるよう指導している。</p> <p>③集団力動を活用した自主性の発露と教員による個別指導を組み合わせながら、スムーズに実習に移行できるよう組み立てられていることが聞き取りを通して確認できた。</p>	



## 2. 学生・保護者・教員と密に意思疎通した実習前・中・後指導

①実習前に個々の知識や技術を確認しているが、これによって実習に行けない学生は出していない。その代わりに、学生自身が自分に不足している点を自覚できるよう時間をかけて個別指導を行っている。

②その際（実習以外も含めて入学時からの指導全般において）保護者と密に連絡を取り合い、三者面談等を通してその学生の課題を共有しながら進めているとのことである。

## 3. 社会人及び現場職員として求められるスキルを含めた学びの機会の提供

①実習前指導では社会人としての立ち居振る舞い（この言葉が評価中頻繁に出てきた）も重視し、介護福祉士としての知識・技術を含めて実習中の姿勢や行動を具体的にイメージできることを心掛けているという。

②実習後にも同様の指導を行い、実習の各段階を通して個々の学生の資質や課題に応じてステップアップしていくことを心掛けている。特に各段階終了後に実習報告会を行い、学生が自らの現状と今後への課題を明確化することに役立てている。

③1年時最後の報告会を1年間の学びの集大成を報告する場と位置づけて施設・事業所の指導者を招いてコメントやアンケート記入をしてもらっている（アンケート記載内容は非常に具体的で熱意を感じられる内容）。この結果も学生にフィードバックされている。

### <特に優れた点>

○実習が在学期間中だけでなく将来社会に出てからの成長やキャリアアップ、現場に求められる専門人材の育成の一環として長期的スパンのもとに位置づけられていることにより、学生は主体的に取り組むができ、施設・事業所の指導者も「業界全体での人材育成」と自覚して指導に当たれるのではないかと考えられる。

○個々の学生の特質、指導上注意してほしい点、習得が不十分な点などは実習前に先方に報告し、事前オリエンテーションの時点ですでに学校・指導者間の連携が始まっている。このような数々の小さな取り組みや工夫、配慮が単体で終わらず、必ず次のステップに向かうための契機として位置づけられていることが教員からの聞き取りで確認できた。

### <更なる向上を目指す点>（改善を要する点）

○実習に行けない学生は出していない（要改善点のある学生には、必要に応じて保護者も交えて実習前の指導で繰り返し指導を行う）が、それでも中には実習開始後に実習中止に至ってしまう学生が出ることがあるという。こういうケースは学生本人にも負担になっているケースも多く、「顧客からの信頼喪失」など様々な要因を考えると、適性が合わない学生を無理に入学させないなどの改善も検討されることが期待される点である。

基準7 実習	
【選択】7-(2) 実習巡回時に実習指導者と十分なカンファレンスの時間を取るために、どのような働きかけをしていますか。	
評 定	評価ポイント 2
<p>&lt;評価する点&gt;</p> <p>1. 前項目にあるように、学生に関する情報は事前に実習指導者に伝えられ、指導者と教員の連携によりこまやかな指導ができています。このことが、指導者から教員に宛てた個別指導の報告書から確認できた。</p> <p>①実習巡回では、学生との面談による指導だけでなく、その学生に関する教員と実習指導者での情報交換や共有も重要である。事前に学生の学習状況、課題等を実習指導者と共有している。その際、必要に応じて前回の実習の評価表や学生のレポート等も持参して指導を要する箇所や指導方法を共有している。</p> <p>②このことによって指導者も個々の学生の性質や課題に応じたきめ細やかな指導が可能 となっている。例えばレポート等を確認してもらうことにより、特に苦手とする学生の多い記録の指導に役立つ。</p> <p>&lt;特に優れた点&gt;</p> <p>○個々の学生への指導を丁寧に行うことができているのは、日頃から学校全体の教育姿勢が施設・事業所に十分理解され学校と共有されているといった信頼関係が基盤にとのこまやかなやり取りから形成された信頼関係が強固な基盤となっているからこそであると考えられる。</p> <p>○ここでも保護者との情報共有がなされているとのことであり、教員・実習指導者・保護者の連携の中で学生が課題を自覚したり自主的に課題解決に臨む態勢がとれていることが確認できた。</p> <p>&lt;更なる向上を目指す点&gt; (改善を要する点)</p> <p>○厚生労働省登録の実習指導者と日々の指導者の間で指導方法が統一されていなかったり、学生の情報が共有されていないことが散見されるという。特に日々の指導者の中には教育的姿勢でなく個人の価値観や経験のみによって指導が行われる場合もあるとのことである。そのため実習指導者との連携だけでなく、施設・事業所全体を対象とした働きかけが必要となっている。</p>	

基準7 実習	
【選択】7-(6) 実習先と連携のために、特色ある独自の取組みとしてどのようなことを行っていますか。	
評 定	評価ポイント 3
<p>&lt;評価する点&gt;</p> <p>1. 現場の求める人材を養成するという視点</p> <p>①平成 27 年度に実習配属施設に対して「介護人材育成・確保に関するアンケート」を行い、福祉現場で求められるスキル、資格取得の必要性、職員のスキルアップへの取り</p>	

組み、雇用条件等、現場での状況を確認している。これを学校全体で共有したうえで学生にもフィードバックし、実習指導や将来のキャリア形成に関する指導等に幅広く活用している。

②このことから、当該校が実習を単なる介護福祉士養成カリキュラムの一環としてだけでなく、現場に求められる資質やスキルを醸成する場として捉えていることが確認された。

③実習報告会には施設指導者にも出席してもらい、指導者自身が自らの実習指導を振り返ったり、アンケートを通じて学生へのコメントをもらっている。これも学生にフィードバックして各自の振り返りや次段階の実習準備に役立てている。アンケートに書かれた内容は非常にこまやかで具体的であり、実習指導者自身も個々の学生をより良い介護福祉士として育成していくという姿勢を十分に確認することができた。

## 2. 評価を離れた場で実習施設とかわることによる自然な導入と学び

実習前には配属先施設・事業所で全学生に清掃ボランティアを義務づけている。その意図は単に施設の雰囲気慣れることや利用者理解を深めるだけでなく、「実習は評価を伴うため学生も身構えてしまうが、このボランティアは評価が伴わず、学生が自由に自己表現して職員や利用者との交流できる場として位置づけている」とのことであった。各取り組みが形式的でなく意図をもって組まれていることが確認できた。

### <特に優れた点>

- 自己評価書に書かれた取り組みについて一つひとつ確認していったが、教員・職員ともに各取り組みに込めた意図を共通理解しており、ブレることがなかった。
- 一つひとつの取り組みの独自性以上に、福祉業界及び個々の学生の現状に応じて柔軟に配属先や個人目標を設定し、それらを全教職員が共通認識して取り組んでいる点（見えない部分にかけるエネルギーの強さ）が印象的で、この点は非常に高く評価できる。今後もこの姿勢を維持・向上していくことが期待される。

### <更なる向上を目指す点>（改善を要する点）

- 入学時からさまざまな機会を設けて多様な施設の見学を行うほか、実習前には事前オリエンテーション及びボランティア活動を課題として義務づけているほか、個々の学生の情報を施設と共有したり施設指導者の声を学生にフィードバックするなど、積極的に実習施設・事業所との連携を図っている。このことにより学生を多面的に評価することにつながっているが、施設見学等一部の取り組みはカリキュラムに含まれていないとのことであり、現行の体系にどう組み込み、学生評価やキャリア形成につなげていくかが課題であると思われる。

## 基準8 リカレント教育体制

### 基準8 リカレント教育体制

#### <総 評>

1. 学校法人麻生塾としては、とくにリカレント教育に関する基本文書やシステムを構築しているとは認められなかった。
2. 介護福祉学科としては、卒業生に対して、在校生への講話の機会、「実技試験」でのモデル、アドバイザーの役割等を依頼し、その結果、卒業生はふたたび母校に来て在校生とともに学ぶ貴重な機会を得ており、学科教職員の努力は高く評価されるものである。

#### <評価基準ごとの評価>

基準8-(1) 介護福祉士としての資質向上の責務や継続的な学習の必要性を、在学中にどのように指導していますか

- 主に、「介護の基本Ⅱ」「介護総合演習」の授業、実習前後の指導により、社会福祉士及び介護福祉士法の義務規定の説明をしている。
- 卒業生等を招いて、今後どのようにキャリアアップしていこうと考えているのか等の講話の機会を設けている。これらは、標準的な取り組みである。

基準8-(2) 卒業後の就労意欲の維持向上、離職防止等のために、どのような取り組みを行っていますか

- 卒業前には、改めて就職後の新任職員としての仕事へのとりくみ方、自己成長の学びの必要性について考えさせる授業を展開しているが、これらは基準から見れば標準的な取り組みである。
- 実際に離職や転職を考えている卒業生が、元担任教員等を訪ねて相談来校した場合は、その都度個別のアドバイスを行っている。定期的で開催される同窓会の総会会場の一角に「再就職あっせん登録会」の部屋を設営し、退職予定者等の相談にのっており、すぐれた取り組みと評価できる。

基準8-(3) 卒業生の知識・技術の向上のためにどのような取り組みを行っていますか

- 卒業生から介護支援専門員資格取得に関する問い合わせ等がある場合、学校に来てもらいアドバイスしている。介護支援専門員受験の勉強会を開催したことはあるが、継続実施されていない。継続的な取り組みが期待される。

基準8-(4) 卒業後の制度・施策、業界の動向に関する最新情報を提供するために、どのような取り組みを行っていますか

- 卒業前に介護福祉士会の役割、活動内容について説明し入会の案内をしている。

基準8-(5) 卒業生と在学生の協力体制をどのように構築していますか

- 卒業生に依頼し、学内で行う在学生のための「実技試験」でのアドバイス、キャリアを積んでいくことをテーマとした講話の機会を設けている。
- 介護過程の授業では、卒業生から事例を提供してもらい、在校生がプランニングを行い、卒業生からのアドバイスを受ける等の授業を行っている。これらの取り組みは、卒業生の学びの機会ともなっていると評価できる。

基準8-(6) 介護福祉士の専門的力量的向上のために、特色ある独自の取り組みとして、どのようなことをしていますか

※「自己点検・自己評価報告書」の当該項目の記述では、特段、卒業生に対するリカレン

トの実践は記述されていないため、評価不能。

基準8－（7）資格取得後のキャリア形成について、どのように授業に取り入れていますか

○GCBⅡの第一講座にて、「志とは何か」「どうすれば志をたてることができるのか」について学び、考え、自分の答えを導きだし言語化させている。

○卒業後の自身の仕事や人生に関するビジョンを描き、キャリアについて考えさせており、これらは効果的な取り組みであると評価できる。卒業前には、北九州高齢者福祉事業協会が主催する講話をとりいれている。

基準8 リカレント教育体制	
【必須】 8－（1） 介護福祉士としての資質向上の責務や継続的な学習の必要性を、 在学中にどのように指導していますか	
評 定	評価ポイント 2
<p>&lt;評価する点&gt;</p> <p>1. 在学中の指導に当たっての基本的な観点は、次のとおりである。</p> <p>1年次前期の「介護の基本Ⅱ」の学習で、社会福祉士及び介護福祉士法の義務規定として、資格取得後の自己研鑽が必要であるとの規定を理解させている。とくに、生活支援の対象となるご利用者の価値観は、年齢・年代によっても異なり、生活スタイルやニーズは常に変化しているため、多様化するニーズに対応するためにも学び続けることが必要であることを教授しており、標準的な取り組みと評価できる。</p> <p>2. 実施方針・実施内容として次のとおりであり、標準的な取り組みであると評価できる。</p> <p>① 授業、実習等を通じた理解の促進</p> <p>1年次前期の「介護の基本Ⅱ」、および「介護総合演習」、実習前指導等の科目において、上記の基本的観点を習得できるよう教授している。</p> <p>② 施設長、卒業生（介護福祉士）の講話（前掲 基準6－（1）に詳述）</p> <p>仕事に求められる知識、スキルは何か、今後どのように仕事に取り組み、どのようにキャリアアップしていくのか等を聴き、考える機会を持っている。</p> <p>3. 実施後の学生の理解、学びの状況を把握することが重要であり、重視している。</p> <p>①当該授業や実習指導は、資格取得後の自己研鑽だけをテーマとしたものではなく、どこまで理解が進んだものなのか把握しにくい側面を持っている。</p> <p>②施設長等の講話により、どう卒業後のキャリアデザインを描くことができたのか、専門職としての継続した自己研鑽の必要性をどのように理解したのか、効果が把握しにくい面があるが、どう理解したのか、理解できなかった点は何か学生に問い議論することが重要である。</p> <p>&lt;特に優れた点&gt;</p> <p>○在校生の学びにおいて、卒業生、なかでも介護福祉士、リーダーとして働いている人の話を聴き、利用者の多様化する生活支援の課題等を考察する機会は、重要である。</p>	

○さらに、施設長にまでキャリアを積んだ人など先進をいく管理職員の生の話を聴く機会は、学生にとっては自己の将来を描くうえで有効であり、評価できる取り組みである。

<更なる向上を目指す点> (改善を要する点)

○学生の時には、将来の自己研鑽の必要性、職場でどのように自己研鑽を積んでいくのか、自己研鑽のテーマは何か、どのような方法で学び続けるのか等に関して、広く深く理解しイメージを描くことは難しいと思われる。そのため、卒業生と一緒に、卒業後の自己研鑽のテーマ、方法、課題等について考える機会は重要である。

○職場だけでは、専門職の学びには限界があることから、介護福祉士会等の専門職組織の中での学習活動なども理解し、参加できるよう、在学中に介護福祉士会の役員等の話を聴く機会も期待される。

基準8 リカレント教育体制

【選択1】 8-(5) 卒業生と在校生の協力体制をどのように築いていますか

評 定

評価ポイント 3

<評価する点>

1. 卒業生が在校生の学習に参加しており、基準に対して優れた取り組みであると評価できる。

①学内で実施している「実技試験モデル」、「実習報告会」「講話」等に、卒業生が参加している。

②学外では、卒業生が施設見学、実習先での実習指導等を担当するなど、卒業生と在校生の協力関係を重視している。

③在学中から教員と学生との結びつきが緊密であり、卒業後、教員の依頼に応じて卒業生が在校生への協力関係を大切にするという優れた伝統が形成されていると高く評価できる。

2. 実施方針・実施内容として、次の取り組みが行われており、良い協力関係が確立している。

①「実技試験モデル」への卒業生の参加と学生へのアドバイス

(前掲 基準6-(4) で詳述)

②「第Ⅱ段階実習報告会」への卒業生等の参加

実習施設に勤務している施設長、実習指導者、卒業生にも参加してもらい、実習を終えた学生の実習報告へのアドバイスを発行しており、効果的である。

③ 授業「介護過程」への卒業生による事例の提供、アドバイス

相談業務に従事する卒業生(介護福祉士として1年目)から事例を提供してもらい、在学生在が介護計画を立案する授業を行っており、生きた素材が活用されており評価できる。

3. 実施後の効果測定、取り組みの評価

①学内の授業、介護過程の演習での事例提供、実習報告会でのアドバイス等、卒業生の活躍の機会を提供しており、優れた取り組みであると評価できる。

②卒業生は、後輩在校生のために専門性を発揮してアドバイスしている。そのことによ

り、卒業生も、在校生の学習・実習内容等から改めて学ぶこともあり、相乗効果が認められる。

<特に優れた点>

○在校生にとっては、卒業生が介護福祉士として役割を果たし、活躍している姿を目の当たりにすることによって、現場での介護福祉士の役割等についてイメージすることができる。

○卒業生は、終了後アンケートの中で、改めて介護福祉士としての自己を客観視できたこと、かつて学んでいたときの自分のように学生ならではの新鮮な「センス」から多くの学びができたことと記述しており、結果、優れたリカレント教育実践につながっていると評価できる。

<更なる向上を目指す点> (改善を要する点)

○現在の取り組みでは、在校生のために卒業生を「活用する」という一側面になりがちだが、さらに、卒業生が在校生との協力関係の中で学んだことを明確化するなど、卒業生・在校生が双方向で「学びの場を共有する」視点を大切にされた協力関係の形成が期待される。

○卒業生が専門性や現場での経験を活かして、「非常勤講師」の待遇で継続して関わることができる仕組みを、福祉施設長等の理解のもとに確立していくことが期待される。

#### 基準8 リカレント教育体制

【選択2】8-(6) 介護福祉士の専門的力量的向上のために、特色ある独自の取り組みとして、どのようなことを行っていますか

評 定

評価ポイント 2

<評価する点>

1. 卒業生(介護福祉士)を対象として、教職員の専門性を活かして、介護支援専門員受験のための勉強会を開催している。勉強会に出席できない学生には、教材を送付する等、受験への精神的な支えとなっており、丁寧な取り組みを心がけている点、卒業生のリカレント教育を支援するために教職員が時間を割いて貢献していることが高く評価できる。

2. 校友会(同窓会)を活用した卒業生支援の取り組み

①卒業生が離職や転職を考えた時など、学校の元担任教員等に相談する場合があるが、その都度個別にアドバイスしている。

②校友会総会の会場(総会の会場とは別室)に「再就職あっせん登録会」のブースが設けられており、退職者や退職予定者が気兼ねなく転職等の相談をすることができるよう配慮されている。きめの細かい配慮は、高く評価できる。

3. 卒業生がアドバイザーとして「実技試験」に参加した時に在学から学んだ点

(担当教員の用意した「終了後アンケート」への卒業生の記述から)

アンケートの質問で「実技試験に参加して、施設職員として学べたことや活かせることは何かありますか」との問いに対して、次のように回答していた。

「利用者様の気持ちになることができ、場面や場合によって『どんな感情になるか』あらためて分かりました」「客観的に介護しているところを見ることで、いろいろな危険に気づいたこと、どのようなコミュニケーション方法が必要なのか、気づくことができました」

「23人の学生がいて、23通りの援助方法がある、『介護とはこれが正解』と決めにくい」・・・卒業生が、在校生との交流授業で学び直していることが認められた一文であり、高く評価できる。

<特に優れた点>

○卒業生Aさんへの聴き取りを通じて、麻生塾介護福祉学科を卒業し介護現場で働いている卒業生の置かれている状況を知ることができた。卒業生Aさんの話によると、介護福祉の現場には、実務経験を受験資格として介護福祉士国家資格を取得したベテラン職員と、学校卒業間もない自分のような学卒の介護福祉士がいっしょに働いている。その違いはなにか。それは、現場で取り組んでいる支援、課題について「解釈し直せること」であるという。さらに、実践と理論をつなぎ合わせて「自分で考えることができること」であるという。

○この聴き取りの結果、麻生塾介護福祉学科の卒業生が、福祉現場の他の職員等のなかで、ひとつ抜け出た優れた思考力、実践力等を発揮しているのを理解することができた。

<更なる向上を目指す点> (改善を要する点)

○卒業生とのつながりの中心は、在学中の担当クラスの教員によるものが中心であると思われる。今後、広く、校友会(同窓会)等を通じて、麻生塾、および介護福祉学科としてどのようなリカレント教育の支援ができるのか、検討が期待される。

## 基準9 学生の募集と受け入れ

### 基準9 学生の募集と受け入れ

<総 評>

○アドミッションポリシー、学費、特待生制度、募集学科、募集定員等を募集要項やパンフレット、HPにて公表し、受験生・ステークホルダー(保護者、学校、企業)に対して情報提供を実施している。

○毎年3月に開催している「お仕事スタジアム」は多数の企業に協力を仰ぎ、業界、仕事の魅力を伝えている。イベント参加者は「自分の未来」を考えるきっかけが提供され、ミスマッチのない職業選択の場を創出している。福岡エリアの一大イベントとなっている。

<評価基準ごとの評価>

基準9- (1) 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいますか

○学生募集については、アドミッションポリシー、学費、特待生制度、募集学科、募集定員等を募集要項やパンフレット、HPにて公表し、学校としての学生受け入れ方針を明らかにしている。

○学校が育成する人材像、目指す資格検定、習得できる知識や技術、さらに学校の教育成果として、就職実績、資格取得状況、卒業生の活躍等を印刷物やWebサイトに掲載し、情報提供を適宜行っている。



○高等学校に対しては、学生募集に関する情報だけでなく、該当の高等学校出身の在校生の状況についても、適宜報告が行われている。

基準 9- (2) 学生募集を適切かつ効果的に行っていますか

○学校訪問・校内ガイダンス・会場ガイダンス等により、受験生・ステークホルダーに対して情報提供を実施している。

基準 9- (3) 入学選考基準を明確化し適切に運用していますか

○入学選考は、募集要項に記載している入試区分ごとに定められた選考方法に従って、公正に実施されている。10 月 1 日より入学願書の受付を行い、入学試験は募集要項に記載された日程に実施されている。

○合否については、試験回ごとに校長代行・事務長・広報関係者から構成される合否判定会議にて入試基準をもとに決定していることが確認できた。

基準 9- (4) 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用していますか

○平成 26 年入学選考（平成 27 年度入学生）より、入学試験で基礎学力調査が実施されている。

○基礎学力調査、学力共通試験等の結果を総合的に判断し、個々のレベルに沿った授業改善、個別指導が行われている。

基準 9- (5) 留学生など、多様な人材の募集及び受け入れについてどのようなことを行っていますか

○留学生…留学生受入の担当部署である国際交流センターと連携し、外国人留学生に対する HP、パンフレット、コンテンツの作成、更新を行う。

○日本語科及び他の日本語学校と連携し、留学生を専門課程へ入学させるための募集要項の作成、学校説明会の実施、入試対応等が行われている。

○社会人…福岡県の介護福祉士養成科委託訓練生の受け入れが行われている。また職業訓練給付金制度や、奨学金制度、県の就学資金等の経済支援制度をまとめた資料を作成し、社会人資料請求者への送付や、介護福祉施設にパンフレットを同封していることが確認できた。

基準 9- (6) 学生募集と受け入れのために、特色ある独自の取組みとして、どのようなことを行なっていますか

○高校訪問やガイダンス、オープンキャンパス、高校教員に対する学校説明会、個別の学校説明会等を行う以外にも多種多様なキャリア教育支援イベント等を実施している。

○その中でも注力している取り組みは、毎年 3 月に開催している「お仕事スタジアム」である。多数の企業に協力を仰ぎ、業界、仕事の魅力を伝えている。イベント参加者は「自分の未来」を考えるきっかけが提供され、ミスマッチのない職業選択の場を創出している。

○A0 入学選考での合格者に対しては、A0 フォローアップ講座が行われている。

○アドミッションポリシーの具現化、さらなる強化を目的に、入学前から学校の講座に参加することができる特典が付加され、学校への入学に「強い熱意や意欲」「目標やビジョン」を有している学生を一人でも多く入学させる仕組みが構築されている。

基準9 学生の募集と受け入れ	
必須9-(2) 学生募集を適切かつ効果的に行っていますか	
評定	評価ポイント 2
<p>&lt;評価する点&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学校訪問・校内ガイダンス・会場ガイダンス等により、受験生・ステークホルダーに対して情報提供が実施されている。</li> <li>2. 各高等学校の担当者を定め、広報部員が定期的に訪問をしている。そのタイミングで在校生や卒業生の状況報告や進学に関する情報提供を行っている。また、高校教員向けの学校説明会も毎年開催し、学校の教育方針等に対する理解を得るべく活動している。</li> <li>3. オープンキャンパスでは、学校の方針や学校施設・学内の雰囲気を受験生に伝える為、複数回開催されている。</li> </ol> <p>&lt;特に優れた点&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○入学後のミスマッチを防ぐことも重要なポイントであると考えられており、学校の方針だけでなく希望学科の学習内容や到達目標などについてもしっかりと伝えている。また、オープンキャンパスでは、学校の方針や教育活動の説明を行っている。</li> <li>○入学希望者から要望が多い、学校生活に関する情報についても在校生と受験生との交流の場を設けられている。また、個別相談の時間も設定し、入学希望者ごとの質問にも対応できるようにされている。</li> </ul> <p>&lt;更なる向上を目指す点&gt; (改善を要する点)</p> <p>特に記載事項なし</p>	

基準9 学生の募集と受け入れ	
選択9-(4) 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用していますか	
評定	評価ポイント 3
<p>&lt;評価する点&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 平成26年入学選考(平成27年度入学生)より、入学試験で基礎学力調査を実施されている。基礎学力調査、学力共通試験等の結果を総合的に判断し、個々のレベルに沿った授業改善、個別指導が行われている。</li> <li>2. 平成26年入学選考(平成27年度入学生)より、入学試験で基礎学力調査が導入されている。その結果は、校長代行及び教務にフィードバックされている。教務は基礎学力調査の結果、入学までのリメディアル教育課題状況、入学後に実施する基礎学力テスト、学力共通試験等の結果を総合的に見て、学力的に厳しい学生を絞り、担任による各授業ノートの確認や非常勤講師による全8回の国語講座等を行われている。</li> <li>3. 国語講座では、小学校から中学校レベルの漢字、文章作成の基礎等を学習することで基礎学力の向上および実習時の記録等に活かせる内容となっている。</li> </ol>	

<特に優れた独自の取り組み点>

○退学者の入学時基礎学力調査結果を確認し、点数と退学状況の分析を行うことで進級に関わるボーダーラインとなる点数が設定されており、ボーダーラインに近い学生には特に留意して指導が行われている。この分析はあくまでも参考資料であることと組織では共通認識され、学生の可能性や、やる気を引き出すような声掛けと適切な個別指導をこまめに行うことが重視されている。

<更なる向上を目指すことがら点> (改善を要する点) >

特に記載事項なし

基準9 学生の募集と受け入れ

選択9-(6) 学生募集と受け入れのために、特色ある独自の取組みとして、どのようなことを行なっていますか

評 定

評価ポイント 3

<評価する点>

1. 高校訪問やガイダンス、オープンキャンパス、高校教員に対する学校説明会、個別の学校説明会等を行う以外にも多種多様なキャリア教育支援イベント等を実施している。
2. その中でも注力している取り組みは、毎年3月に開催している「お仕事スタジアム」である。多数の企業に協力を仰ぎ、業界、仕事の魅力を伝えている。イベント参加者には「自分の未来」を考えるきっかけが提供され、ミスマッチのない職業選択の場を創出している。
3. A0 入学選考での合格者に対しては、A0 フォローアップ講座が行われている。アドミッションポリシーの具現化、さらなる強化を目的に、入学前から学校の講座に参加することができる特典が付加され、学校への入学に「強い熱意や意欲」「目標やビジョン」を有している学生を一人でも多く入学させる仕組みが構築されている。

<特に優れた点>

○「お仕事スタジアム」は、平成18年から毎年開催しており、毎年、九州・山口から多数の動員結果を残している。(平成28年3月は約4000名)。九州エリアでは一大イベントとして定着している。平成27年度からは、対象を今までの高校生から大学生・留学生へと拡大し、広く若年者に対し将来の職業選択を考える機会を提供している。

<更なる向上を目指す点> (改善を要する点)

特に記載事項なし

## 基準10 内部質保証

### 基準10 内部質保証

#### <総 評>

1. 学校ホームページに学校理念、教育目標、学校生活、各種行事の紹介、卒業生の近況等を盛り込んで教育情報を公開している。
2. 「自己点検評価」は自己点検評価シートに沿って自己点検が行われ、自己点検評価報告書が作成されている。「学校関係者評価」は年1回開催され、15名にのぼる評価委員によって評価の妥当性について協議し、学校関係者評価報告書が作成されている。
3. この評価システムはISO（国際標準化機構）基準をクリアした内容である。

#### <評価基準ごとの評価>

基準10－(1) 自己点検・評価をどのように行っていますか

- 「自己点検・評価委員会規程」に基づき、校長代行の下で教職員が参加し、学校の目標・計画等に沿った取り組みの達成状況や、それらの取り組みが適切に行われたかどうか等について毎年1～3月に評価が行われている。

基準10－(2) 学校関係者評価をどのように行っていますか

- 「学校関係者評価委員会規程」に基づき、より実践的な職業教育の質を確保し、学校運営の改善を図ることを目的として、平成26年から年に1回開催している。

基準10－(3) 評価の充実に向けてどのような工夫を行っていますか

- 自己点検評価の結果を報告書に取りまとめ、その結果を受け、今後の改善方策について検討「自己点検・評価フォローアップシート」を提出する。改善策に対する取り組み後には、対策の有効性の評価、確認を行っている。
- 学校法人麻生塾内において内部監査を実施し、自己点検・評価の妥当性がチェックされている。

基準10－(4) 教育情報をどのように公開していますか

- 学校としての教育情報「学校ホームページ」を作成し、公開している。
- 保護者や高校の教員、高校生、近隣の社会福祉施設職員等を対象として、読者が閲覧しやすいよう、学校理念、教育目標、学校生活、各種行事の紹介、卒業生の近況等を盛り込んでいる。

基準10－(5) 内部質保証についての特色ある独自の取り組みとしてどのようなことを行っていますか

- 自己評価委員会、内部監査委員等、自己評価を中心となって実施するための組織を設けられている。
- 目標や計画の達成に向けた方策は、特定の教職員のみが対応するのではなく、全教職員が計画の策定、評価、改善方策の検討等の過程において参画し、各校の課題や特色が共有されている。

基準 10 内部質保証	
必須 10-(4) 教育情報をどのように公開していますか	
評 定	評価ポイント 2
<p>&lt;評価する点&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 当該モデル校としての教育情報「学校ホームページ」を作成し、公開している。</li> <li>2. 保護者や高校の教員、高校生、近隣の社会福祉施設職員等を対象として、読者が閲覧しやすいよう、学校理念、教育目標、学校生活、各種行事の紹介、卒業生の近況等を盛り込んでいる。</li> <li>3. 学生要覧の掲出 入学希望者・学生については、募集要項やパンフレット、学生要覧においても教育情報を掲載し、情報提供を行っている。</li> <li>4. 全学科が職業実践専門課程として認可を受けており、所定の様式にて基本情報の公開が行われている。</li> </ol> <p>&lt;特に優れた点&gt;</p> <p>○当該モデル校ホームページのトップページに情報公開ページへのリンクを貼ったバナーを表示し、情報公開ページに速やかに移動できるようにしている。</p> <p>&lt;更なる向上を目指す点&gt; (改善を要する点)</p> <p>○情報公開ページに集約されていない内容があり、今後、ホームページの構成変更を期待したい。</p>	

基準 10 内部質保証	
選択 10-(1) 自己点検・評価をどのように行っていますか	
評定	【評価ポイント】 3 独自性、計画性、特徴ある取り組みが認められる。
<p>&lt;評価する点&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「自己点検・評価委員会規程」に基づき、校長代行の下で教職員が参加し、学校の目標・計画等に沿った取り組みの達成状況や、それらの取り組みが適切に行われたかどうか等について毎年1～3月に評価が行われている。</li> <li>2. 評価は、自己点検委員の指示に従い、以下の手順に則って実施されている。 <ol style="list-style-type: none"> <li>①各学科、部署の教職員にて「自己点検評価シート」の項目に添って自己点検を行う。</li> <li>②校長代行が、点検内容を集約し、学校としての最終評価を決定する。</li> <li>③自己点検委員会にて、自己点検・評価報告書を作成する。</li> </ol> 自己点検・評価報告書は、学校のホームページにて公開されている。 </li> </ol> <p>&lt;特に優れた点&gt;</p> <p>○自己点検・評価の妥当性をチェックし、学校運営のブラッシュアップが行われているかを確認するため、麻生塾内の他部門による「内部監査」が実施されている。</p> <p>○内部監査では、改善活動のチェック確認だけでなく、自分たちでは気がついていない良い施策や取り組みについても発見し、麻生専門学校グループ内の姉妹校にも共有されている。</p>	

○内部監査を実施する内部監査員に対して研修を実施し、内部監査の質向上にも努めていることが確認できた。

<更なる向上を目指す点> (改善を要する点)

○自己点検の評価基準は主観となりやすいため、評価基準レベルが設定されると、さらに客観性のある評価が可能となる。今後、自己点検委員会にて評価項目の見直しと共に評価基準についても検討していくことが望ましい。

#### 基準 10 内部質保証

##### 選択 10- (2) 学校関係者評価をどのように行っていますか

評 定	評価ポイント 3
-----	----------

<評価する点>

1. 「学校関係者評価委員会規程」に基づき、より実践的な職業教育の質を確保し、学校運営の改善を図ることを目的として、平成 26 年から年に 1 回開催している。

現在、15名の委員で構成された学校関係者評価委員会にて、以下に示す視点から評価が行われている。

- ・自己評価の結果の内容が適切かどうか
- ・自己評価の結果を踏まえた今後の改善方策が適切かどうか
- ・学校の重点目標や自己評価の評価項目等が適切かどうか
- ・学校運営の改善に向けた実際の取り組みが適切かどうか

2. 学校関係者評価の結果については、「学校関係者評価報告書」にまとめ、当該モデル校のホームページにて公開されている。

<特に優れた点>

○委員会では、教育活動の観察や意見交換等の時間を十分に確保することが必要である。

自己点検評価結果は事前送付し、委員会当日は、学内における授業見学や前年度実績報告、学科活動報告などを盛り込み、限られた時間の中で、より具体的に学校教育活動を理解していただけるよう工夫している。

<更なる向上を目指す点> (改善を要する点)

○委員会当日の欠席者からのヒアリング精度を高めることが望まれる。

---

平成28年度 文部科学省委託事業  
『職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進  
「職業実践専門課程」に係る取組の推進』  
『介護福祉士養成教育に特化した第三者評価項目に基づく  
各養成施設への評価実施とその成果実証』

## 成果報告書

VOL.2

モデル校自己点検・自己評価報告書及び

第三者評価報告書

平成 29 年 3 月  
学校法人敬心学園 日本福祉教育専門学校  
〒171-0033 東京都豊島区高田 3-6-15  
TEL. 03-3982-2511